

令和6年度
文部科学省委託調査

大学入学者選抜の実態の把握及び分析等に 関する調査研究

調査報告書

令和7年2月

株式会社 リベルタス・コンサルティング

本報告書は、文部科学省の先導的大学改革推進委託事業委託費による委託業務として、株式会社リベルタス・コンサルティングが実施した令和6年度大学入学者選抜の実態の把握及び分析等に関する調査研究の成果を取りまとめたものです。

従って、本報告書の複製、転載等には文部科学省の承認手続きが必要です。

目次

第 1 章 調査概要	1
第 2 章 実施体制等の実態調査	5
第 3 章 選抜方法の実態	21
第 4 章 大学入学共通テストの利用の実態	41
第 5 章 個別選抜の実態	61
第 6 章 英語資格・検定試験の活用の実態	130
第 7 章 記述式問題等の出題の実態	165

第1章 調査概要

本調査研究は、文部科学省高等教育局大学教育・入試課からの委託を受けて実施したものである。調査概要は、以下のとおり。

1-1 調査目的

大学入学者選抜は、各大学・短期大学が、それぞれの教育理念に基づき、生徒が高等学校段階までに身に付けた力を発展・向上させ、社会へ送り出すという大学教育の一貫したプロセスを前提として、卒業認定・学位授与の方針や教育課程編成・実施の方針を踏まえ各大学・短期大学において定める入学者受入れの方針に基づき、学修し、卒業するために入口段階で入学者に必要な能力・適性等を多面的・総合的に評価・判定することを役割とするものである。

近年選抜方法の多様化・複雑化が進む中で、国としての的確な現状分析に基づいて検討を進めるためにも、国内の全大学・短期大学が現在実施している入学者選抜の状況について、最新の動向を網羅的に把握する必要がある。

以上を踏まえ、各大学・短期大学が実施した令和6年度入学者選抜について、選抜区分毎に詳細を把握し、設置主体別等の状況分析を行う。

1-2 調査方法等

国内の全大学・短期大学が実施した令和6年度入学者選抜について、選抜区分ごとに英語資格・検定試験の活用及び記述式問題等の出題状況を含む選抜方法の詳細を把握する。

1-2-1 調査対象

国公立の全ての大学 783 校・短期大学 286 校：計 1,069 校（大学院のみを設置する大学、学生募集停止中及び通信教育のみを行う大学・短期大学を除く。）

以下、本報告書において、「全体」は大学及び短期大学の集計、「大学全体」は大学のみの集計、「短期大学全体」は短期大学のみの集計を指す。

1-2-2 回答率

100%（1,069 校（81,372 選抜区分））

1-2-3 調査方法

e メールによる調査票の発送及び回答票回収

1-2-4 調査時期

令和6年7月16日～令和6年8月30日（令和6年9月25日までの回収分を集計）

1-3 調査結果の概要

調査結果の概要は、下記の通り。

○実施体制等の実態

- ・入学者選抜の個別学力検査における試験問題の公表状況は、国立大学（95.1%）、公立大学（88.8%）、私立大学（92.8%）とも約9割と高い。公表方法について回答割合が高い項目として、国公立大学では「大学のホームページに掲載（国立大学：83.3%、公立大学：70.1%）」、私立大学では「希望者への配布（57.5%）」があげられる。
- ・試験問題の「解答」の公表状況は、国立大学（95.1%）、公立大学（80.6%）、私立大学（84.3%）とも8割を超える。公表方法については、国公立大学では「大学のホームページに掲載（国立大学：76.9%、公立大学：72.2%）」、私立大学は「大学で発行する問題・解答集に掲載（56.1%）」が高い。
- ・受験者本人への成績開示制度は、国公立大学とも100%、私立大学は64.2%が制度を設けている。

○選抜方法の実態

- ・大学全体の全選抜方法について、選抜区分別でみると、一般選抜 40.9%、学校推薦型選抜 26.7%、総合型選抜 19.3%が上位にあがる。
- ・学校推薦型選抜の種類を入学者数別でみると、公募型が国立大学では 99.2%、公立大学では 90.2%、私立大学では 22.3%である。私立大学において、公募型は 55.4%が他校併願可である一方、指定校は 91.7%が専願である。
- ・電子出願が可能な選抜区分は一般選抜では 98.2%、総合型選抜では 85.4%、学校推薦型選抜では 81.7%である。

○大学入学共通テスト（以下、「共通テスト」）の利用の実態

- ・一般選抜において共通テストを利用して合否判定する選抜区分は、国立大学 96.2%、公立大学で 98.5%、私立大学では 44.5%である。他方、利用しない選抜区分は、国立大学では 0%、公立大学は 0.2%、私立大学では 53.3%である。なお、このほか利用状況が「その他」とされている選抜区分があるが、一定の得点以上を2次試験受験資格として設定している場合等がある。

- ・共通テストを利用して合否判定する場合、一般選抜においては、国立大学では7科目の利用、公立大学では7・4科目の利用、私立大学では3・2科目の利用が多い。
- ・共通テストを利用する選抜区分のうち数学の利用状況は、一般選抜で「必須科目としている」が35.0%、「選択科目としている」が60.8%である。
- ・共通テストを利用する選抜区分のうち国語の利用状況は、一般選抜で「必須科目としている」が43.5%、「選択科目としている」が46.8%である。

○個別選抜の実態

- ・共通テストを利用していると回答した選抜区分のうち、更に、個別学力検査（※）を実施しているのは、一般選抜が69.1%、総合型選抜が8.0%、学校推薦型選抜が1.5%である。
- ・共通テストを利用していないと回答した選抜区分のうち、個別学力検査を実施しているのは、一般選抜が95.8%、総合型選抜が14.4%、学校推薦型選抜が20.1%である。
- ・一般選抜において個別学力検査を実施する選抜区分の割合は、国立大学で68.5%、公立大学で52.6%、私立大学で59.3%である。
- ・一般選抜で個別学力検査を課す選抜区分では、英語（必須＋選択 87.4%）、数学（同 76.3%）、国語（同 70.0%）を出題する選抜区分が多い。

○英語資格・検定試験の活用の実態

- ・英語の資格・検定試験の活用がある選抜区分は、一般選抜で28.1%、総合型選抜が34.1%、学校推薦型選抜が27.1%である。
- ・一般選抜における活用方法としては、国立大学では共通テストに換算（免除なし）が72.1%、公立大学では個別学力検査に加点が31.3%、私立大学では個別学力検査に換算（免除あり）が31.8%で最も多い。

○記述式問題等の出題の実態

- ・一般選抜における個別学力検査において、記述式問題を出題している選抜区分の割合は、国立大学では全体の99.9%、公立大学では98.4%、私立大学では37.1%である。

※本調査における「個別学力検査」は、学習指導要領に定められている教科・科目の学力検査、「総合問題」としている。「小論文」、「面接」、「討論」及び「実技検査」等は含まない。

第2章 実施体制等の実態調査

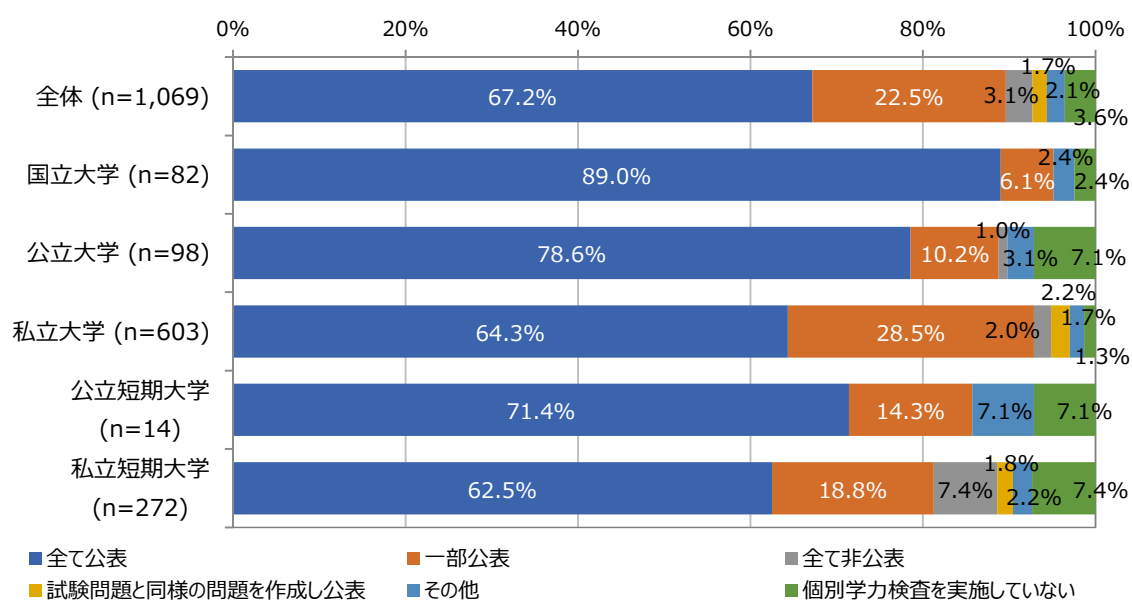
2-1 入学者選抜の個別学力検査における試験問題の公表状況

入学者選抜の個別学力検査における試験問題の公表状況は、全体では全て公表（67.2%）と一部公表（22.5%）を合わせて 89.7%が公表している。

国立大学は 95.1%、公立大学は 88.8%、私立大学は 92.8%が公表している。

図表 2-1 入学者選抜の個別学力検査における試験問題の公表状況

(n=1,069・単数回答)



※上記割合（%）は、小数点第二位を四捨五入しているため、各割合（%）の合計が 100%とならないことがある（以下、同様）。

2-2 入学者選抜の個別学力検査における試験問題の公表方法

入学者選抜の個別学力検査における試験問題を全てまたは一部公表している 958 校に公表方法を聞いたところ、全体では「希望者への配布（54.0%）」、「説明会等での提供（45.6%）」、「大学で発行する問題・解答集に掲載（44.2%）」の順で高い。

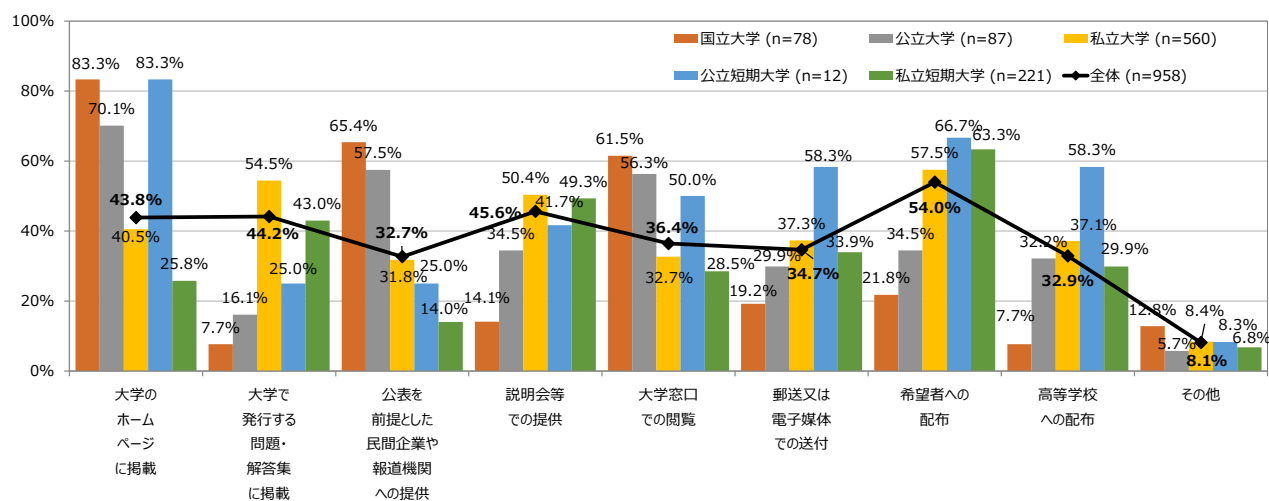
国立大学では「大学のホームページに掲載（83.3%）」、「公表を前提とした民間企業や報道機関への提供（65.4%）」、「大学の窓口での閲覧（61.5%）」が高い。

公立大学では「大学のホームページに掲載（70.1%）」、「公表を前提とした民間企業や報道機関への提供（57.5%）」、「大学の窓口での閲覧（56.3%）」の順である。

私立大学では「希望者への配布（57.5%）」が最多となっている。以下、「大学で発行する問題・回答集に掲載（54.5%）」、「説明会等での提供（50.4%）」が続いている。

図表 2-2 入学者選抜の個別学力検査における試験問題の公表方法

(n=958・複数回答)



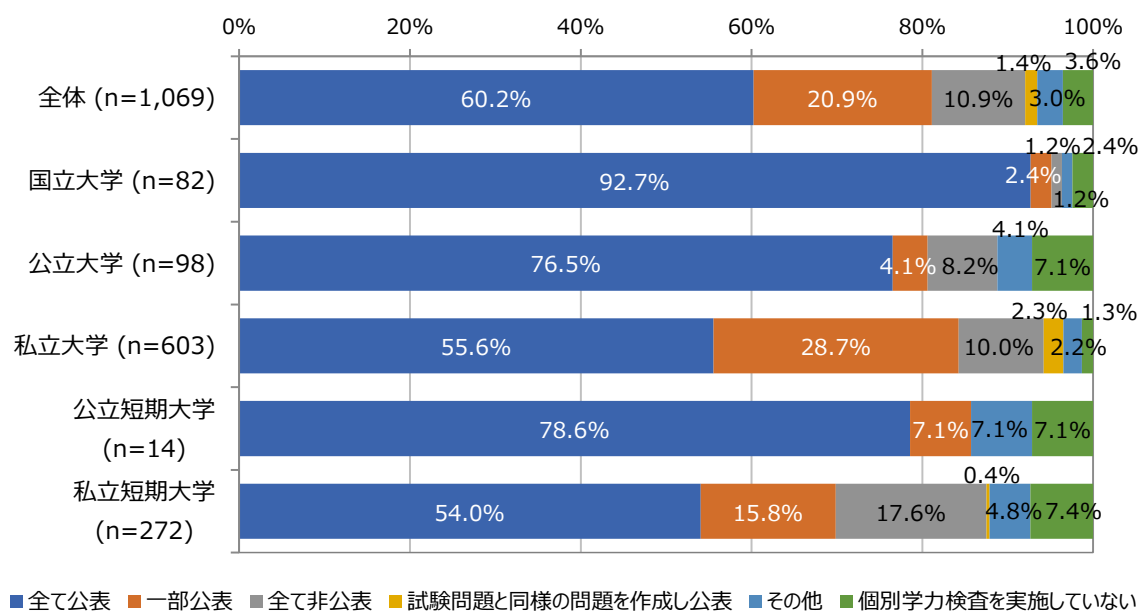
2-3 個別学力検査における試験問題の「解答」の公表状況

入学者選抜の個別学力検査における試験問題の「解答」の公表状況は、全体では「全て公表（60.2%）」と「一部公表（20.9%）」を合わせて81.1%が公表している。

国立大学は95.1%、公立大学は80.6%、私立大学は84.3%が公表している。

図表 2-3 試験問題の「解答」の公表状況

(n=1,069・単数回答)



2-4 「解答」の公表方法

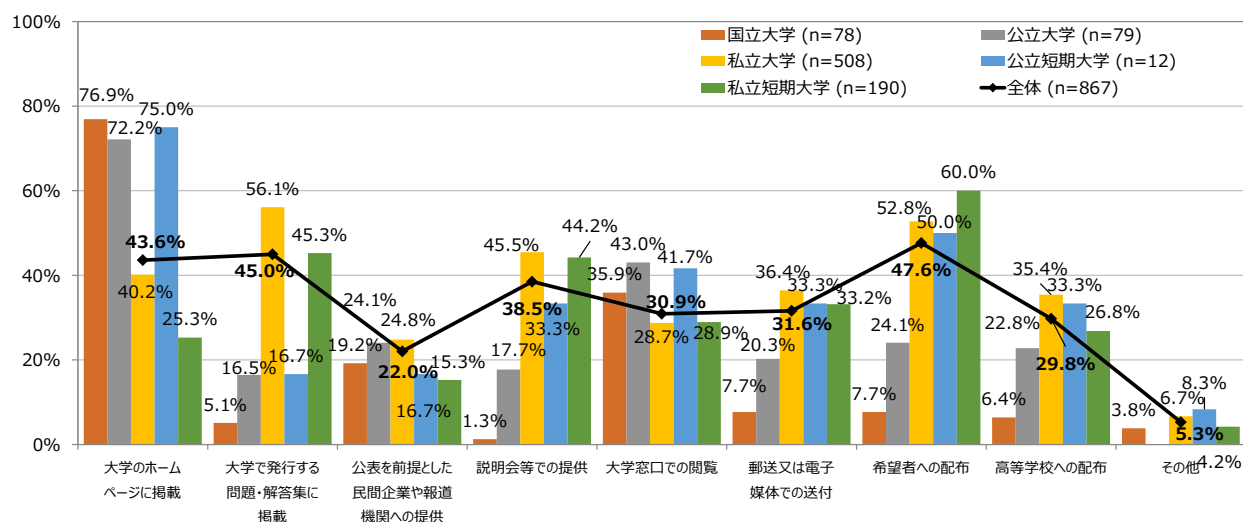
入学者選抜の個別学力検査における試験問題の「解答」を全てまたは一部公表している 867 校に公表方法を聞いたところ、全体では「希望者への配布（47.6%）」、「大学で発行する問題・解答集に掲載（45.0%）」、「大学のホームページに掲載（43.6%）」の順で高い。

国立大学では「大学のホームページに掲載（76.9%）」が最も高く、「大学の窓口での閲覧（35.9%）」、「公表を前提とした民間企業や報道機関への提供（19.2%）」と続く。

公立大学では「大学のホームページに掲載（72.2%）」、「大学の窓口での閲覧（43.0%）」、「公表を前提とした民間企業や報道機関への提供（24.1%）」の順である。

私立大学では「大学で発行する問題・回答集に掲載（56.1%）」が最多となっており、「希望者への配布（52.8%）」、「説明会等での提供（45.5%）」と続いている。

図表 2-4 試験問題の「解答」の公表方法
(n=867・複数回答)



2-5 入学者選抜業務全般に係るガバナンス体制

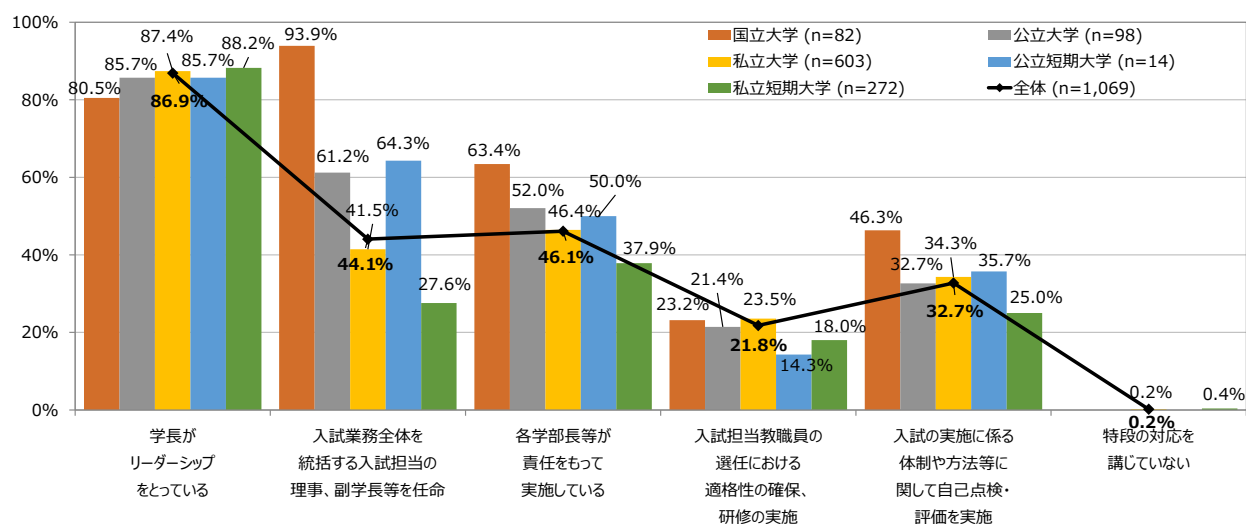
入学者選抜業務全般に係るガバナンス体制を聞いたところ、全体では、「学長がリーダーシップをとっている（86.9%）」、「各学部長等が責任をもって実施している（46.1%）」、「入試業務全体を統括する入試担当の理事、副学長等を任命（44.1%）」の順で高く、国公立別でも、割合の高さ順では異なるものの、この3項目が上位を占めている。

入学者選抜に関するマニュアルの作成有無については、全体の91.1%が「はい」と回答し、国公立別でも、約9割がマニュアルを作成している。

入学者選抜に関するマニュアルを作成していない95校のうち、今後の作成予定があるのは、全体の20.0%である。

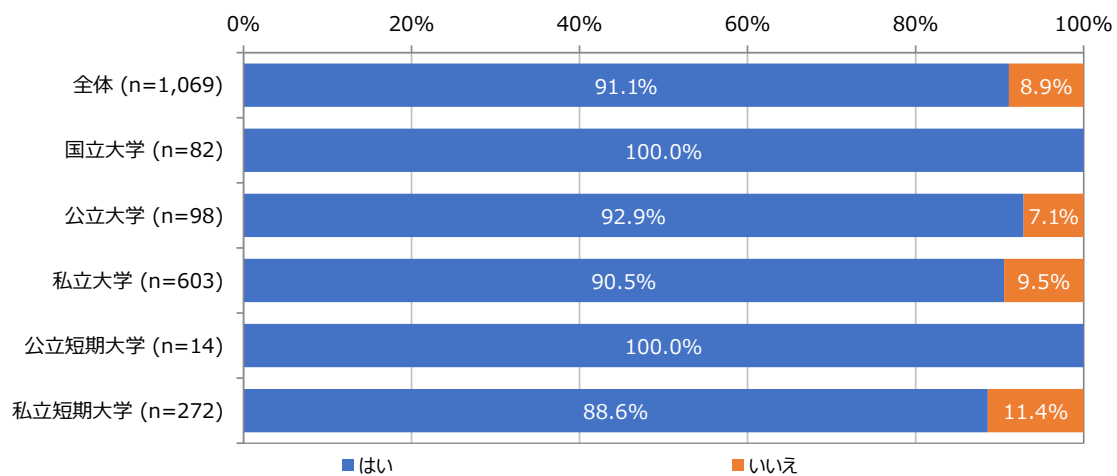
図表 2-5 入学者選抜業務全般に係るガバナンス体制

(n=1,069・複数回答)



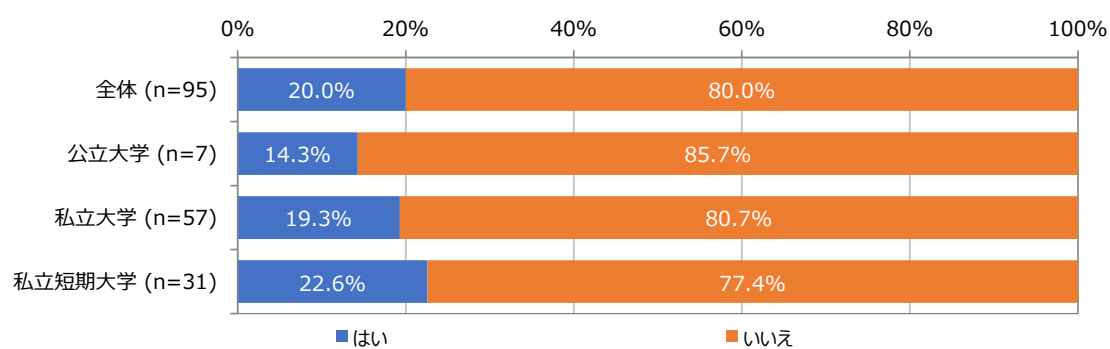
図表 2-6 入学者選抜に関するマニュアル作成の有無

(n=1,069・単数回答)



図表 2-7 入学者選抜に関するマニュアル作成予定

(n=95・単数回答)



2-6 入学者選抜における公平性・公正性の確保

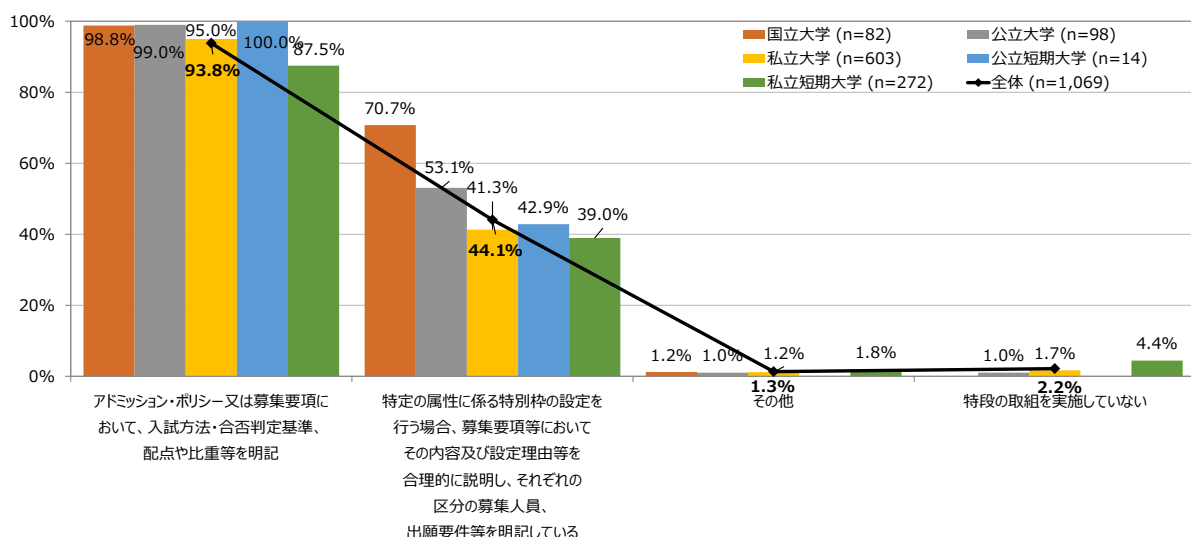
入学者選抜における公平性・公正性の確保に係る取組について聞いたところ、学生募集における取組では「アドミッション・ポリシー又は募集要項において、入試方法・合否判定基準、配点や比重等を明記」が全体の93.8%を占めた。また、国公立ともに、同回答が9割を超えている。

個別学力検査・面接等における取組においては、全体で「複数人での採点・確認の実施（98.6%）」が最も高く、「小論文・面接・実技検査等において、特定の受験生の優遇や属性による差別的取扱いが行われないよう、実施方法や評価方法のマニュアル等を整備（77.3%）」、「採点時に受験者情報にマスキングをしている（56.0%）」と続く。国公立立別のいずれも、「複数人での採点・確認の実施」が最多である。

合否判定・合格発表における取組では、全体で「合否判定は合議制の会議体で行っている（99.1%）」、「合否判定に用いる資料には、原則評価・判定に用いない情報を記入しない、又はマスキングを施している（77.7%）」、「補欠合格候補者の取扱い及び繰り上げ合格に係る手続きについてあらかじめ定めている（56.2%）」の順で高い。国公立立別においても、「合否判定は合議制の会議体で行っている」が9割を超えている。

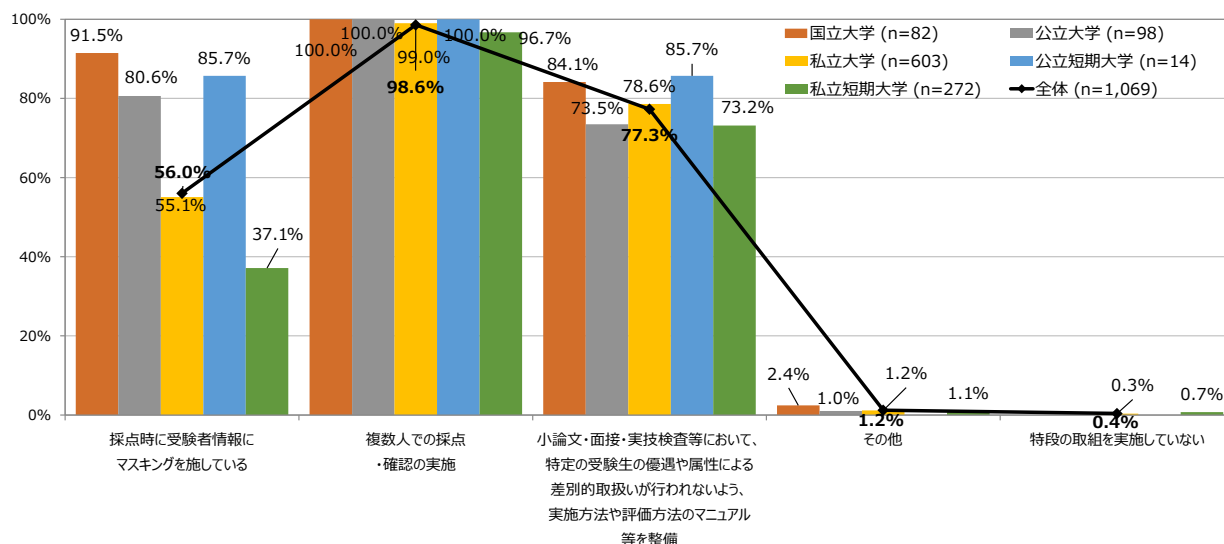
図表 2-8 学生募集における取組

(n=1,069・複数回答)



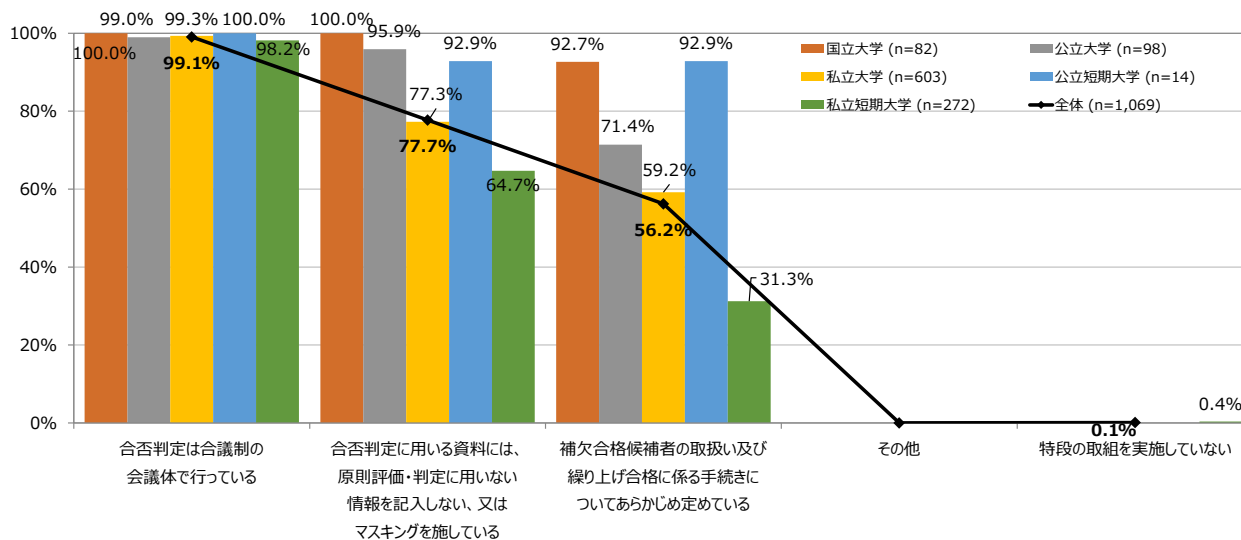
図表 2-9 個別学力検査・面接等における取組

(n=1,069・複数回答)



図表 2-10 合否判定・合格発表における取組

(n=1,069・複数回答)



2-7 個別学力検査における試験問題等の点検

個別学力検査における試験問題等の点検方法について、試験前では「作題者以外による点検（学外者は含まない）（88.4%）」、「作題者のみによる点検（84.6%）」「学外者による点検（32.9%）」の順で高かった。国公立別でも「作題者以外による点検（学外者は含まない）」が最多となっており、公立短期大学を除き8割超となっている。

試験中では、全体で「作題者のみによる点検（79.0%）」がトップとなり、「作題者以外による点検（学外者は含まない）（53.3%）」、「学外者による点検（5.2%）」と続き、公立短期大学を除き国公立別でも同様の割合順である。

試験後では、全体で「作題者のみによる点検（48.7%）」がトップとなり、「作題者以外による点検（学外者は含まない）（33.1%）」、「学外者による点検（24.2%）」と続く。

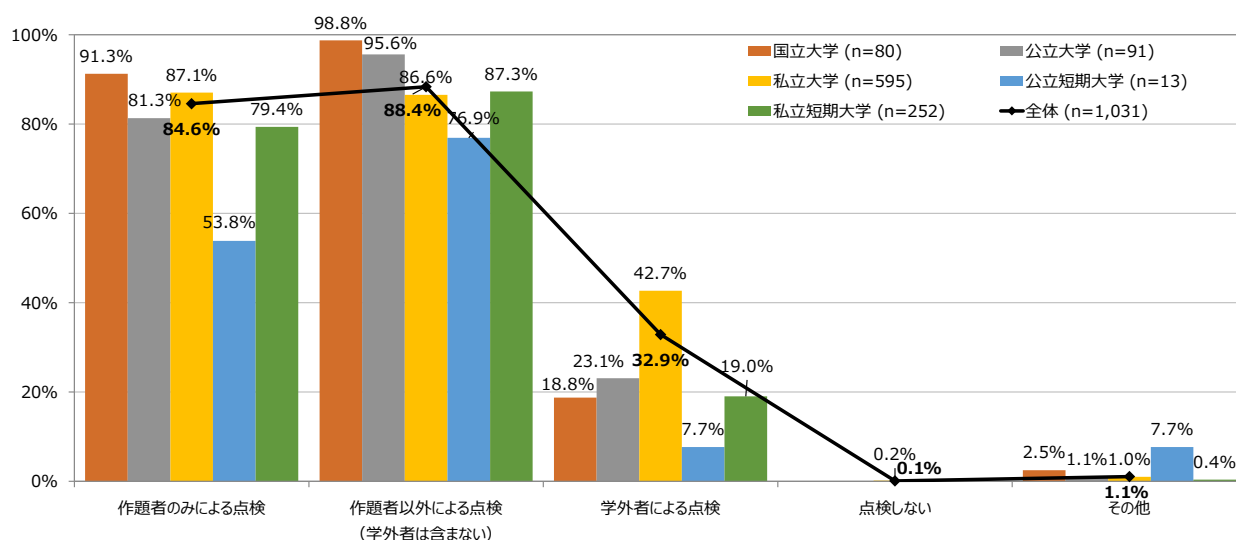
国公立別でみると、国立大学で「作題者のみによる点検（42.5%）」、「学外者による点検（40.0%）」、「作題者以外による点検（学外者は含まない）（28.8%）」の順で高い。

公立大学では、「作題者のみによる点検（46.2%）」、「作題者以外による点検（学外者は含まない）（46.2%）」、「学外者による点検（19.8%）」と続く。

私立大学では、「作題者のみによる点検（47.2%）」、「学外者による点検（28.7%）」、「作題者以外による点検（学外者は含まない）（26.2%）」の順である。

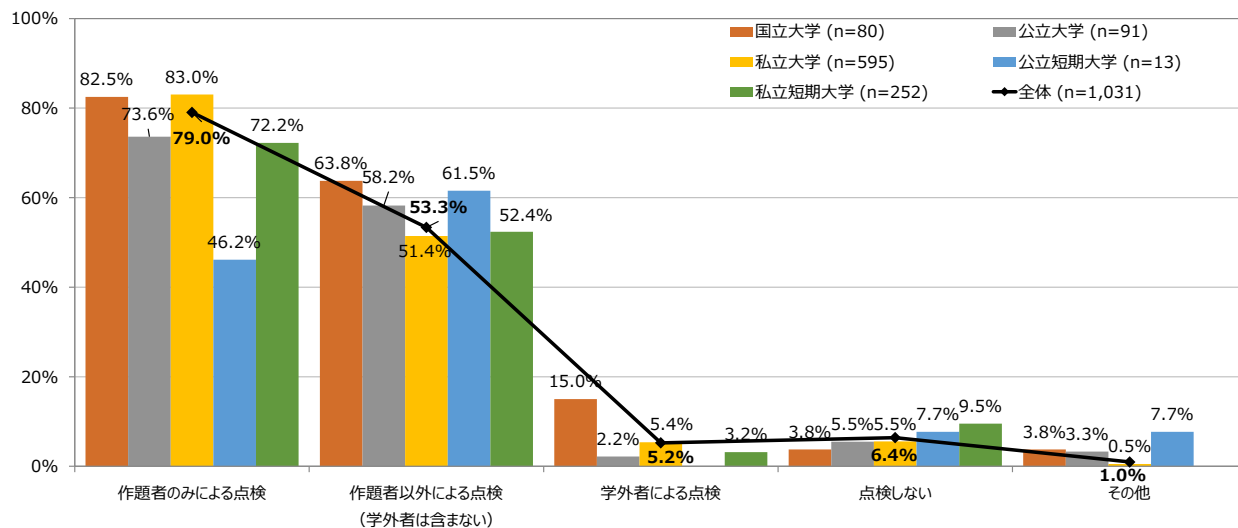
図表 2-11 試験前・中・後における点検方法 試験前

(n=1,031・複数回答)



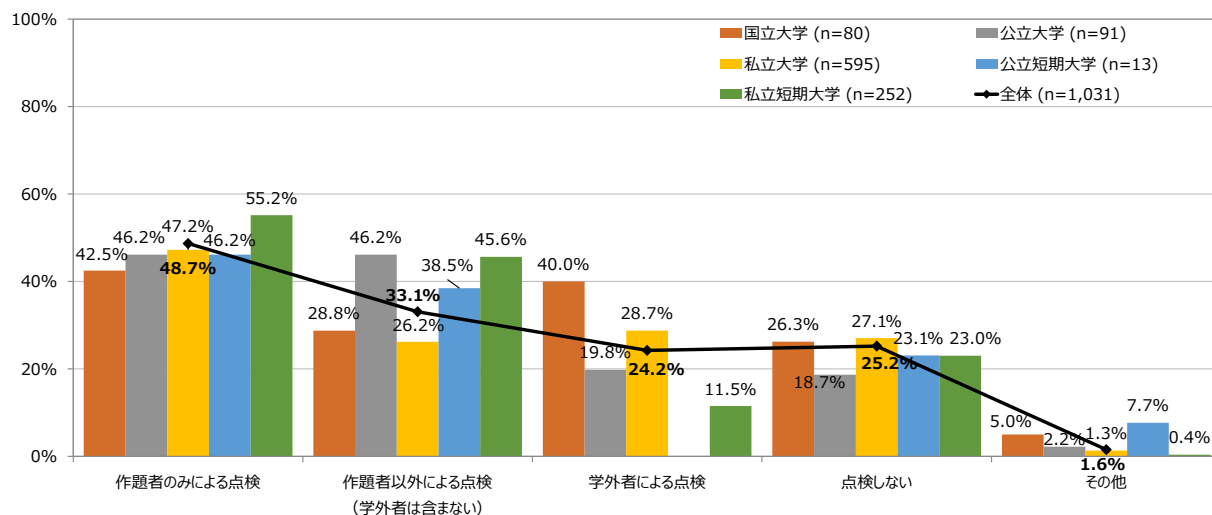
図表 2-12 試験前・中・後における点検方法 試験中

(n=1,031・複数回答)



図表 2-13 試験前・中・後における点検方法 試験後

(n=1,031・複数回答)

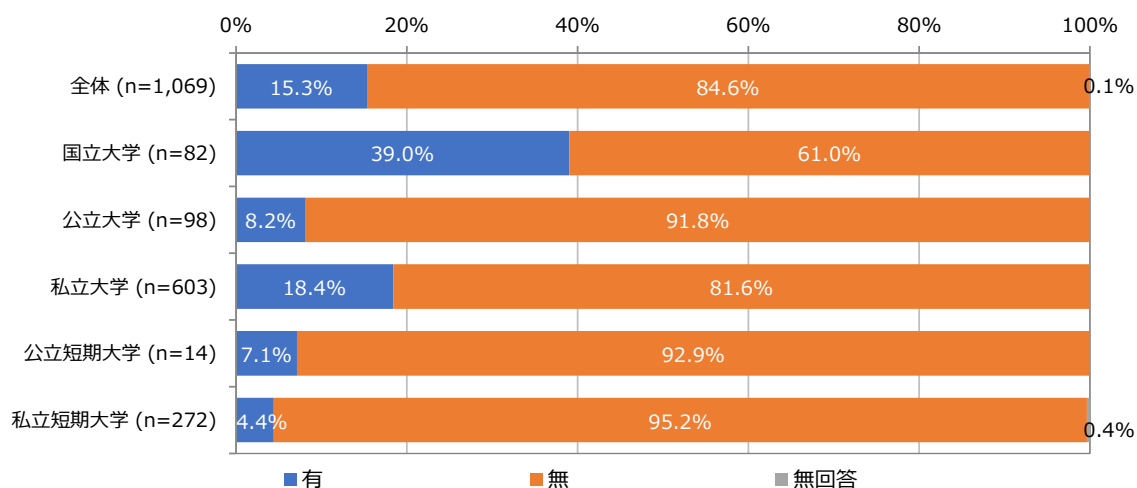


2-8 外部からの入学者選抜におけるミスに係る指摘

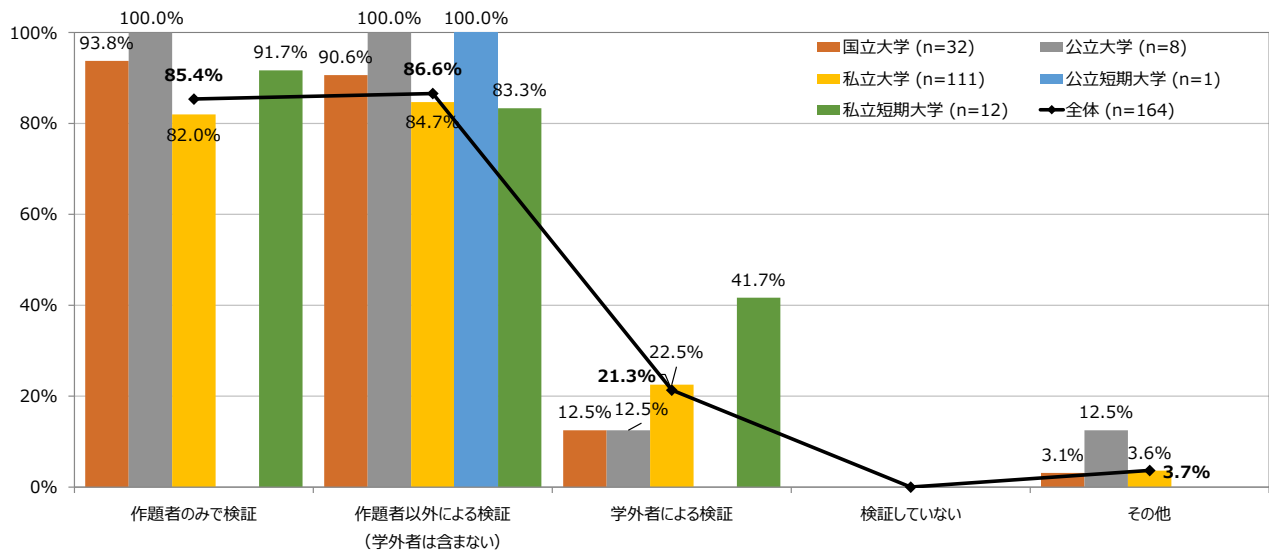
外部からの入学者選抜におけるミスに係る指摘の有無について、全体では「有り（15.3%）」と「無し（84.6%）」となっており、国立大学は39.0%、公立大学は8.2%、私立大学は18.4%が「有り」と回答した。

検証体制について聞いたところ、全体では、「作題者以外による検証（86.6%）」、「作題者のみで検証（85.4%）」、「学外者による検証（21.3%）」の順で高かった。国立大学では「作題者のみで検証」、公立大学では「作題者のみで検証」「作題者以外による検証」、私立大学では「作題者以外による検証」が最も割合が高かった。

図表 2-14 外部からのミスに係る指摘等の有無
(n=1,069・単数回答)



図表 2-15 外部からのミスに係る指摘等に対する検証体制
(n=164・複数回答)



2-9 受験者本人への成績開示制度

受験者本人への成績開示制度の有無については、全体で、「開示制度を設けている (50.8%)」「開示制度を一部設けている (16.2%)」を合わせて 67.0%が成績開示制度を有すると回答している。国立大学、公立大学では 100%、私立大学では 64.2%が成績開示制度を有している。

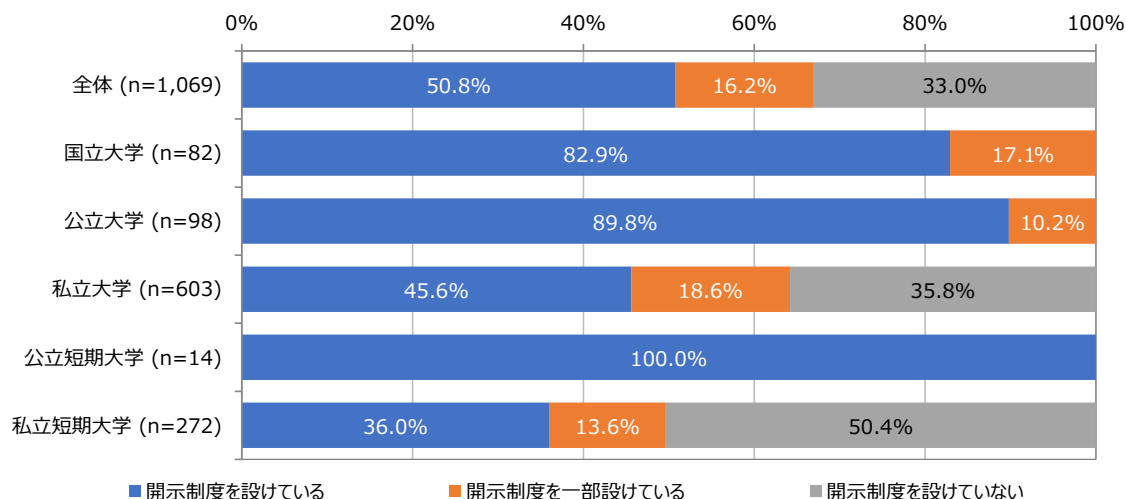
開示制度を有している 716 校のうち、受験者本人への成績開示方法について聞いたところ、全体では「郵送又は電子媒体での送付対応 (49.2%)」、「大学窓口での閲覧 (29.1%)」、「希望者への配布 (24.0%)」の順で高い。

国立大学では「郵送又は電子媒体での送付対応 (73.2%)」、「ID・パスワード等を配布した上で大学のシステム等で公開 (34.1%)」、「希望者への配布 (25.6%)」であった。

公立大学では、「郵送又は電子媒体での送付対応 (63.3%)」、「大学窓口での閲覧 (44.9%)」、「希望者への配布 (23.5%)」と続き、私立大学では、「郵送又は電子媒体での送付対応 (46.0%)」、「希望者への配布 (23.8%)」、「大学窓口での閲覧 (23.5%)」となっている。

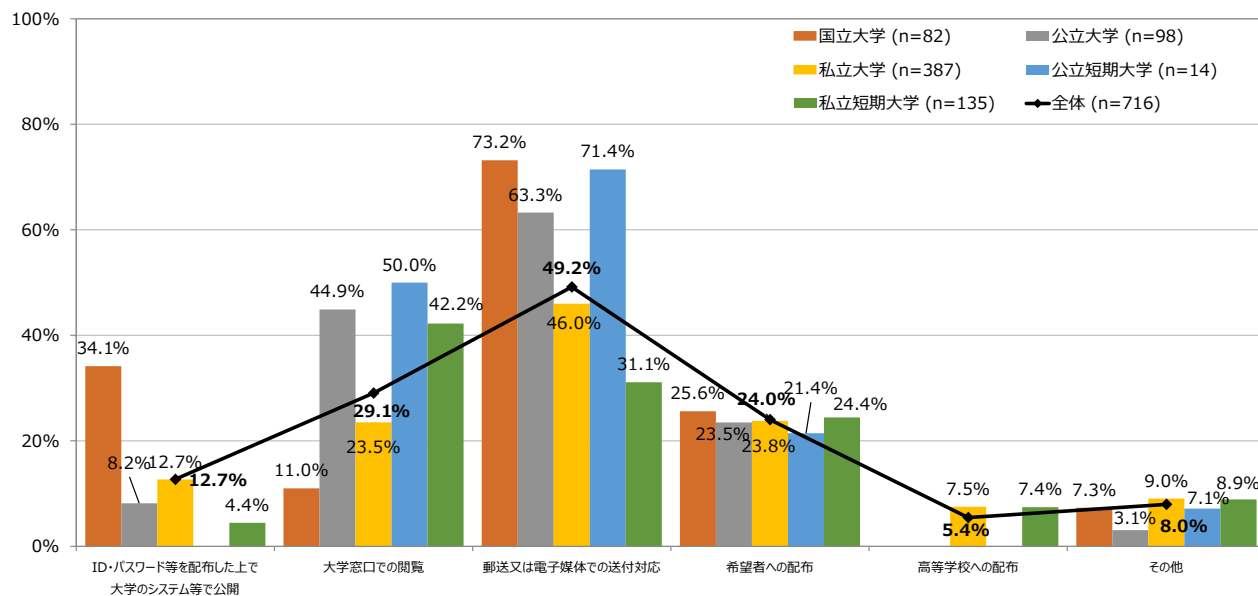
図表 2-16 受験者本人への成績開示制度の有無

(n=1,069・単数回答)



図表 2-17 受験者本人への成績開示方法

(n=716・複数回答)

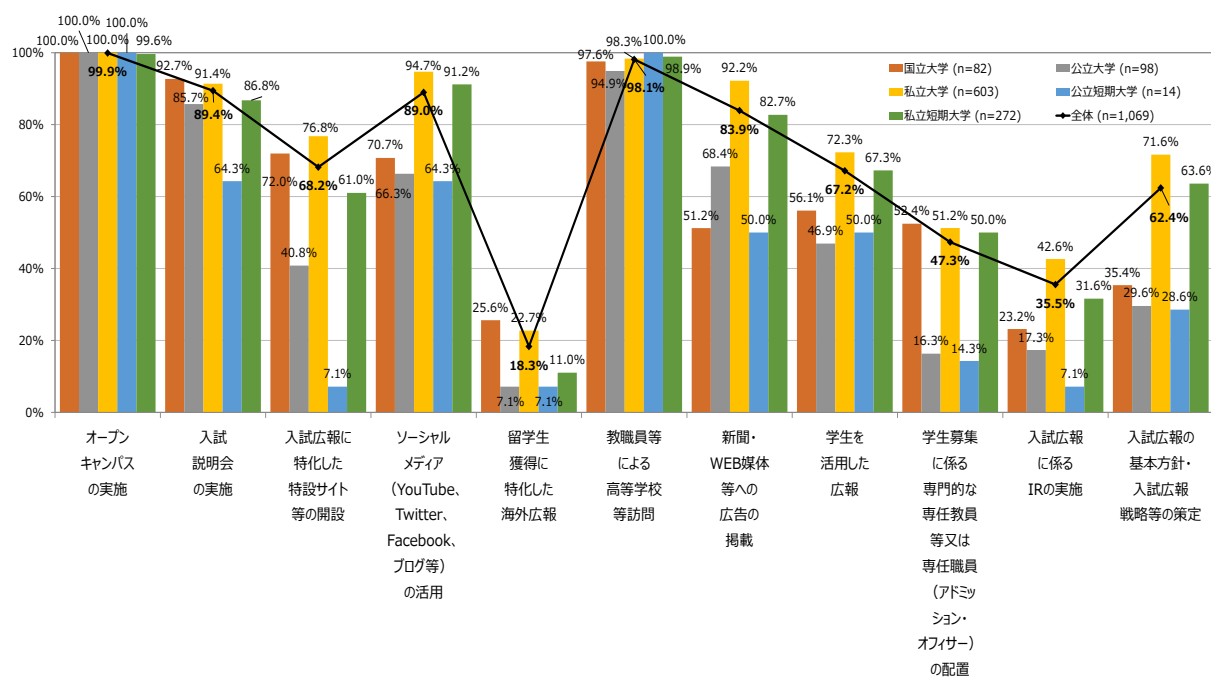


2-10 入試広報

入試広報に関する取組の実施の有無については、全体では「オープンキャンパスの実施（99.9%）」「教職員等による高等学校等訪問（98.1%）」「入試説明会の実施（89.4%）」の順で高い。

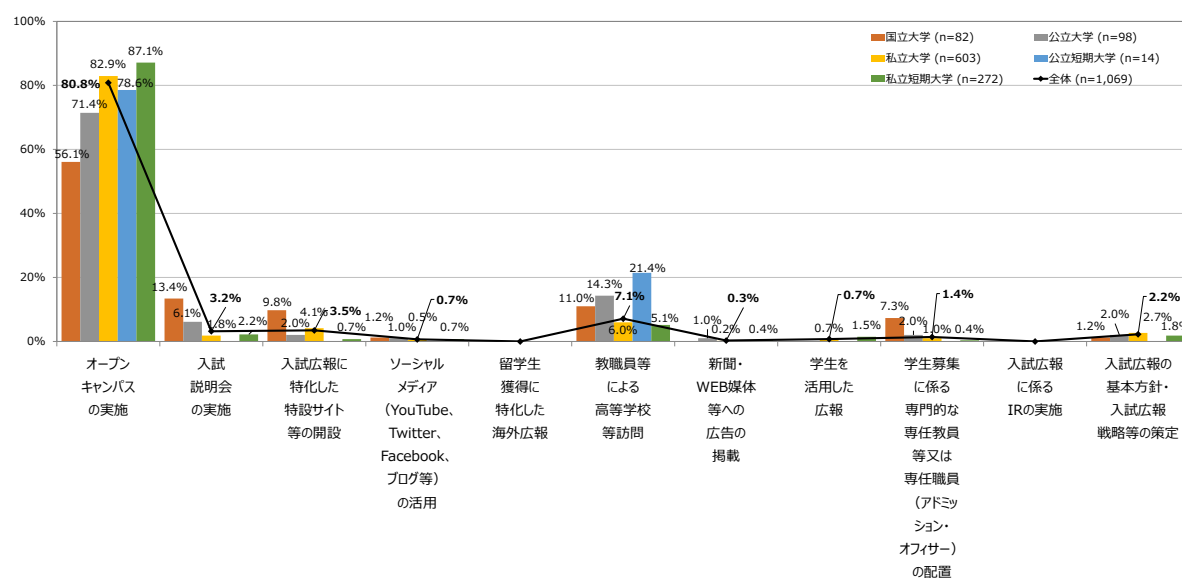
国立大学では「オープンキャンパスの実施（100.0%）」「教職員等による高等学校等訪問（97.6%）」「入試説明会の実施（92.7%）」、公立大学も同様に「オープンキャンパスの実施（100.0%）」「教職員等による高等学校等訪問（94.9%）」「入試説明会の実施（85.7%）」となっている。私立大学では「オープンキャンパスの実施（100.0%）」「教職員等による高等学校等訪問（98.3%）」に続き、「ソーシャルメディアの活用（94.7%）」となっている。

図表 2-18 入試広報に関する取組の実施の有無
(n=1,069・複数回答)



入試広報に関する取組のうち、最も学生確保に貢献していると考える取組については、全体では「オープンキャンパスの実施(80.8%)」が最も高く、国立大学(56.1%)、公立大学(71.4%)、私立大学(82.9%)でも同様に「オープンキャンパスの実施」が最も高い。

図表 2-19 最も学生確保に貢献していると考える入試広報に関する取組
(n=1,069・単数回答)



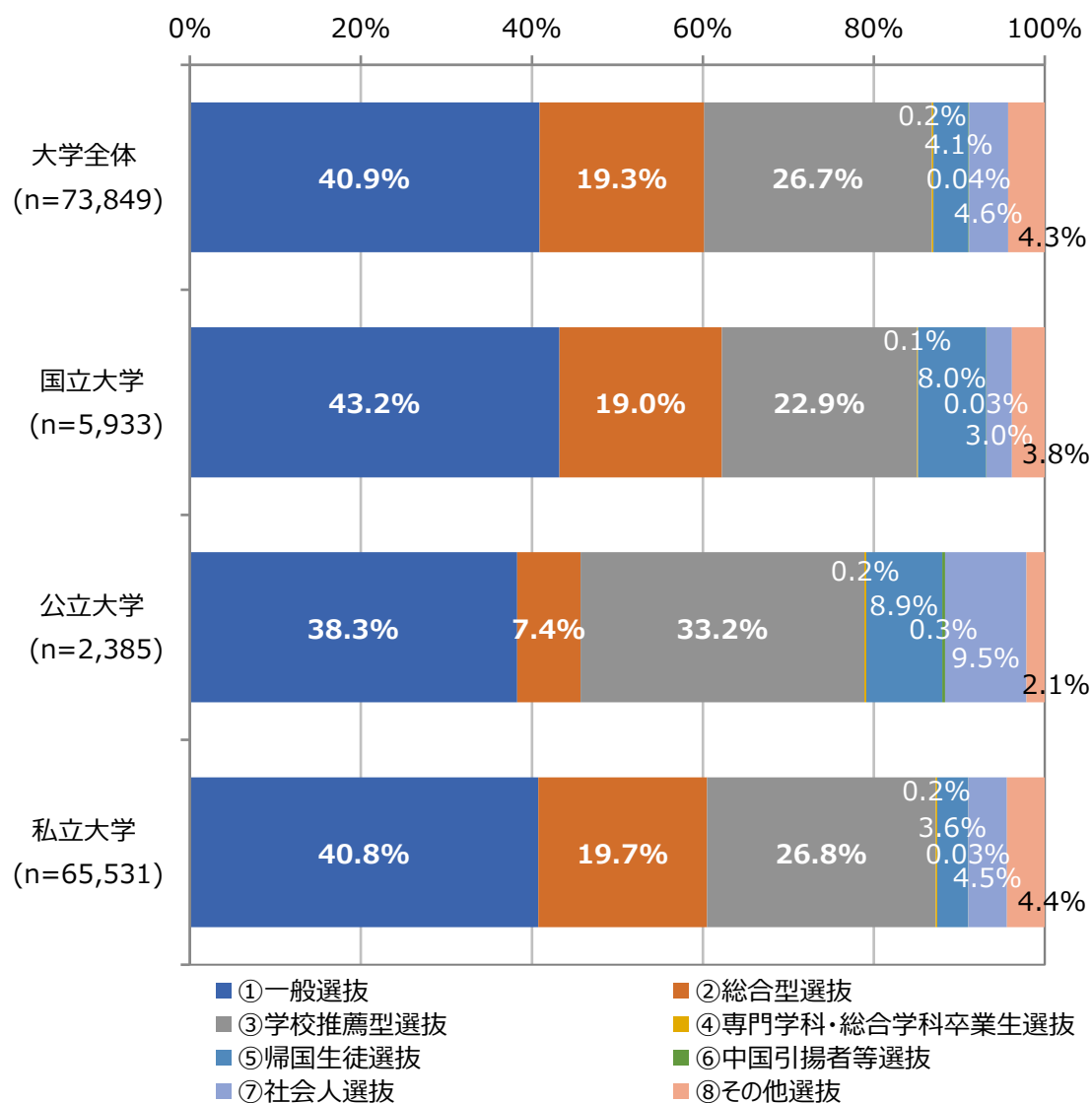
第3章 選抜方法の実態

3-1 選抜方法（国公私・選抜区分数別）

大学全体の全選抜方法について、選抜区分数別でみると、一般選抜 40.9%、学校推薦型選抜 26.7%、総合型選抜 19.3%が上位にあがる。

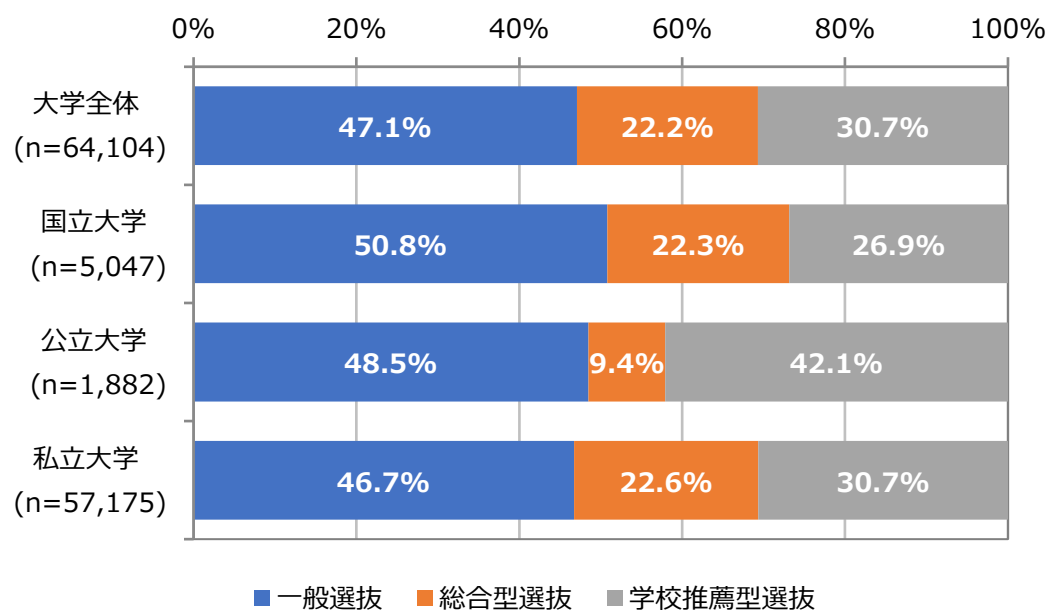
なお、一般選抜、総合型選抜及び学校推薦型選抜で全体の 86.9%を占めるため、以降は上記 3 つの選抜方法について分析する。

図表 3-1 選抜方法（国公私・選抜区分数別）



大学全体の一般選抜、総合型選抜及び学校推薦型選抜の3つについて、選抜区分数別で見ると、一般選抜 47.1%、総合型選抜 22.2%、学校推薦型選抜 30.7%である。

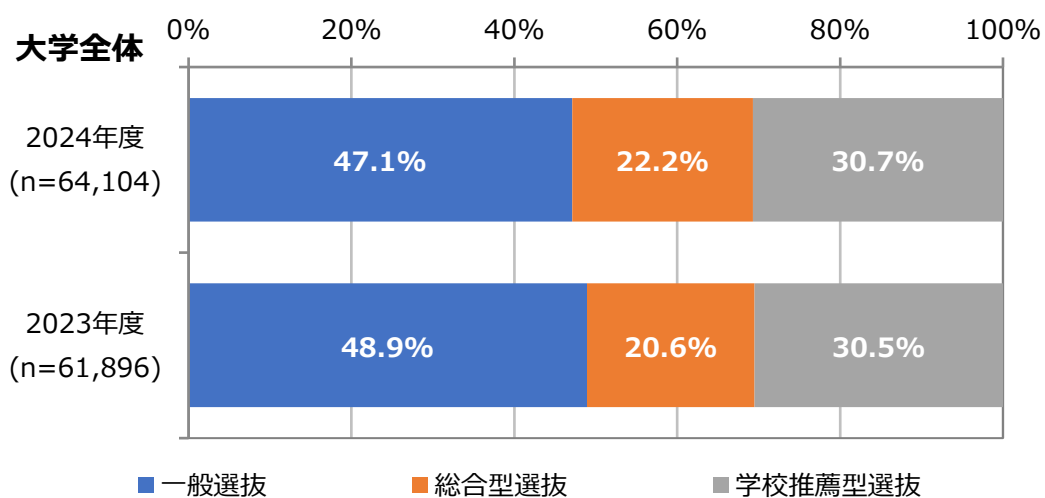
図表 3-2 選抜方法（国公私・選抜区分数別）



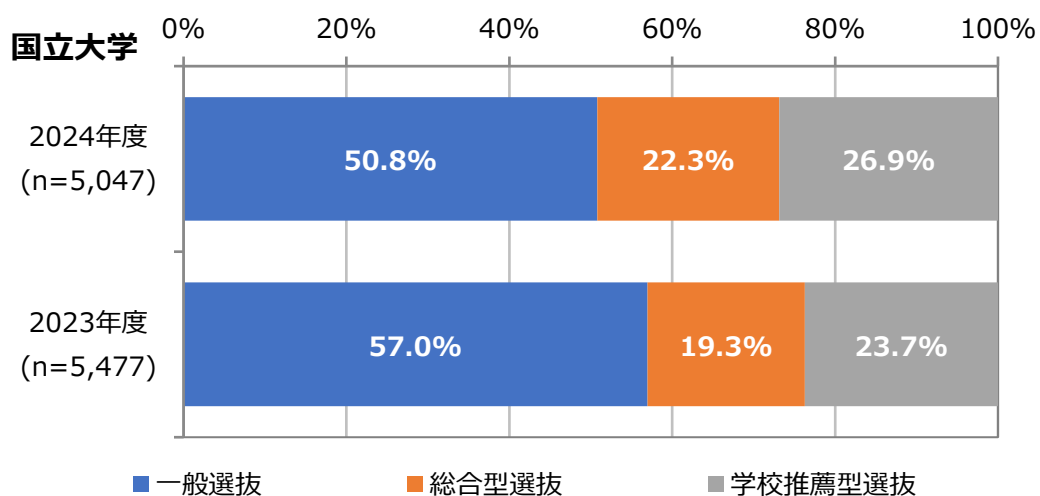
【前回調査との比較】

選抜区分数別に大学全体の一般選抜、総合型選抜及び学校推薦型選抜の3つについて、前回調査と比較すると、全体では、総合型選抜の割合が増加している。国公立別でみると、国立大学では、一般選抜の割合が6ポイント超減少している。国立大学・公立大学で、学校推薦型選抜の割合が増加傾向にある。

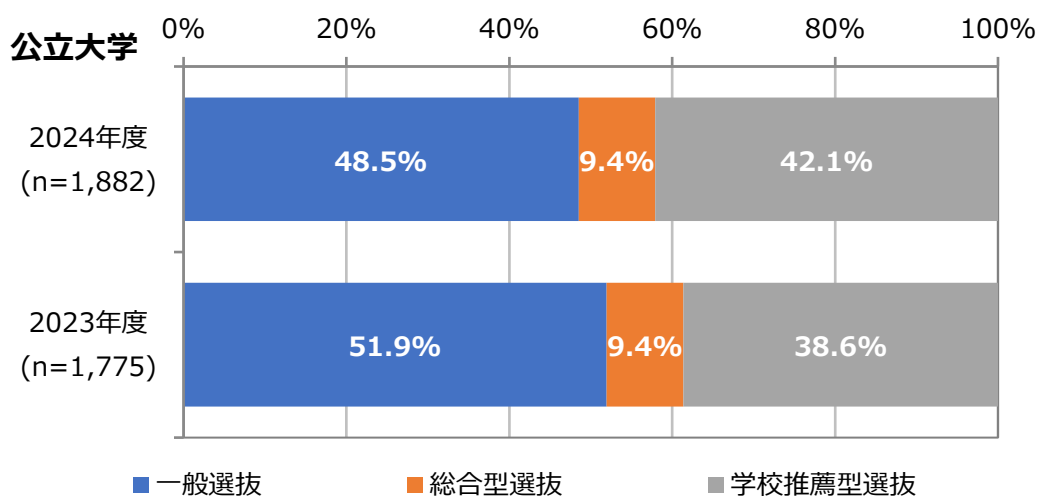
図表 3-3 【前回調査との比較】選抜方法（大学全体・選抜区分数別）



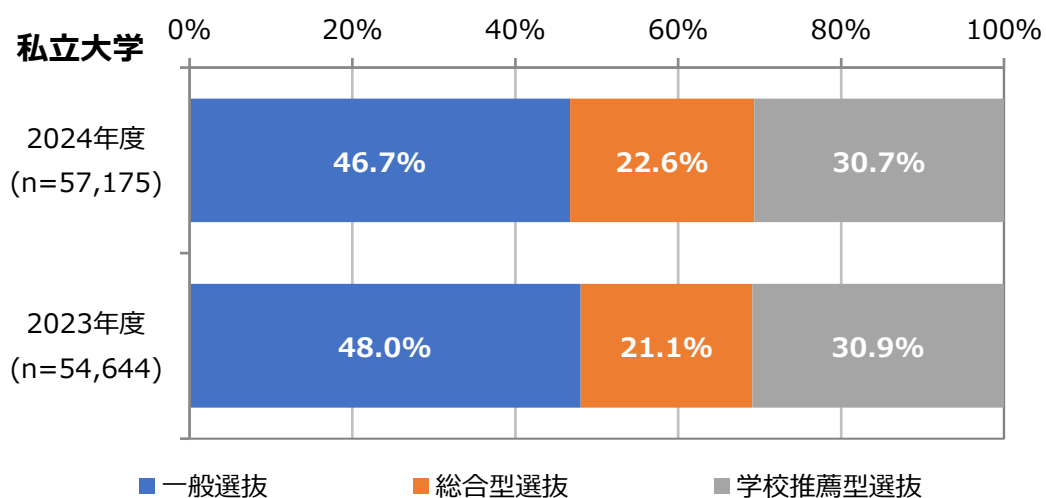
図表 3-4 【前回調査との比較】選抜方法（国立大学・選抜区分数別）



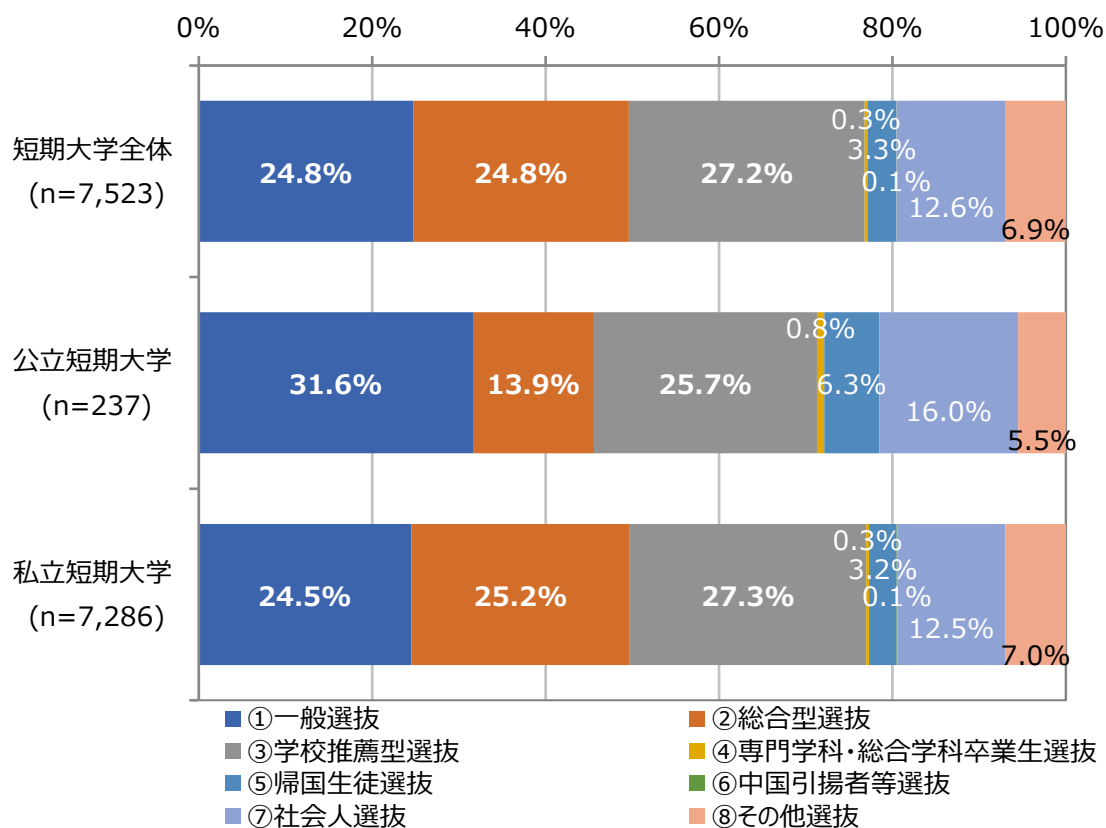
図表 3-5 【前回調査との比較】選抜方法（公立大学・選抜区分数別）



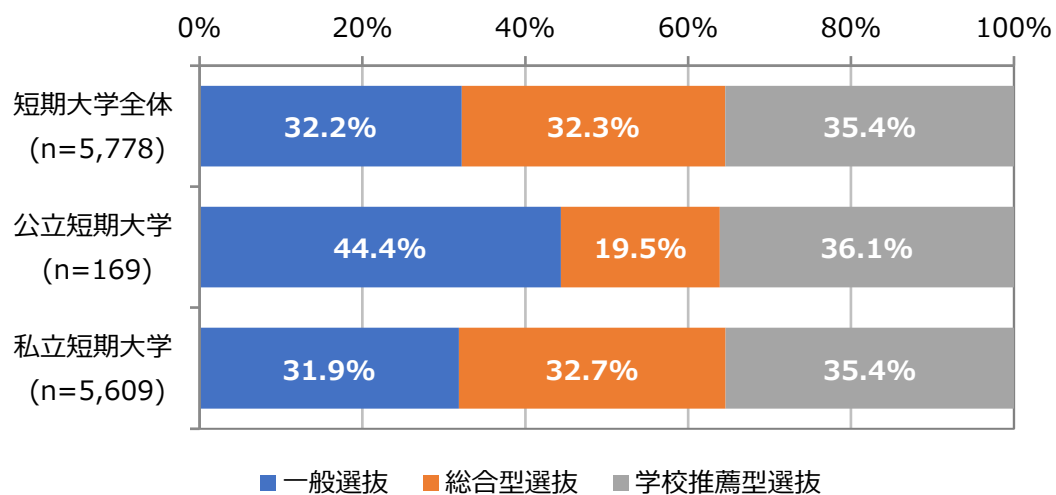
図表 3-6 【前回調査との比較】選抜方法（私立大学・選抜区分数別）



図表 3-7 選抜方法（公私短大・選抜区分数別）



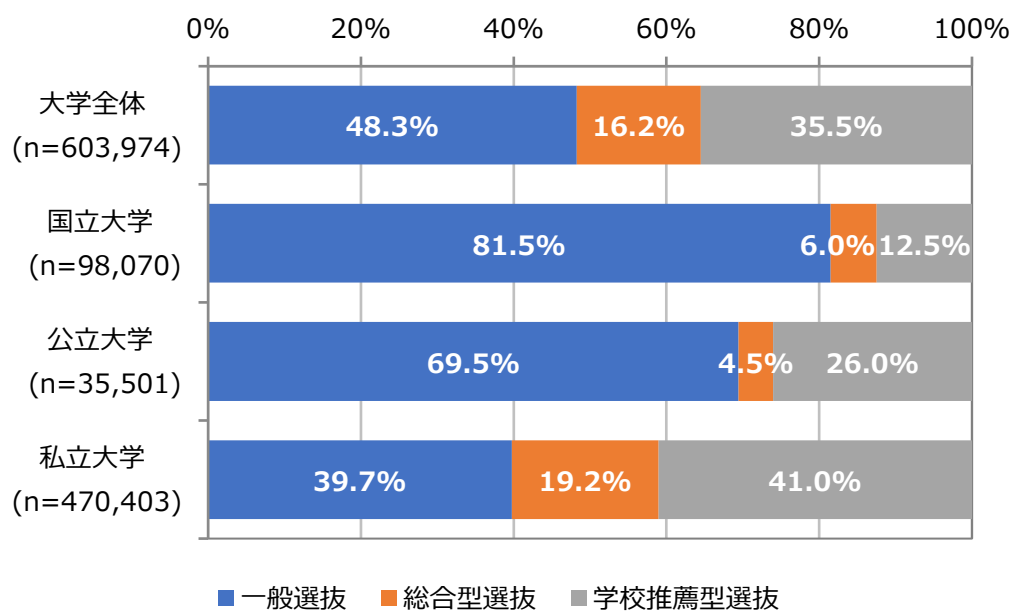
図表 3-8 選抜方法（公私短大・選抜区分数別）



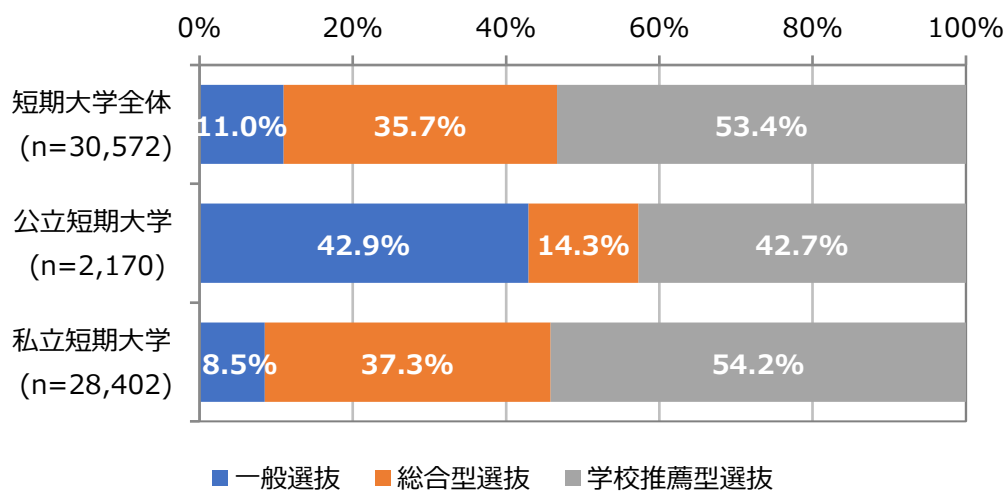
3-2 選抜方法（国公私・入学者数別）

選抜方法を大学全体の入学者数別でみると、一般選抜 48.3%、総合型選抜 16.2%、学校推薦型選抜 35.5%である。

図表 3-9 選抜方法（国公私・入学者数別）



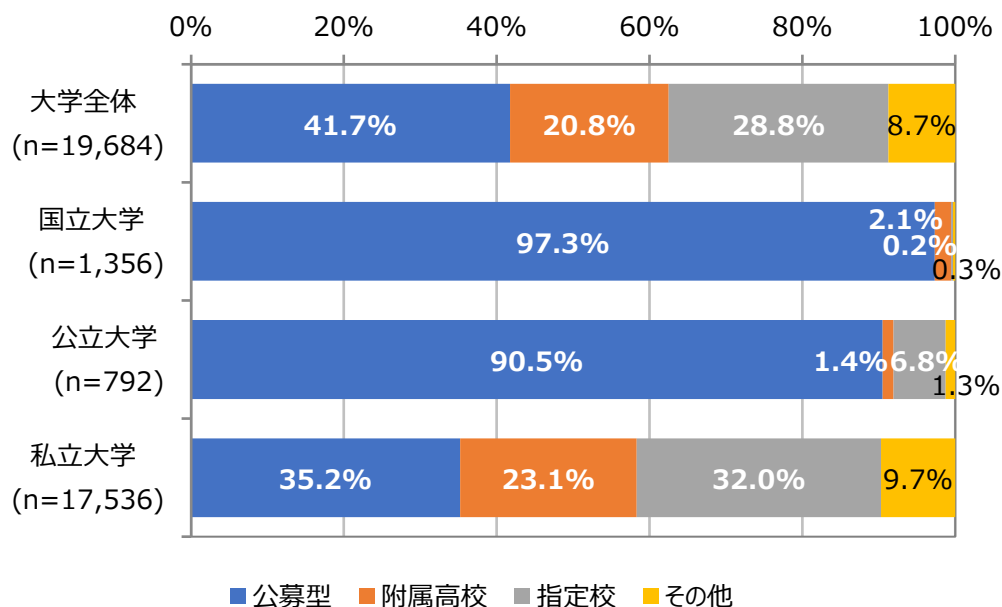
図表 3-10 選抜方法（公私短大・入学者数別）



3-3 学校推薦型選抜の種類（国公私・選抜区分別）

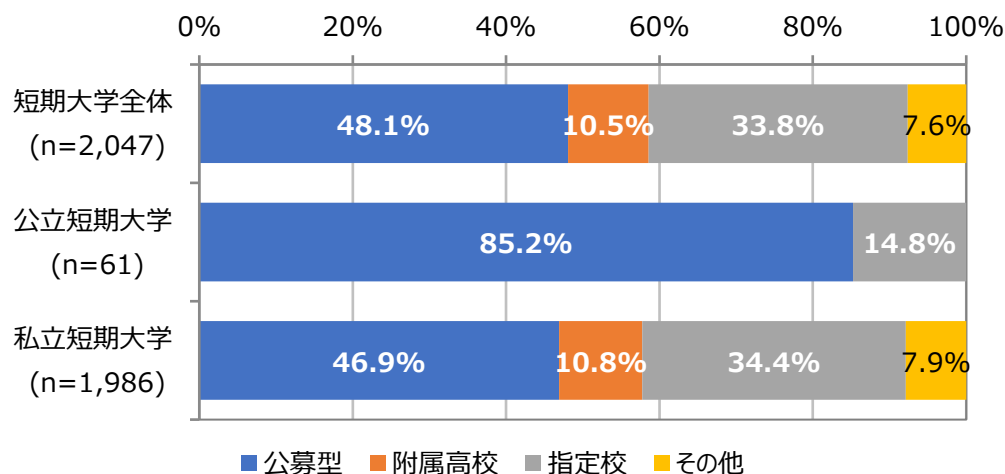
学校推薦型選抜の種類を選抜区分別でみると、公募型が国立大学では 97.3%、公立大学では 90.5%、私立大学では 35.2%である。

図表 3-11 学校推薦型選抜の種類（国公私・選抜区分別）



公募型：大学が定める出題要件を満たし、かつ、所属学校の推薦を得られれば、誰でも出願できる学校推薦型選抜
 附属高校：大学の附属高校（大学と同一法人とする）の生徒のみが出願できる学校推薦型選抜
 指定校：大学が指定した学校の生徒のみが出願できる学校推薦型選抜（附属高校を除く）
 その他：上記以外の学校推薦型選抜

図表 3-12 学校推薦型選抜の種類（公私短大・選抜区分別）

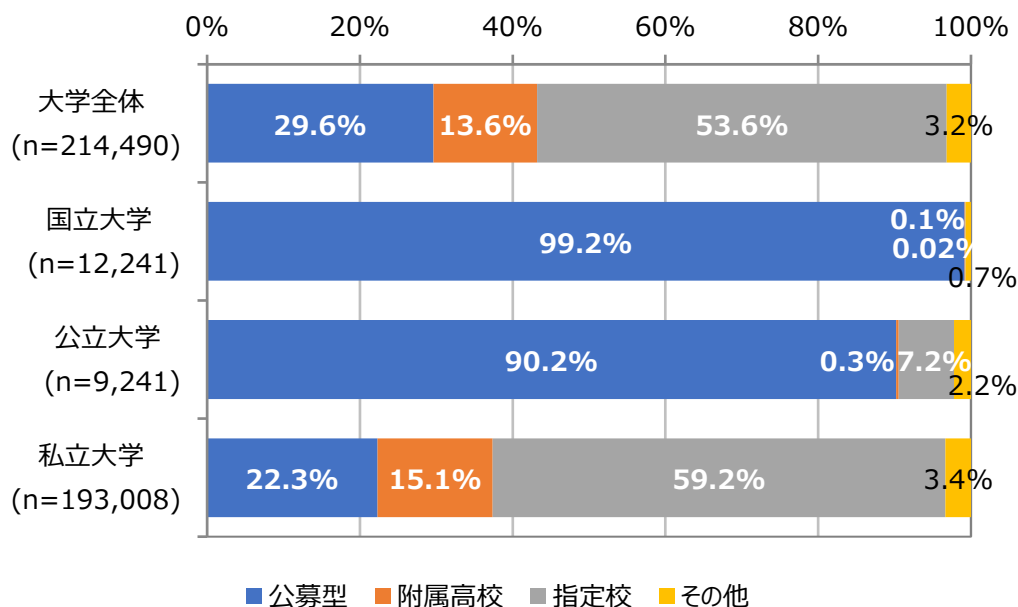


公募型：大学が定める出題要件を満たし、かつ、所属学校の推薦を得られれば、誰でも出願できる学校推薦型選抜
 附属高校：大学の附属高校（大学と同一法人とする）の生徒のみが出願できる学校推薦型選抜
 指定校：大学が指定した学校の生徒のみが出願できる学校推薦型選抜（附属高校を除く）
 その他：上記以外の学校推薦型選抜

3-4 学校推薦型選抜の種類（国公私・入学者数別）

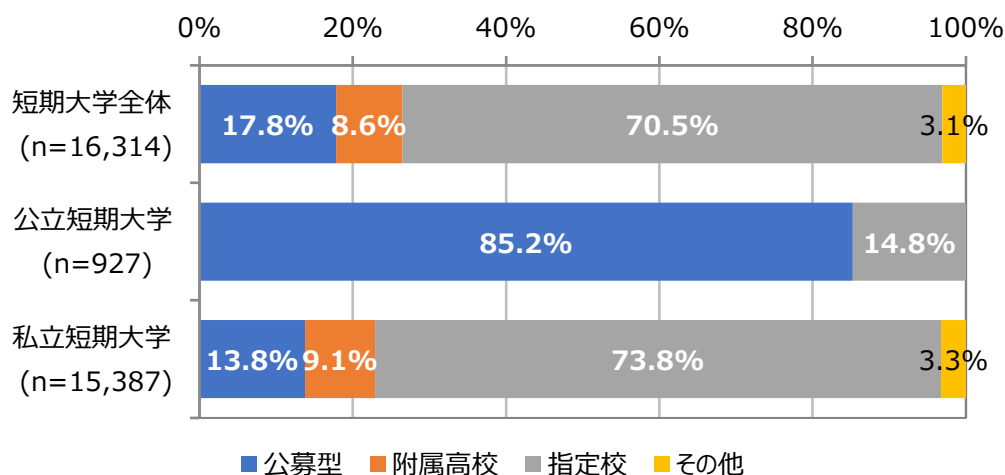
学校推薦型選抜の種類を入学者数別でみると、公募型が国立大学では 99.2%、公立大学では 90.2%、私立大学では 22.3%である。

図表 3-13 学校推薦型選抜の種類（国公私・入学者数別）



公募型：大学が定める出題要件を満たし、かつ、所属学校の推薦を得られれば、誰でも出願できる学校推薦型選抜
 附属高校：大学の附属高校（大学と同一法人とする）の生徒のみが出願できる学校推薦型選抜
 指定校：大学が指定した学校の生徒のみが出願できる学校推薦型選抜（附属高校を除く）
 その他：上記以外の学校推薦型選抜

図表 3-14 学校推薦型選抜の種類（公私短大・入学者数別）

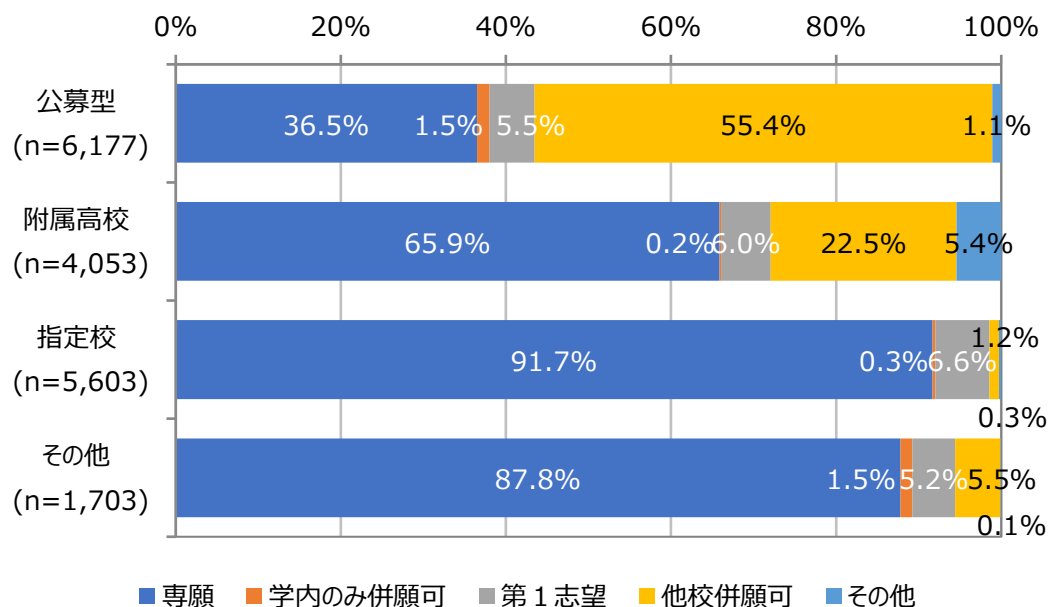


公募型：大学が定める出題要件を満たし、かつ、所属学校の推薦を得られれば、誰でも出願できる学校推薦型選抜
 附属高校：大学の附属高校（大学と同一法人とする）の生徒のみが出願できる学校推薦型選抜
 指定校：大学が指定した学校の生徒のみが出願できる学校推薦型選抜（附属高校を除く）
 その他：上記以外の学校推薦型選抜

3-5 私立大学における学校推薦型選抜の併願可否

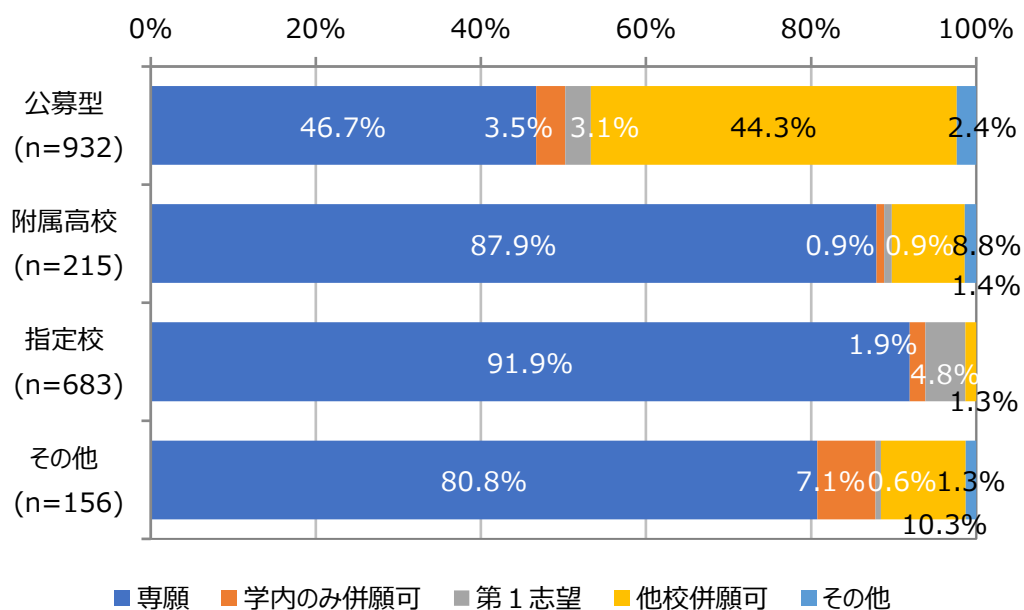
私立大学において、公募型は 55.4%が他校併願可である一方、指定校は 91.7%が専願である。

図表 3-15 私立大学における学校推薦型選抜の併願可否 (n=17,536)



専願：原則として当該区分のみの出願しか認めていない
 学内のみ併願可：学内・学部内・学科内等の間であれば併願可
 第1志望：当該学部・学科等を第1志望とすることを出願資格としている
 他校併願可：他大学との併願を認めている
 その他：上記以外

図表 3-16 私立短期大学における学校推薦型選抜の併願可否 (n=1,986)



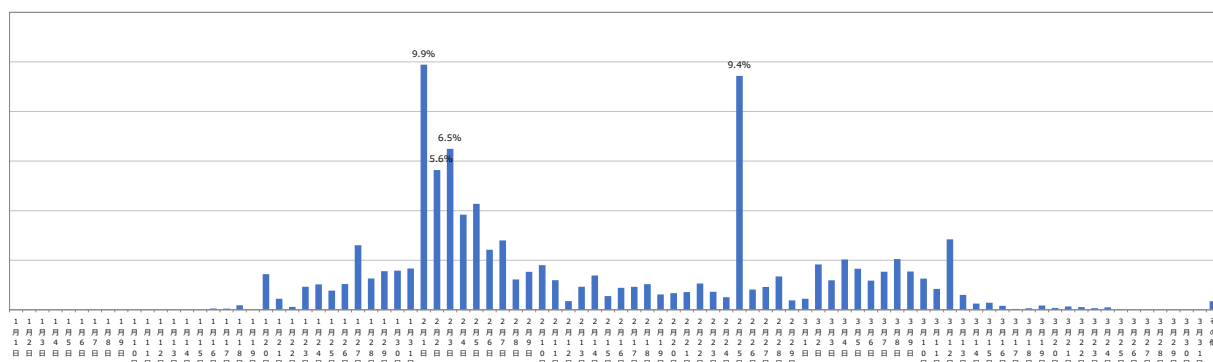
専願：原則として当該区分のみの出願しか認めていない
 学内のみ併願可：学内・学部内・学科内等の間であれば併願可
 第1志望：当該学部・学科等を第1志望とすることを出願資格としている
 他校併願可：他大学との併願を認めている
 その他：上記以外

3-6 個別選抜日程（一般選抜）

一般選抜において、個別選抜は2月1日（9.9%）、2月25日（9.4%）に多く実施されている。

図表 3-17 個別選抜日程（一般選抜）

（n=19,065・単数回答）



【参考】令和6年度大学入学者選抜実施要項（抜粋）

第4 試験期日等

2 各大学で実施する一般選抜及び専門学科・総合学科卒業生選抜における第6に定める学力検査の期日並びに総合型選抜及び学校推薦型選抜において学力検査を課す場合の期日については、次により適宜定める。

(1) 試験期日 令和6年2月1日から3月25日までの間

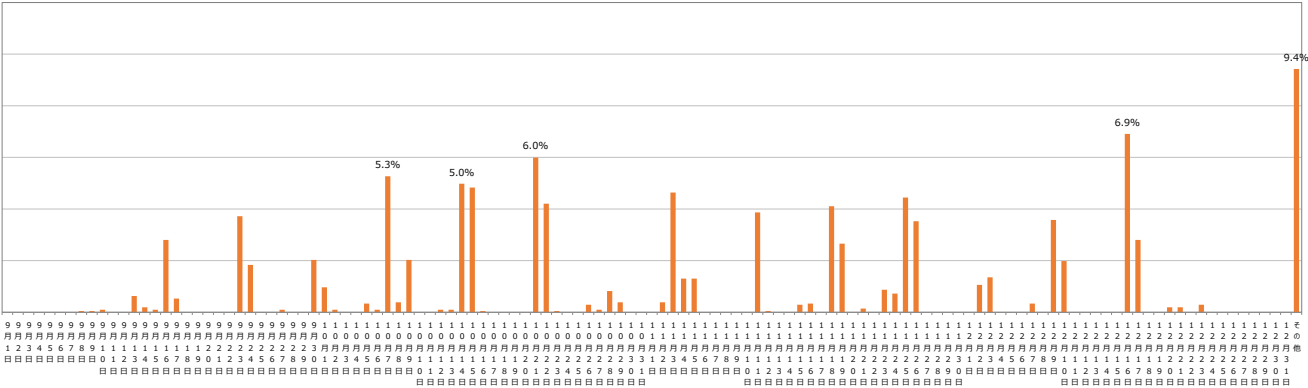
なお、「見直しに係る予告」で示した小論文等、プレゼンテーション、口頭試問、実技等の評価方法については、令和6年2月1日より前から実施することができるが、高等学校教育に対する影響や入学志願者に対する負担に十分配慮する。

3 総合型選抜、学校推薦型選抜等において学力検査を課さない場合は、上記2(1)の試験期日によることを要しないが、高等学校教育に対する影響や入学志願者に対する負担に十分配慮する。

3-7 個別選抜日程（総合型選抜）

総合型選抜において、個別選抜は12月16日（6.9%）、10月21日（6.0%）、10月7日（5.3%）に多く実施されている。

図表 3-18 個別選抜日程（総合型選抜）
(n=2,069・単数回答)



【参考】令和6年度大学入学選抜実施要項（抜粋）

第4 試験期日等

2 各大学で実施する一般選抜及び専門学科・総合学科卒業生選抜における第6に定める学力検査の期日並びに総合型選抜及び学校推薦型選抜において学力検査を課す場合の期日については、次により適宜定める。

(1) 試験期日 令和6年2月1日から3月25日までの間

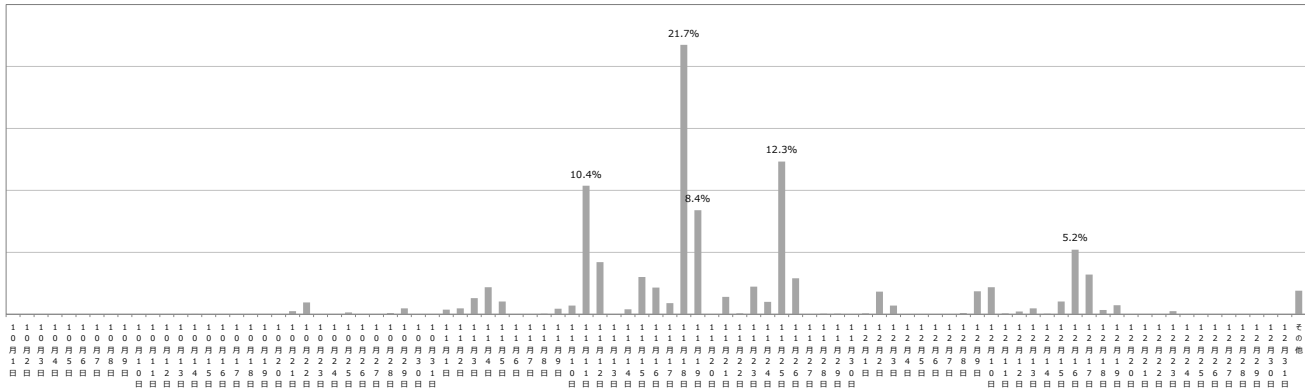
なお、「見直しに係る予告」で示した小論文等、プレゼンテーション、口頭試問、実技等の評価方法については、令和6年2月1日より前から実施することができるが、高等学校教育に対する影響や入学志願者に対する負担に十分配慮する。

3 総合型選抜、学校推薦型選抜等において学力検査を課さない場合は、上記2(1)の試験期日によることを要しないが、高等学校教育に対する影響や入学志願者に対する負担に十分配慮する。

3-8 個別選抜日程（学校推薦型選抜）

学校推薦型選抜において、個別選抜は11月18日（21.7%）、11月25日（12.3%）、11月11日（10.4%）に多く実施されている。

図表 3-19 個別選抜日程（学校推薦型選抜）
(n=3,991・単数回答)

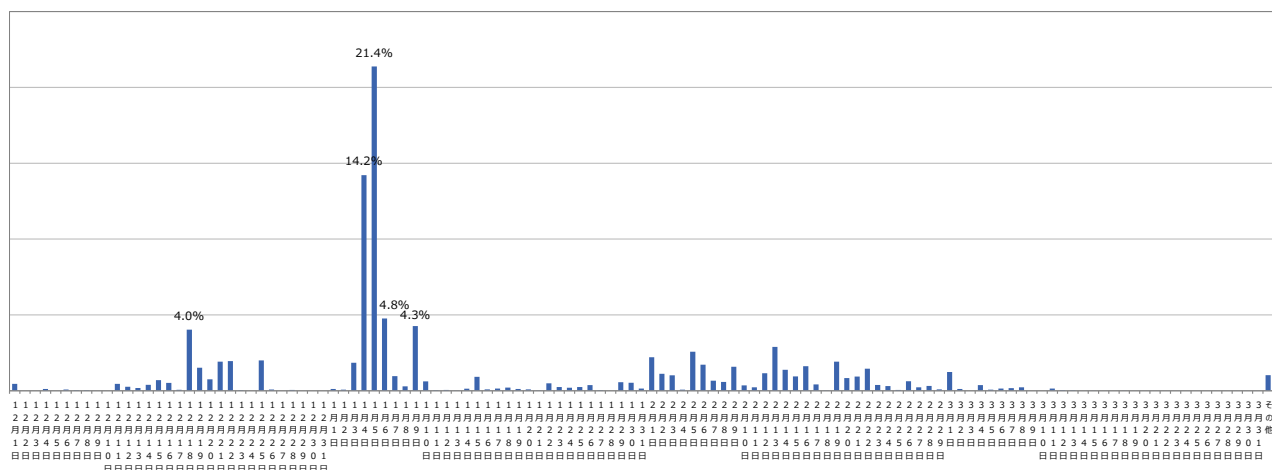


【参考】令和6年度大学入学者選抜実施要項（抜粋）
第4 試験期日等
2 各大学で実施する一般選抜及び専門学科・総合学科卒業生選抜における第6に定める学力検査の期日並びに総合型選抜及び学校推薦型選抜において学力検査を課す場合の期日については、次により適宜定める。
(1) 試験期日 令和6年2月1日から3月25日までの間
なお、「見直しに係る予告」で示した小論文等、プレゼンテーション、口頭試問、実技等の評価方法については、令和6年2月1日より前から実施することができるが、高等学校教育に対する影響や入学志願者に対する負担に十分配慮する。
3 総合型選抜、学校推薦型選抜等において学力検査を課さない場合は、上記2(1)の試験期日によることを要しないが、高等学校教育に対する影響や入学志願者に対する負担に十分配慮する。

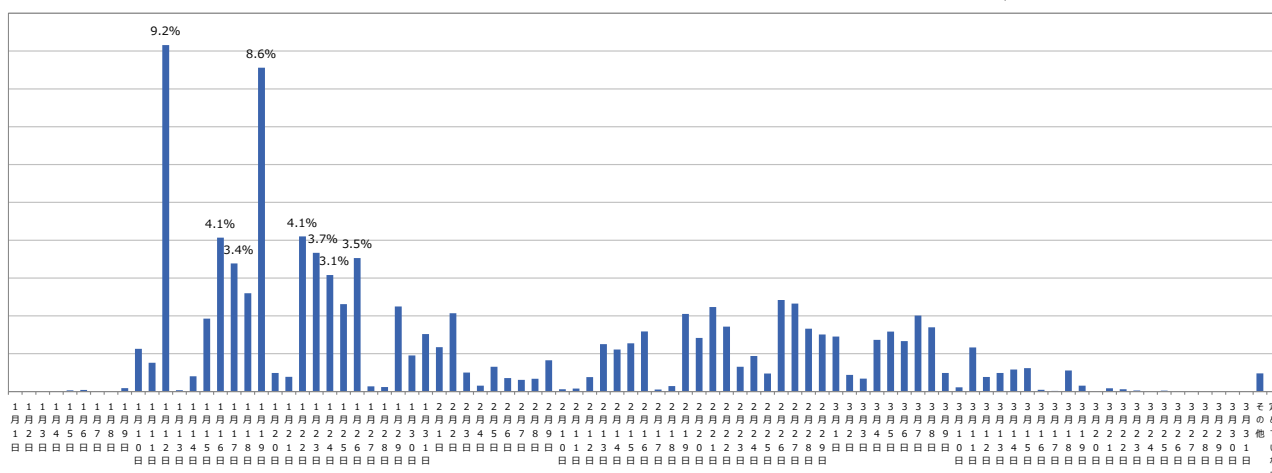
3-9 出願期間の初日・最終日（一般選抜・私立）

私立大学の一般選抜において、出願期間の初日は1月5日（21.4%）、1月4日（14.2%）、1月6日（4.8%）の3日間で約4割となる。最終日は1月12日が9.2%である。

図表 3-20 出願期間の初日（一般選抜・私立大学・n = 26,716）



図表 3-21 出願期間の最終日（一般選抜・私立大学・n = 26,716）



【参考】令和6年度大学入学選抜実施要項（抜粋）

第4 試験期日等

- 2 各大学で実施する一般選抜及び専門学科・総合学科卒業生選抜における第6に定める学力検査の期日並びに総合型選抜及び学校推薦型選抜において学力検査を課す場合の期日については、次により適宜定める。

- (1) 試験期日 令和6年2月1日から3月25日までの間

なお、「見直しに係る予告」で示した小論文等、プレゼンテーション、口頭試問、実技等の評価方法については、令和6年2月1日より前から実施することができるが、高等学校教育に対する影響や入学志願者に対する負担に十分配慮する。

- 3 総合型選抜、学校推薦型選抜等において学力検査を課さない場合は、上記2(1)の試験期日によることを要しないが、高等学校教育に対する影響や入学志願者に対する負担に十分配慮する。

【参考：一般選抜・国立大学／公立大学／公立短期大学／私立短期大学】

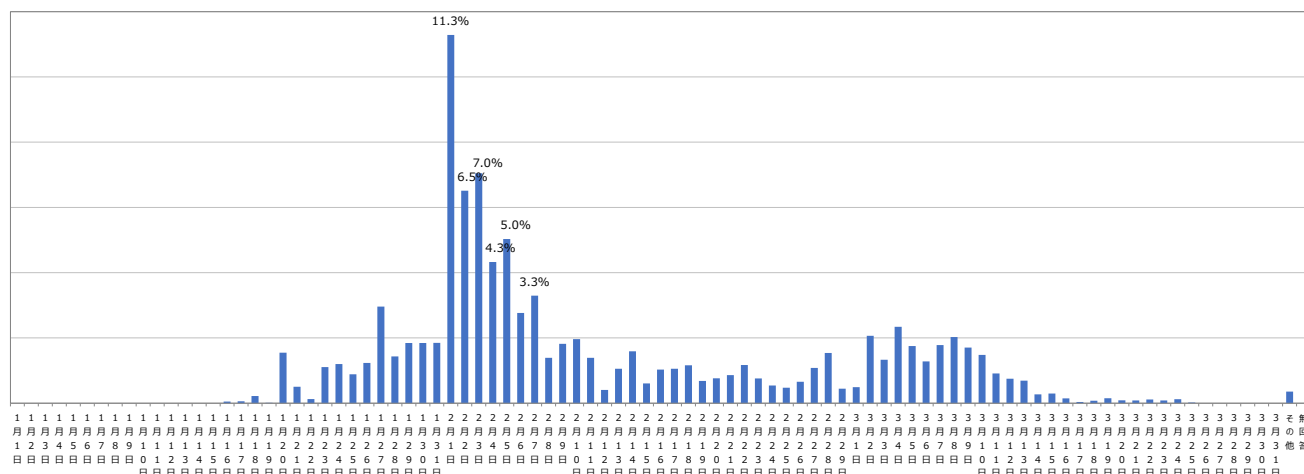
国立 (n=2,565)	初日	1月22日 (99.1%)	最終日	2月2日 (98.4%)
公立 (n=913)	初日	1月22日 (91.9%)	最終日	2月2日 (87.5%)
公立短大 (n=75)	初日	1月22日 (21.3%)	最終日	1月26日 (12.0%)
私立短大 (n=1,787)	初日	1月5日 (9.8%)	最終日	1月26日 (5.4%)

※初日は12月19日～3月20日、最終日は1月5日～3月20日のいずれかに含まれる。

3-10 個別選抜日程（一般選抜・私立）

私立大学の一般選抜において、個別選抜は2月1日実施が最も多く、11.3%が実施されている。

図表 3-22 個別選抜日程（一般選抜・私立大学・n = 15,837）



【参考】令和6年度大学入学者選抜実施要項（抜粋）

第4 試験期日等

2 各大学で実施する一般選抜及び専門学科・総合学科卒業生選抜における第6に定める学力検査の期日並びに総合型選抜及び学校推薦型選抜において学力検査を課す場合の期日については、次により適宜定める。

(1) 試験期日 令和6年2月1日から3月25日までの間

なお、「見直しに係る予告」で示した小論文等、プレゼンテーション、口頭試問、実技等の評価方法については、令和6年2月1日より前から実施することができるが、高等学校教育に対する影響や入学志願者に対する負担に十分配慮する。

3 総合型選抜、学校推薦型選抜等において学力検査を課さない場合は、上記2(1)の試験期日によることを要しないが、高等学校教育に対する影響や入学志願者に対する負担に十分配慮する。

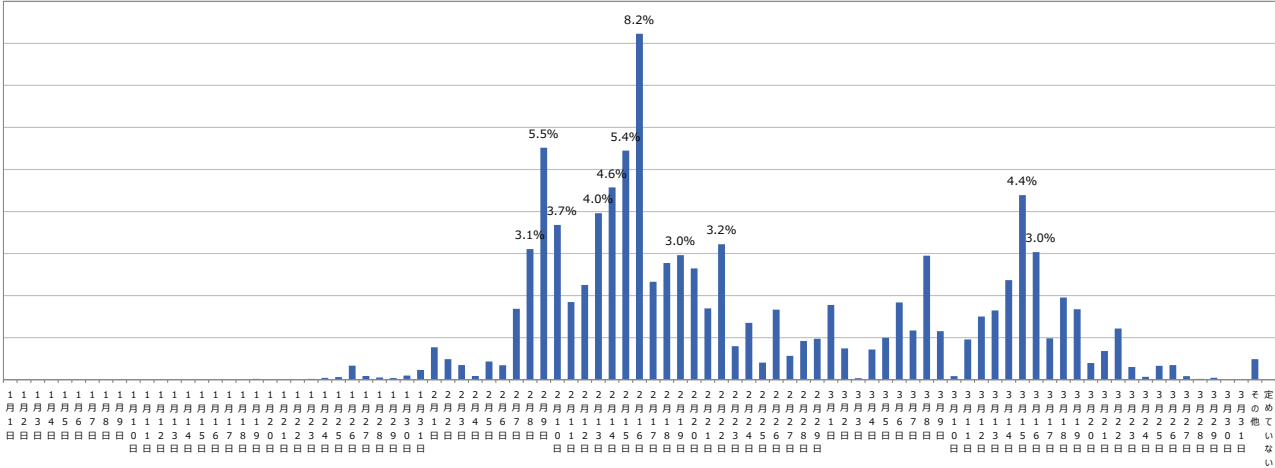
【参考：一般選抜・国立大学／公立大学／公立短期大学／私立短期大学】

国立 (n=1,795) : 2月25日 (80.3%)、3月12日 (18.7%)
 公立 (n=488) : 2月25日 (63.1%)、3月12日 (18.1%)
 公立短大 (n=21) : 2月8日 (34.8%)、2月11日・2月12日 (13.0%)
 私立短大 (n=1,071) : 2月3日 (12.2%)、2月1日 (10.0%)

3-11 合格発表日（一般選抜・私立）

私立大学の一般選抜において、合格発表日は2月16日が8.2%、2月9日が5.5%であり、2月9～16日が多い。

図表 3-23 合格発表日（一般選抜・私立大学・n = 26,716）



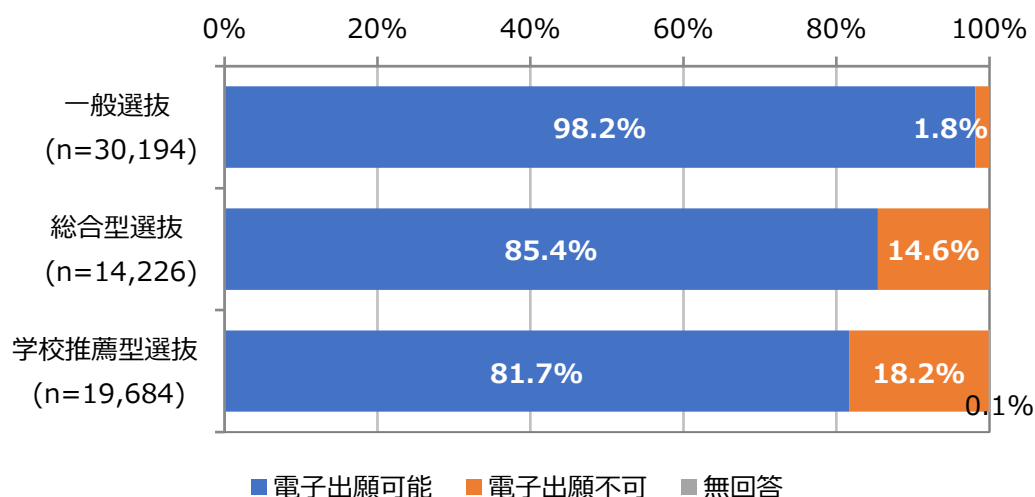
【参考】令和6年度大学入学者選抜実施要項（抜粋）
第4 試験期日等
2 各大学で実施する一般選抜及び専門学科・総合学科卒業生選抜における第6に定める学力検査の期日並びに総合型選抜及び学校推薦型選抜において学力検査を課す場合の期日については、次により適宜定める。
(1) 試験期日 令和6年2月1日から3月25日までの間
なお、「見直しに係る予告」で示した小論文等、プレゼンテーション、口頭試問、実技等の評価方法については、令和6年2月1日より前から実施することができるが、高等学校教育に対する影響や入学志願者に対する負担に十分配慮する。
(3) 合格者の決定発表 令和6年3月31日まで
3 総合型選抜、学校推薦型選抜等において学力検査を課さない場合は、上記2(1)の試験期日によることを要しないが、高等学校教育に対する影響や入学志願者に対する負担に十分配慮する。

【参考：一般選抜・国立大学／公立大学／公立短期大学／私立短期大学】
国立（n=2,565）：3月6日（28.5%）、3月8日（17.9%） ※3月6日～8日に59.1%が実施
公立（n=913）：3月6日（18.3%）、3月21日（17.7%） ※3月6日～21日に74.5%が実施
公立短大（n=75）：2月20日（17.3%）、2月16日（9.3%） ※2月16日～2月20日に34.7%が実施
私立短大（n=1,787）：2月9日（6.2%）、3月15日（5.5%） ※2月9日～3月15日に69.2%が実施

3-12 電子出願の可否（国公私）

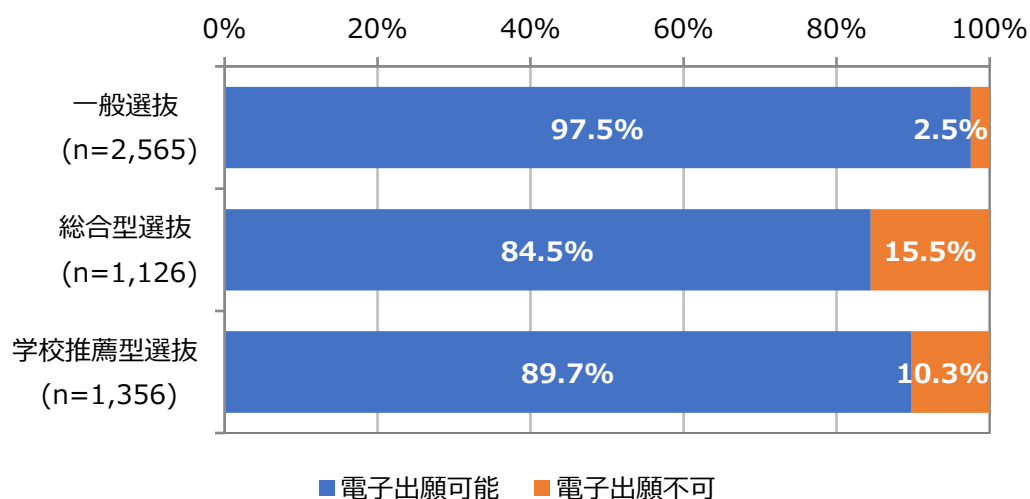
電子出願が可能な選抜区分は、大学全体で、一般選抜では 98.2%、総合型選抜では 85.4%、学校推薦型選抜では 81.7%である。

図表 3-24 電子出願の可否（大学全体・n = 64,104）



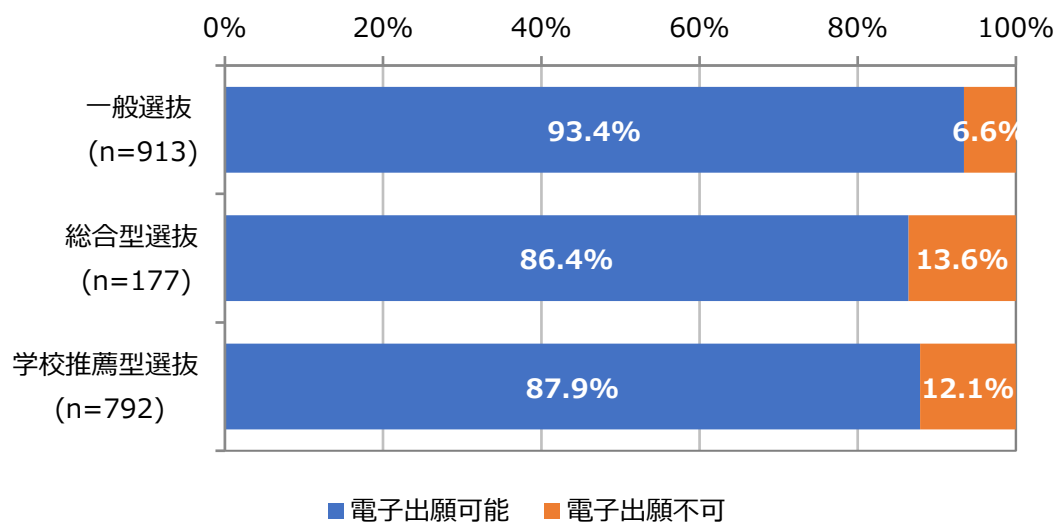
※一部に紙媒体が必要であっても出願の一部で電子的な方法が利用されていれば「電子出願可能」としている。

図表 3-25 電子出願の可否（国立大学・n = 5,047）



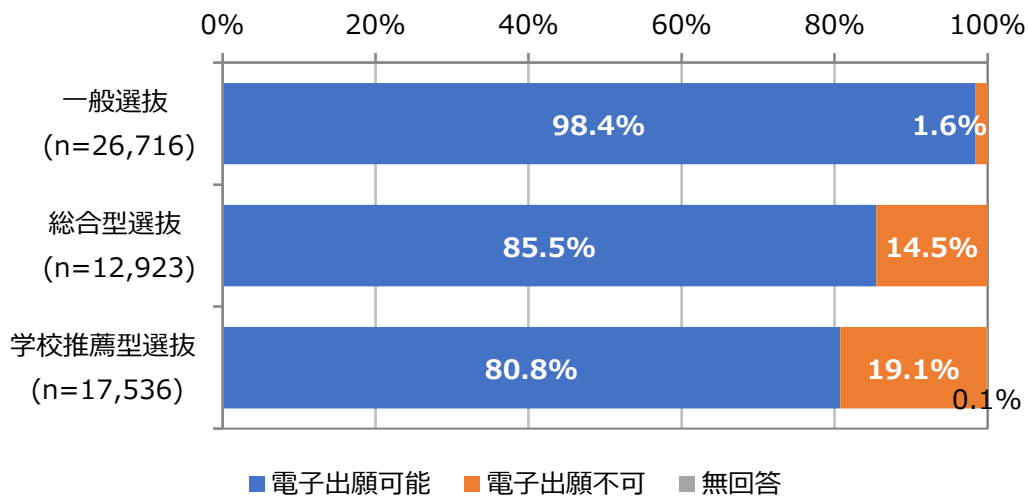
※一部に紙媒体が必要であっても出願の一部で電子的な方法が利用されていれば「電子出願可能」としている。

図表 3-26 電子出願の可否（公立大学・n = 1,882）



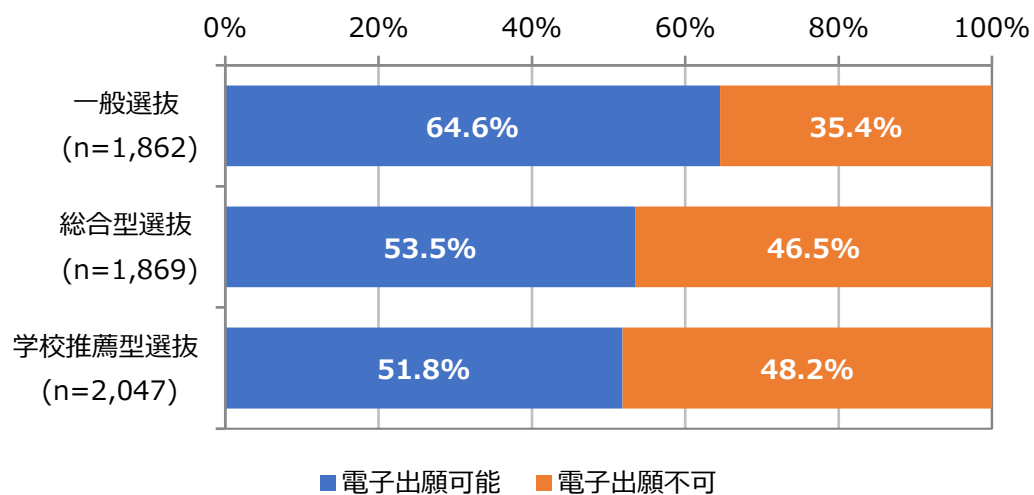
※一部に紙媒体が必要であっても出願の一部で電子的な方法が利用されていれば「電子出願可能」としている。

図表 3-27 電子出願の可否（私立大学・n = 57,175）



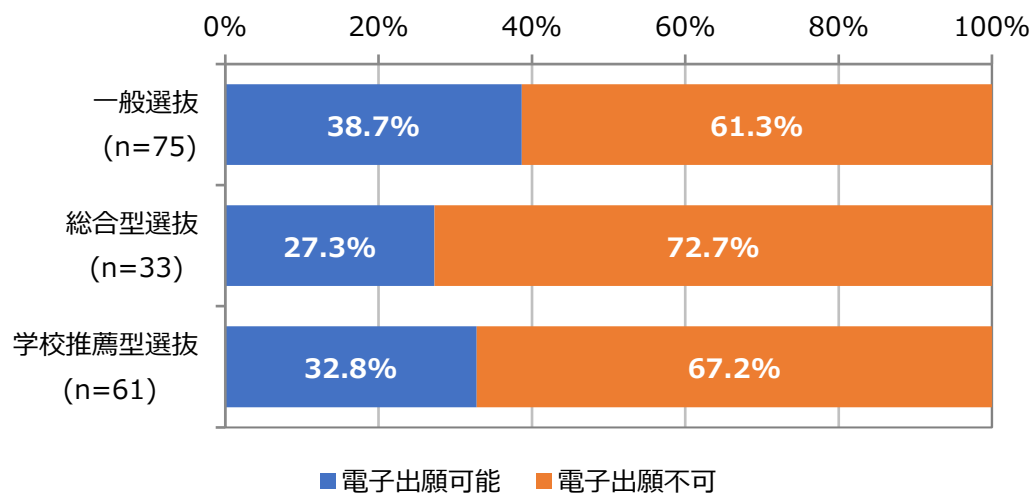
※一部に紙媒体が必要であっても出願の一部で電子的な方法が利用されていれば「電子出願可能」としている。

図表 3-28 電子出願の可否（短期大学全体・n = 5,778）



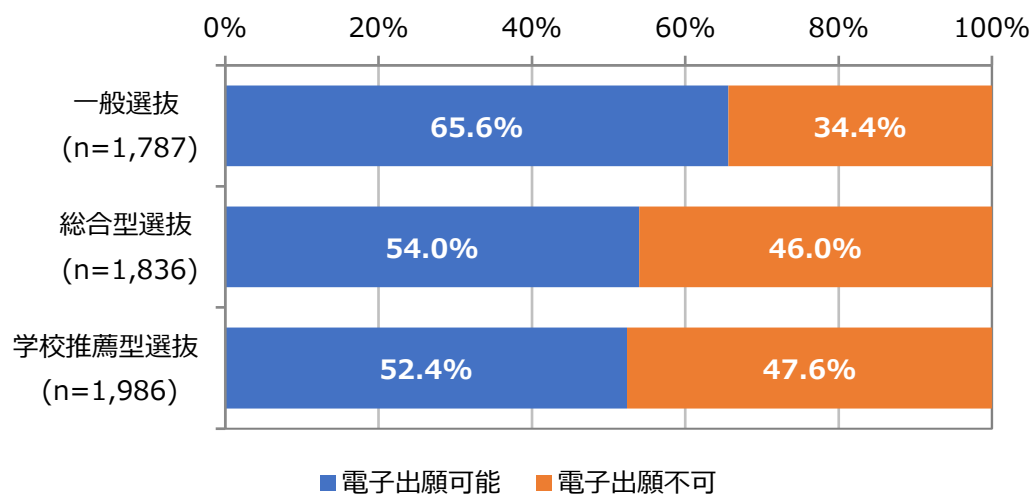
※一部に紙媒体が必要であっても出願の一部で電子的な方法が利用されていれば「電子出願可能」としている。

図表 3-29 電子出願の可否（公立短期大学・n = 169）



※一部に紙媒体が必要であっても出願の一部で電子的な方法が利用されていれば「電子出願可能」としている。

図表 3-30 電子出願の可否（私立短期大学・n = 5,609）



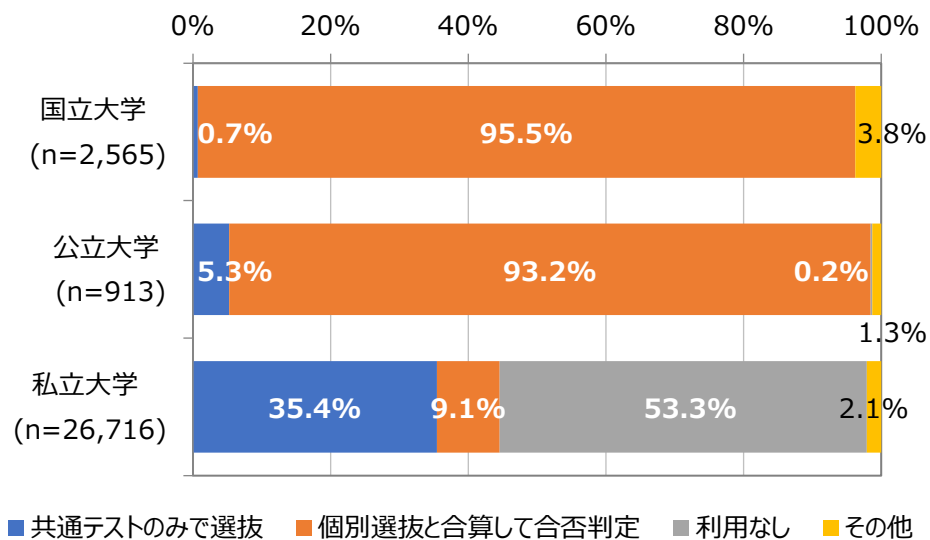
※一部に紙媒体が必要であっても出願の一部で電子的な方法が利用されていれば「電子出願可能」としている。

第4章 大学入学共通テストの利用の実態

4-1 共通テストの利用状況

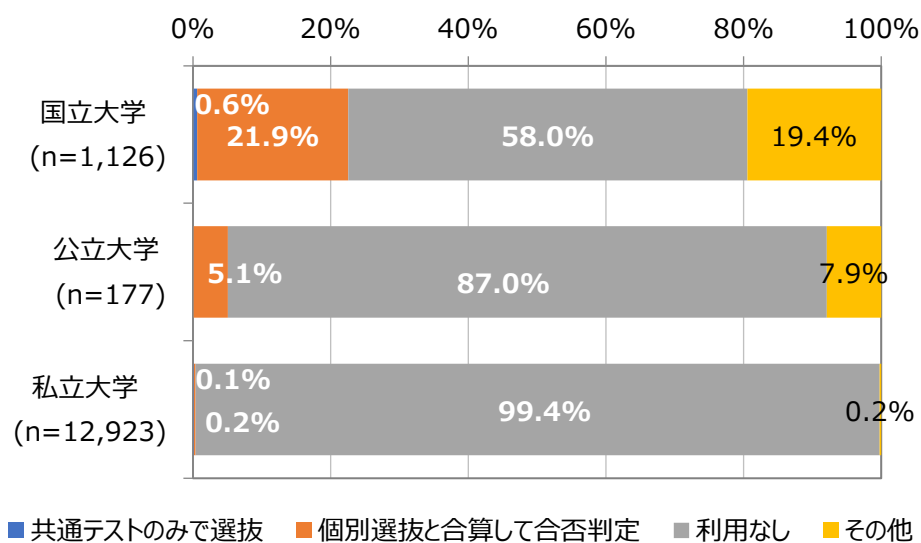
一般選抜において共通テストを利用して合否判定する選抜区分は、国立大学 96.2%、公立大学で 98.5%、私立大学では 44.5%である。他方、利用しない選抜区分は、国立大学では 0%、公立大学は 0.2%、私立大学では 53.3%である。

図表 4-1 共通テストの利用状況（国公私・一般選抜・n = 30,194）



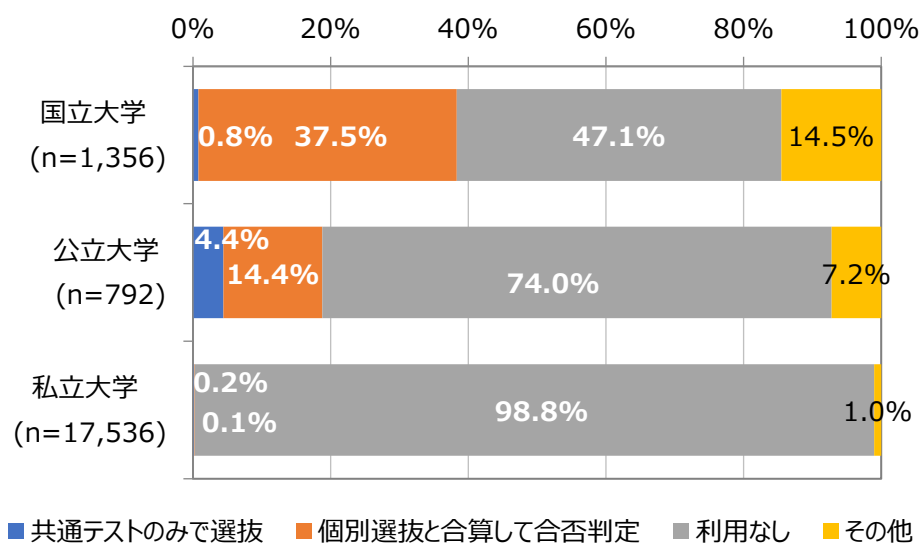
※その他の内容の主な例：一定の得点以上を2次試験受験資格として設定

図表 4-2 共通テストの利用状況（国公私・総合型選抜・n=14,226）



※その他の内容の主な例：一定の得点以上を2次試験受験資格として設定

図表 4-3 共通テストの利用状況（国公私・学校推薦型選抜・n=19,684）

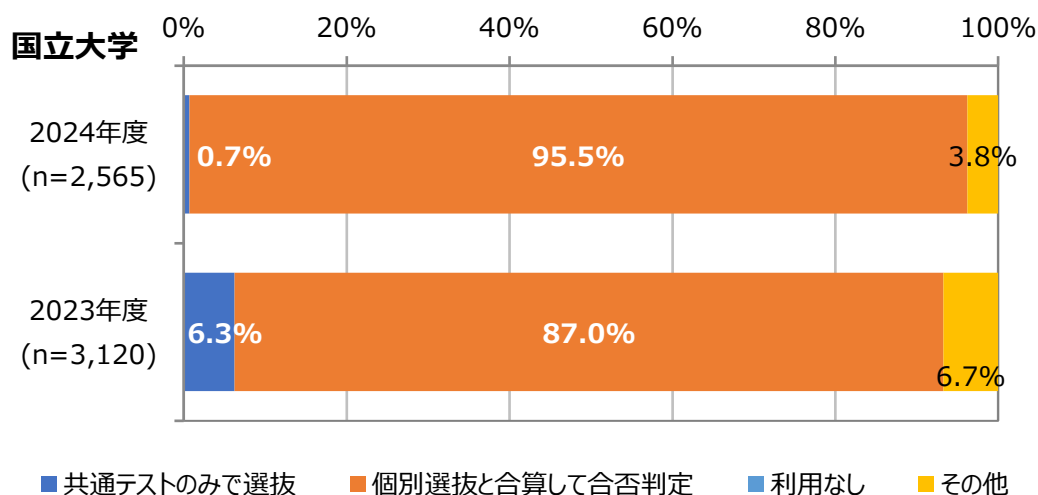


※その他の内容の主な例：一定の得点以上を2次試験受験資格として設定

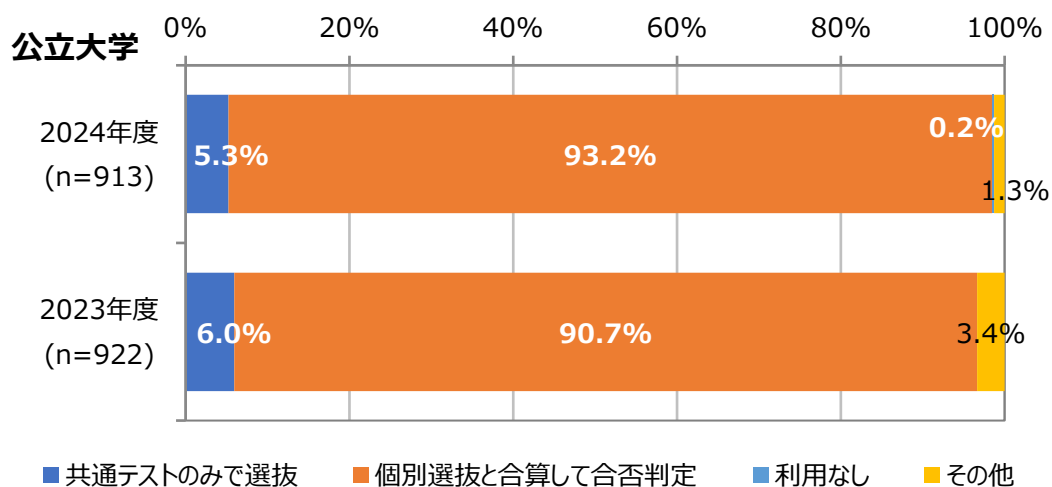
【前回調査との比較】

一般選抜における共通テストを利用して合否判定する選抜区分を前回調査と比較すると、国立大学、公立大学ともに増加している。国立大学では、「共通テストのみで選抜」で、前回より 5.6 ポイント減少、「個別選抜と合算して合否判定」は 8.5 ポイント増加している。

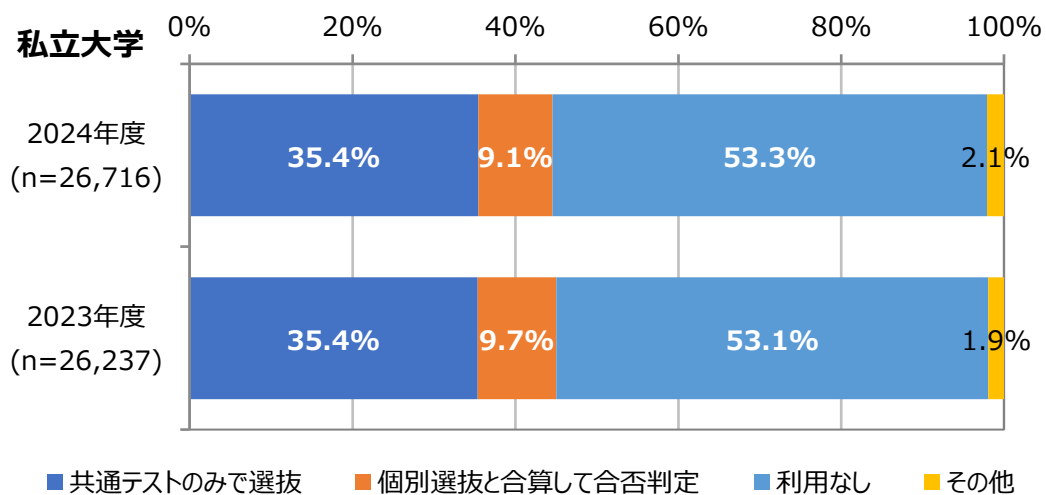
図表 4-4 【前回調査との比較】共通テストの利用状況（一般選抜・国立大学）



図表 4-5 【前回調査との比較】共通テストの利用状況
(一般選抜・公立大学)



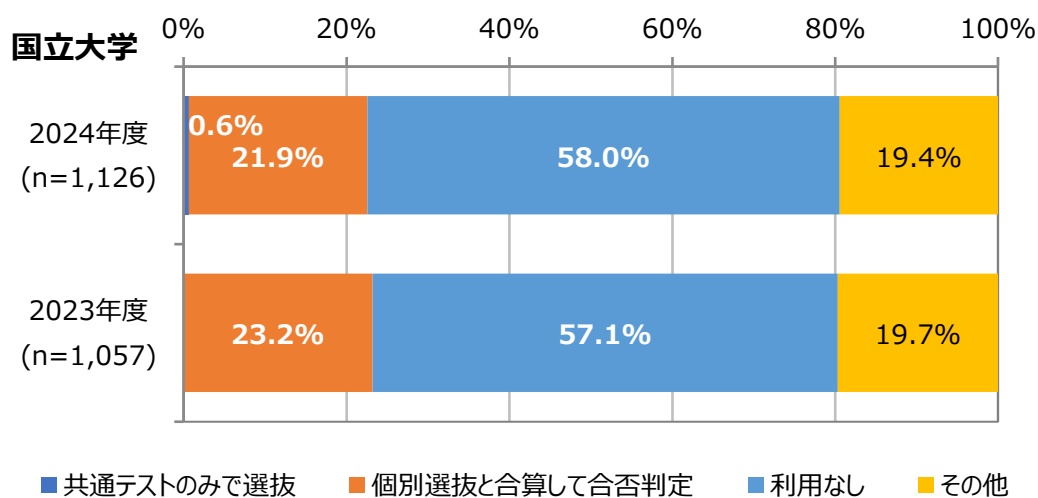
図表 4-6 【前回調査との比較】共通テストの利用状況
(一般選抜・私立大学)



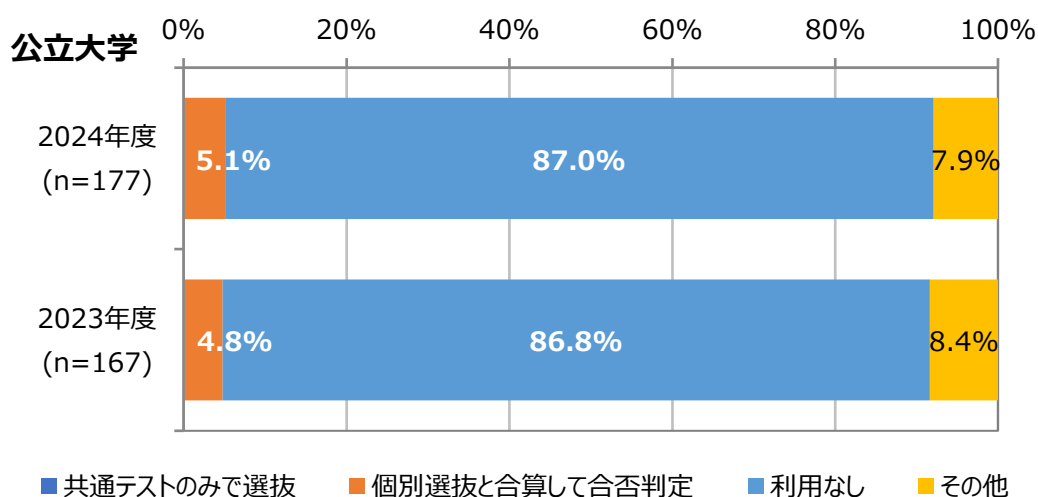
【前回調査との比較】

総合型選抜における共通テストを利用して合否判定する選抜区分を前回調査と比較すると、国立大学で減少、公立大学で増加している。

図表 4-7 【前回調査との比較】共通テストの利用状況
(総合型選抜・国立大学)



図表 4-8 【前回調査との比較】共通テストの利用状況
(総合型選抜・公立大学)

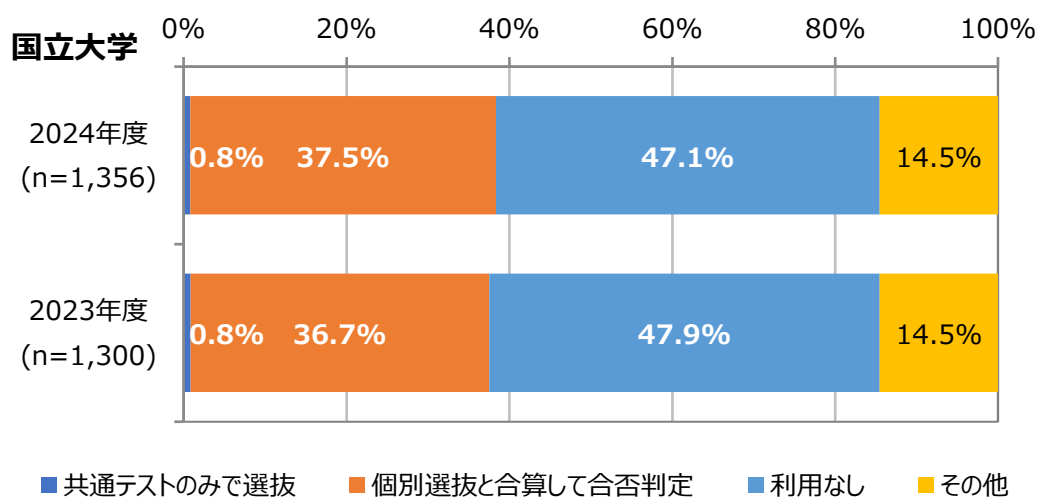


※私立大学は共通テストの利用率が低いため、省略。

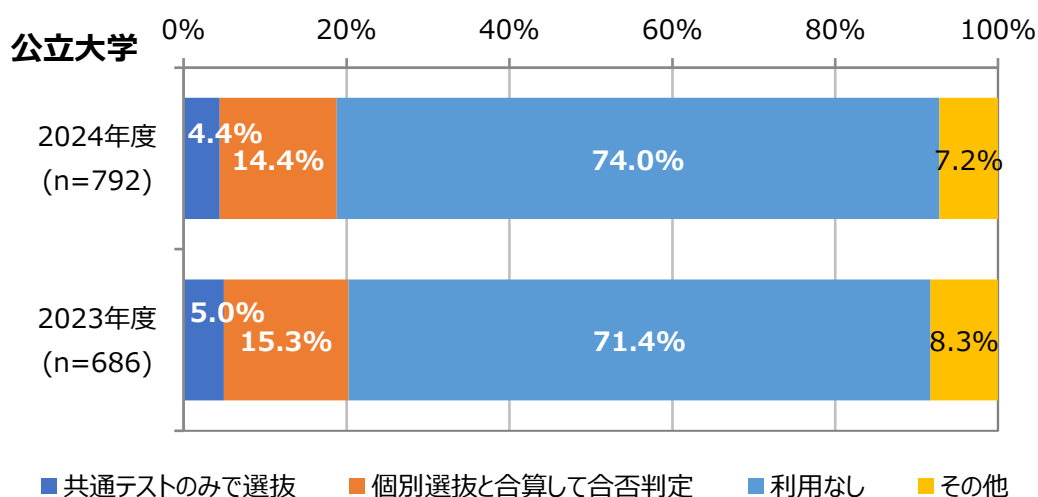
【前回調査との比較】

学校推薦型選抜における共通テストを利用して合否判定する選抜区分を前回調査と比較すると、国立大学で増加、公立大学で減少している。

図表 4-9 【前回調査との比較】共通テストの利用状況
(学校推薦型選抜・国立大学)

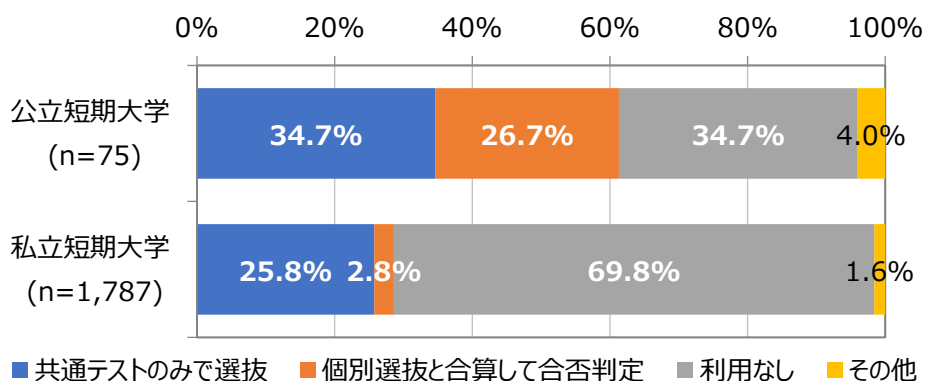


図表 4-10 【前回調査との比較】共通テストの利用状況
(学校推薦型選抜・公立大学)



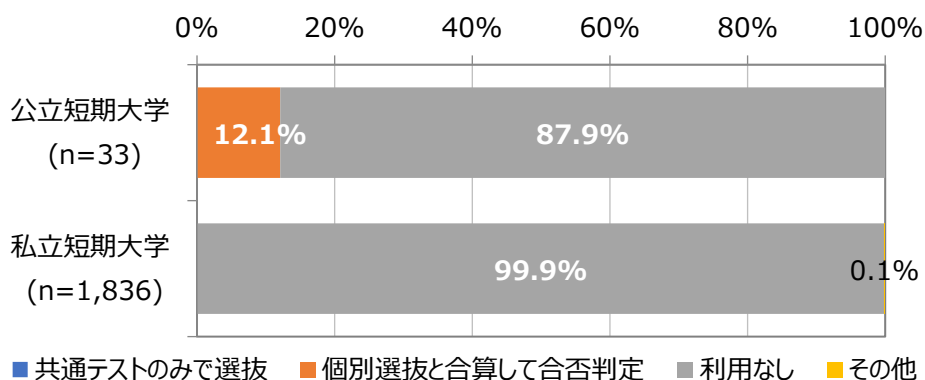
※私立大学は共通テストの利用率が低いため、省略。

図表 4-11 共通テストの利用状況（公私短大・一般選抜・n = 1,862）



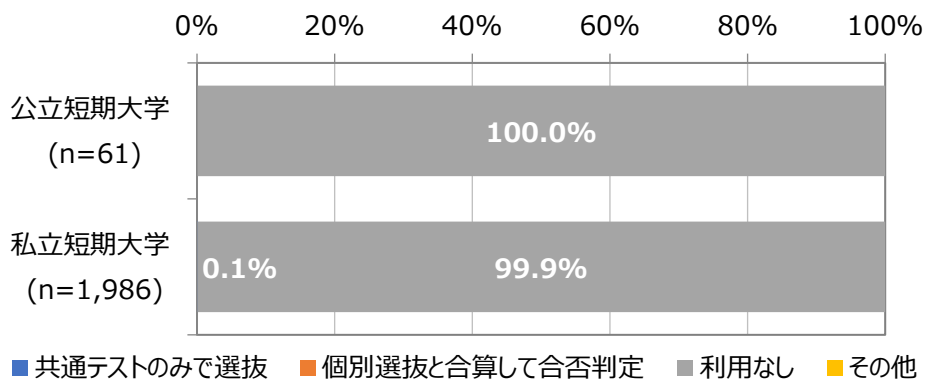
※その他の内容の主な例：一定の得点以上を２次試験受験資格として設定

図表 4-12 共通テストの利用状況（公私短大・総合型選抜・n = 1,869）



※その他の内容の主な例：一定の得点以上を２次試験受験資格として設定

図表 4-13 共通テストの利用状況（公私短大・学校推薦型選抜・n = 2,047）



※その他の内容の主な例：一定の得点以上を２次試験受験資格として設定

4-2 合否判定に利用する共通テストの科目数

共通テストを利用して合否判定する場合、一般選抜においては、国立大学では7科目の利用、公立大学では7・4科目の利用、私立大学では3・2科目の利用が多い。

図表 4-14 合否判定に利用する共通テストの科目数（大学・n = 17,657）

入試方法	国公私	1科目	2科目	3科目	4科目	5科目	6科目	7科目	8科目	9科目	無回答	平均科目数
一般選抜	国立大学 (n=2,565選抜区分)	0.04%	0.5%	1.4%	2.1%	2.7%	6.0%	59.2%	28.1%	-	-	7.0
	公立大学 (n=911選抜区分)	0.3%	2.5%	16.0%	17.9%	15.6%	16.5%	23.4%	7.8%	-	-	5.3
	私立大学 (n=12,464選抜区分)	9.0%	35.8%	36.1%	9.0%	7.5%	1.2%	1.3%	-	0.1%	-	2.8
総合型 選抜	国立大学 (n=473選抜区分)	-	2.1%	11.2%	8.9%	12.5%	6.3%	45.0%	14.0%	-	-	6.0
	公立大学 (n=23選抜区分)	-	-	4.3%	21.7%	-	4.3%	69.6%	-	-	-	6.1
	私立大学 (n=81選抜区分)	38.3%	22.2%	32.1%	4.9%	1.2%	1.2%	-	-	-	-	2.1
学校 推薦型 選抜	国立大学 (n=717選抜区分)	0.3%	1.0%	5.4%	7.0%	4.6%	12.0%	43.9%	25.8%	-	-	6.6
	公立大学 (n=206選抜区分)	-	1.0%	17.5%	13.1%	11.7%	10.2%	42.7%	3.9%	-	-	5.6
	私立大学 (n=217選抜区分)	-	10.1%	11.1%	2.8%	0.5%	63.6%	0.5%	-	-	11.5%	5.1

※ n は、共通テストを利用する選抜区分のうち、合否判定に利用する共通テストの科目数が1～9の選抜区分を集計

図表 4-15 合否判定に利用する共通テストの科目数（短期大学・n = 595）

入試方法	公私短大	1科目	2科目	3科目	4科目	5科目	6科目	7科目	8科目	9科目	無回答	平均科目数
一般選抜	公立短期大学 (n=49選抜区分)	2.0%	49.0%	44.9%	-	4.1%	-	-	-	-	-	2.6
	私立短期大学 (n=539選抜区分)	38.2%	53.8%	6.5%	0.7%	0.4%	0.4%	-	-	-	-	1.7
総合型 選抜	公立短期大学 (n=4選抜区分)	100.0%	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1.0
	私立短期大学 (n=2選抜区分)	100.0%	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1.0
学校 推薦型 選抜	公立短期大学 (n=0選抜区分)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	私立短期大学 (n=1選抜区分)	-	-	100.0%	-	-	-	-	-	-	-	3.0

※ n は、共通テストを利用する選抜区分のうち、合否判定に利用する共通テストの科目数が1～9の選抜区分を集計

【前回調査との比較】

合否判定に利用する共通テストの科目数を前回調査と比較すると、一般選抜においては国公私立大学とも同様の傾向となっている。

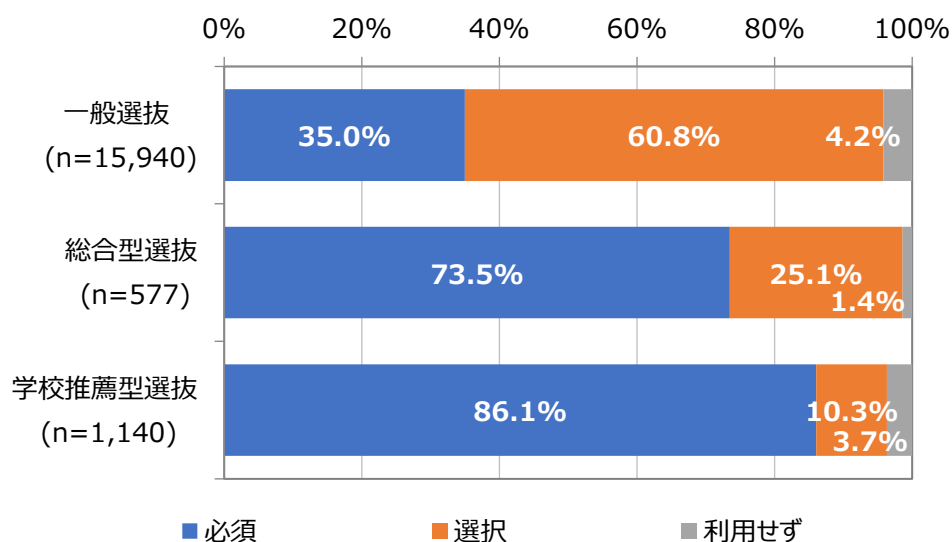
図表 4-16 【前回調査との比較】合否判定に利用する共通テストの科目数

入試方法 国公立			1科目	2科目	3科目	4科目	5科目	6科目	7科目	8科目	9科目	無回答	平均科目数
一般選抜	国立大学	2024年度 (n=2,565選抜区分)	0.04%	0.5%	1.4%	2.1%	2.7%	6.0%	59.2%	28.1%	-	-	7.0
		2023年度 (n=3,120選抜区分)	0.03%	0.4%	1.6%	2.1%	3.0%	6.7%	58.7%	27.4%	-	-	7.0
	公立大学	2024年度 (n=911選抜区分)	0.3%	2.5%	16.0%	17.9%	15.6%	16.5%	23.4%	7.8%	-	-	5.3
		2023年度 (n=922選抜区分)	0.3%	2.6%	15.5%	17.8%	14.6%	17.7%	23.0%	8.5%	-	-	5.3
	私立大学	2024年度 (n=12,464選抜区分)	9.0%	35.8%	36.1%	9.0%	7.5%	1.2%	1.3%	-	0.1%	-	2.8
		2023年度 (n=12,316選抜区分)	9.6%	36.5%	36.0%	8.3%	7.0%	1.2%	1.1%	-	0.3%	-	2.8
総合型選抜	国立大学	2024年度 (n=473選抜区分)	-	2.1%	11.2%	8.9%	12.5%	6.3%	45.0%	14.0%	-	-	6.0
		2023年度 (n=453選抜区分)	-	1.1%	10.4%	8.2%	11.7%	5.1%	45.3%	18.3%	-	-	6.2
	公立大学	2024年度 (n=23選抜区分)	-	-	4.3%	21.7%	-	4.3%	69.6%	-	-	-	6.1
		2023年度 (n=22選抜区分)	4.5%	-	4.5%	22.7%	-	31.8%	36.4%	-	-	-	5.5
	私立大学	2024年度 (n=81選抜区分)	38.3%	22.2%	32.1%	4.9%	1.2%	1.2%	-	-	-	-	2.1
		2023年度 (n=68選抜区分)	14.7%	16.2%	60.3%	5.9%	-	1.5%	1.5%	-	-	-	2.7
学校推薦型選抜	国立大学	2024年度 (n=717選抜区分)	0.3%	1.0%	5.4%	7.0%	4.6%	12.0%	43.9%	25.8%	-	-	6.6
		2023年度 (n=677選抜区分)	0.6%	0.9%	5.6%	6.2%	5.6%	11.4%	43.7%	26.0%	-	-	6.5
	公立大学	2024年度 (n=206選抜区分)	-	1.0%	17.5%	13.1%	11.7%	10.2%	42.7%	3.9%	-	-	5.6
		2023年度 (n=196選抜区分)	-	1.0%	17.9%	15.3%	9.7%	14.8%	37.2%	4.1%	-	-	5.5
	私立大学	2024年度 (n=217選抜区分)	-	10.1%	11.1%	2.8%	0.5%	63.6%	0.5%	-	-	11.5%	5.1
		2023年度 (n=118選抜区分)	-	12.7%	22.9%	3.4%	38.1%	1.7%	0.8%	-	-	20.3%	3.9

4-3 共通テストの数学の利用

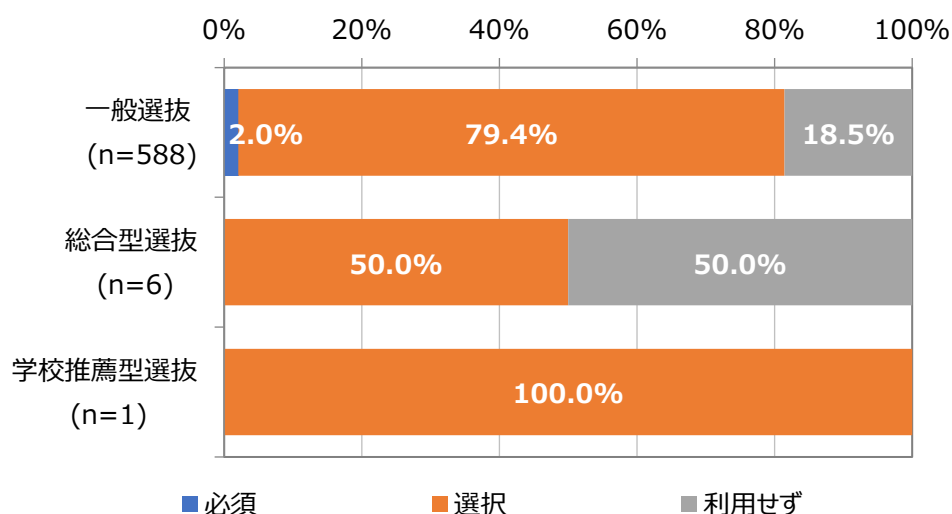
共通テストを利用する選抜区分のうち数学の利用状況は、大学全体で、一般選抜では「必須科目としている」が35.0%、「選択科目としている」が60.8%である。

図表 4-17 共通テストの数学の利用（大学全体・n = 17,657）



※ n は、共通テストを利用する選抜区分数

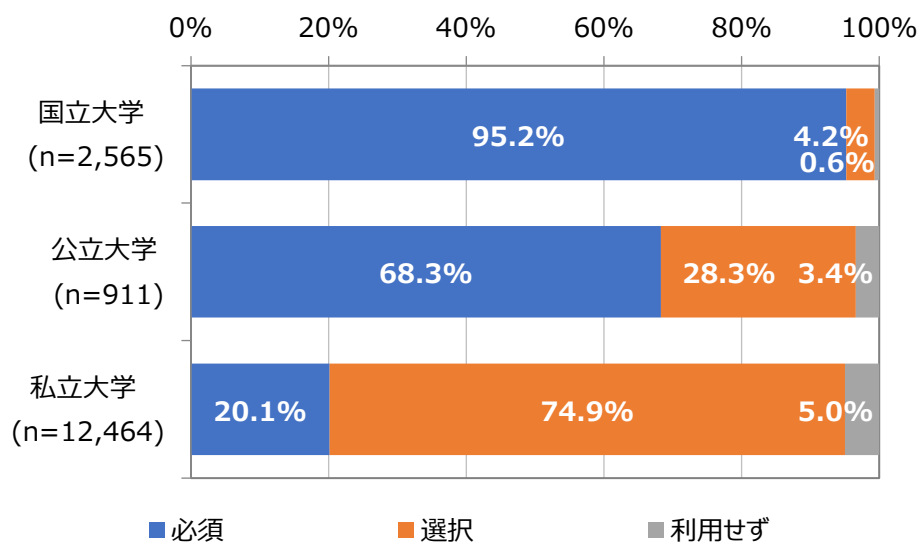
図表 4-18 共通テストの数学の利用（短期大学全体・n = 595）



※ n は、共通テストを利用する選抜区分数

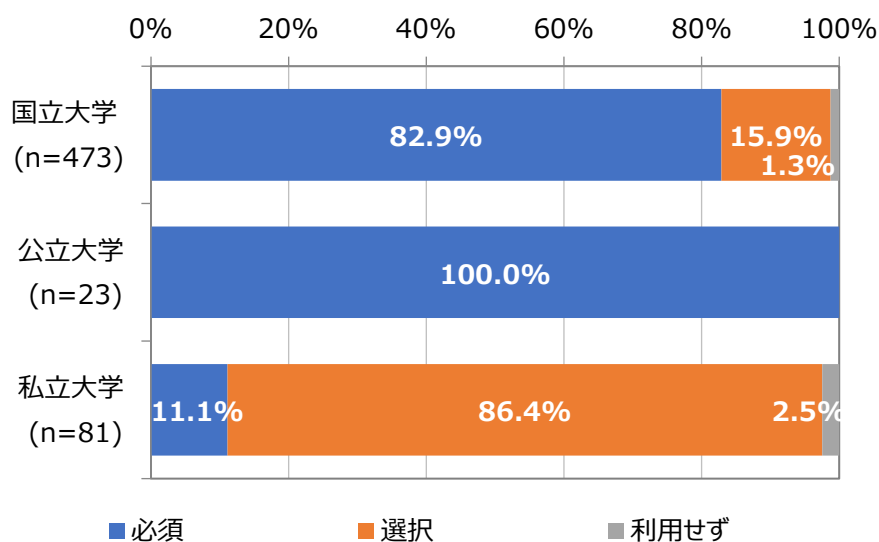
4-4 共通テストの数学の利用（国公私）

図表 4-19 共通テストの数学の利用（国公私・一般選抜・n = 15,940）



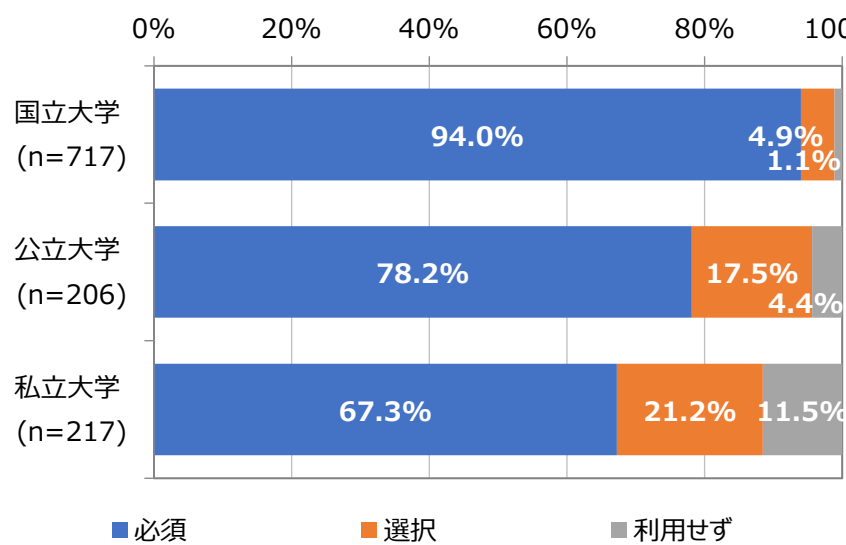
※nは、共通テストを利用する選抜区分数

図表 4-20 共通テストの数学の利用（国公私・総合型選抜・n = 577）



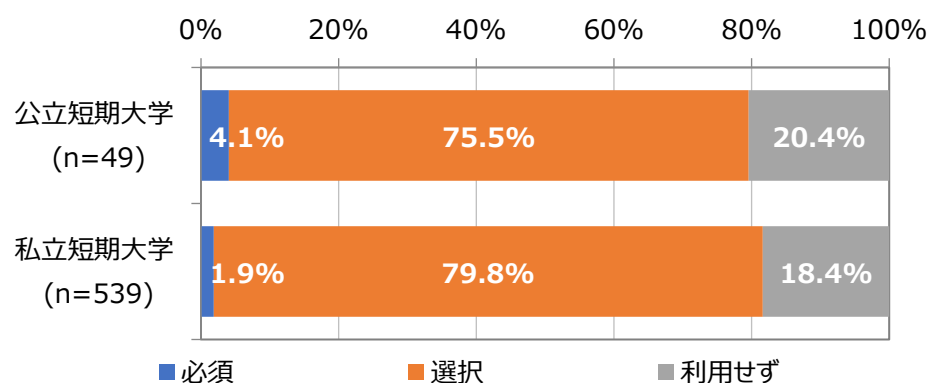
※nは、共通テストを利用する選抜区分数

図表 4-21 共通テストの数学の利用（国公私・学校推薦型選抜・n = 1,140）



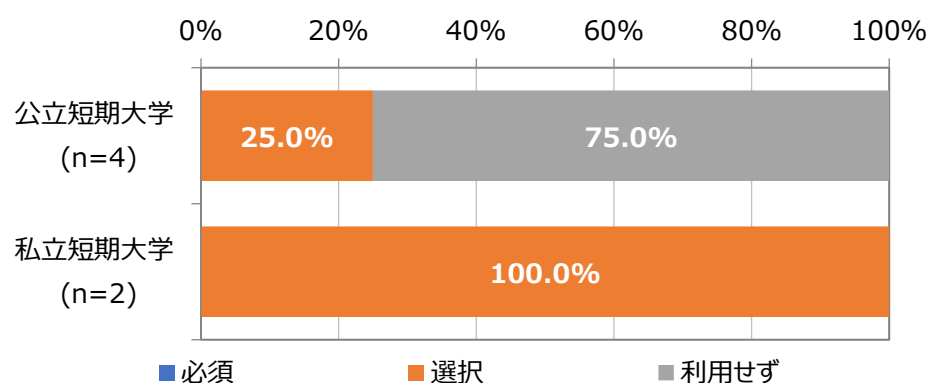
※nは、共通テストを利用する選抜区分数

図表 4-22 共通テストの数学の利用（公私短大・一般選抜・n = 588）



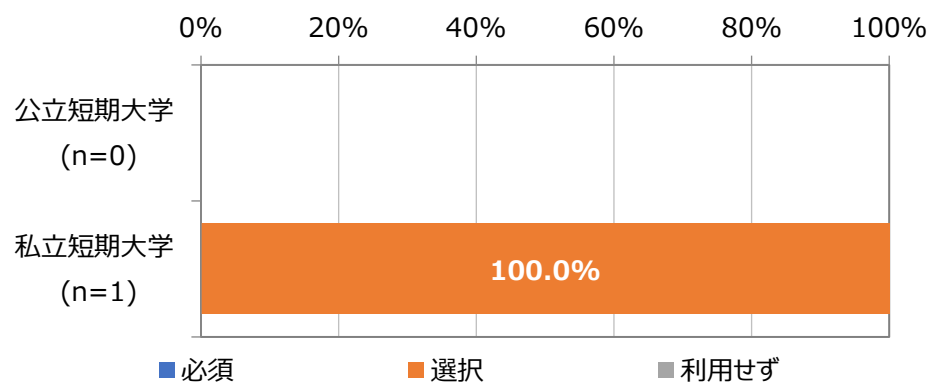
※ n は、共通テストを利用する選抜区分数

図表 4-23 共通テストの数学の利用（公私短大・総合型選抜・n = 6）



※ n は、共通テストを利用する選抜区分数

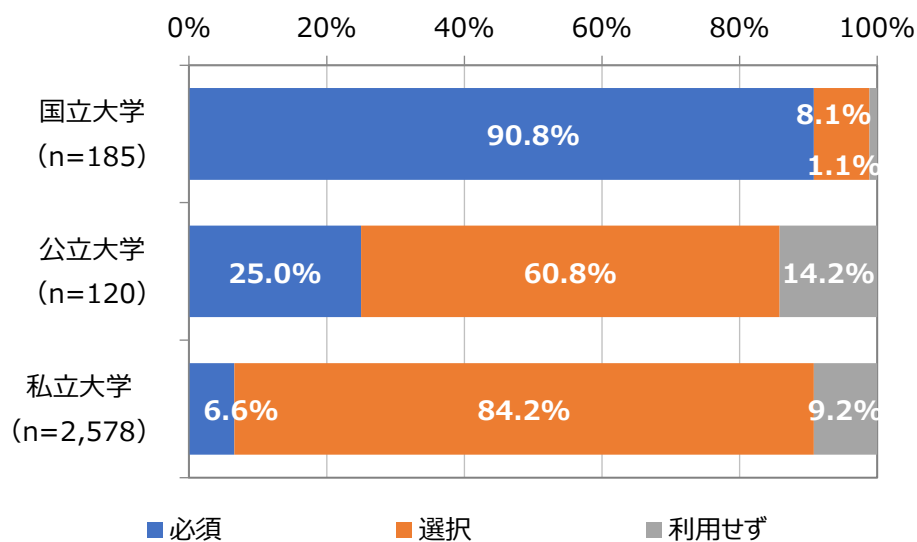
図表 4-24 共通テストの数学の利用（公私短大・学校推薦型選抜・n = 1）



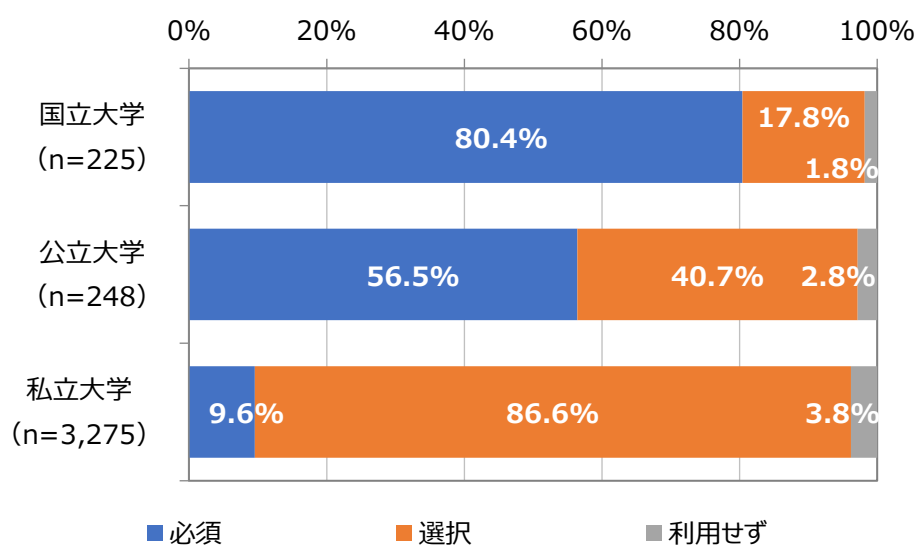
※ n は、共通テストを利用する選抜区分数

4-5 共通テストの数学の利用（学科系統分類 ※人文科学、社会科学のみ）

図表 4-25 共通テストの数学の利用（国公私・人文科学・n = 2,883）

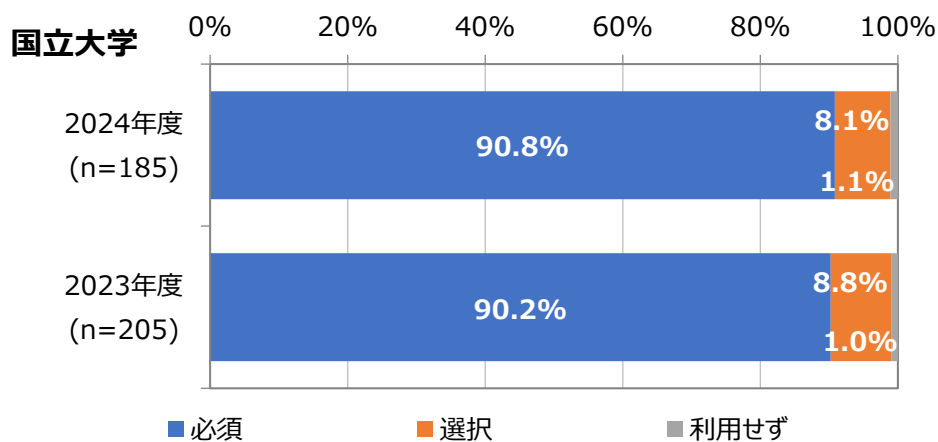


図表 4-26 共通テストの数学の利用（国公私・社会科学・n = 3,748）

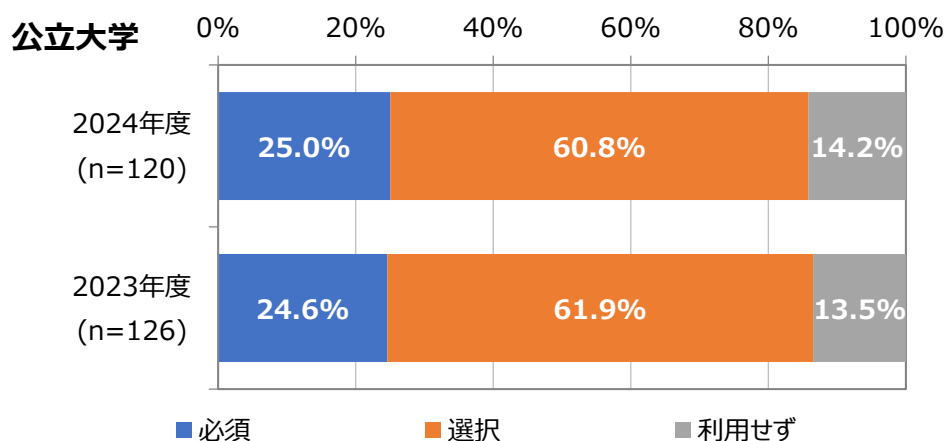


【前回調査との比較】

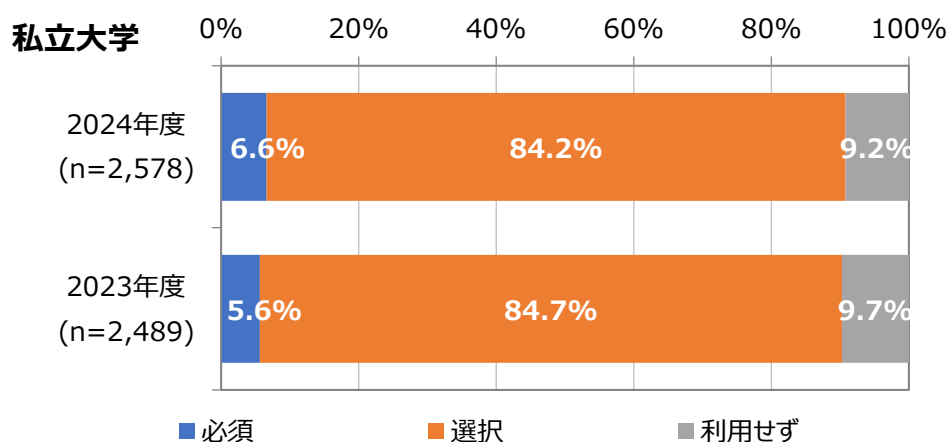
図表 4-27 【前回調査との比較】共通テストの数学の利用（国立大学・人文科学）



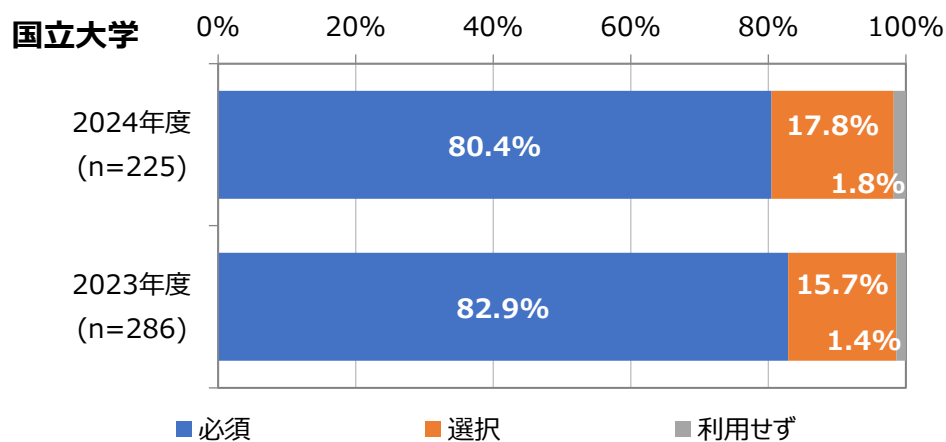
図表 4-28 【前回調査との比較】共通テストの数学の利用（公立大学・人文科学）



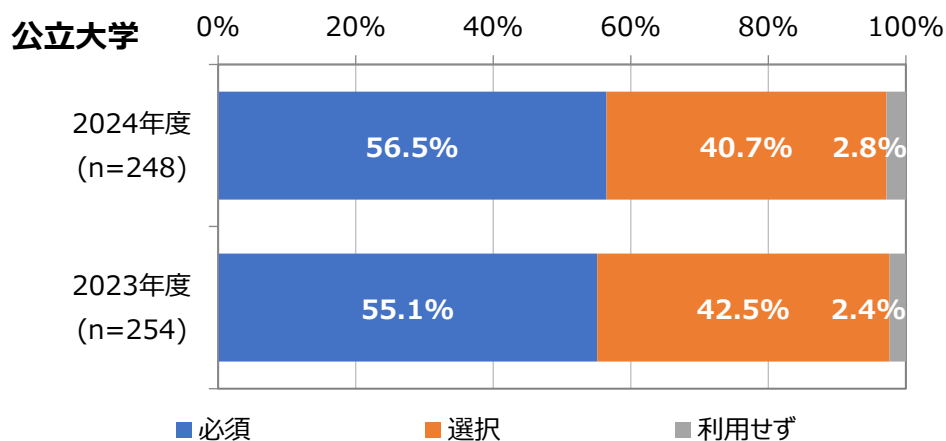
図表 4-29 【前回調査との比較】共通テストの数学の利用（私立大学・人文科学）



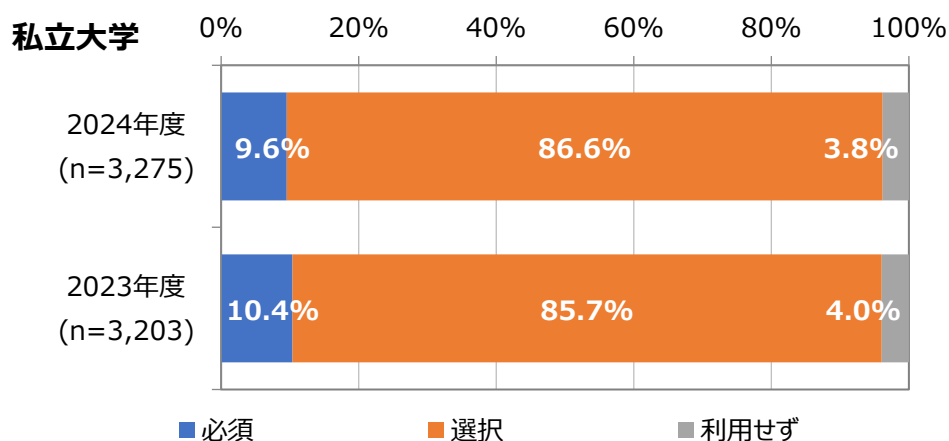
図表 4-30 【前回調査との比較】共通テストの数学の利用（国立大学・社会科学）



図表 4-31 【前回調査との比較】共通テストの数学の利用（公立大学・社会科学）



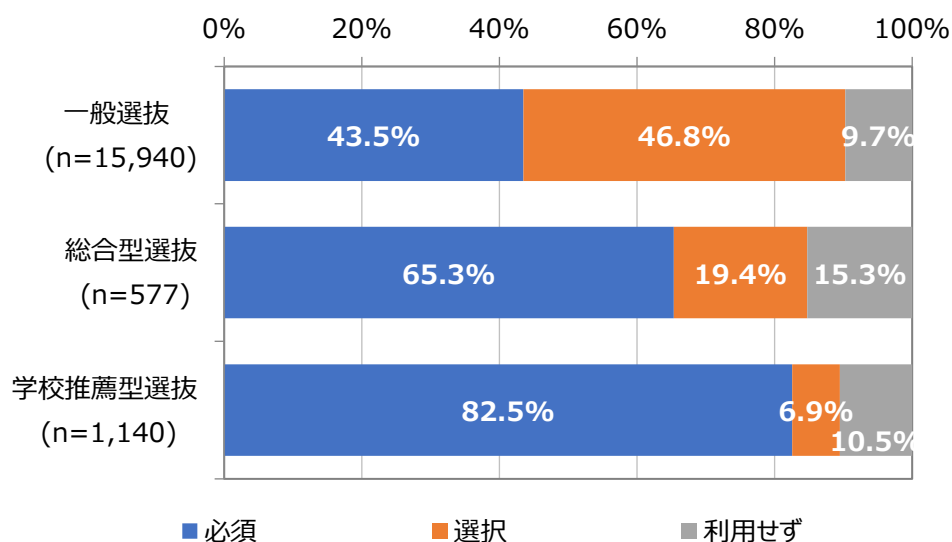
図表 4-32 【前回調査との比較】共通テストの数学の利用（私立大学・社会科学）



4-6 共通テストの国語の利用

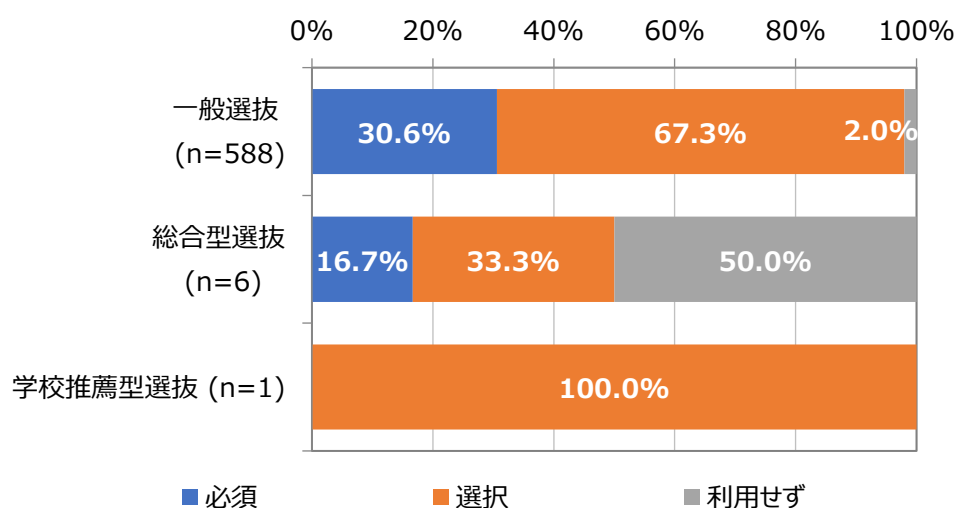
共通テストを利用する選抜区分のうち国語の利用状況は、大学全体で、一般選抜では「必須科目としている」が43.5%、「選択科目としている」が46.8%である。

図表 4-33 共通テストの国語の利用（大学・n = 17,657）



※nは、共通テストを利用する選抜区分数

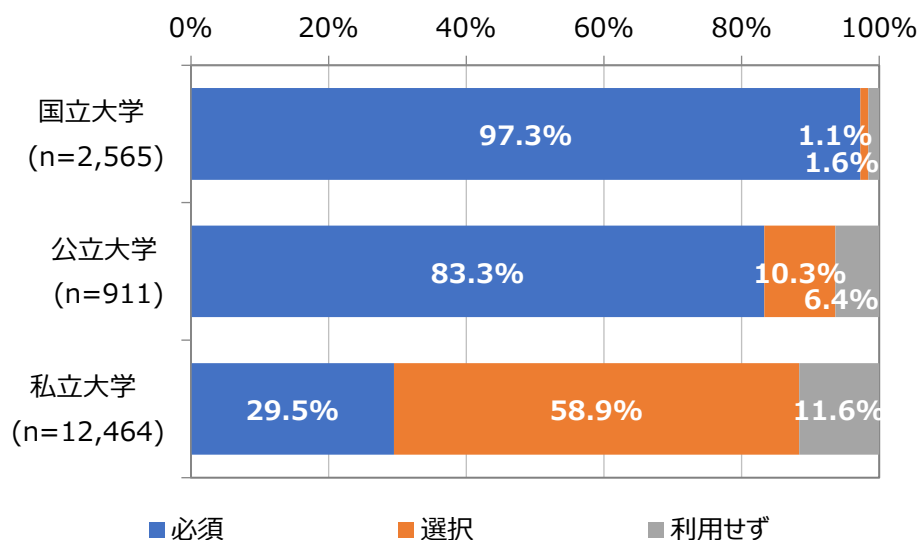
図表 4-34 共通テストの国語の利用（短期大学・n = 595）



※nは、共通テストを利用する選抜区分数

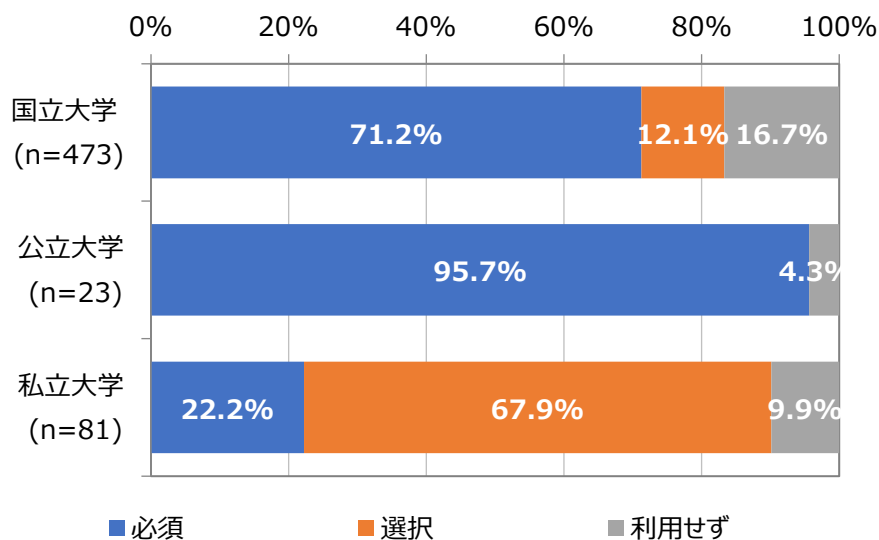
4-7 共通テストの国語の利用（国公私）

図表 4-35 共通テストの国語の利用（国公私・一般選抜・n = 15,940）



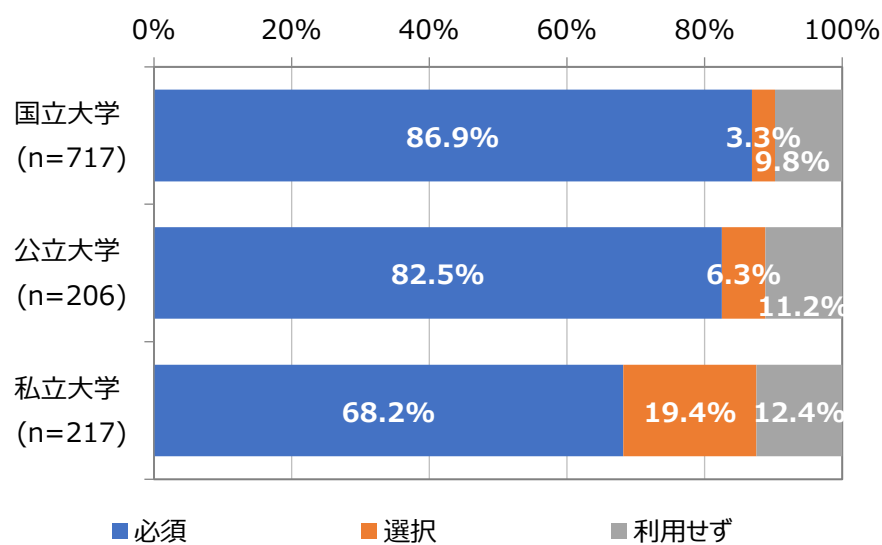
※nは、共通テストを利用する選抜区分数

図表 4-36 共通テストの国語の利用（国公私・総合型選抜・n = 577）



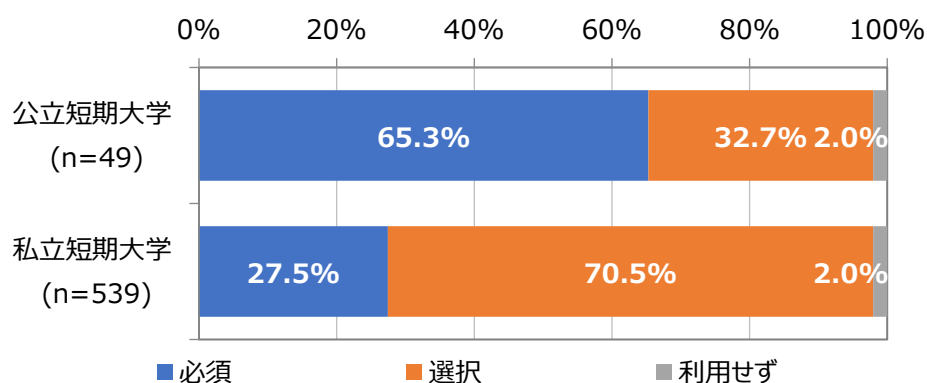
※nは、共通テストを利用する選抜区分数

図表 4-37 共通テストの国語の利用（国公私・学校推薦型選抜・n=1,140）



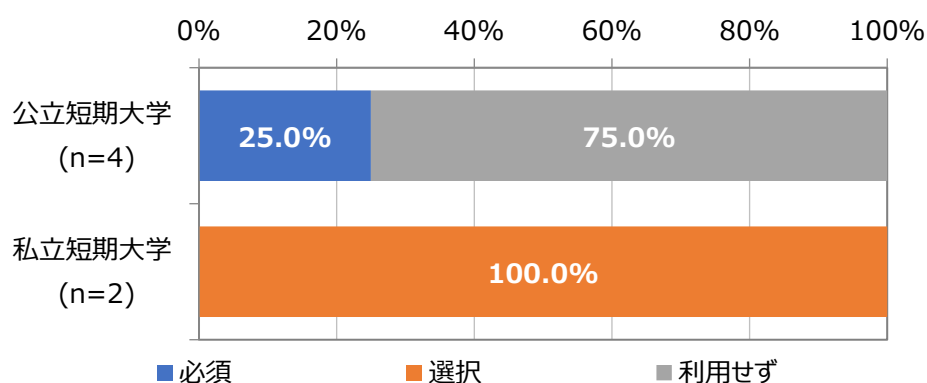
※nは、共通テストを利用する選抜区分数

図表 4-38 共通テストの国語の利用（公私短大・一般選抜・n = 588）



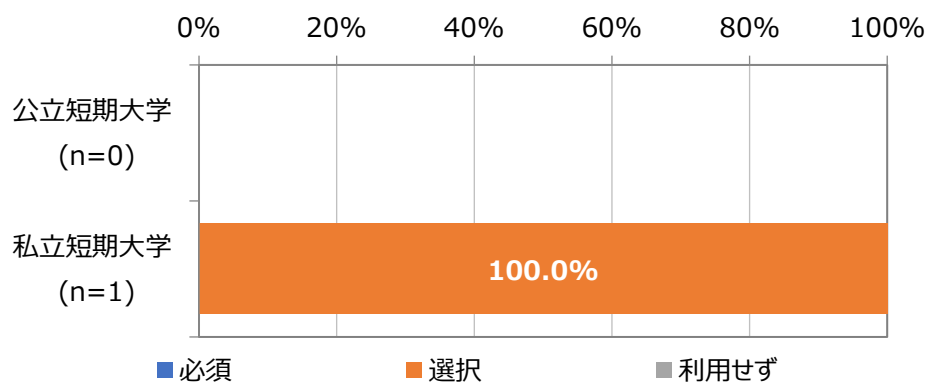
※nは、共通テストを利用する選抜区分数

図表 4-39 共通テストの国語の利用（公私短大・総合型選抜・n = 6）



※nは、共通テストを利用する選抜区分数

図表 4-40 共通テストの国語の利用（公私短大・学校推薦型選抜・n = 1）

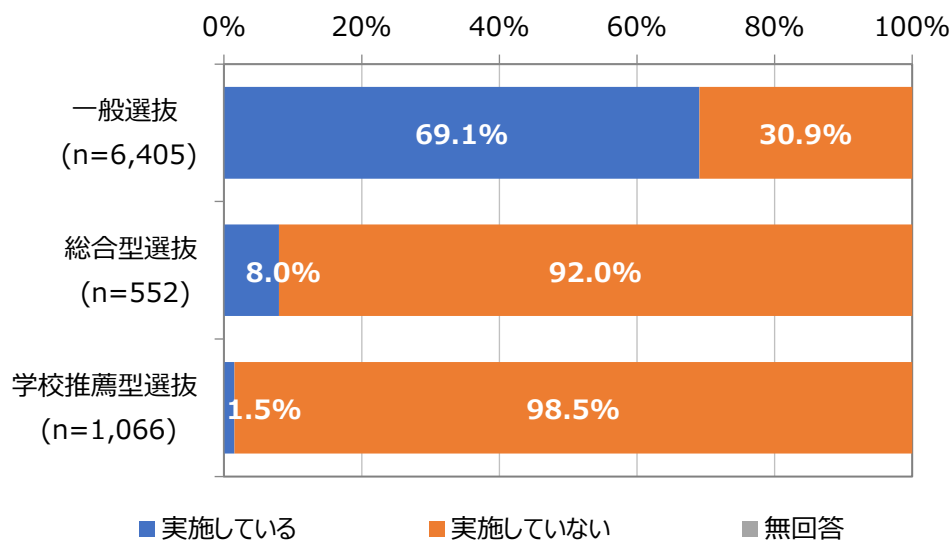


第5章 個別選抜の実態

5-1 個別学力検査実施の有無（共通テストの利用あり）

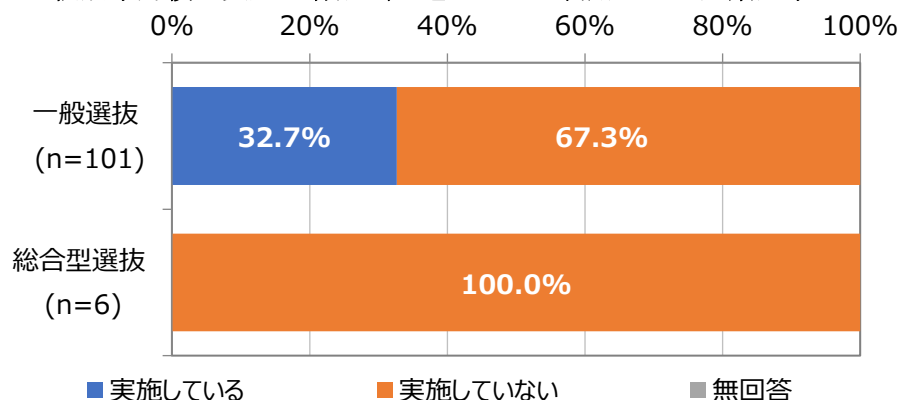
共通テストを利用していると回答した選抜区分のうち、更に、個別学力検査を実施しているのは、大学全体では、一般選抜が 69.1%、総合型選抜が 8.0%、学校推薦型選抜が 1.5%である。

図表 5-1 個別学力検査実施の有無（共通テストの利用あり・大学・n = 8,023）



※ n は、共通テストのみで選抜を実施する選抜区分を含まない

図表 5-2 個別学力検査実施の有無（共通テストの利用あり・短期大学・n = 107）



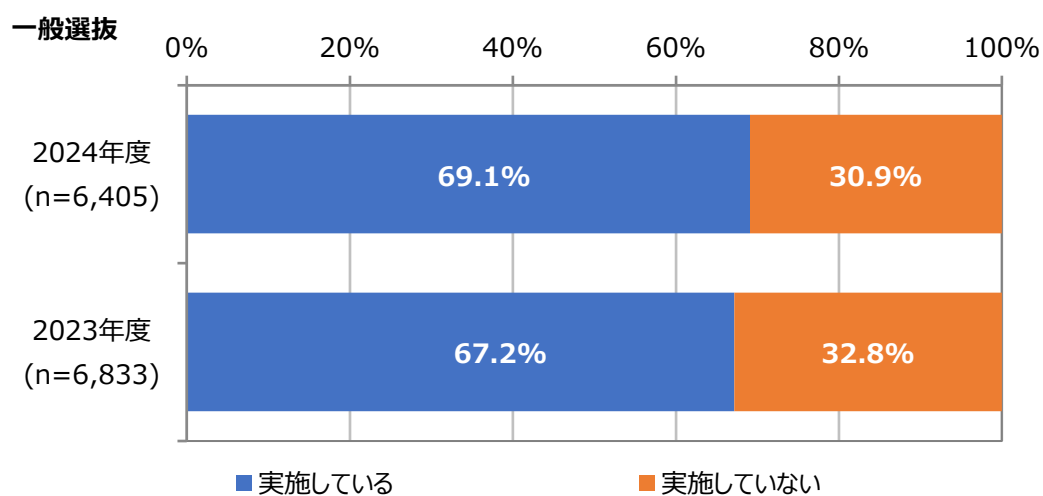
※ n は、共通テストのみで選抜を実施する選抜区分を含まない

※短期大学は、共通テストの利用がある学校推薦型選抜において個別学力検査を実施する選抜区分はなし

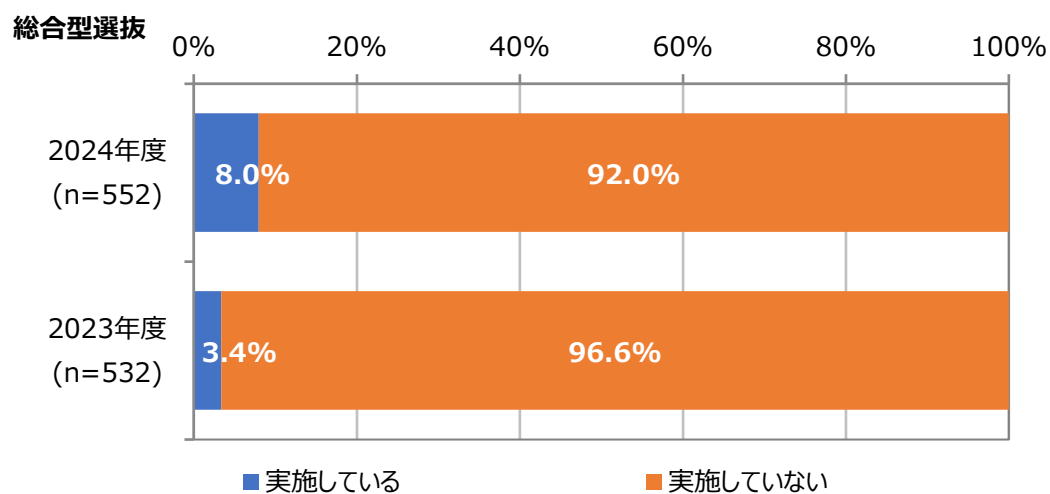
【前回調査との比較】

共通テストを利用する場合の個別学力検査実施の有無について前回調査と比較すると、総合型選抜において、「実施している」と回答した割合が約5ポイント増加している。

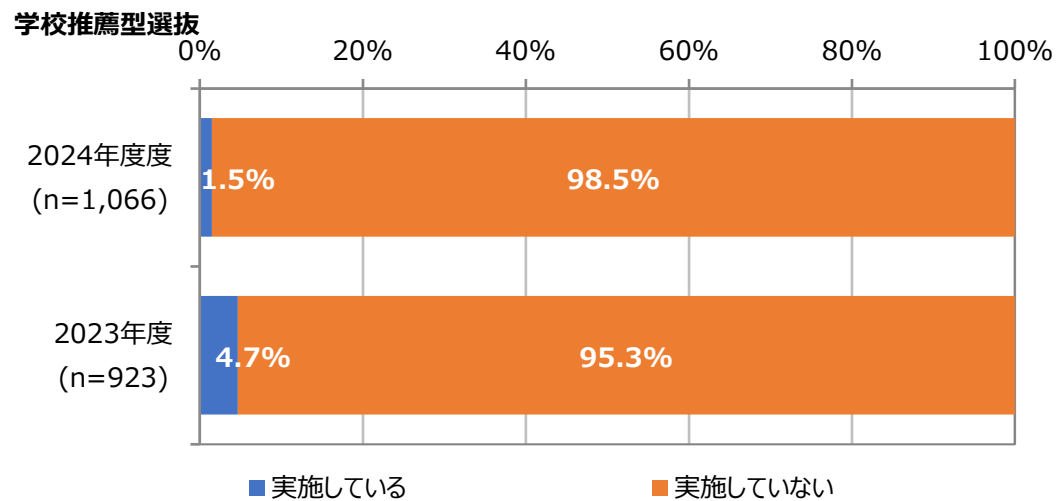
図表 5-3 【前回調査との比較】個別学力検査実施の有無
(共通テストの利用あり・一般選抜)



図表 5-4 【前回調査との比較】個別学力検査実施の有無
(共通テストの利用あり・総合型選抜)



図表 5-5 【前回調査との比較】個別学力検査実施の有無
(共通テストの利用あり・学校推薦型選抜)



5-2 合否判定に利用する個別学力検査の科目数（共通テストの利用あり）

共通テストを利用し、かつ個別学力検査を課す場合、合否判定に利用する個別学力検査の科目数は、一般選抜において、国立大学では2・1・3・4科目、公立大学では1・2科目、私立大学では1・2科目が多い。

図表 5-6 合否判定に利用する個別学力検査の科目数

（共通テストの利用あり・大学・n = 4,484）

入試方法	国公私	1科目	2科目	3科目	4科目	5科目	6科目	7科目	8科目	9科目	無回答	平均科目数
一般選抜	国立大学 (n=1,756選抜区分)	28.2%	32.2%	19.8%	18.2%	1.6%	-	-	-	-	-	2.3
	公立大学 (n=478選抜区分)	41.8%	38.5%	9.0%	9.6%	-	-	0.2%	0.8%	-	-	1.9
	私立大学 (n=2,190選抜区分)	45.5%	36.3%	16.4%	1.7%	0.1%	-	-	-	-	-	1.7
総合型 選抜	国立大学 (n=18選抜区分)	94.4%	5.6%	-	-	-	-	-	-	-	-	1.1
	公立大学 (n=6選抜区分)	-	-	100.0%	-	-	-	-	-	-	-	3.0
	私立大学 (n=20選抜区分)	100.0%	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1.0
学校 推薦型 選抜	国立大学 (n=3選抜区分)	100.0%	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1.0
	公立大学 (n=13選抜区分)	38.5%	-	61.5%	-	-	-	-	-	-	-	2.2
	私立大学 (n=0選抜区分)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

※ n は、共通テストを利用し、かつ個別学力検査を課す選抜区分のうち、合否判定に利用する個別学力検査の科目数が1～9の選抜区分

図表 5-7 合否判定に利用する個別学力検査の科目数

（共通テストの利用あり・短期大学・n = 33）

入試方法	公私短大	1科目	2科目	3科目	4科目	5科目	6科目	7科目	8科目	9科目	無回答	平均科目数
一般選抜	公立短期大学 (n=4選抜区分)	50.0%	50.0%	-	-	-	-	-	-	-	-	1.5
	私立短期大学 (n=29選抜区分)	44.8%	55.2%	-	-	-	-	-	-	-	-	1.6
総合型 選抜	公立短期大学 (n=0選抜区分)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	私立短期大学 (n=0選抜区分)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
学校 推薦型 選抜	公立短期大学 (n=0選抜区分)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	私立短期大学 (n=0選抜区分)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

※ n は、共通テストを利用し、かつ個別学力検査を課す選抜区分のうち、合否判定に利用する個別学力検査の科目数が1～9の選抜区分

【前回調査との比較】

共通テストを利用し個別学力検査を課す場合の合否判定に利用する個別学力検査の科目数について前回調査と比較すると、一般選抜においては国公立大学とも同様の傾向となっている。

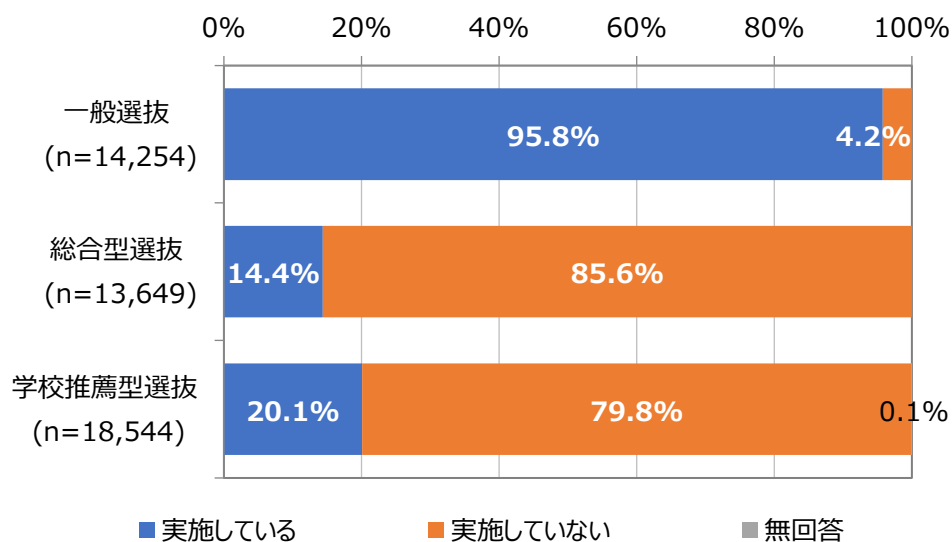
図表 5-8 【前回調査との比較】合否判定に利用する個別学力検査の科目数
(共通テストの利用あり)

入試方法 国公私			1科目	2科目	3科目	4科目	5科目	6科目	7科目	8科目	9科目	無回答	平均科目数
一般選抜	国立大学	2024年度 (n=1,756選抜区分)	28.2%	32.2%	19.8%	18.2%	1.6%	-	-	-	-	-	2.3
		2023年度 (n=1,795選抜区分)	27.8%	33.3%	18.1%	19.3%	1.6%	-	-	-	-	-	2.3
	公立大学	2024年度 (n=478選抜区分)	41.8%	38.5%	9.0%	9.6%	-	-	0.2%	0.8%	-	-	1.9
		2023年度 (n=488選抜区分)	43.2%	37.5%	9.8%	8.4%	-	-	1.0%	-	-	-	1.9
	私立大学	2024年度 (n=2,190選抜区分)	45.5%	36.3%	16.4%	1.7%	0.1%	-	-	-	-	-	1.7
		2023年度 (n=2,307選抜区分)	48.0%	38.9%	12.8%	0.1%	-	-	0.1%	-	-	-	1.7
総合型選抜	国立大学	2024年度 (n=18選抜区分)	94.4%	5.6%	-	-	-	-	-	-	-	-	1.1
		2023年度 (n=14選抜区分)	92.9%	7.1%	-	-	-	-	-	-	-	-	1.1
	公立大学	2024年度 (n=6選抜区分)	-	-	100.0%	-	-	-	-	-	-	-	3.0
		2023年度 (n=1選抜区分)	-	100.0%	-	-	-	-	-	-	-	-	2.0
	私立大学	2024年度 (n=20選抜区分)	100.0%	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1.0
		2023年度 (n=3選抜区分)	100.0%	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
学校推薦型選抜	国立大学	2024年度 (n=3選抜区分)	100.0%	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1.0
		2023年度 (n=3選抜区分)	100.0%	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1.0
	公立大学	2024年度 (n=13選抜区分)	38.5%	-	61.5%	-	-	-	-	-	-	-	2.2
		2023年度 (n=28選抜区分)	82.1%	10.7%	7.1%	-	-	-	-	-	-	-	1.3
	私立大学	2024年度 (n=0選抜区分)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
		2023年度 (n=12選抜区分)	-	100.0%	-	-	-	-	-	-	-	-	2.0

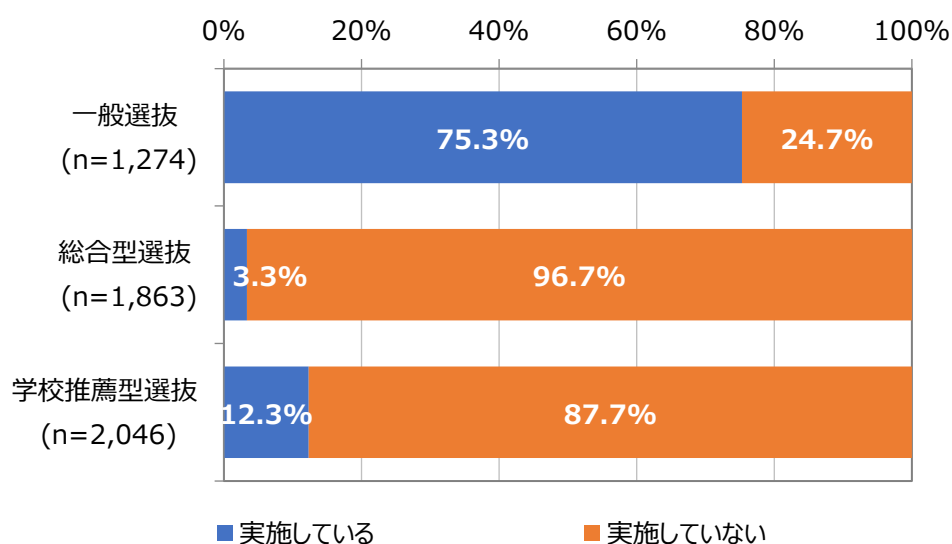
5-3 個別学力検査実施の有無（共通テストの利用なし）

共通テストを利用していないと回答した選抜区分のうち、個別学力検査を実施しているのは、大学全体で、一般選抜が 95.8%、総合型選抜が 14.4%、学校推薦型選抜が 20.1%である。

図表 5-9 個別学力検査実施の有無（共通テストの利用なし・大学・n = 46,447）



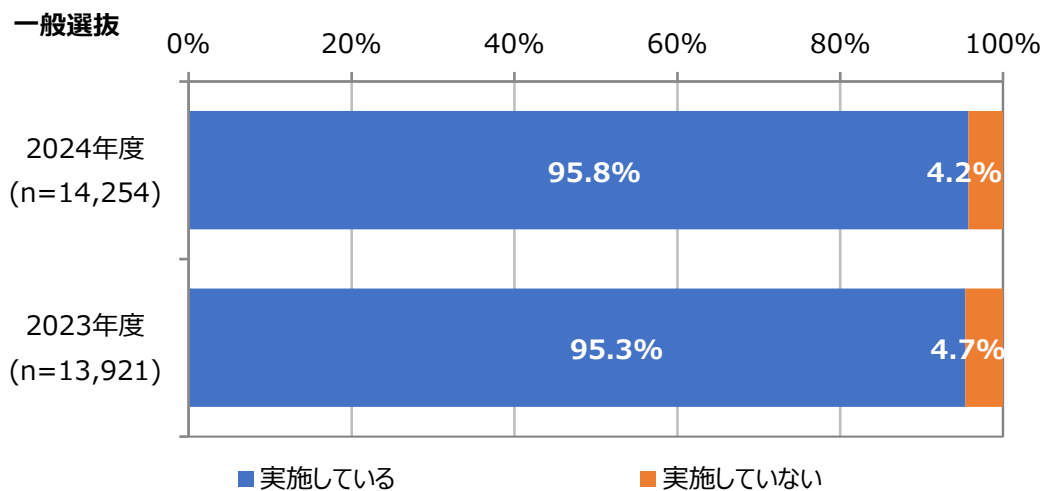
図表 5-10 個別学力検査実施の有無（共通テストの利用なし・短期大学・n = 5,183）



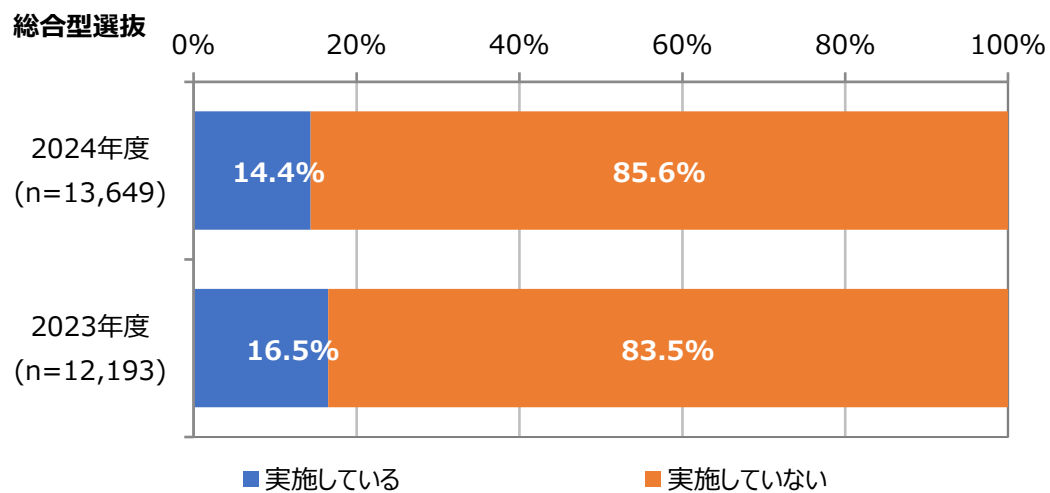
【前回調査との比較】

共通テストを利用しない場合の個別学力検査実施の有無について前回調査と比較すると、総合型選抜、学校推薦型選抜ともに「実施していない」と回答した割合が増加している。

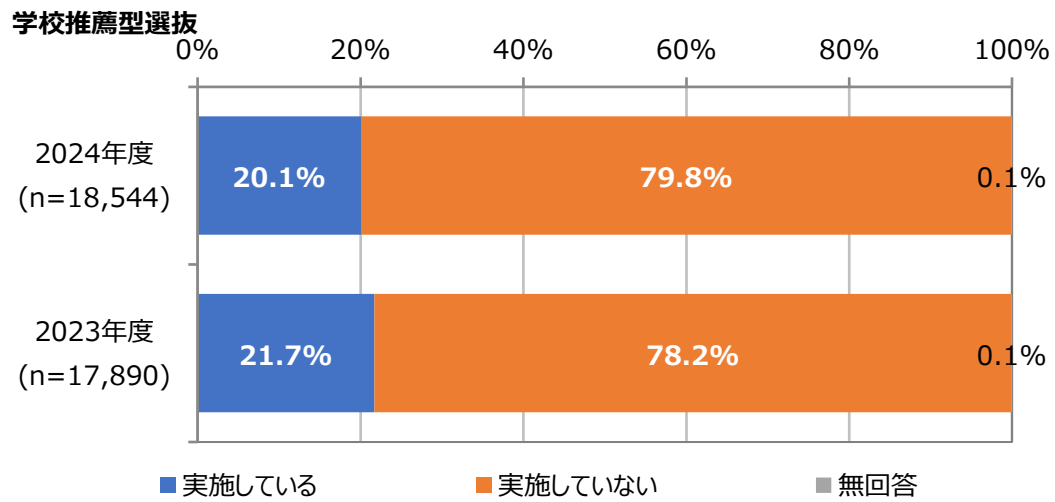
図表 5-11 【前回調査との比較】個別学力検査実施の有無
(共通テストの利用なし・一般選抜)



図表 5-12 【前回調査との比較】個別学力検査実施の有無
(共通テストの利用なし・総合型選抜)



図表 5-13 【前回調査との比較】個別学力検査実施の有無
(共通テストの利用なし・学校推薦型選抜)



5-4 合否判定に利用する個別学力検査の科目数（共通テストの利用なし）

共通テストを利用せず、個別学力検査を課す場合、合否判定に利用する個別学力検査の科目数は、一般選抜において、私立大学では2・3科目が多い。

図表 5-14 合否判定に利用する個別学力検査の科目数
(共通テストの利用なし・大学・n = 19,335)

入試方法	国公私	1科目	2科目	3科目	4科目	5科目	6科目	7科目	8科目	9科目	無回答	平均科目数
一般選抜	国立大学 (n=0選抜区分)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	公立大学 (n=2選抜区分)	-	-	100.0%	-	-	-	-	-	-	-	3.0
	私立大学 (n=13,647選抜区分)	7.9%	50.5%	40.2%	1.3%	-	0.04%	-	-	-	-	2.4
総合型 選抜	国立大学 (n=75選抜区分)	42.7%	33.3%	22.7%	1.3%	-	-	-	-	-	-	1.8
	公立大学 (n=17選抜区分)	88.2%	11.8%	-	-	-	-	-	-	-	-	1.1
	私立大学 (n=1,871選抜区分)	52.9%	34.0%	12.3%	0.5%	0.3%	-	-	-	-	-	1.6
学校 推薦型 選抜	国立大学 (n=55選抜区分)	85.5%	14.5%	-	-	-	-	-	-	-	-	1.1
	公立大学 (n=122選抜区分)	75.4%	20.5%	3.3%	0.8%	-	-	-	-	-	-	1.3
	私立大学 (n=3,546選抜区分)	36.6%	56.1%	5.8%	0.8%	0.1%	0.5%	-	-	-	-	1.7

※ n は、共通テストを利用し、かつ個別学力検査を課す選抜区分のうち、合否判定に利用する個別学力検査の科目数が1～9の選抜区分

図表 5-15 合否判定に利用する個別学力検査の科目数
(共通テストの利用なし・短期大学・n = 1,273)

入試方法	公私短大	1科目	2科目	3科目	4科目	5科目	6科目	7科目	8科目	9科目	無回答	平均科目数
一般選抜	公立短期大学 (n=19選抜区分)	5.3%	94.7%	-	-	-	-	-	-	-	-	1.9
	私立短期大学 (n=940選抜区分)	57.8%	36.1%	6.1%	0.1%	-	-	-	-	-	-	1.5
総合型 選抜	公立短期大学 (n=0選抜区分)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	私立短期大学 (n=62選抜区分)	71.0%	9.7%	19.4%	-	-	-	-	-	-	-	1.5
学校 推薦型 選抜	公立短期大学 (n=6選抜区分)	100.0%	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1.0
	私立短期大学 (n=246選抜区分)	64.6%	30.1%	5.3%	-	-	-	-	-	-	-	1.4

※ n は、共通テストを利用し、かつ個別学力検査を課す選抜区分のうち、合否判定に利用する個別学力検査の科目数が1～9の選抜区分

【前回調査との比較】

共通テストを利用せず個別学力検査を課す場合の合否判定に利用する個別学力検査の科目数について前回調査と比較すると、各選抜方法とも同様の傾向となっている。

図表 5-16 【前回調査との比較】合否判定に利用する個別学力検査の科目数
(共通テストの利用なし)

入試方法	国	公	私	1科目	2科目	3科目	4科目	5科目	6科目	7科目	8科目	9科目	無回答	平均科目数
一般選抜	国立大学	2024年度 (n=0選抜区分)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
		2023年度 (n=0選抜区分)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	公立大学	2024年度 (n=2選抜区分)	-	-	100.0%	-	-	-	-	-	-	-	-	3.0
		2023年度 (n=0選抜区分)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	私立大学	2024年度 (n=13,647選抜区分)	7.9%	50.5%	40.2%	1.3%	-	0.0%	-	-	-	-	-	2.4
		2023年度 (n=13,273選抜区分)	7.6%	50.3%	40.1%	1.6%	0.4%	0.0%	-	-	-	-	-	2.4
総合型選抜	国立大学	2024年度 (n=75選抜区分)	42.7%	33.3%	22.7%	1.3%	-	-	-	-	-	-	-	1.8
		2023年度 (n=73選抜区分)	43.8%	32.9%	21.9%	1.4%	-	-	-	-	-	-	-	1.8
	公立大学	2024年度 (n=17選抜区分)	88.2%	11.8%	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1.1
		2023年度 (n=17選抜区分)	88.2%	11.8%	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1.1
	私立大学	2024年度 (n=1,871選抜区分)	52.9%	34.0%	12.3%	0.5%	0.3%	-	-	-	-	-	-	1.6
		2023年度 (n=1926選抜区分)	51.9%	36.9%	10.3%	0.5%	0.3%	0.2%	-	-	-	-	-	1.6
学校推薦型選抜	国立大学	2024年度 (n=55選抜区分)	85.5%	14.5%	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1.1
		2023年度 (n=43選抜区分)	79.1%	20.9%	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1.2
	公立大学	2024年度 (n=122選抜区分)	75.4%	20.5%	3.3%	0.8%	-	-	-	-	-	-	-	1.3
		2023年度 (n=93選抜区分)	68.8%	17.2%	11.8%	2.2%	-	-	-	-	-	-	-	1.5
	私立大学	2024年度 (n=3,546選抜区分)	36.6%	56.1%	5.8%	0.8%	0.1%	0.5%	-	-	-	-	-	1.7
		2023年度 (n=3,748選抜区分)	44.8%	48.9%	5.6%	0.6%	0.1%	-	-	-	-	-	-	1.6

5-5 一般選抜において個別学力検査を実施する選抜区分の割合

一般選抜において個別学力検査を実施する選抜区分の割合は、国立大学で 68.5%、公立大学で 52.6%、私立大学で 59.3%である。

図表 5-17 一般選抜において個別学力検査を実施する選抜区分の割合（大学）

	共通テストと個別 学力検査の両方を 課す選抜区分	共通テストを課さ ず、個別学力検査 のみを課す選抜区 分	共通テストを課した 上で、個別学力検 査以外の資料を考 慮する選抜区分 ※個別学力検査は課さない	共通テストのみを 課す選抜区分	共通テストも個別 学力検査も課さ ず、個別学力検査 以外の資料を考慮 する選抜区分	計
国立大学	1,756 (68.5%)	0 (0.0%)	791 (30.8%)	18 (0.7%)	0 (0.0%)	2,565 (100.0%)
	個別学力検査実施 68.5%		個別学力検査実施なし 31.5%			
公立大学	478 (52.4%)	2 (0.2%)	385 (42.2%)	48 (5.3%)	0 (0.0%)	913 (100.0%)
	個別学力検査実施 52.6%		個別学力検査実施なし 47.4%			
私立大学	2,190 (8.2%)	13,647 (51.1%)	805 (3.0%)	9,469 (35.4%)	605 (2.3%)	26,716 (100.0%)
	個別学力検査実施 59.3%		個別学力検査実施なし 40.7%			
計	4,424 (14.7%)	13,649 (45.2%)	1,981 (6.6%)	9,535 (31.6%)	605 (2.0%)	30,194 (100.0%)
	個別学力検査実施 59.9%		個別学力検査実施なし 40.1%			

※本調査における「個別学力検査」は、学習指導要領に定められている教科・科目の学力検査、「総合問題」としている。「小論文」、「面接」、「討論」及び「実技検査」等は含まない。

図表 5-18 一般選抜において個別学力検査を実施する選抜区分の割合（短期大学）

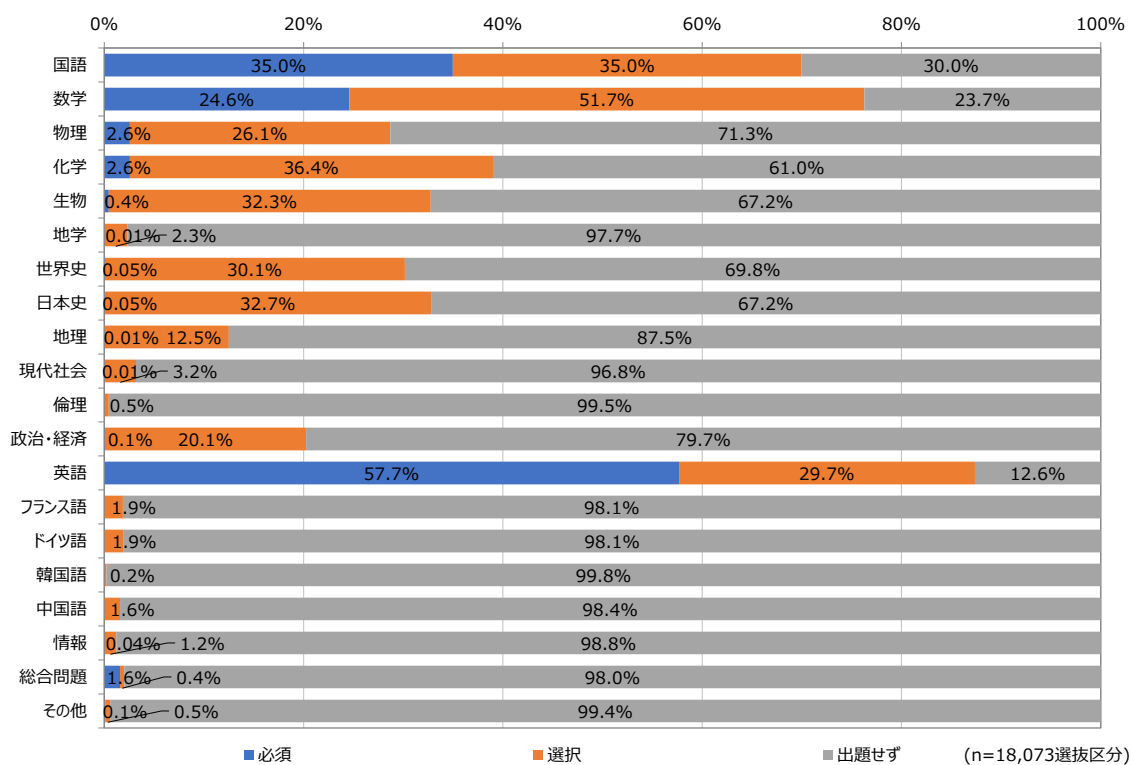
	共通テストと個別 学力検査の両方を 課す選抜区分	共通テストを課さ ず、個別学力検査 のみを課す選抜区 分	共通テストを課した 上で、個別学力検 査以外の資料を考 慮する選抜区分 ※個別学力検査は課さない	共通テストのみを 課す選抜区分	共通テストも個別 学力検査も課さ ず、個別学力検査 以外の資料を考慮 する選抜区分	計
公立 短期大学	4 (5.3%)	19 (25.3%)	19 (25.3%)	26 (34.7%)	7 (9.3%)	75 (100.0%)
	個別学力検査実施 30.7%		個別学力検査実施なし 69.3%			
私立 短期大学	29 (1.6%)	940 (52.6%)	49 (2.7%)	461 (25.8%)	308 (17.2%)	1,787 (100.0%)
	個別学力検査実施 54.2%		個別学力検査実施なし 45.8%			
計	33 (1.8%)	959 (51.5%)	68 (3.7%)	487 (26.2%)	315 (16.9%)	1,862 (100.0%)
	個別学力検査実施 53.3%		個別学力検査実施なし 46.7%			

※本調査における「個別学力検査」は、学習指導要領に定められている教科・科目の学力検査、「総合問題」としている。「小論文」、「面接」、「討論」及び「実技検査」等は含まない。

5-6 一般選抜での個別学力検査における各科目の出題状況

一般選抜で個別学力検査を課す選抜区分では、英語（必須＋選択 87.4%）、数学（同 76.3%）、国語（同 70.0%）を出題する選抜区分が多い。

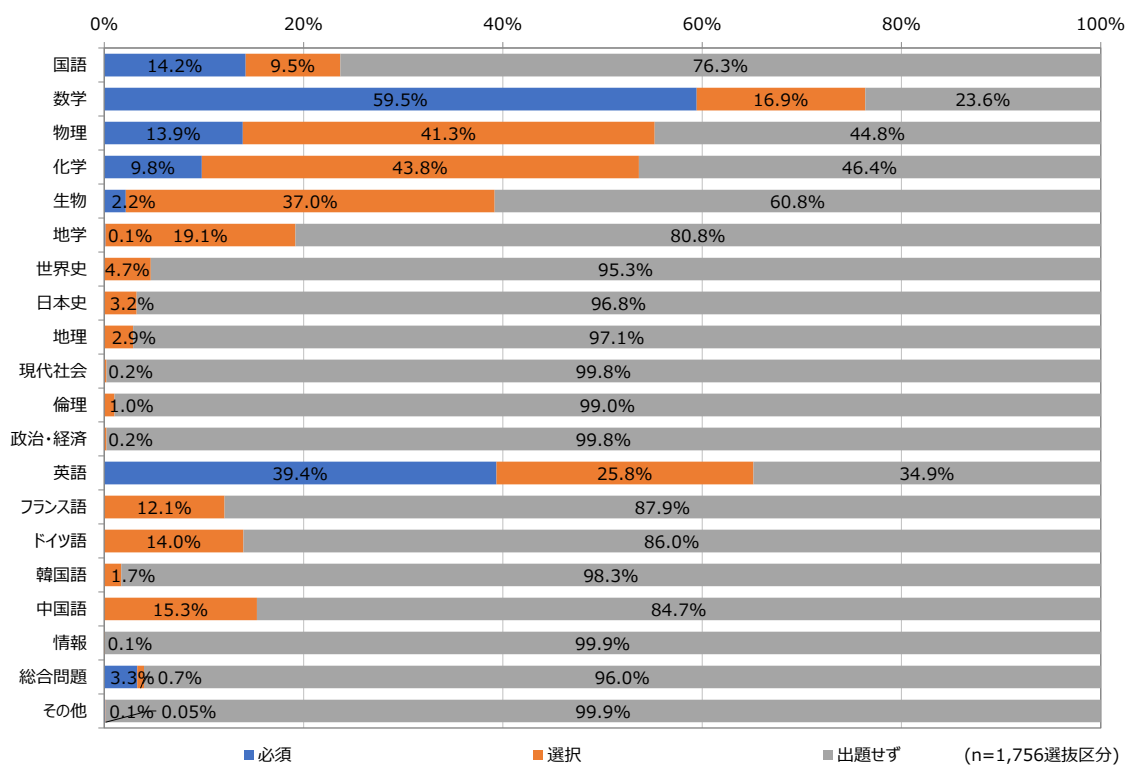
図表 5-19 一般選抜での個別学力検査における各科目の出題状況（大学全体）



5-7 一般選抜での個別学力検査における各科目の出題状況（国立大学）

国立大学において、一般選抜で個別学力検査を課す選抜区分では、数学（必須＋選択 76.4%）、英語（同 65.2%）を出題する選抜区分が多い。

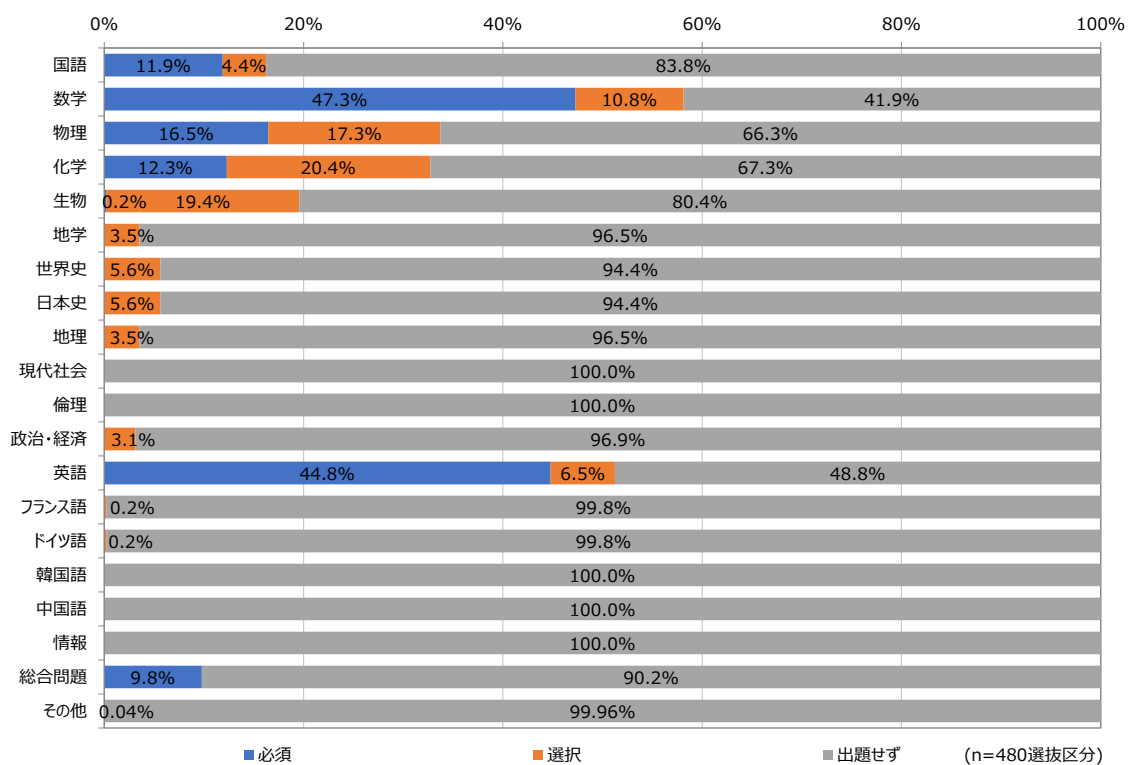
図表 5-20 一般選抜での個別学力検査における各科目の出題状況（国立大学）



5-8 一般選抜での個別学力検査における各科目の出題状況（公立大学）

公立大学において、一般選抜で個別学力検査を課す選抜区分では、数学（必須＋選択 58.1%）、英語（同 51.3%）を出題する選抜区分が多い。

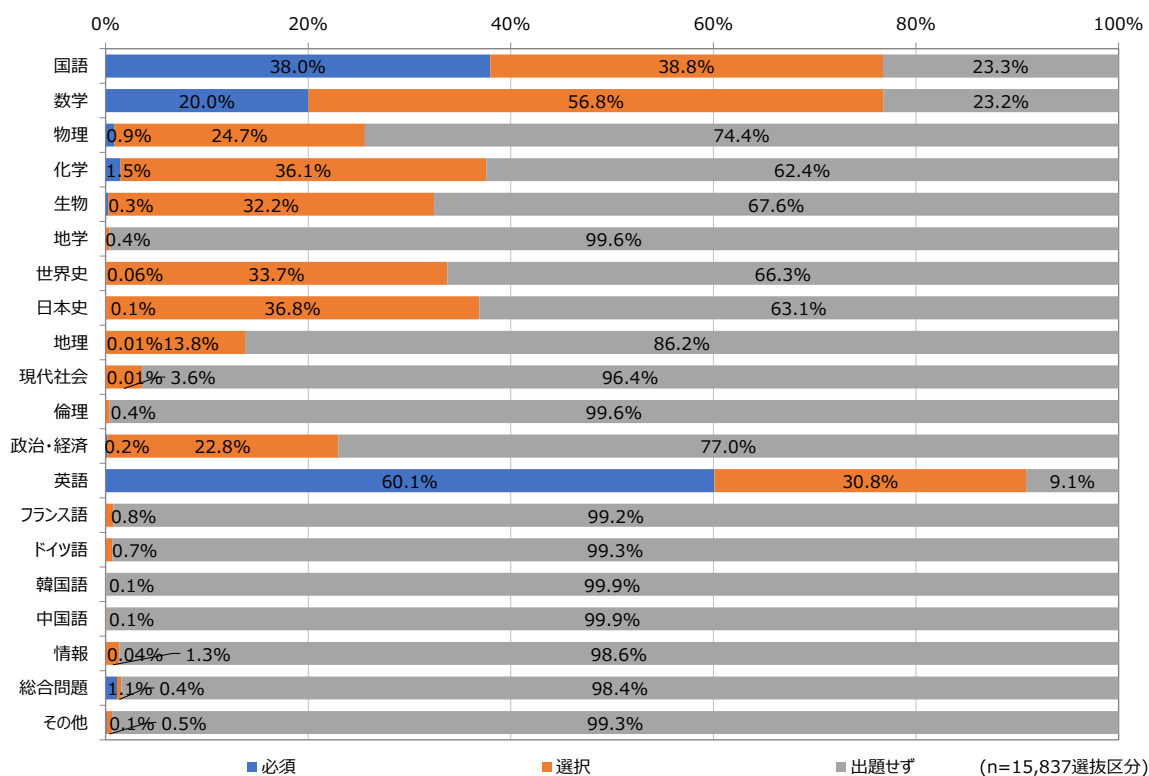
図表 5-21 一般選抜での個別学力検査における各科目の出題状況（公立大学）



5-9 一般選抜での個別学力検査における各科目の出題状況（私立大学）

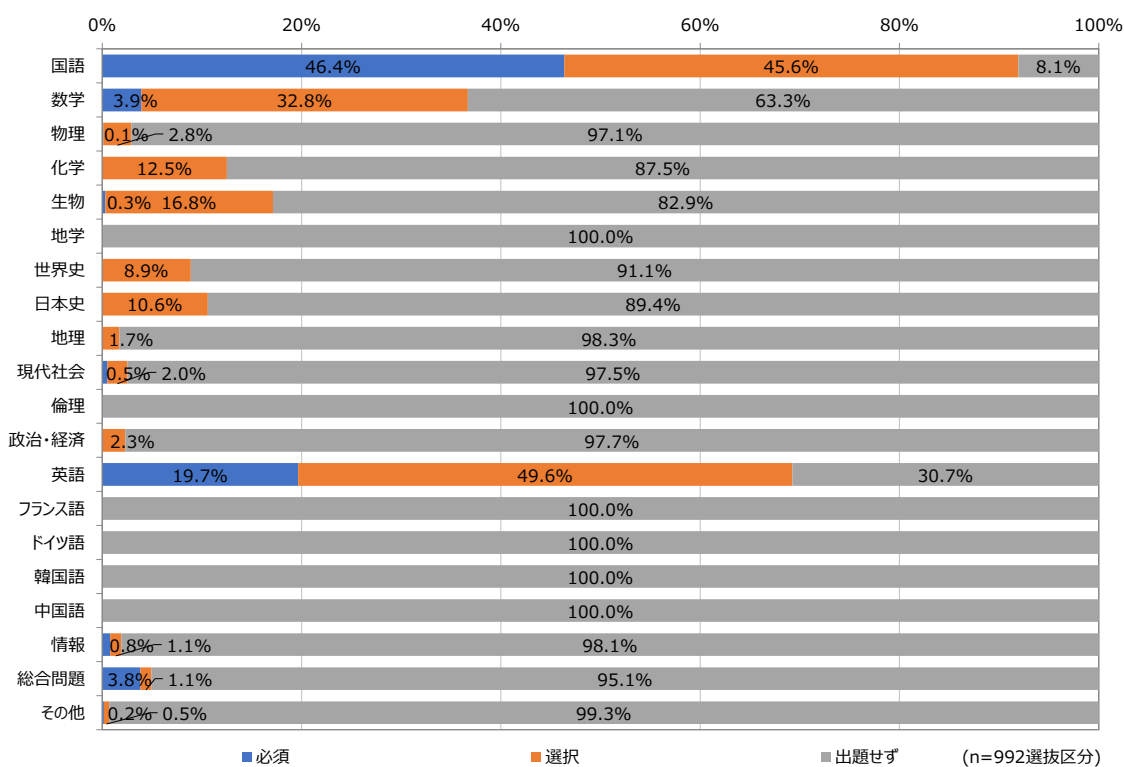
私立大学において、一般選抜で個別学力検査を課す選抜区分では、英語（必須＋選択 90.9%）、国語（同 76.8%）、数学（同 76.8%）を出題する選抜区分が多い。

図表 5-22 一般選抜での個別学力検査における各科目の出題状況（私立大学）

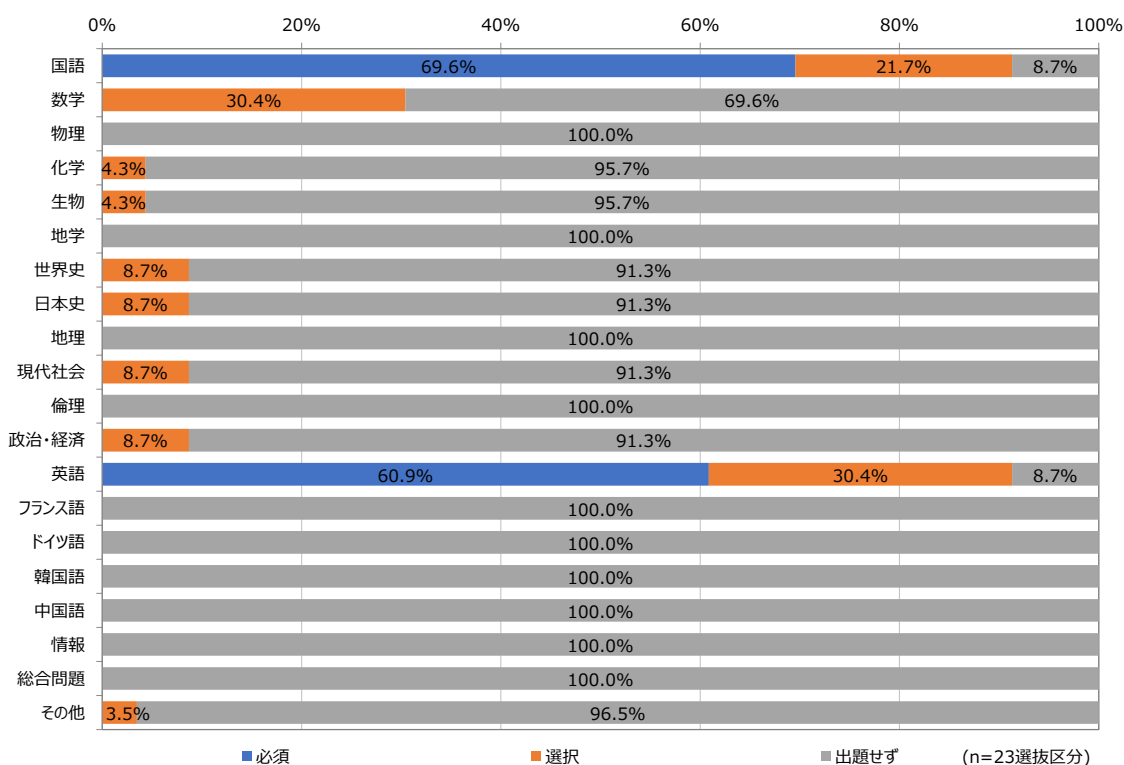


5-10 一般選抜での個別学力検査における各科目の出題状況（短期大学）

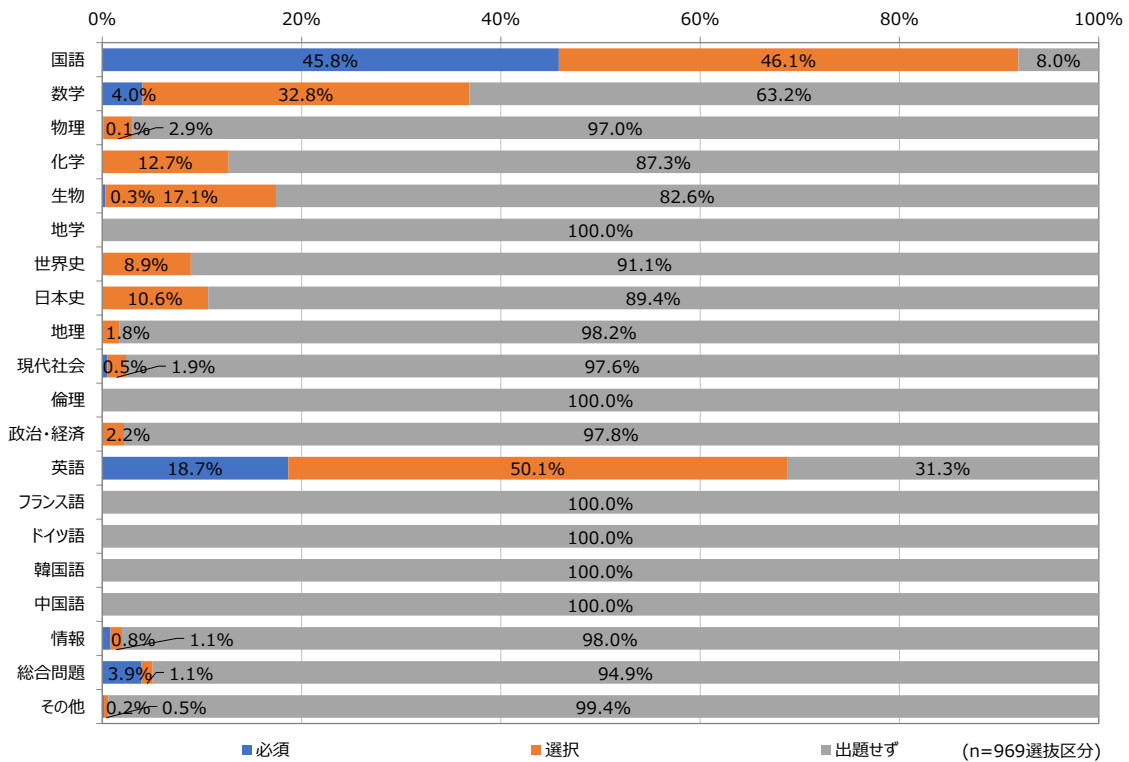
図表 5-23 一般選抜での個別学力検査における各科目の出題状況（短期大学全体）



図表 5-24 一般選抜での個別学力検査における各科目の出題状況（公立短期大学）



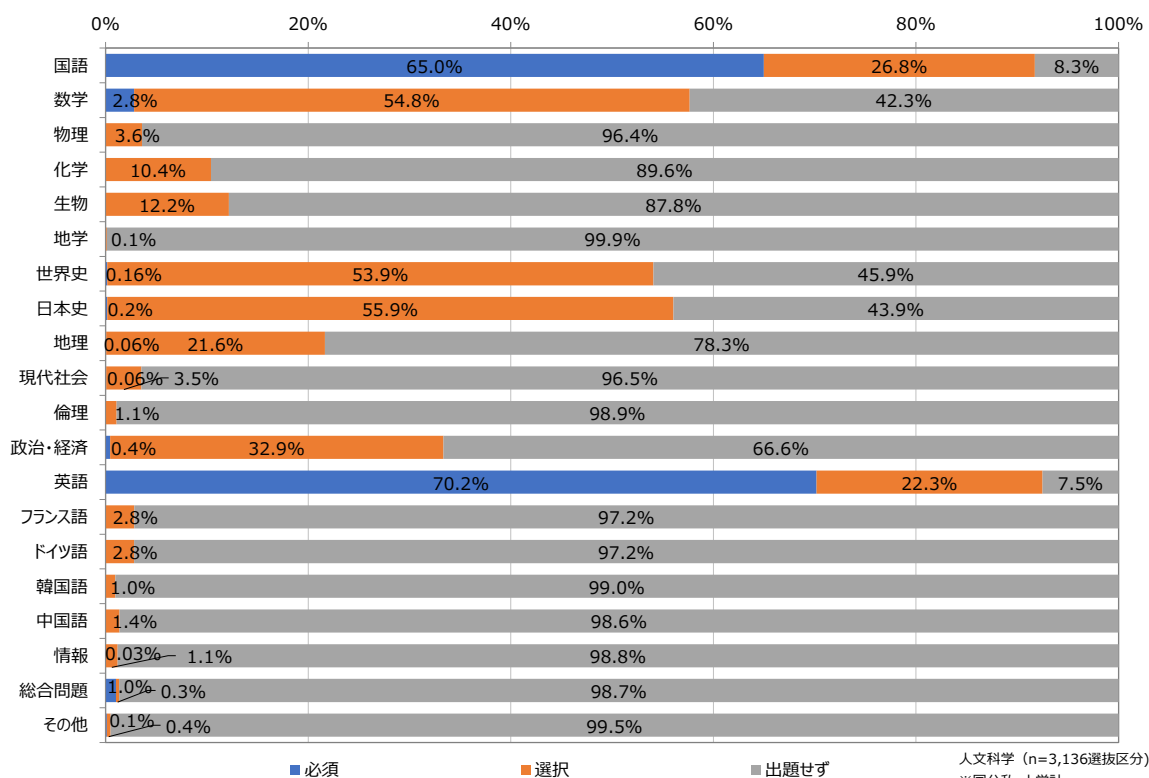
図表 5-25 一般選抜での個別学力検査における各科目の出題状況（私立短期大学）



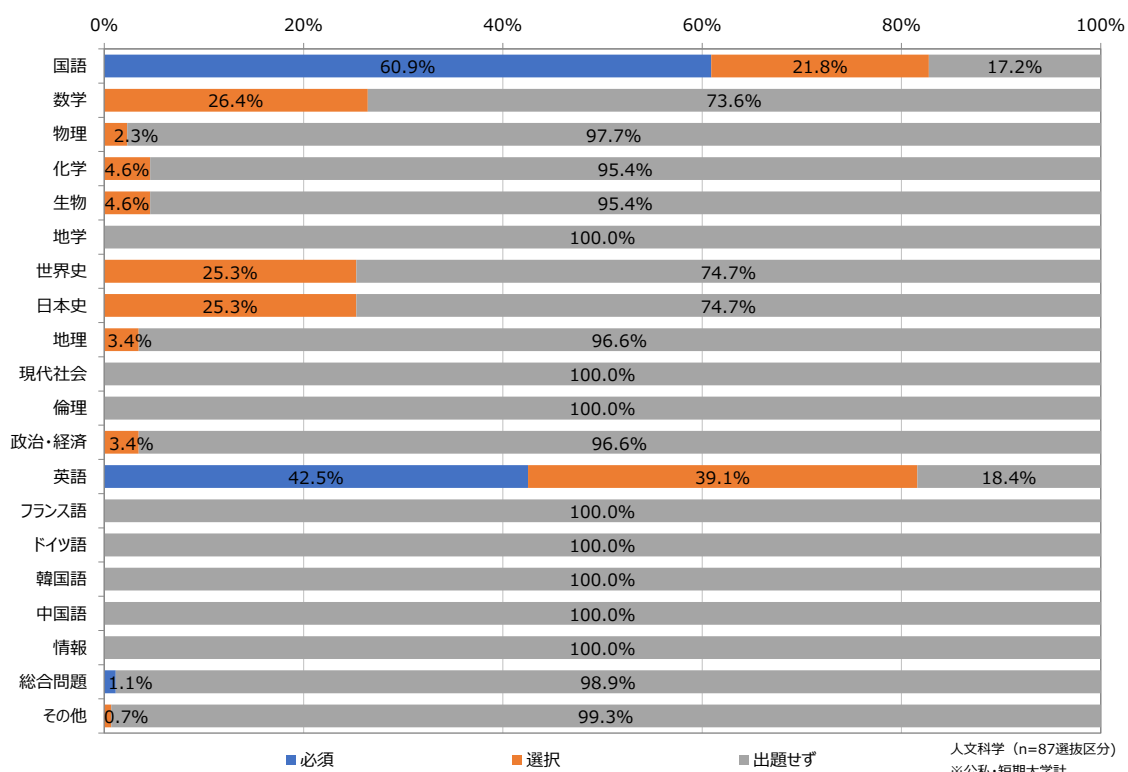
5-11 一般選抜での個別学力検査における各科目の出題状況（学科系統分類別／人文科学）

大学の人文科学系学科において、一般選抜で個別学力検査を課す選抜区分では、英語（必須＋選択 92.5%）、国語（同 91.8%）、数学（同 57.6%）を出題する選抜区分が多い。

図表 5-26 一般選抜での個別学力検査における各科目の出題状況
（大学・学科系統分類別／人文科学）



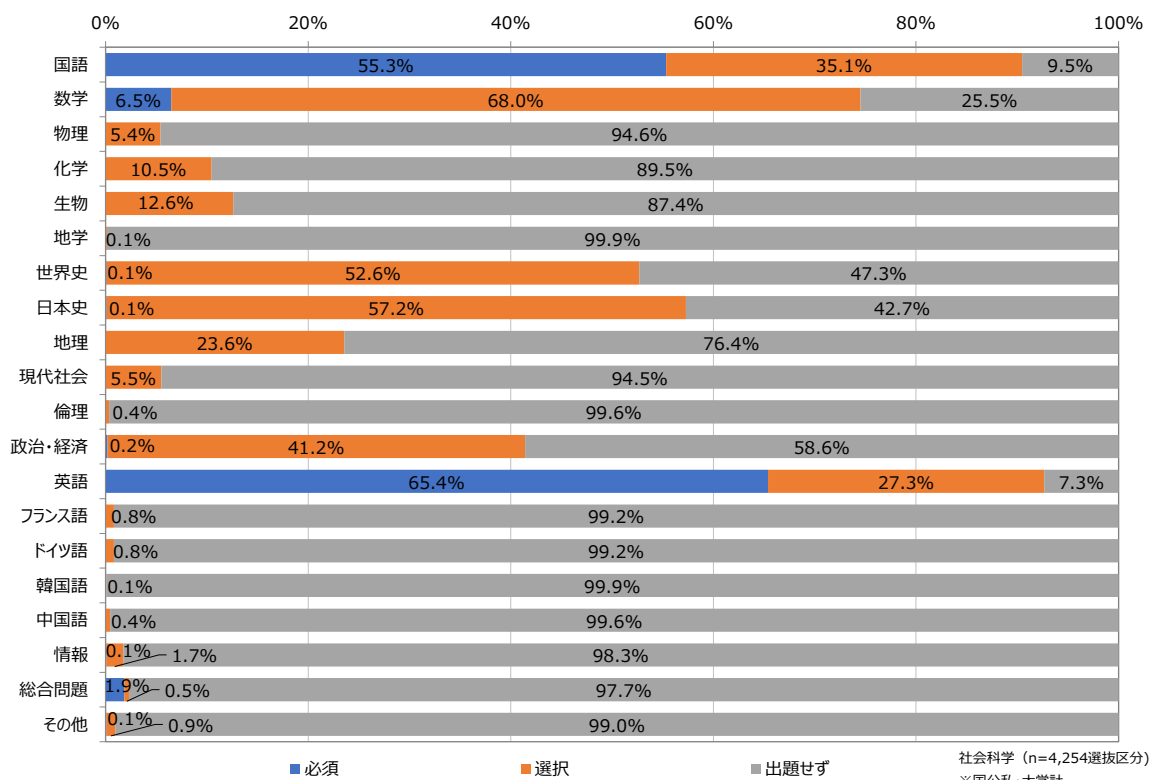
図表 5-27 一般選抜での個別学力検査における各科目の出題状況
(短期大学・学科系統分類別／人文科学)



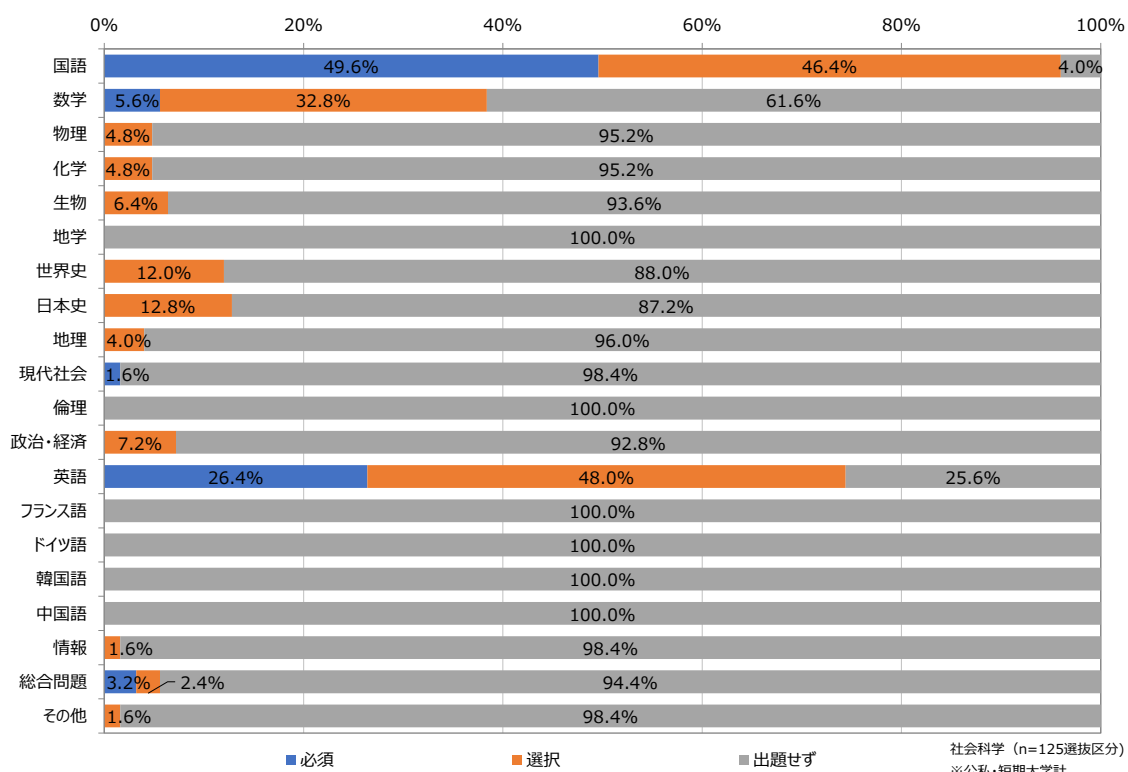
5-12 一般選抜での個別学力検査における各科目の出題状況（学科系統分類別／社会科学）

大学の社会科学系学科において、一般選抜で個別学力検査を課す選抜区分では、英語（必須＋選択 92.7%）、国語（同 90.4%）、数学（同 74.5%）を出題する選抜区分が多い。

図表 5-28 一般選抜での個別学力検査における各科目の出題状況
（大学・学科系統分類別／社会科学）



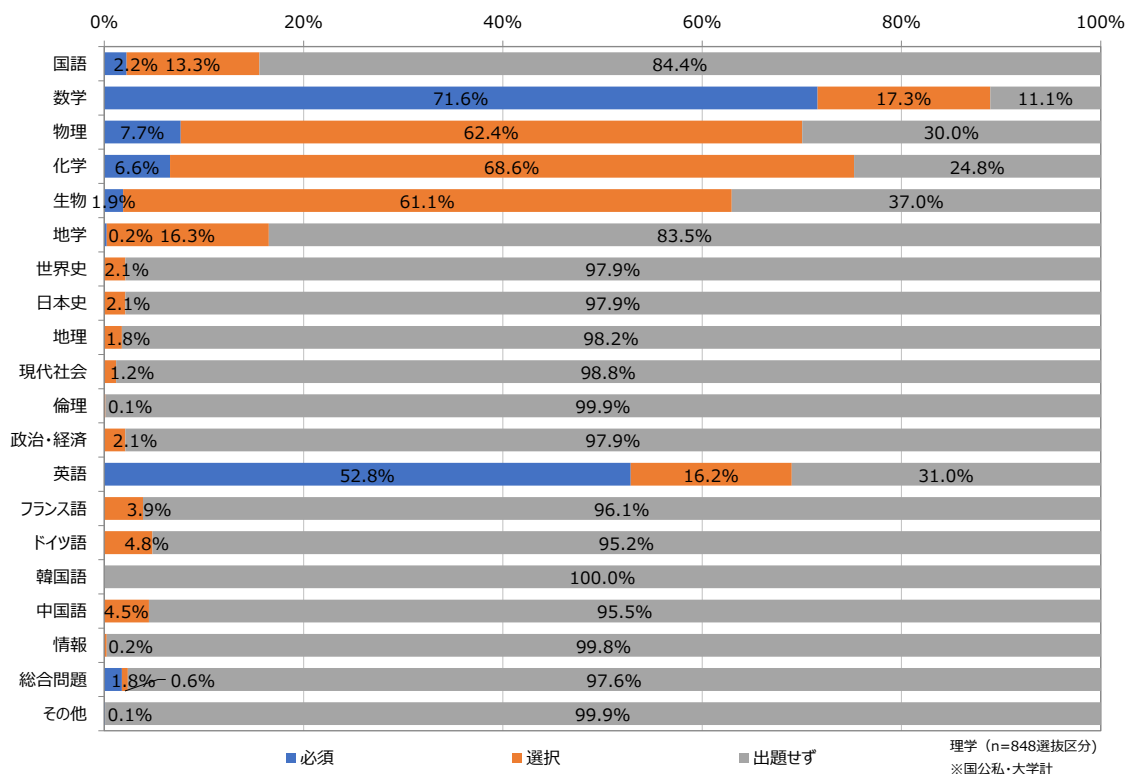
図表 5-29 一般選抜での個別学力検査における各科目の出題状況
(短期大学・学科系統分類別／社会科学)



5-13 一般選抜での個別学力検査における各科目の出題状況（学科系統分類別／理学）

大学の理学系学科において、一般選抜で個別学力検査を課す選抜区分では、数学（必須＋選択 88.9%）、化学（75.2%）、物理（70.1%）を出題する選抜区分が多い。

図表 5-30 一般選抜での個別学力検査における各科目の出題状況
（大学・学科系統分類別／理学）

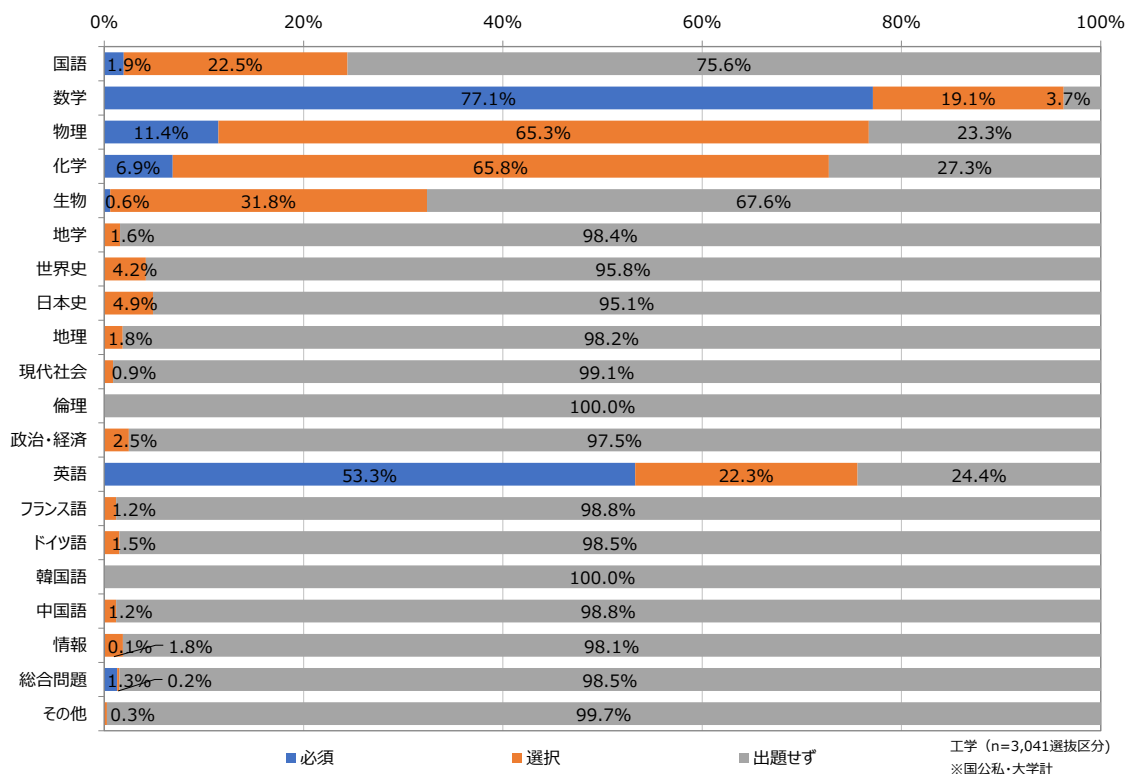


※短期大学は理学の選抜区分なし

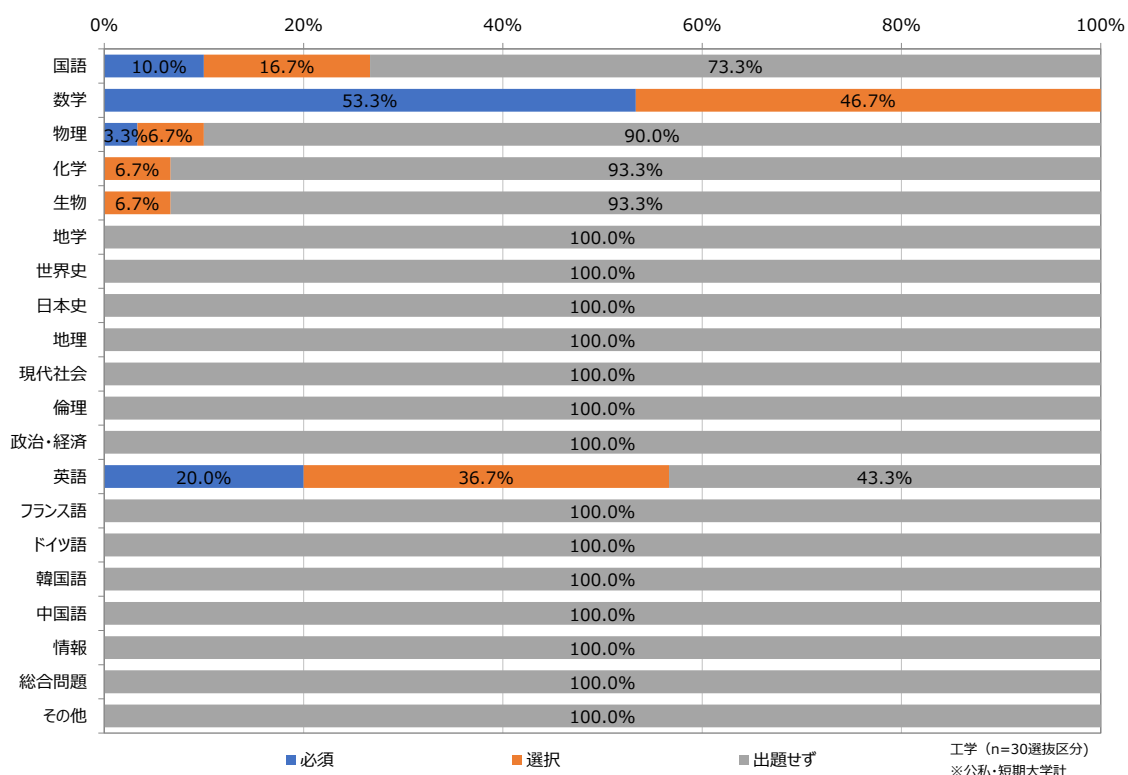
5-14 一般選抜での個別学力検査における各科目の出題状況（学科系統分類別／工学）

大学の工学系学科において、一般選抜で個別学力検査を課す選抜区分では、数学（必須＋選択 96.2%）、物理（同 76.7%）、英語（同 75.6%）を出題する選抜区分が多い。

図表 5-31 一般選抜での個別学力検査における各科目の出題状況
（大学・学科系統分類別／工学）



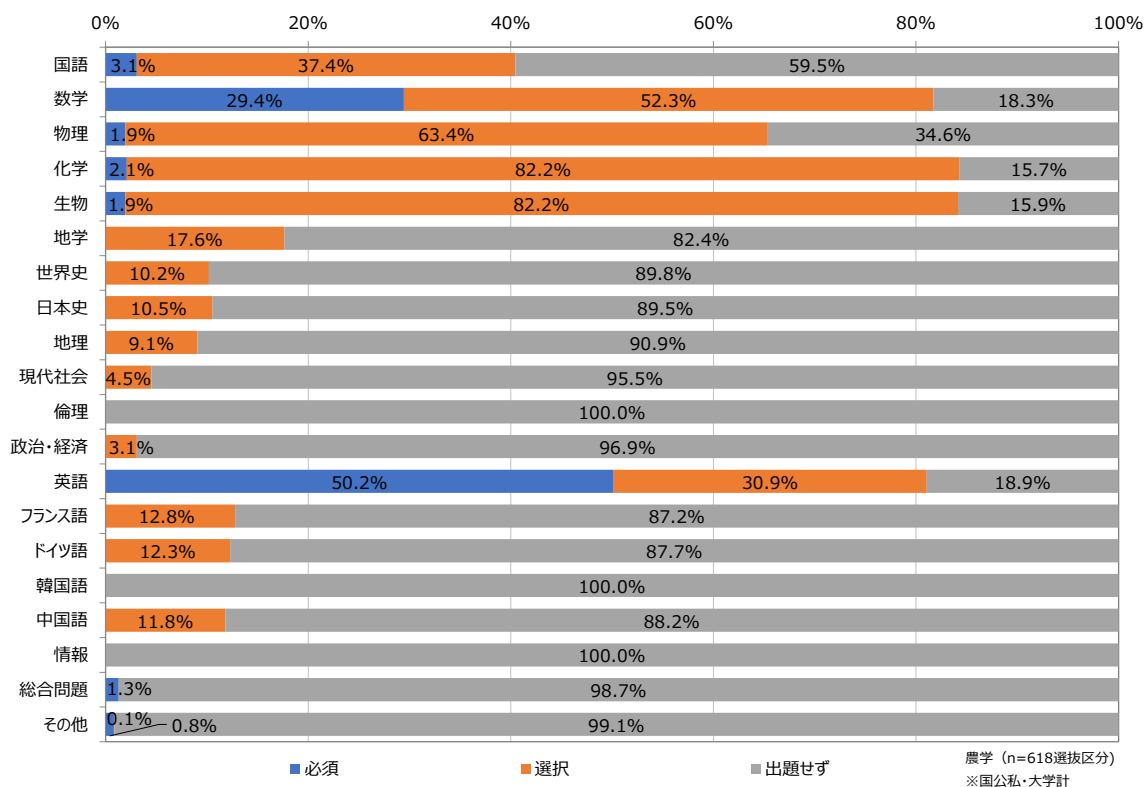
図表 5-32 一般選抜での個別学力検査における各科目の出題状況
(短期大学・学科系統分類別／工学)



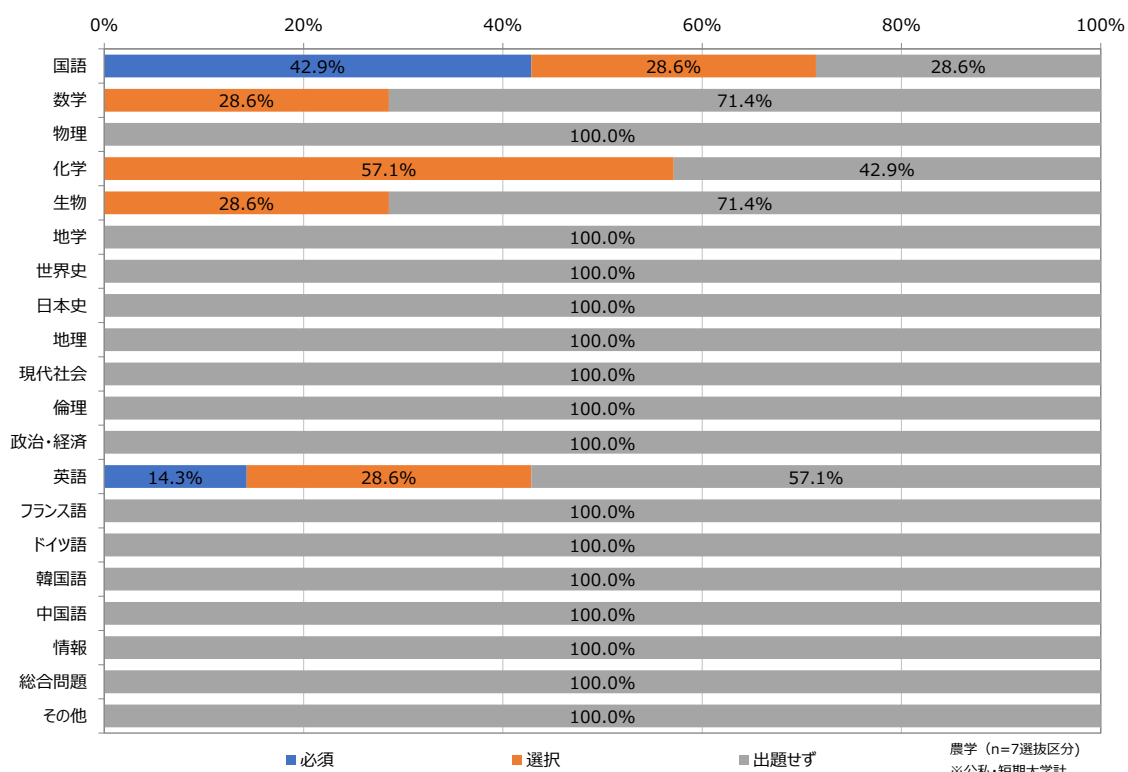
5-15 一般選抜での個別学力検査における各科目の出題状況（学科系統分類別／農学）

大学の農学系学科において、一般選抜で個別学力検査を課す選抜区分では、化学（必須＋選択 84.3%）、生物（同 84.1%）、数学（同 81.7%）を出題する選抜区分が多い。

図表 5-33 一般選抜での個別学力検査における各科目の出題状況
（大学・学科系統分類別／農学）



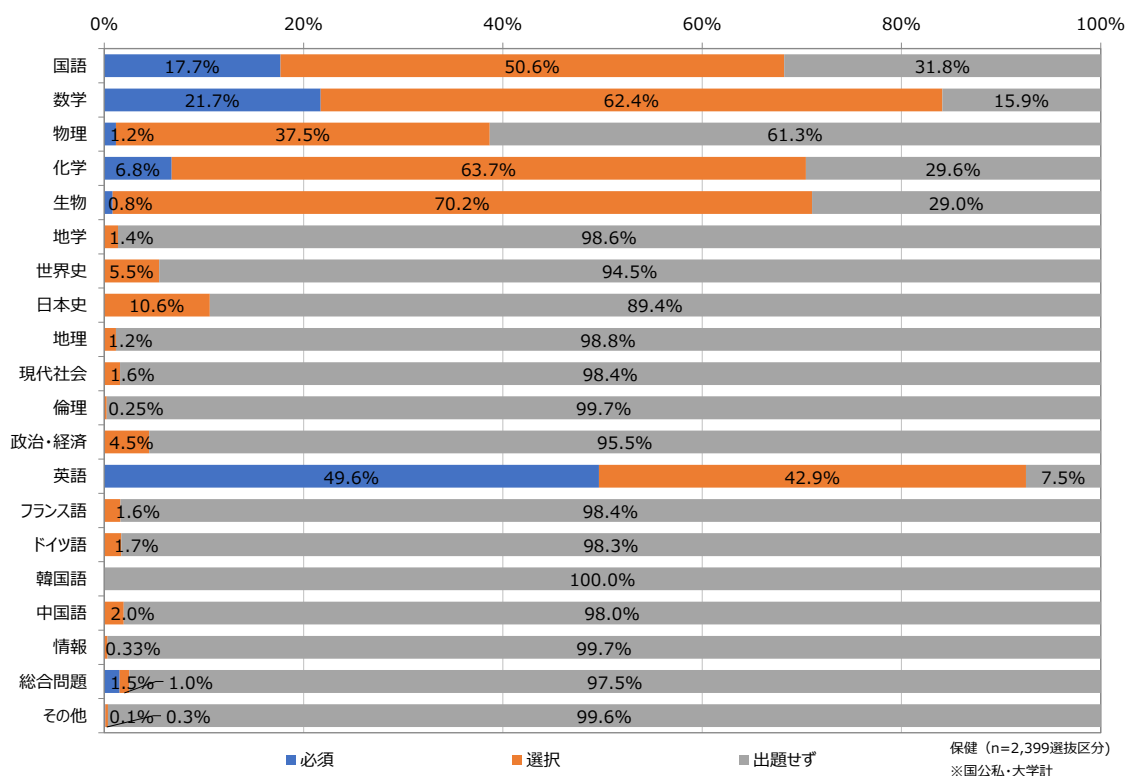
図表 5-34 一般選抜での個別学力検査における各科目の出題状況
(短期大学・学科系統分類別／農学)



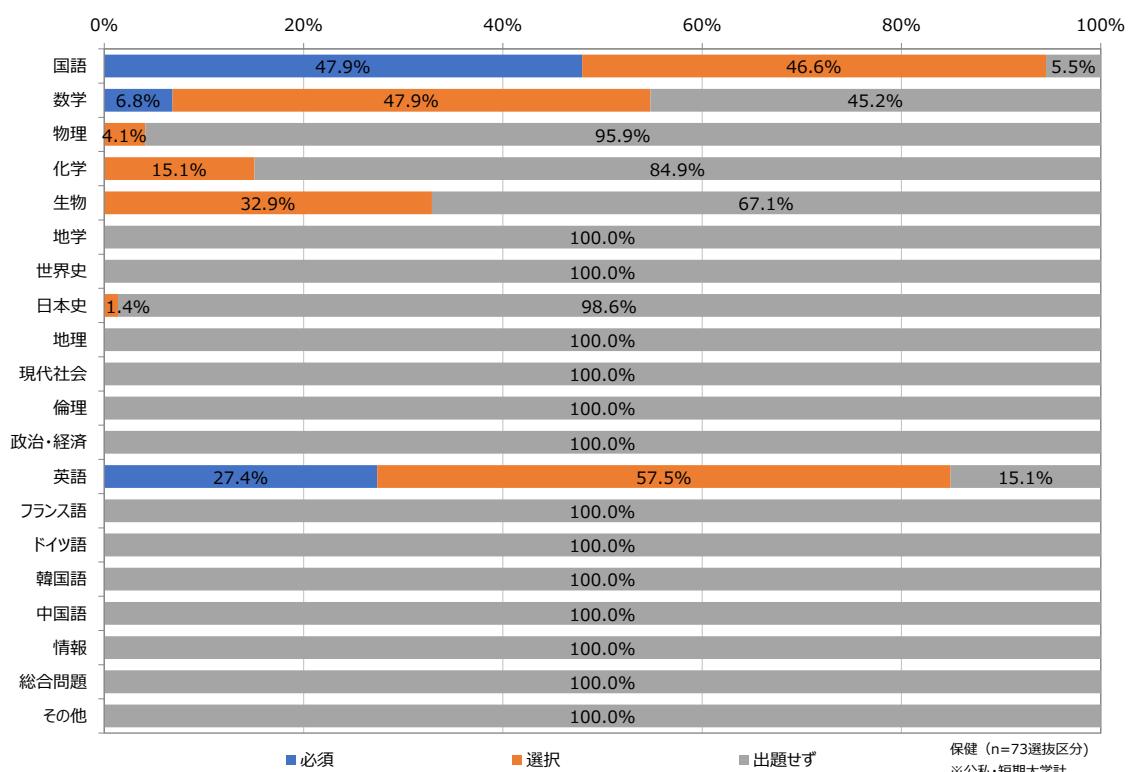
5-16 一般選抜での個別学力検査における各科目の出題状況（学科系統分類別／保健）

大学の保健系学科において、一般選抜で個別学力検査を課す選抜区分では、英語（必須＋選択 92.5%）、数学（同 84.1%）、生物（同 71.0%）を出題する選抜区分が多い。

図表 5-35 一般選抜での個別学力検査における各科目の出題状況
（大学・学科系統分類別／保健）



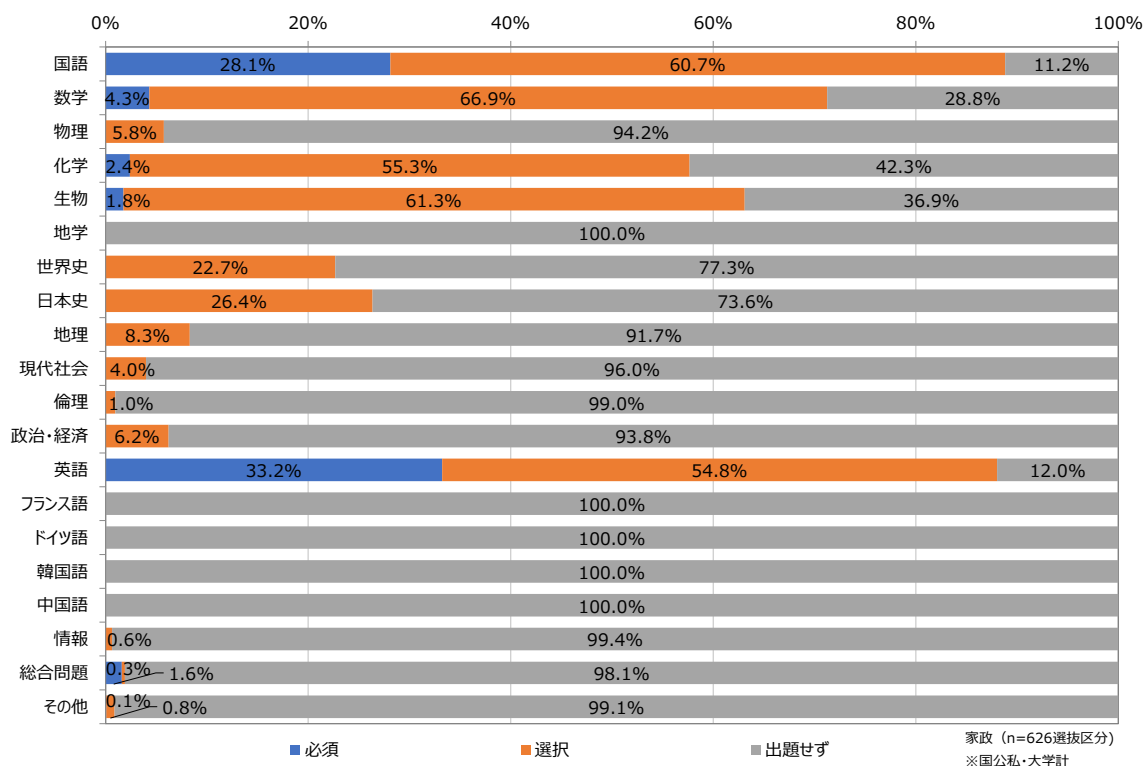
図表 5-36 一般選抜での個別学力検査における各科目の出題状況
(短期大学・学科系統分類別／保健)



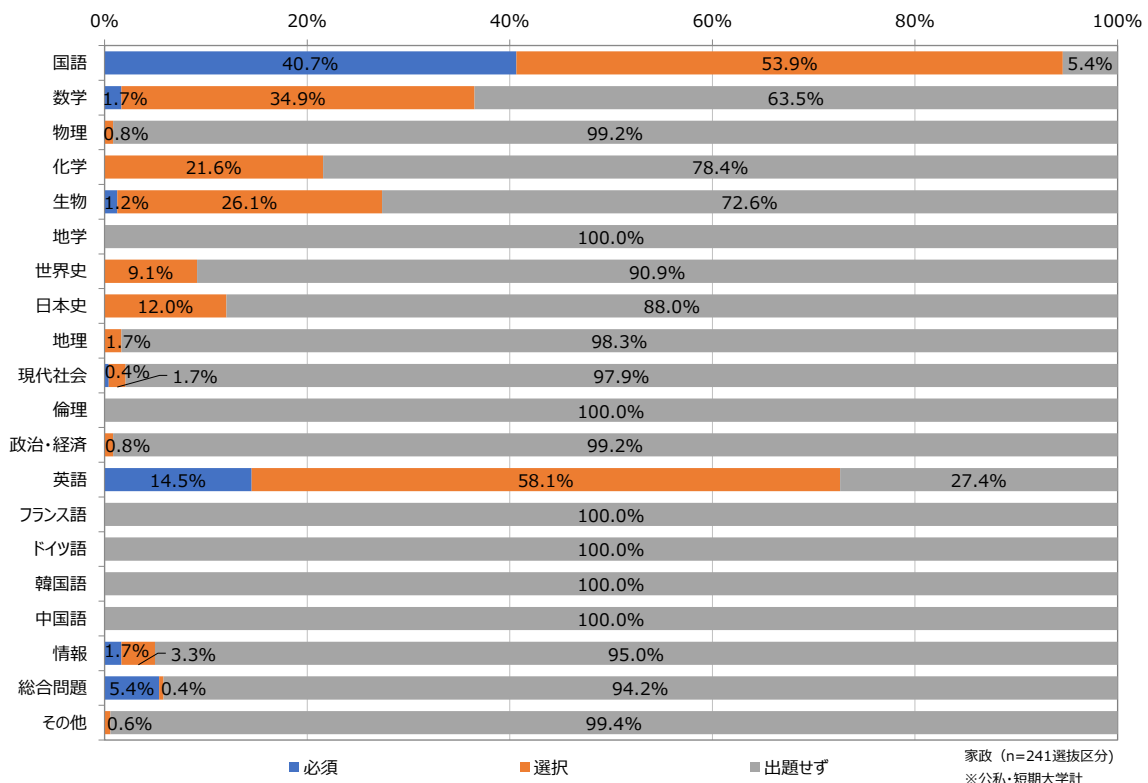
5-17 一般選抜での個別学力検査における各科目の出題状況（学科系統分類別／家政）

大学の家政系学科において、一般選抜で個別学力検査を課す選抜区分では、国語（必須＋選択 88.8%）、英語（同 88.0%）、数学（同 71.2%）を出題する選抜区分が多い。

図表 5-37 一般選抜での個別学力検査における各科目の出題状況
（大学・学科系統分類別／家政）



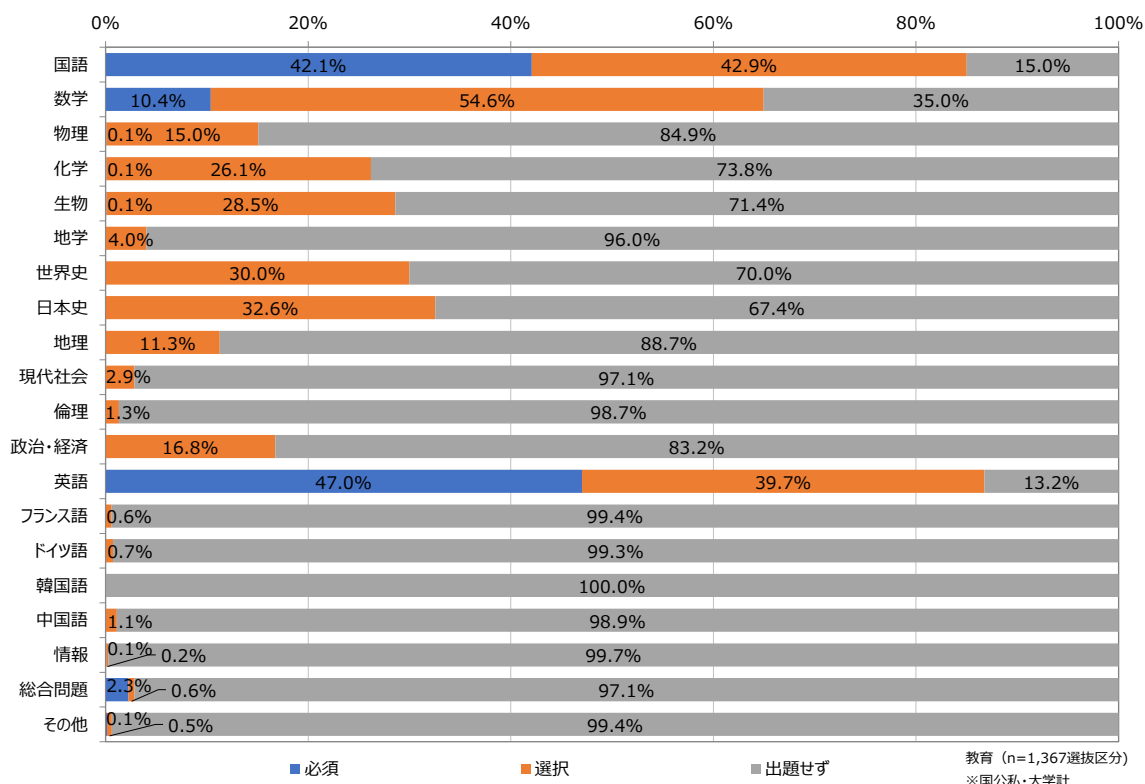
図表 5-38 一般選抜での個別学力検査における各科目の出題状況
(短期大学・学科系統分類別／家政)



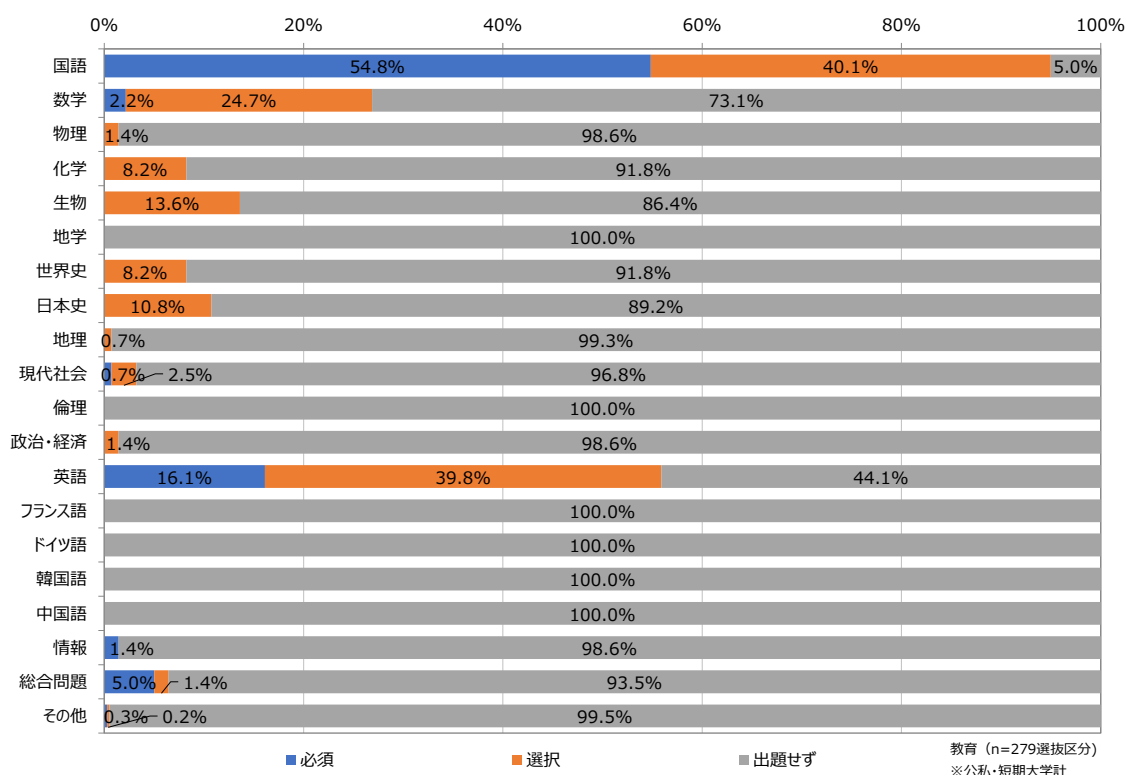
5-18 一般選抜での個別学力検査における各科目の出題状況（学科系統分類別／教育）

大学の教育系学科において、一般選抜で個別学力検査を課す選抜区分では、英語（必須＋選択 86.7%）、国語（同 85.0%）、数学（同 65.0%）を出題する選抜区分が多い。

図表 5-39 一般選抜での個別学力検査における各科目の出題状況
（大学・学科系統分類別／教育）



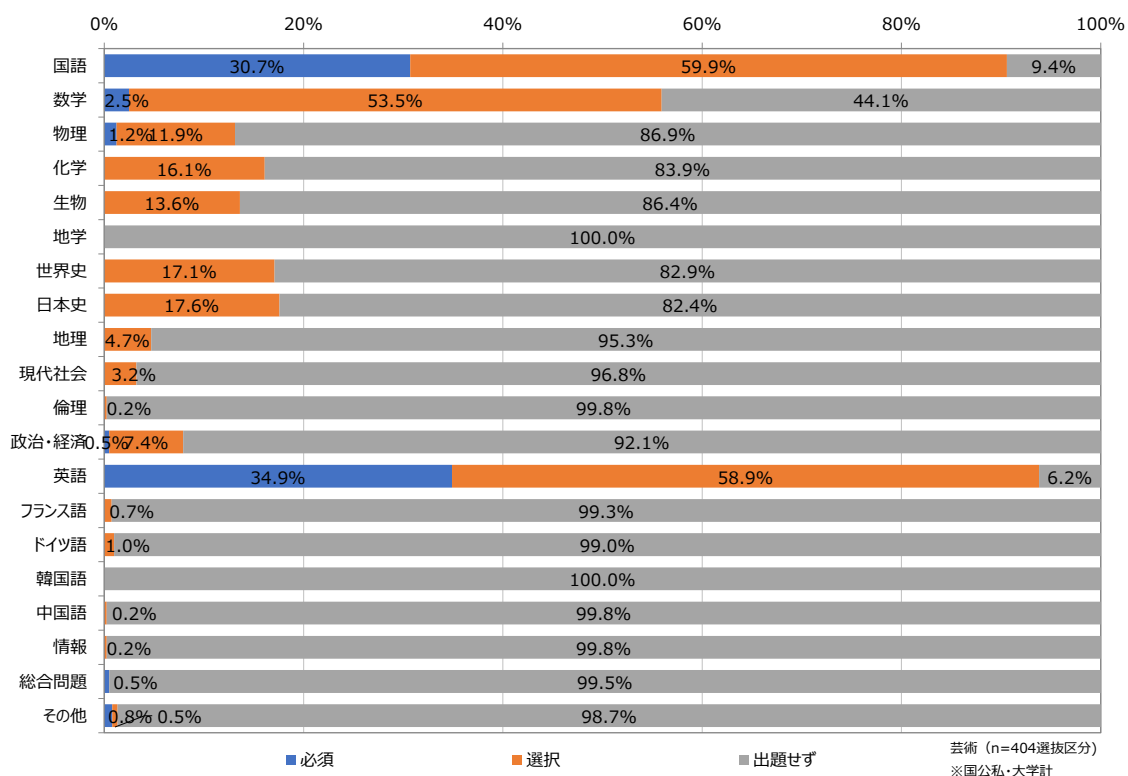
図表 5-40 一般選抜での個別学力検査における各科目の出題状況
(短期大学・学科系統分類別／教育)



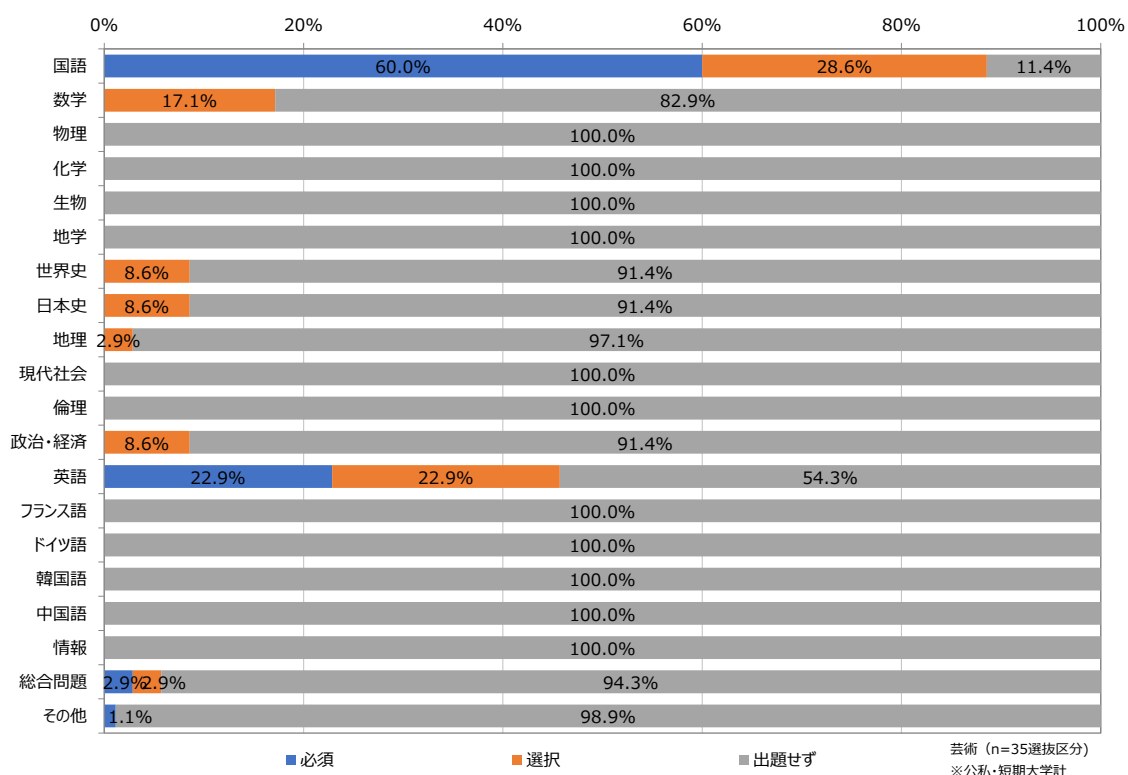
5-19 一般選抜での個別学力検査における各科目の出題状況（学科系統分類別／芸術）

大学の芸術系学科において、一般選抜で個別学力検査を課す選抜区分では、英語（必須＋選択 93.8%）、国語（同 90.6%）、数学（同 56.0%）を出題する選抜区分が多い。

図表 5-41 一般選抜での個別学力検査における各科目の出題状況
（大学・学科系統分類別／芸術）



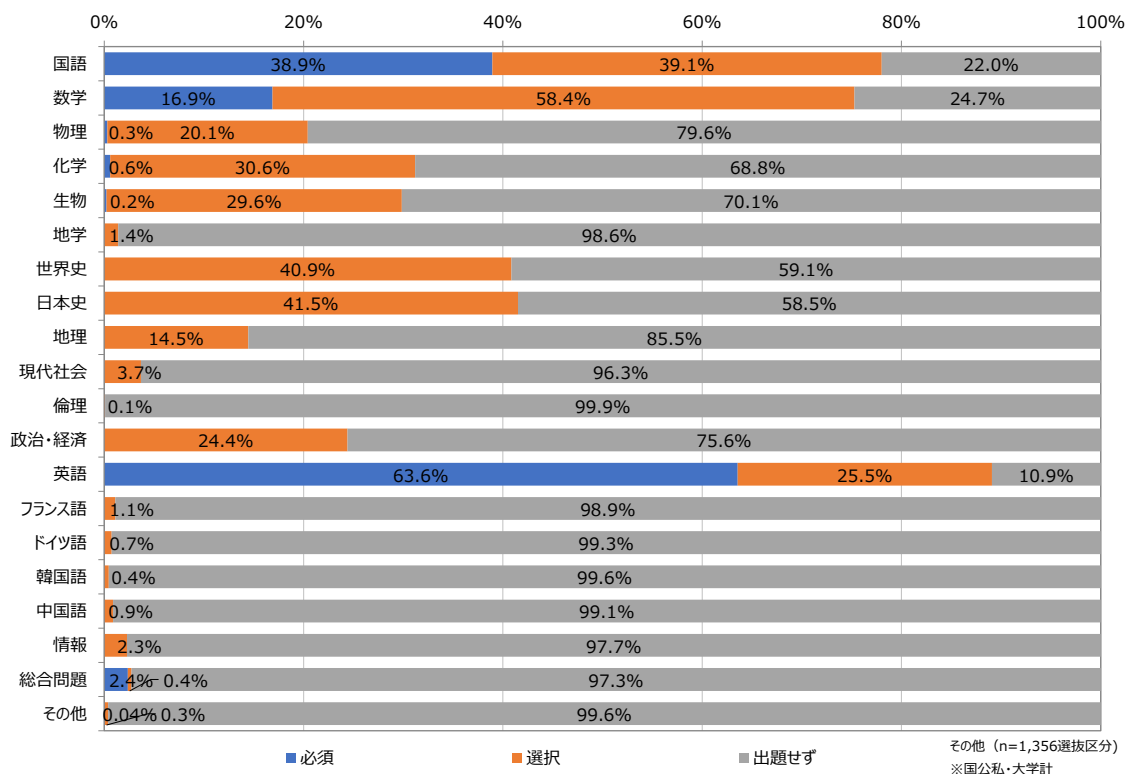
図表 5-42 一般選抜での個別学力検査における各科目の出題状況
(短期大学・学科系統分類別／芸術)



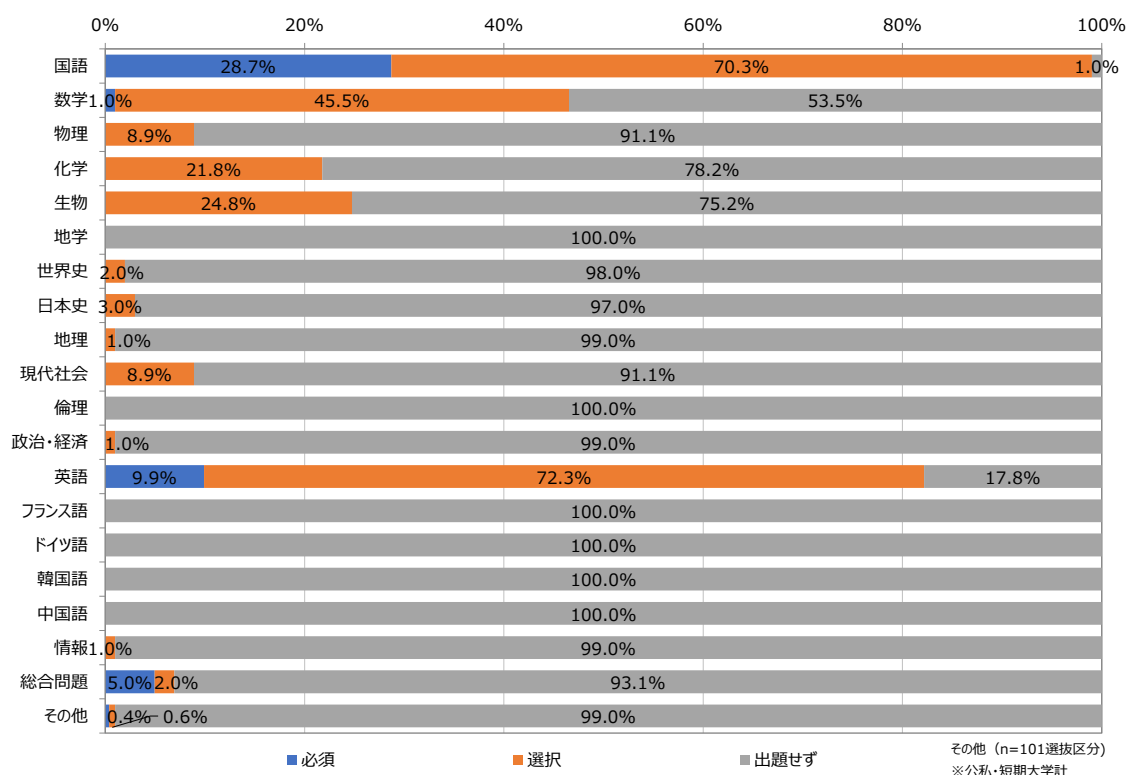
5-20 一般選抜での個別学力検査における各科目の出題状況（学科系統分類別／その他）

大学のその他の学科において、一般選抜で個別学力検査を課す選抜区分では、英語（必須＋選択 89.1%）、国語（同 78.0%）、数学（同 75.3%）を出題する選抜区分が多い。

図表 5-43 一般選抜での個別学力検査における各科目の出題状況
（大学・学科系統分類別／その他）



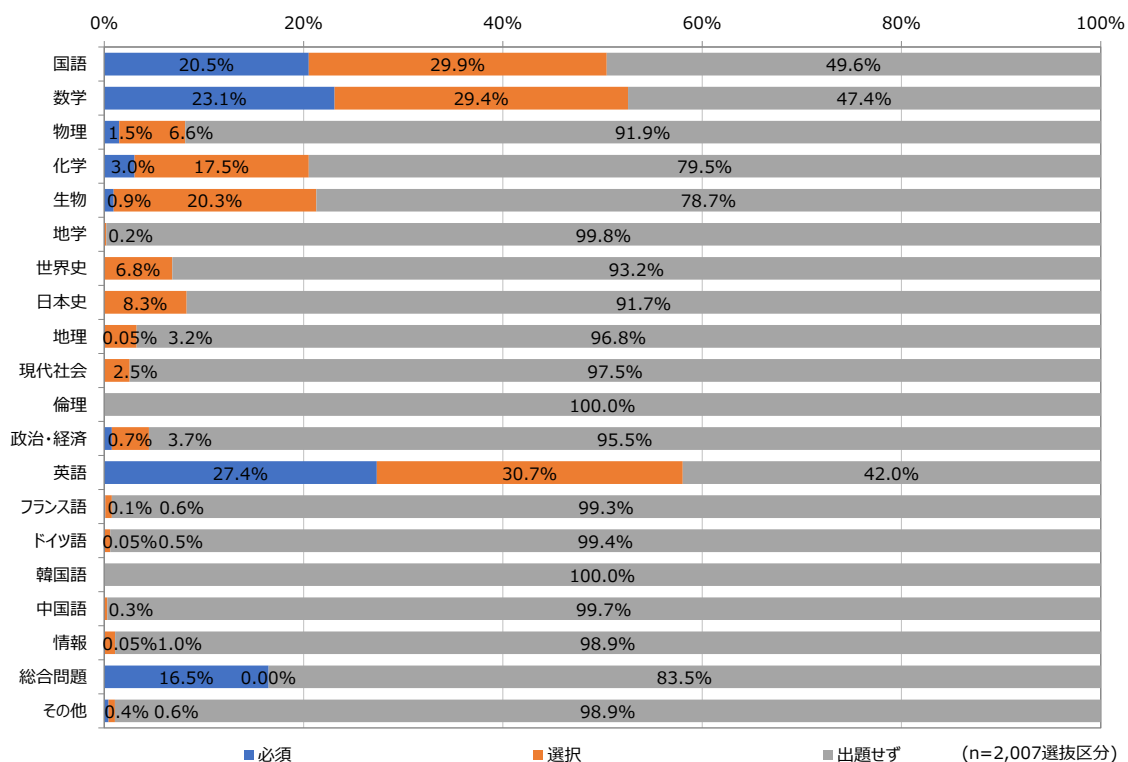
図表 5-44 一般選抜での個別学力検査における各科目の出題状況
(短期大学・学科系統分類別／その他)



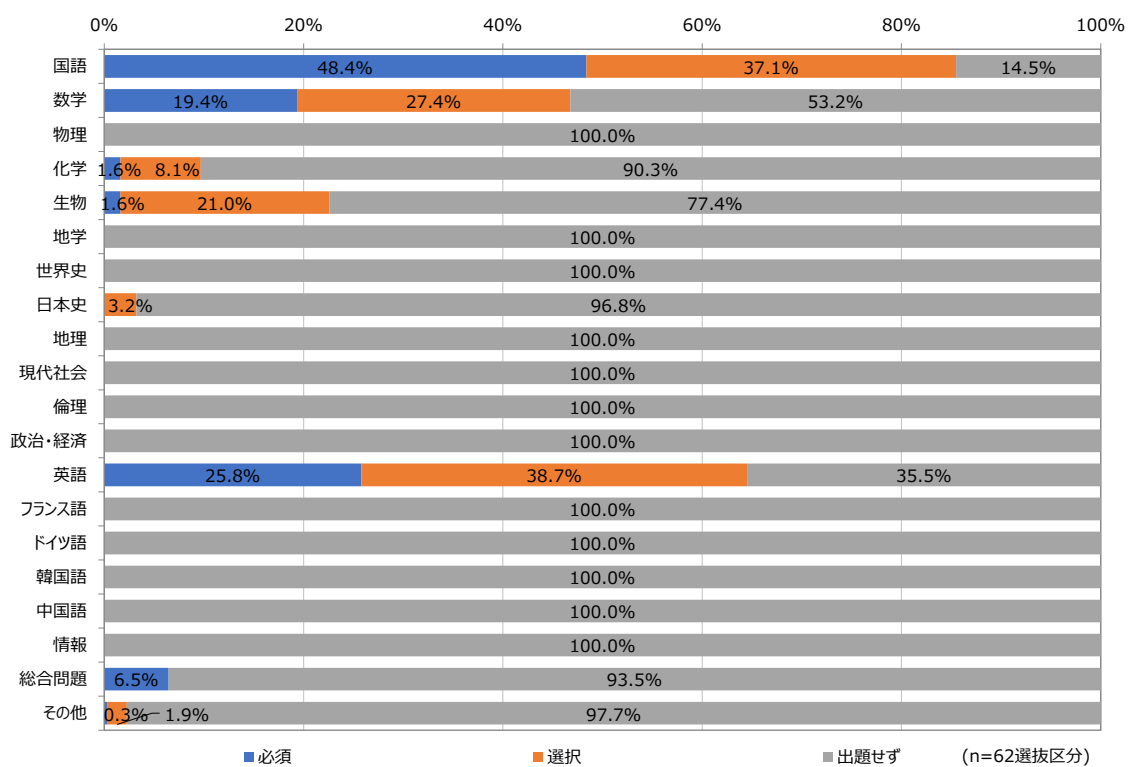
5-21 総合型選抜での個別学力検査における各科目の出題状況

大学の総合型選抜で個別学力検査を課す選抜区分では、英語（必須＋選択 58.1%）、数学（同 52.5%）、国語（同 50.4%）を出題する選抜区分が多い。

図表 5-45 総合型選抜での個別学力検査における各科目の出題状況（大学）



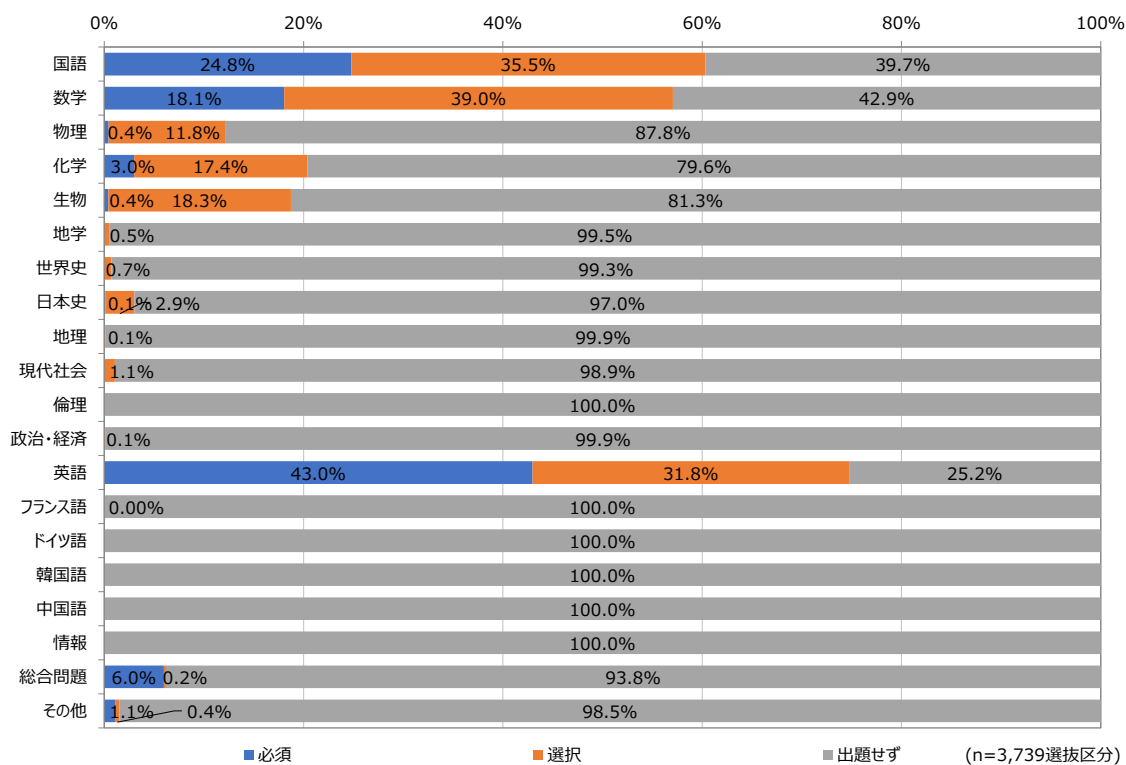
図表 5-46 総合型選抜での個別学力検査における各科目の出題状況（短期大学）



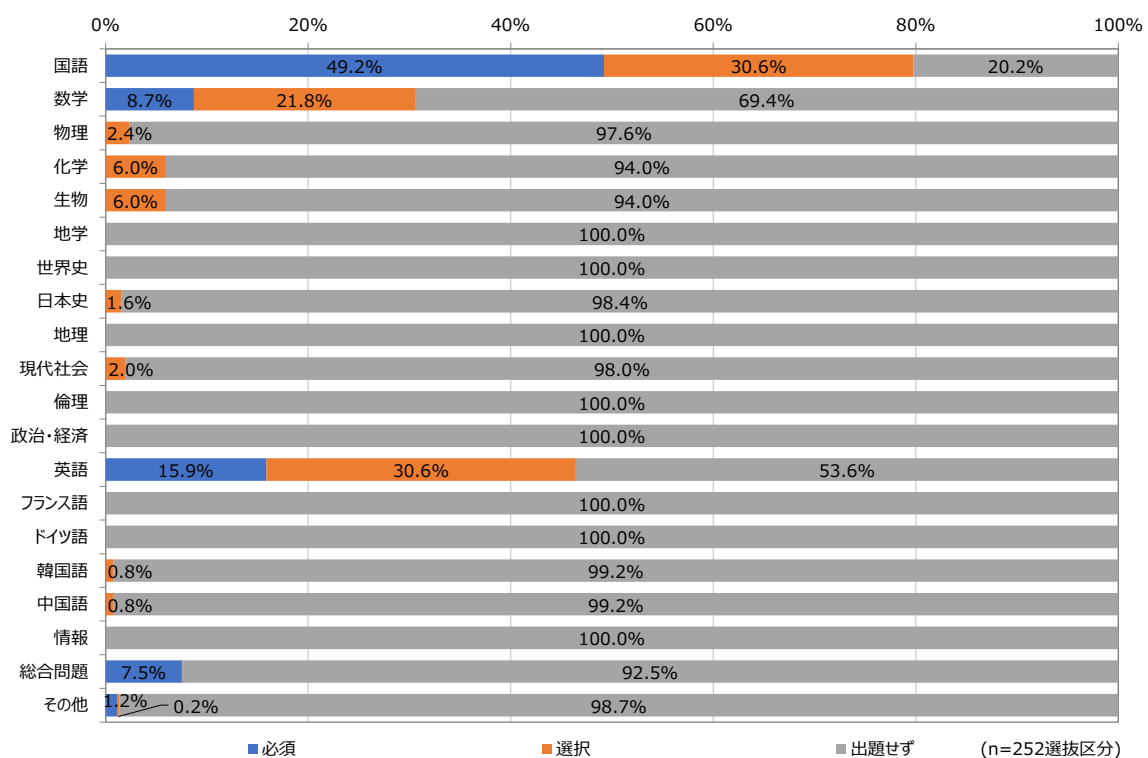
5-22 学校推薦型選抜での個別学力検査における各科目の出題状況

大学の学校推薦型選抜で個別学力検査を課す選抜区分では、英語（必須＋選択 74.8%）、国語（同 60.3%）、数学（同 57.1%）を出題する選抜区分が多い。

図表 5-47 学校推薦型選抜での個別学力検査における各科目の出題状況（大学）



図表 5-48 学校推薦型選抜での個別学力検査における各科目の出題状況（短期大学）

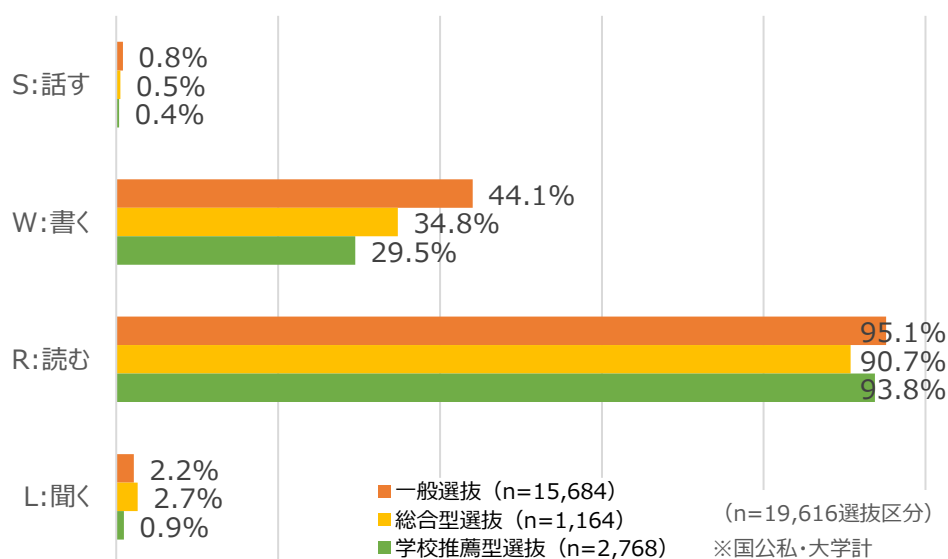


5-23 英語に係る技能別の出題の有無（国公私）

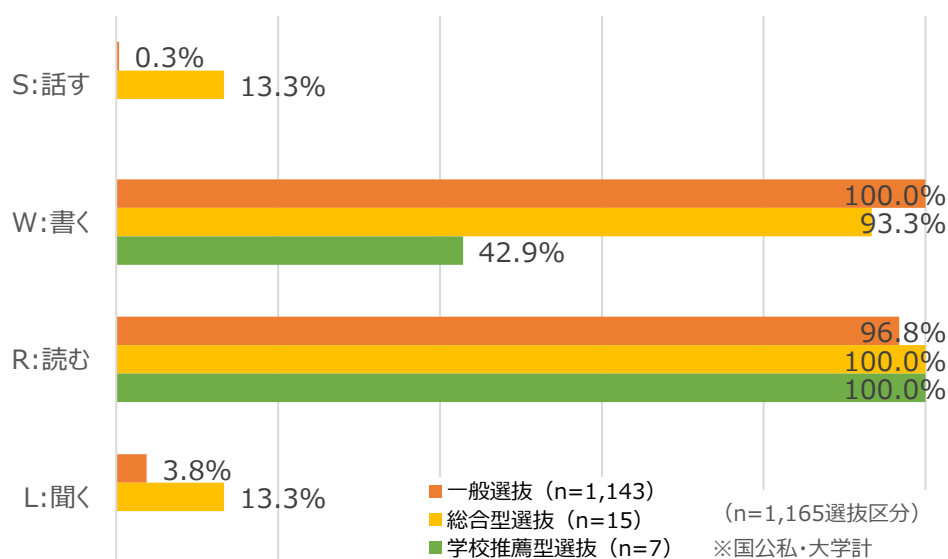
大学の一般選抜の個別学力検査において「英語」を出題している選抜区分では、「読むこと」を 95.1%、「書くこと（例：英語による記述式問題、論述問題等）」を 44.1%、「聞くこと（例：リスニングテスト）」を 2.2%、「話すこと（例：スピーキングテスト）」を 0.8%の選抜区分で出題している。

※このほか、英語資格・検定試験の活用の実態については、第 6 章参照。

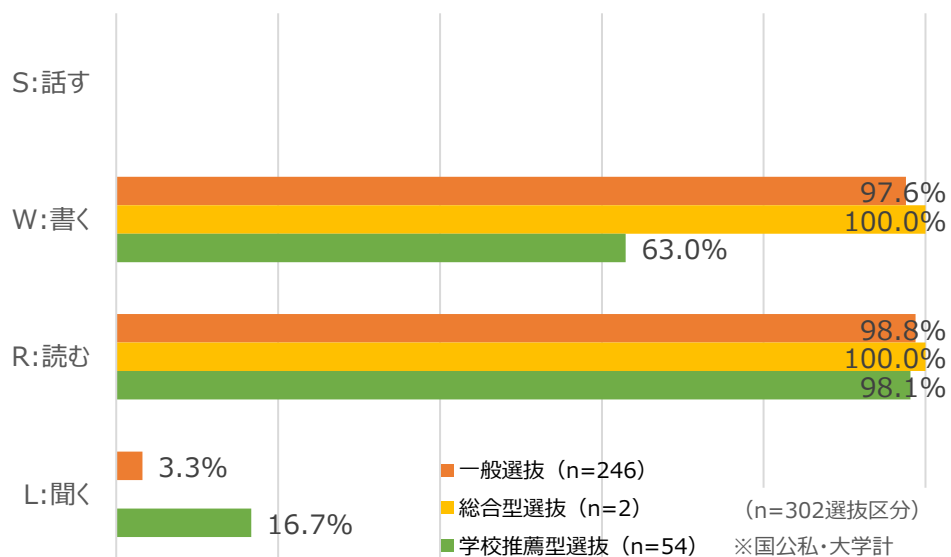
図表 5-49 英語に係る技能別の出題の有無（大学全体）



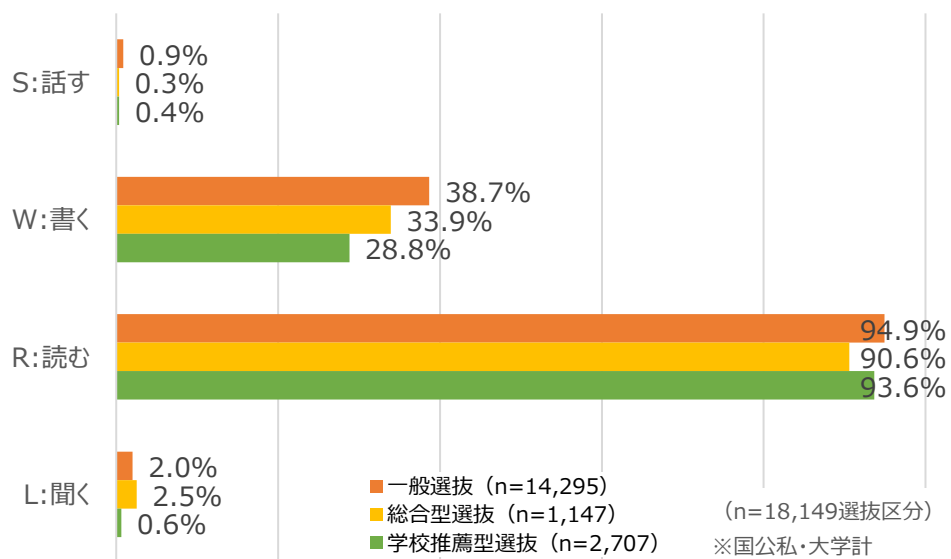
図表 5-50 英語に係る技能別の出題の有無（国立大学）



図表 5-51 英語に係る技能別の出題の有無（公立大学）



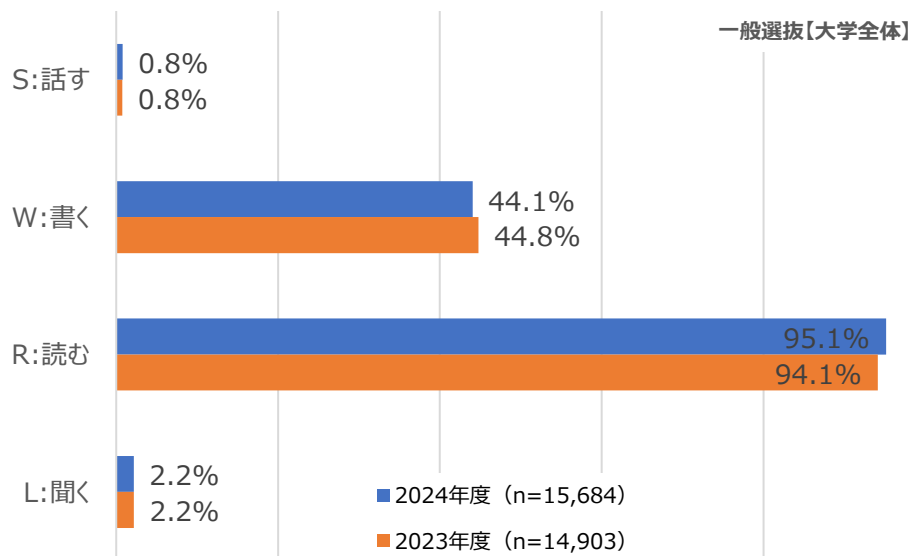
図表 5-52 英語に係る技能別の出題の有無（私立大学）



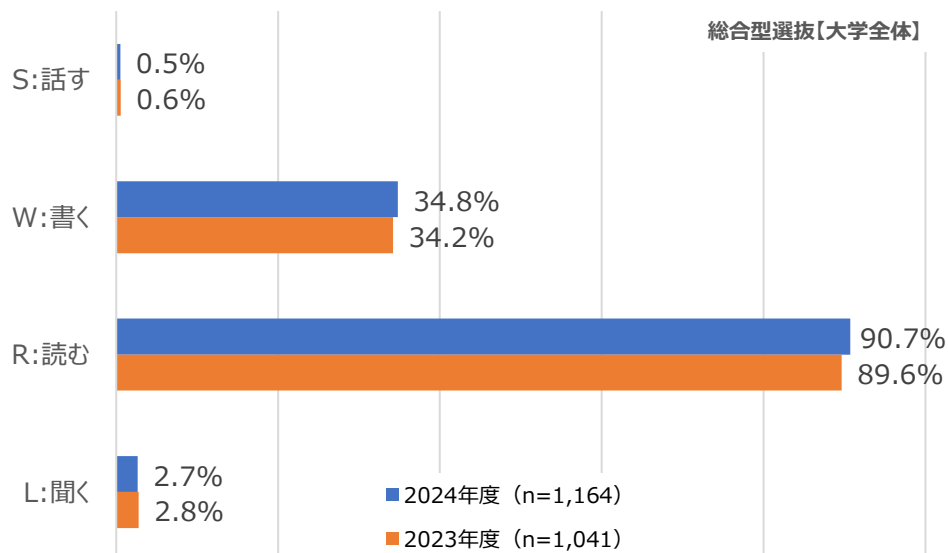
【前回調査との比較】

英語に係る技能別の出題の有無について、前回調査と比較すると、私立大学の各選抜方法いずれも、「読む」の割合が前回を上回っている。

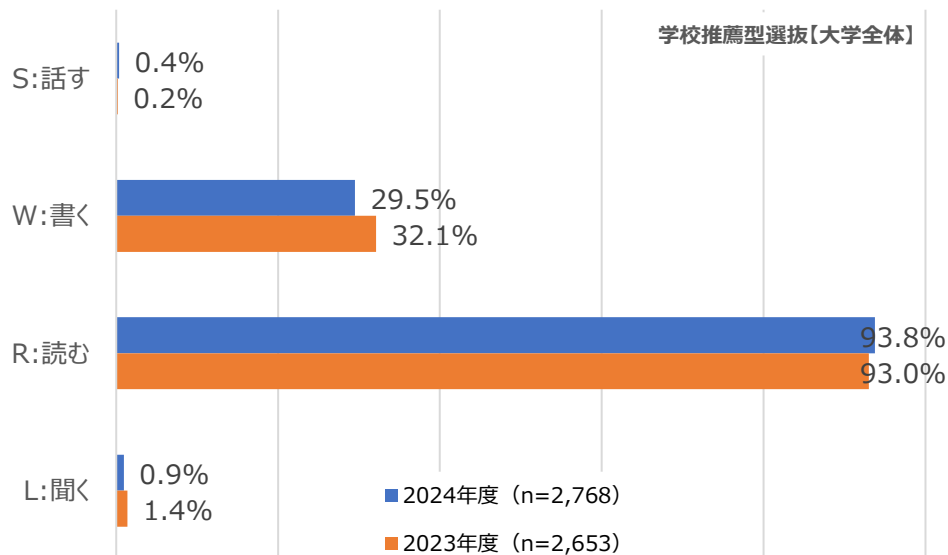
図表 5-53 【前回調査との比較】英語に係る技能別の出題の有無
(大学全体・一般選抜)



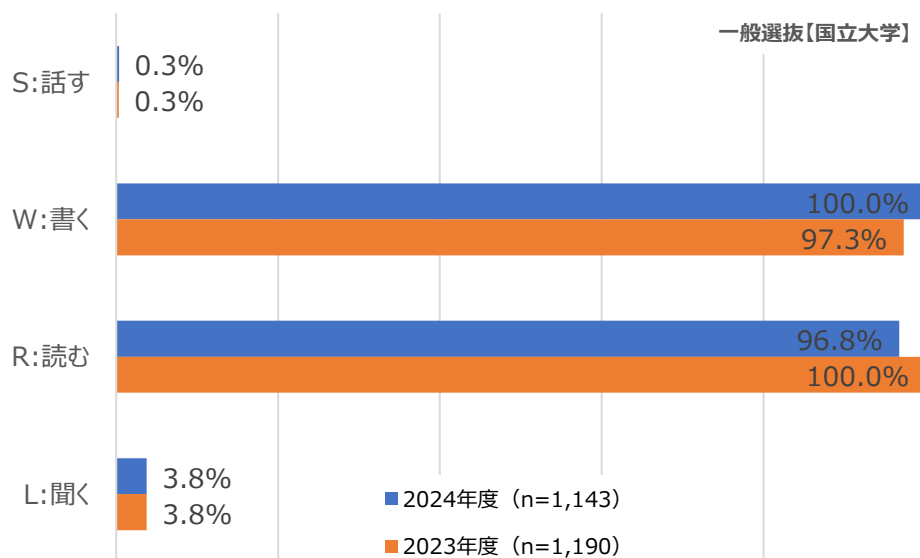
図表 5-54 【前回調査との比較】英語に係る技能別の出題の有無
(大学全体・総合型選抜)



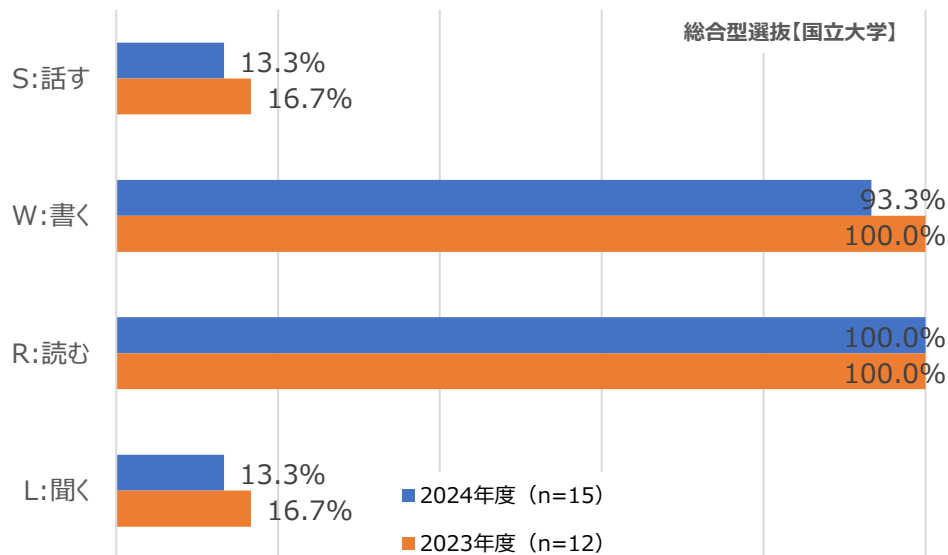
図表 5-55 【前回調査との比較】英語に係る技能別の出題の有無
(大学全体・学校推薦型選抜)



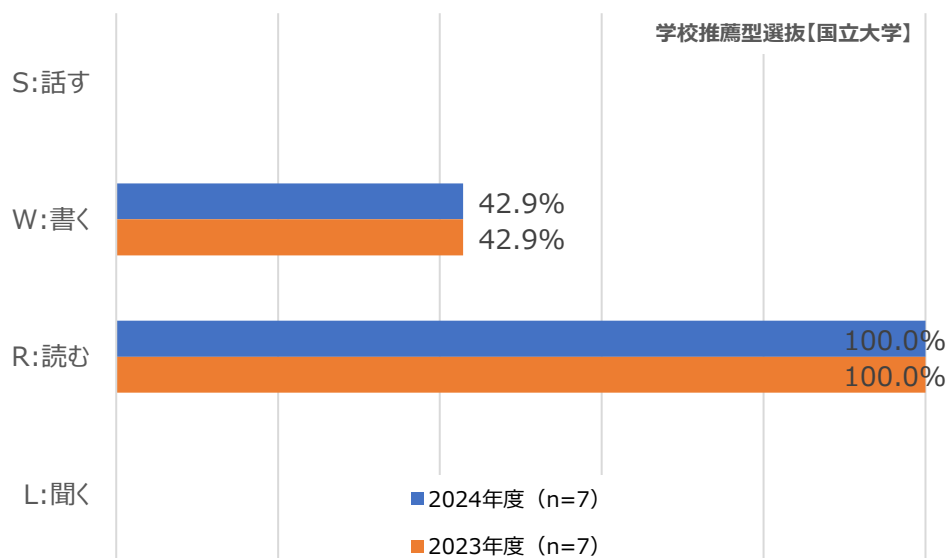
図表 5-56 【前回調査との比較】英語に係る技能別の出題の有無
(国立大学・一般選抜)



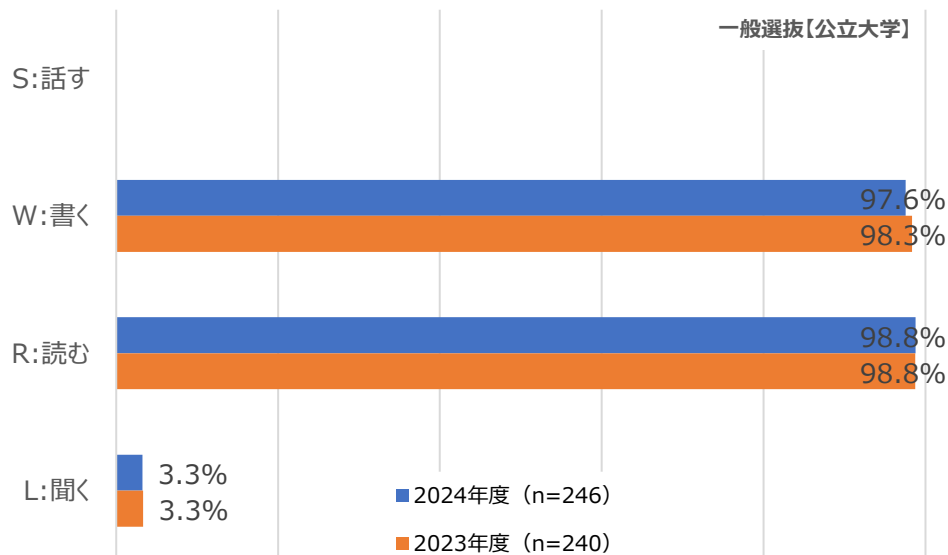
図表 5-57 【前回調査との比較】英語に係る技能別の出題の有無
(国立大学・総合型選抜)



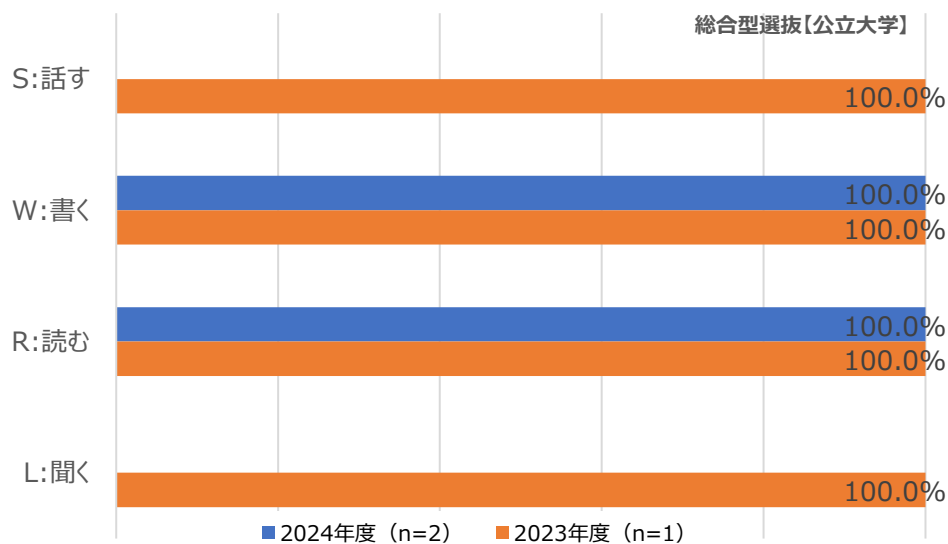
図表 5-58 【前回調査との比較】英語に係る技能別の出題の有無
(国立大学・学校推薦型選抜)



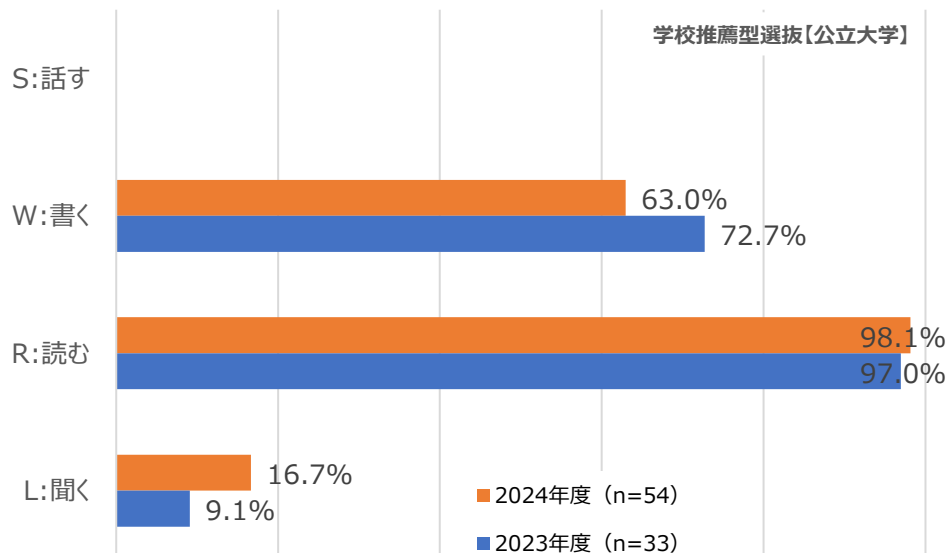
図表 5-59 【前回調査との比較】英語に係る技能別の出題の有無
(公立大学・一般選抜)



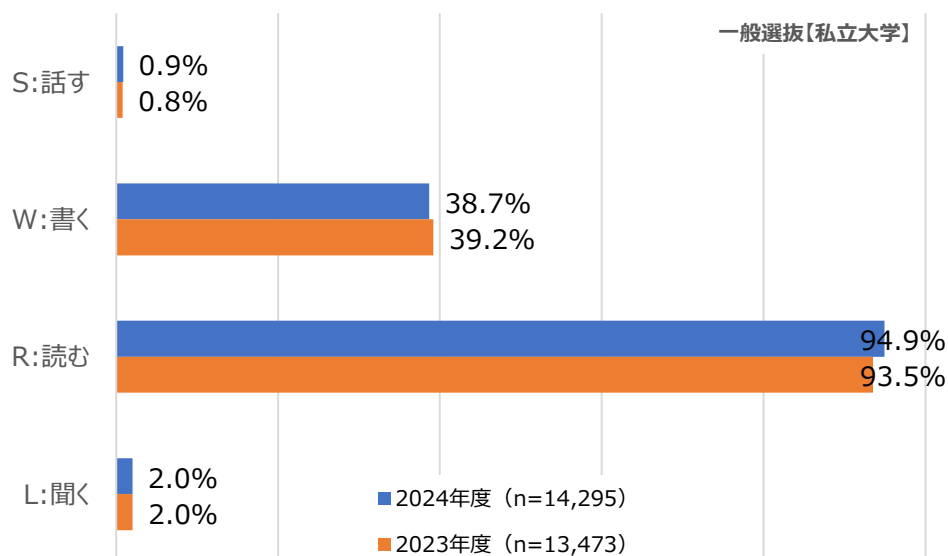
図表 5-60 【前回調査との比較】英語に係る技能別の出題の有無
(公立大学・総合型選抜)



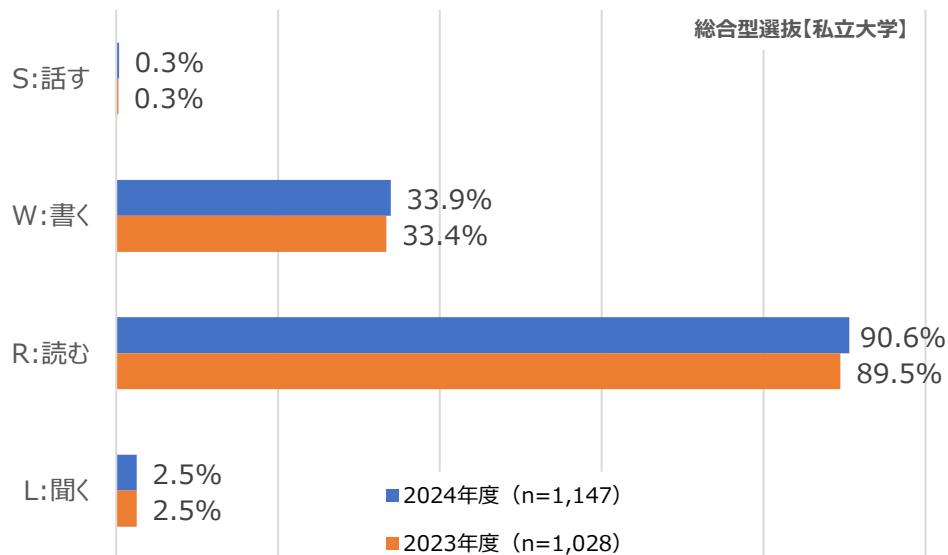
図表 5-61 【前回調査との比較】英語に係る技能別の出題の有無
(公立大学・学校推薦型選抜)



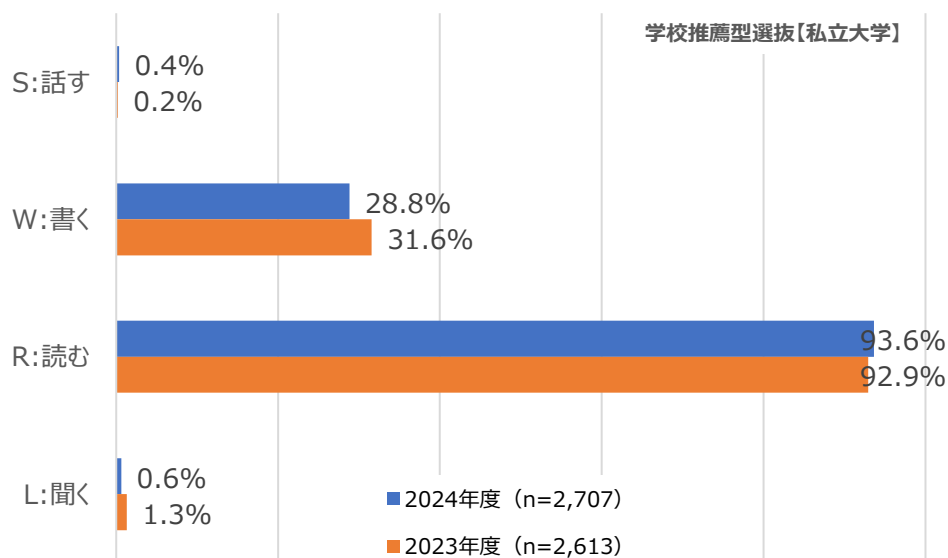
図表 5-62 【前回調査との比較】英語に係る技能別の出題の有無
(私立大学・一般選抜)



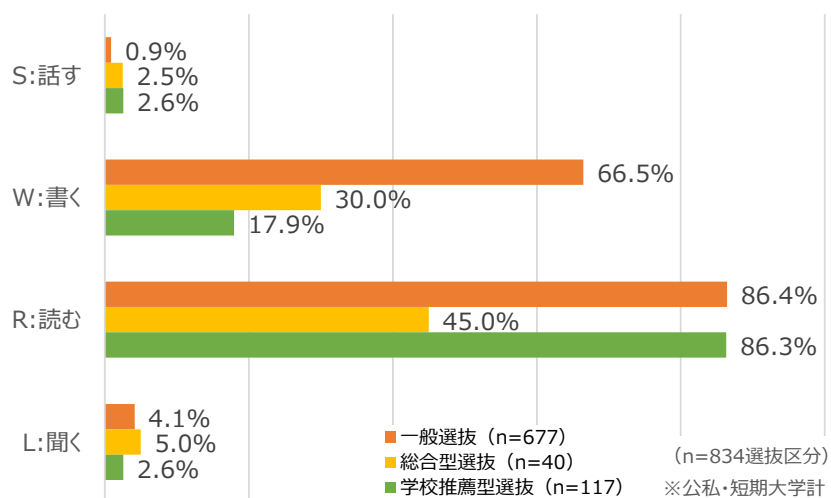
図表 5-63 【前回調査との比較】英語に係る技能別の出題の有無
(私立大学・総合型選抜)



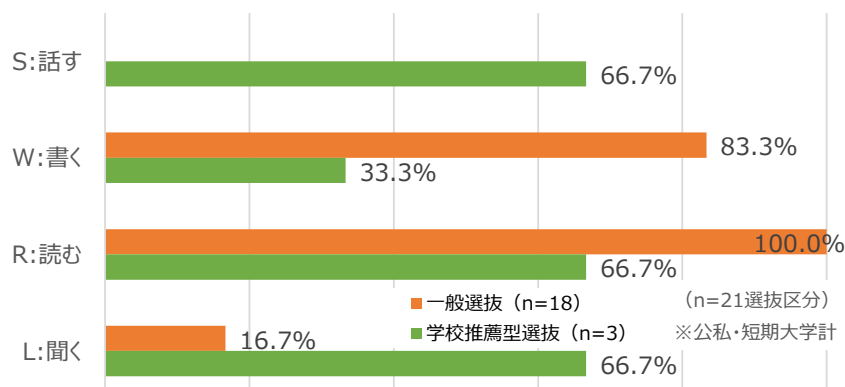
図表 5-64 【前回調査との比較】英語に係る技能別の出題の有無
(私立大学・学校推薦型選抜)



図表 5-65 英語に係る技能別の出題の有無（短期大学全体）

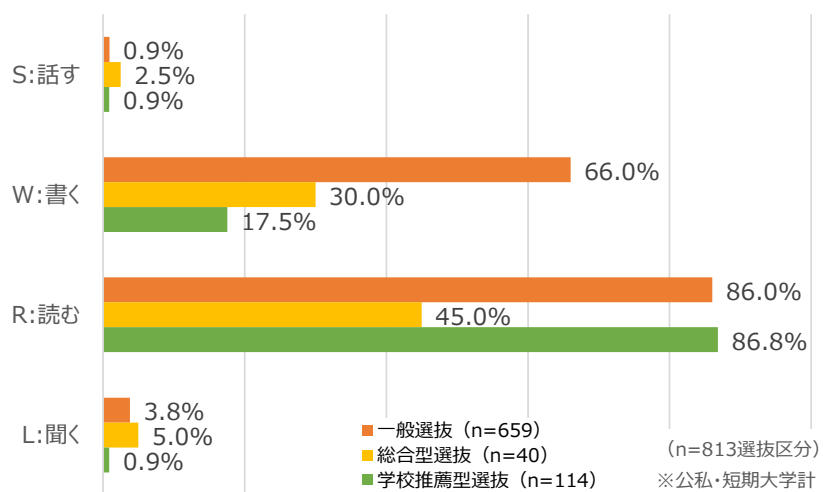


図表 5-66 英語に係る技能別の出題の有無（公立短期大学）



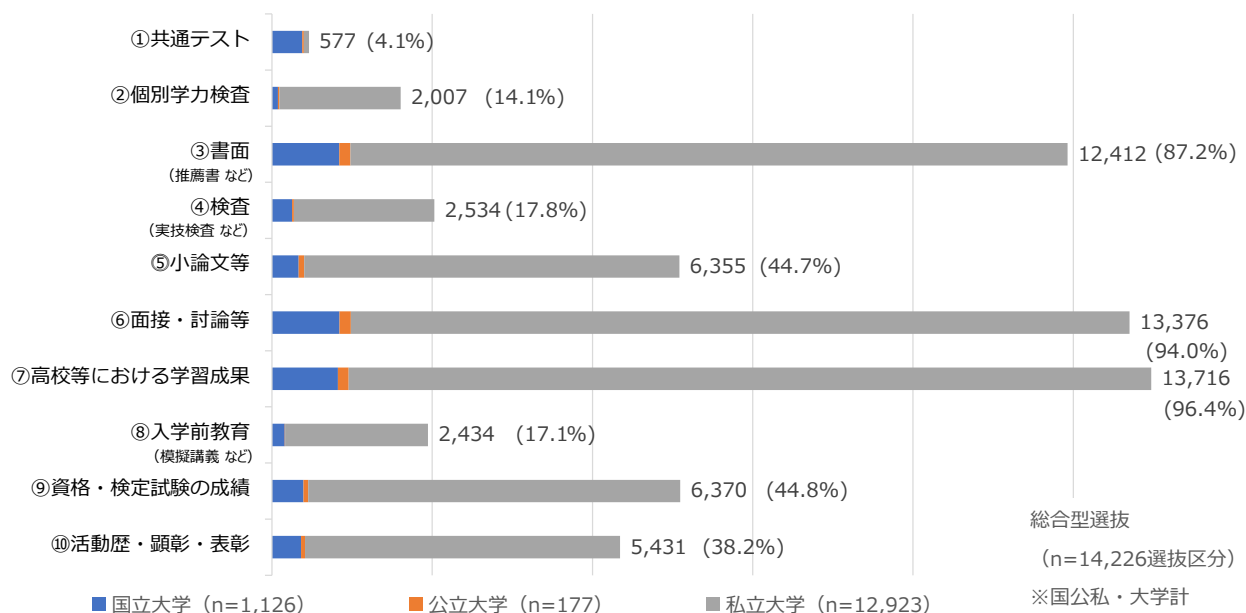
※公立短期大学は、総合型選抜において英語に係る技能別の出願はなし

図表 5-67 英語に係る技能別の出題の有無（私立短期大学）

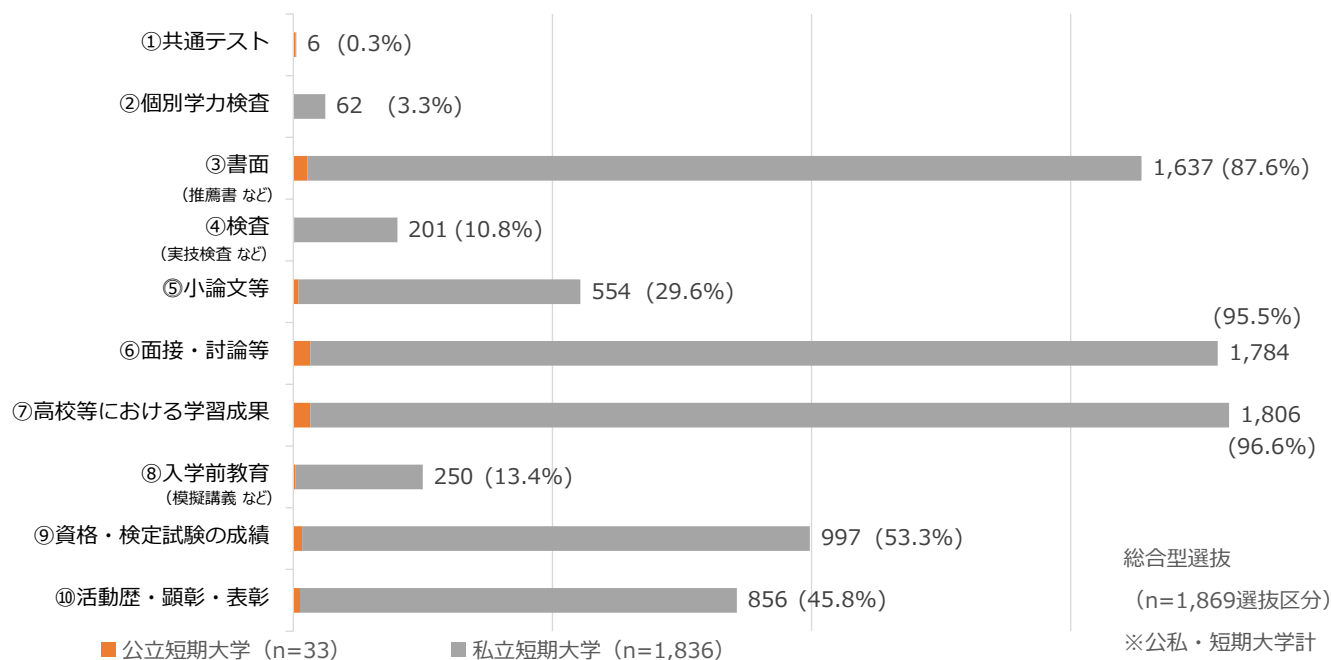


5-24 総合型選抜における学力把握措置

図表 5-68 総合型選抜における学力把握措置（大学・複数回答）



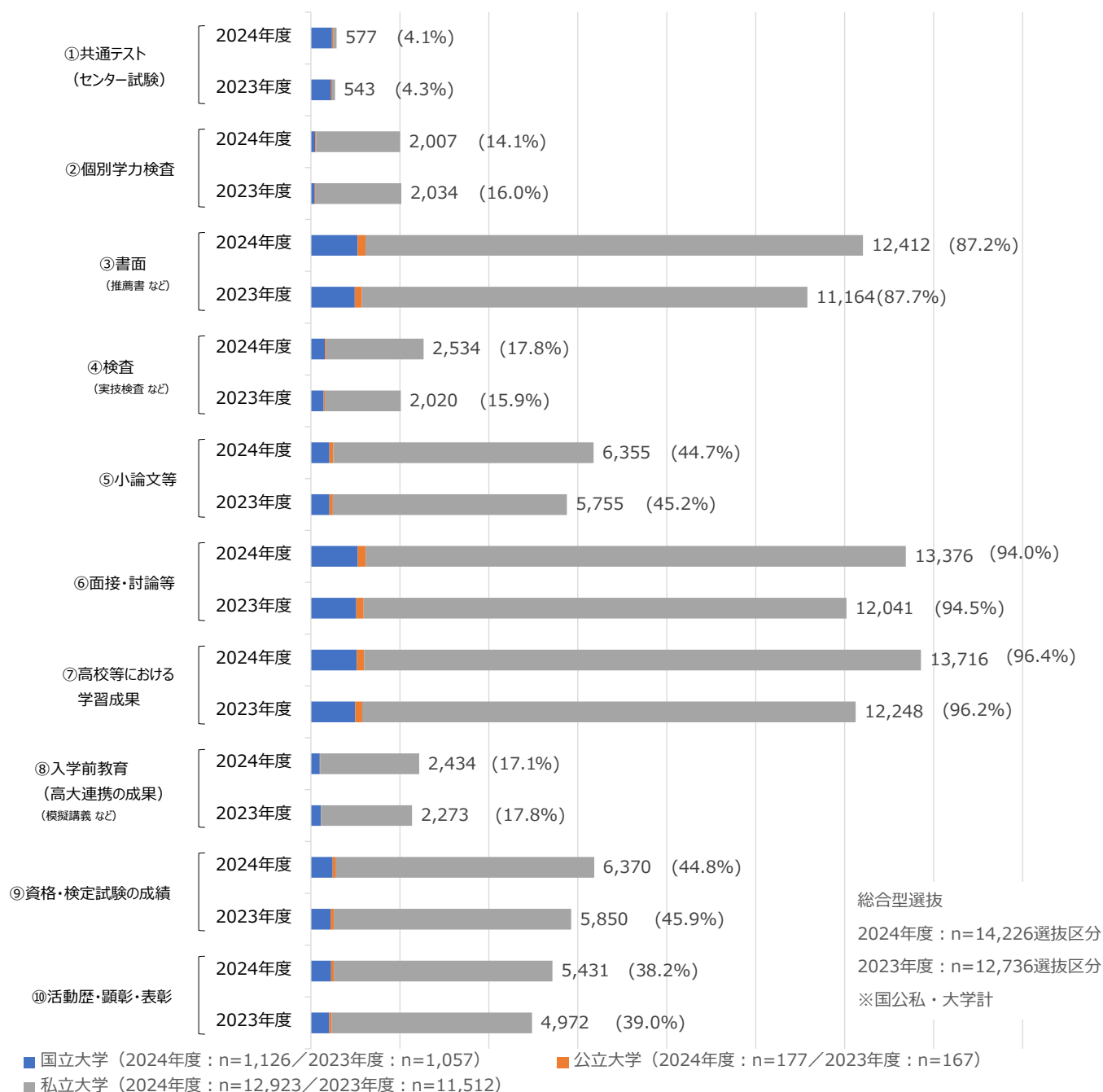
図表 5-69 総合型選抜における学力把握措置（短期大学・複数回答）



【前回調査との比較】

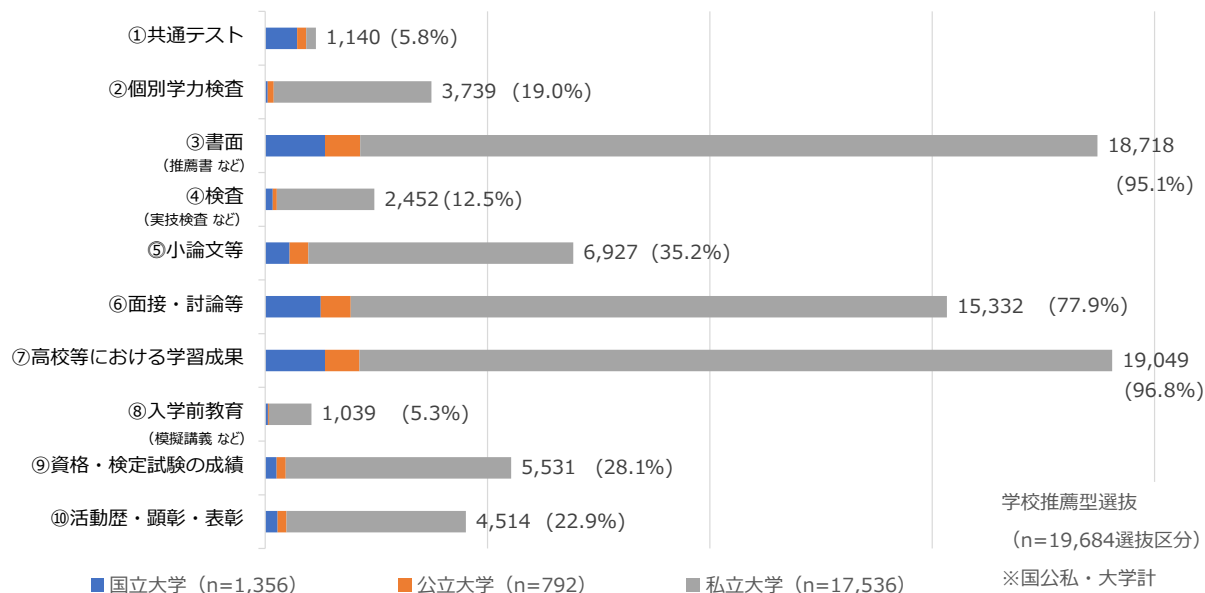
大学の総合型選抜における学力把握措置について、前回調査と比較すると、「③書面」、「⑥面接・討論等」、「⑦高校等における学習成果」等の選抜区分数が増加している。

図表 5-70 【前回調査との比較】総合型選抜における学力把握措置

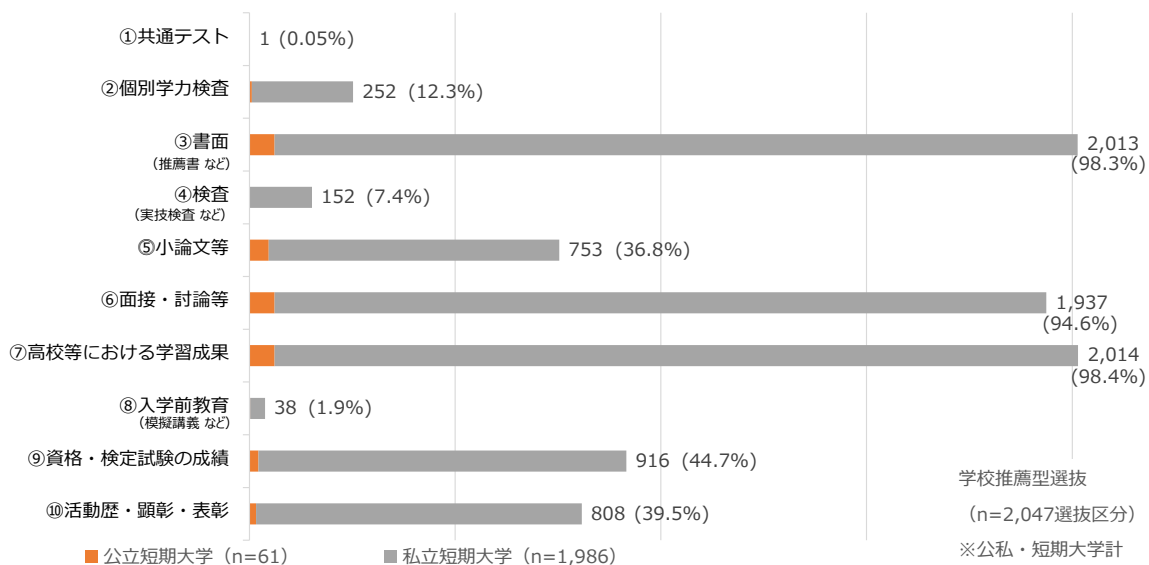


5-25 学校推薦型選抜における学力把握措置

図表 5-71 学校推薦型選抜における学力把握措置（大学・複数回答）



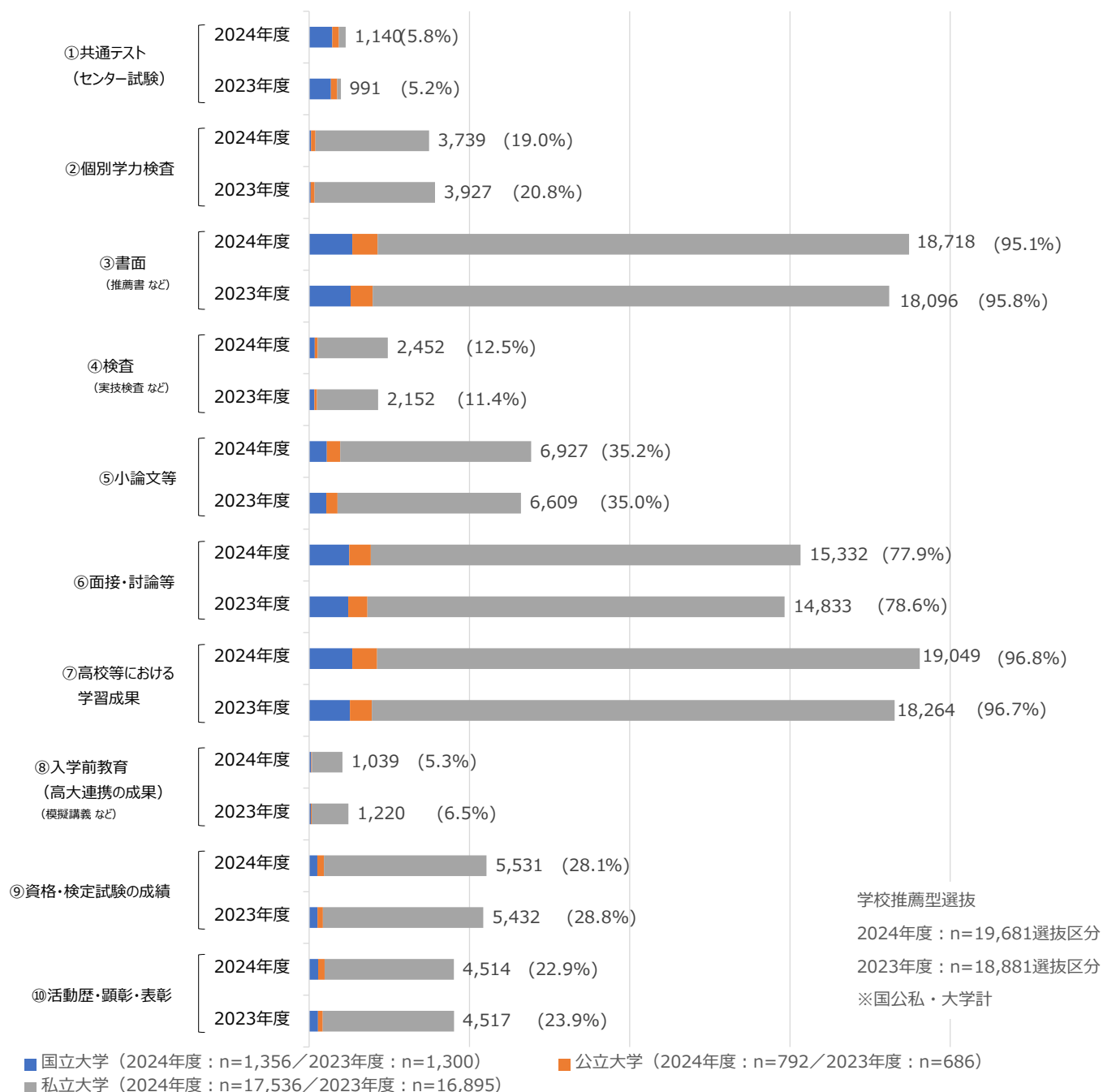
図表 5-72 学校推薦型選抜における学力把握措置（短期大学・複数回答）



【前回調査との比較】

大学の学校推薦型選抜における学力把握措置について、前回調査と比較すると、「③書面」、「⑥面接・討論等」、「⑦高校等における学習成果」等の選抜区分数が増加している。

図表 5-73 【前回調査との比較】学校推薦型選抜における学力把握措置



5-26 学力検査以外に考慮する資料等の利用率（書面）

大学において、推薦書等を利用(※)する選抜区分は、一般選抜が 0.8%、総合型選抜が 14.7%、学校推薦型選抜が 91.0%である。

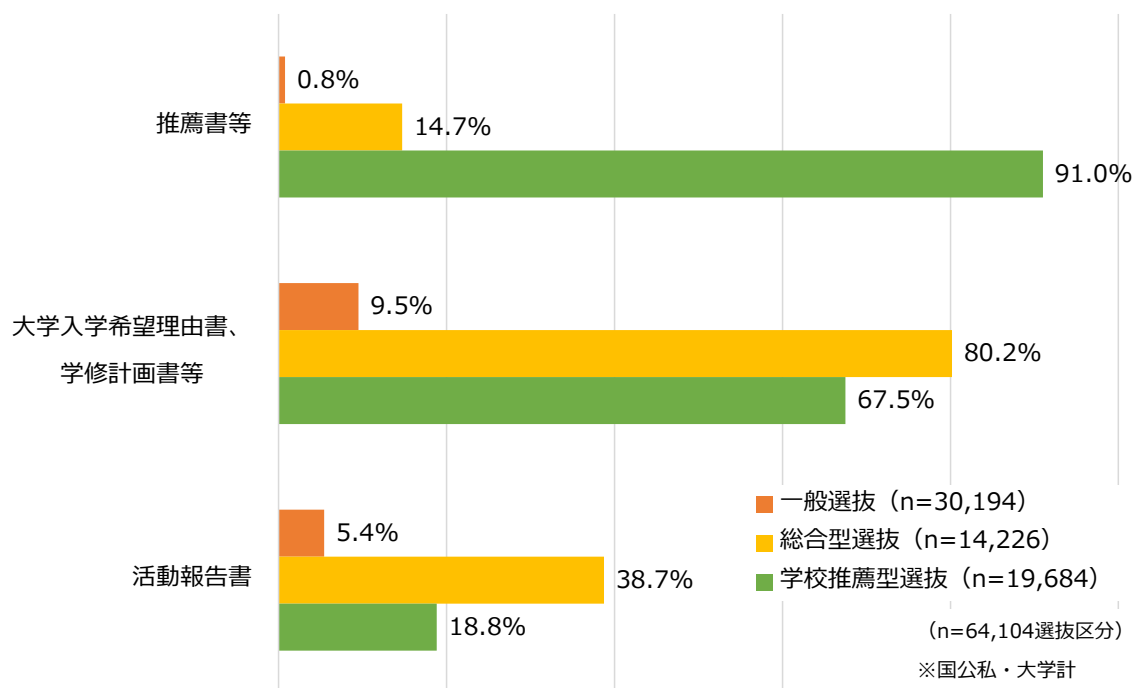
大学入学希望理由書、学習計画書等を利用する選抜区分は、一般選抜が 9.5%、総合型選抜が 80.2%、学校推薦型選抜が 67.5%である。

活動報告書を利用する選抜区分は、一般選抜が 5.4%、総合型選抜が 38.7%、学校推薦型選抜が 18.8%である。

※利用とは、当該資料を加点や換算を含む得点化、総合評価、参考資料、出願資格として扱うことを指す（以下同じ）。

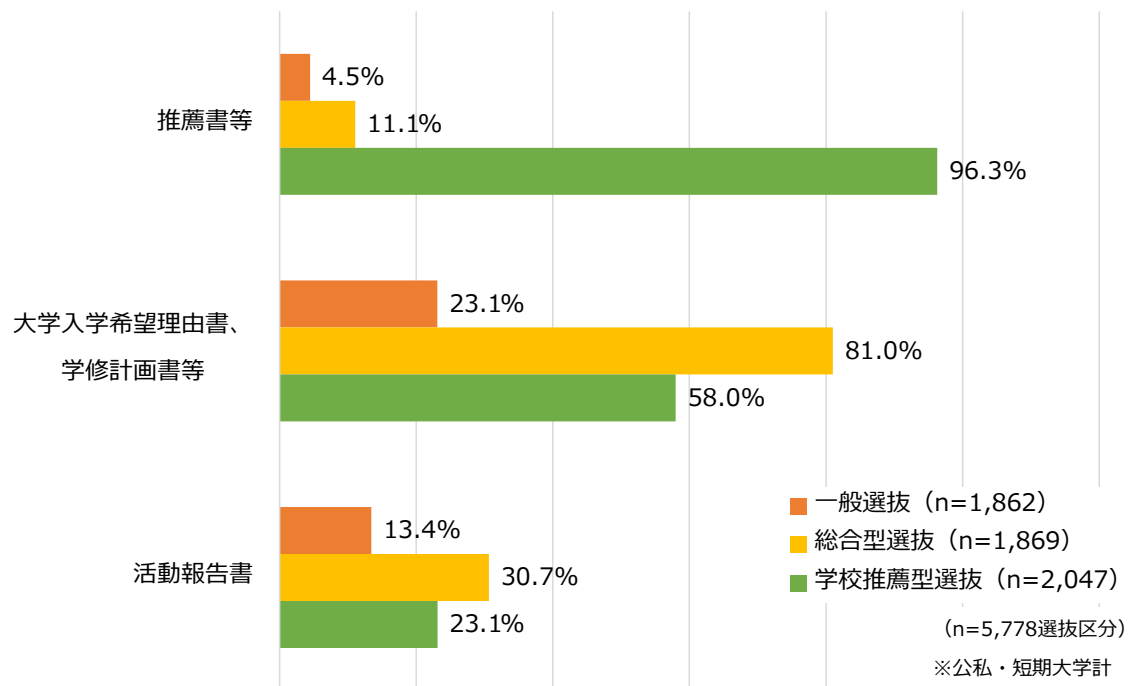
図表 5-74 学力検査以外に考慮する資料等の利用率（書面）

（大学・複数回答）



図表 5-75 学力検査以外に考慮する資料等の利用率（書面）

（短期大学・複数回答）



5-27 学力検査以外に考慮する資料等の利用率（検査）

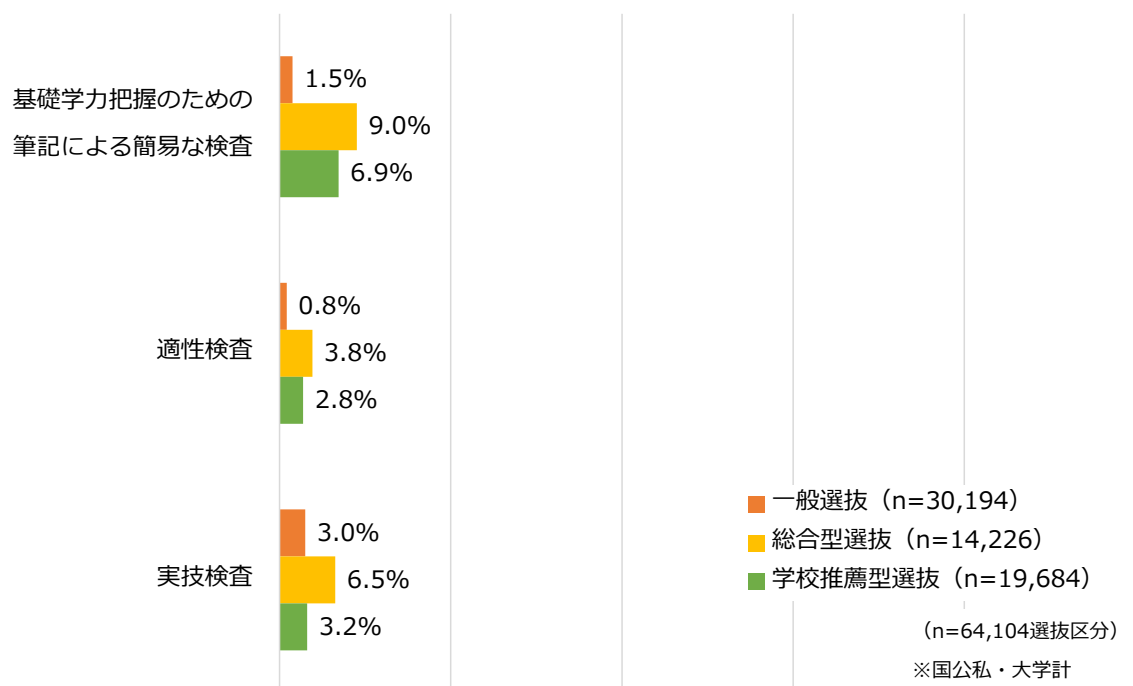
大学において、基礎学力把握のための筆記による簡易な検査を利用する選抜区分は、一般選抜が 1.5%、総合型選抜が 9.0%、学校推薦型選抜が 6.9%である。

適性検査を利用する選抜区分は、一般選抜が 0.8%、総合型選抜が 3.8%、学校推薦型選抜が 2.8%である。

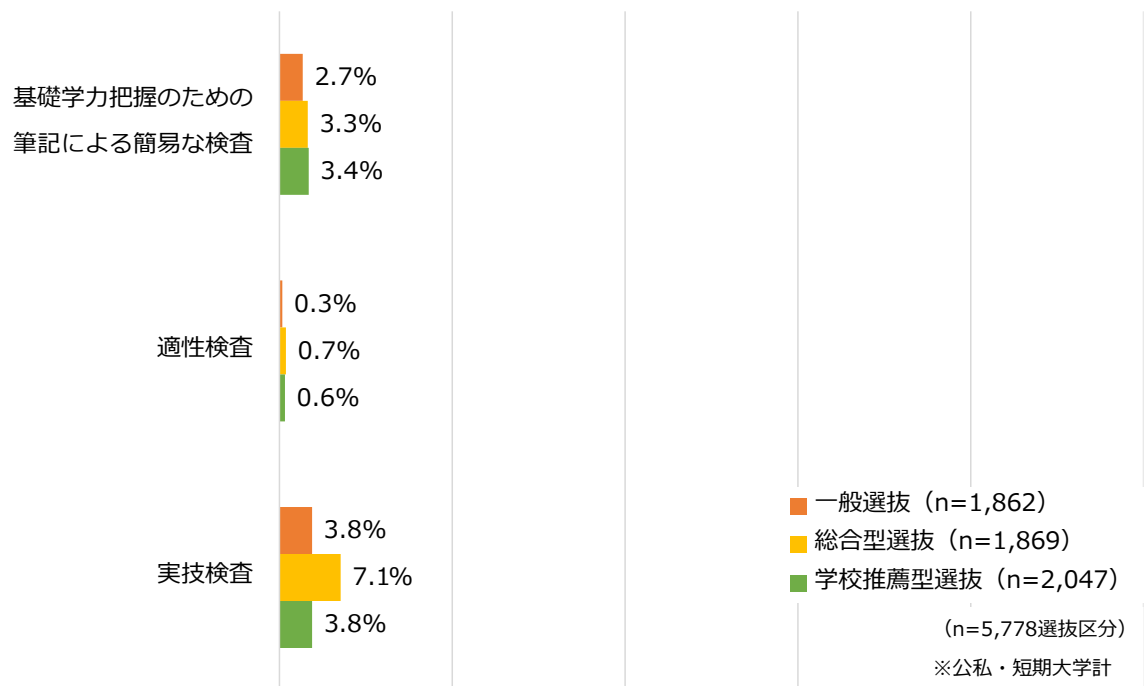
実技検査を利用する選抜区分は、一般選抜が 3.0%、総合型選抜が 6.5%、学校推薦型選抜が 3.2%である。

図表 5-76 学力検査以外に考慮する資料等の利用率（検査）

（大学・複数回答）



図表 5-77 学力検査以外に考慮する資料等の利用率（検査）
（短期大学・複数回答）



5-28 学力検査以外に考慮する資料等の利用率（小論文等）

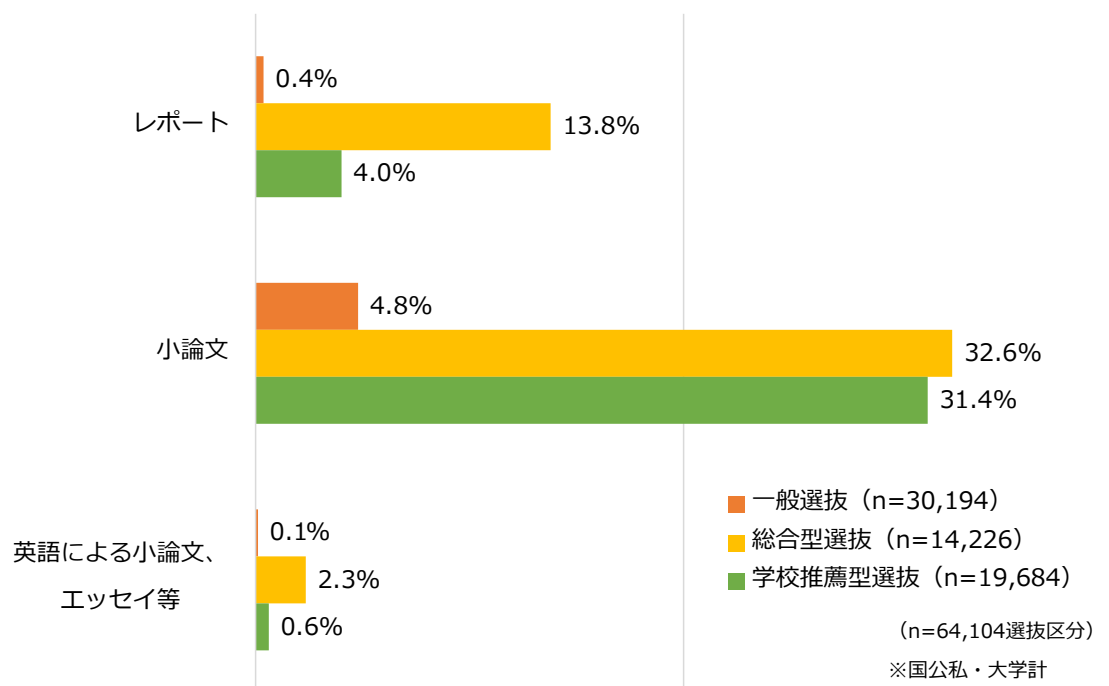
大学において、レポートを利用する選抜区分は、一般選抜が 0.4%、総合型選抜が 13.8%、学校推薦型選抜が 4.0%である。

小論文を利用する選抜区分は、一般選抜が 4.8%、総合型選抜が 32.6%、学校推薦型選抜が 31.4%である。

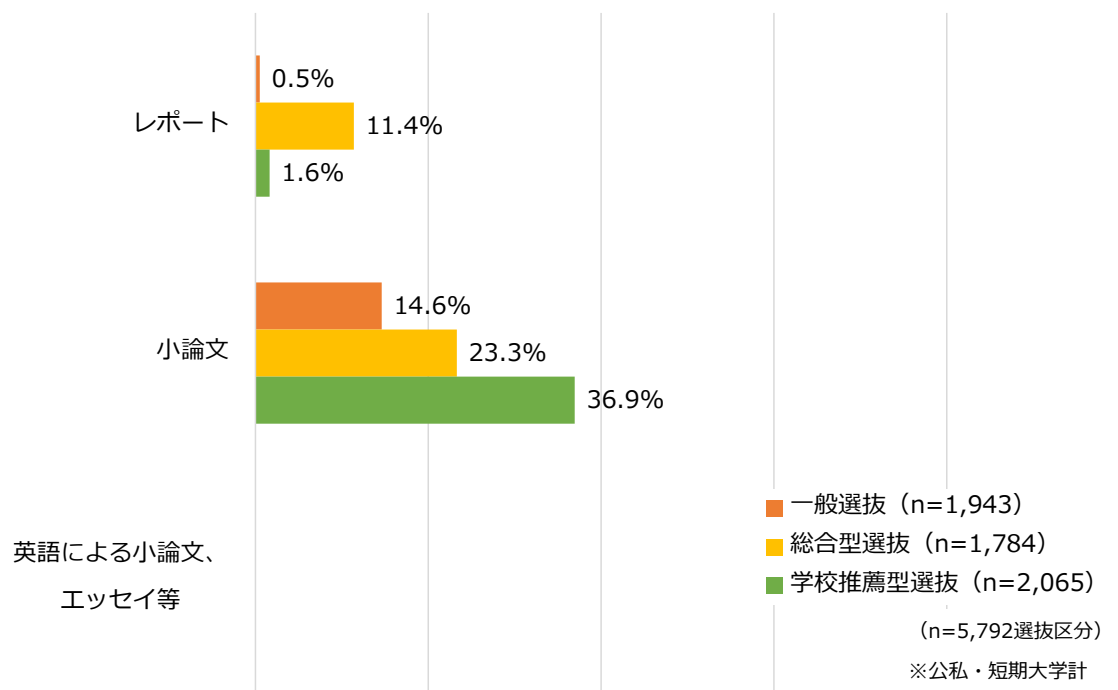
英語による小論文、エッセイ等を利用する選抜区分は、一般選抜が 0.1%、総合型選抜が 2.3%、学校推薦型選抜が 0.6%である。

図表 5-78 学力検査以外に考慮する資料等の利用率（小論文等）

（大学・複数回答）



図表 5-79 学力検査以外に考慮する資料等の利用率（小論文等）
（短期大学・複数回答）



※短期大学は、小論文、エッセイ等の利用について該当なし

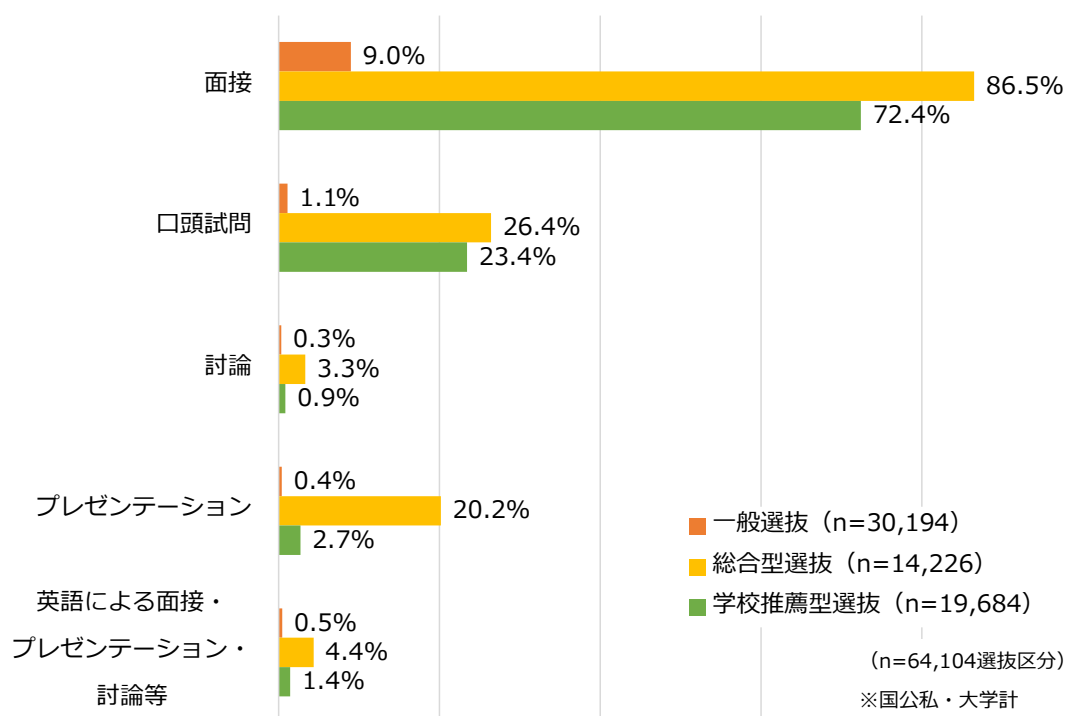
5-29 学力検査以外に考慮する資料等の利用率（面接・討論等）

大学において、面接を利用する選抜区分は、一般選抜が 9.0%、総合型選抜が 86.5%、学校推薦型選抜が 72.4%である。

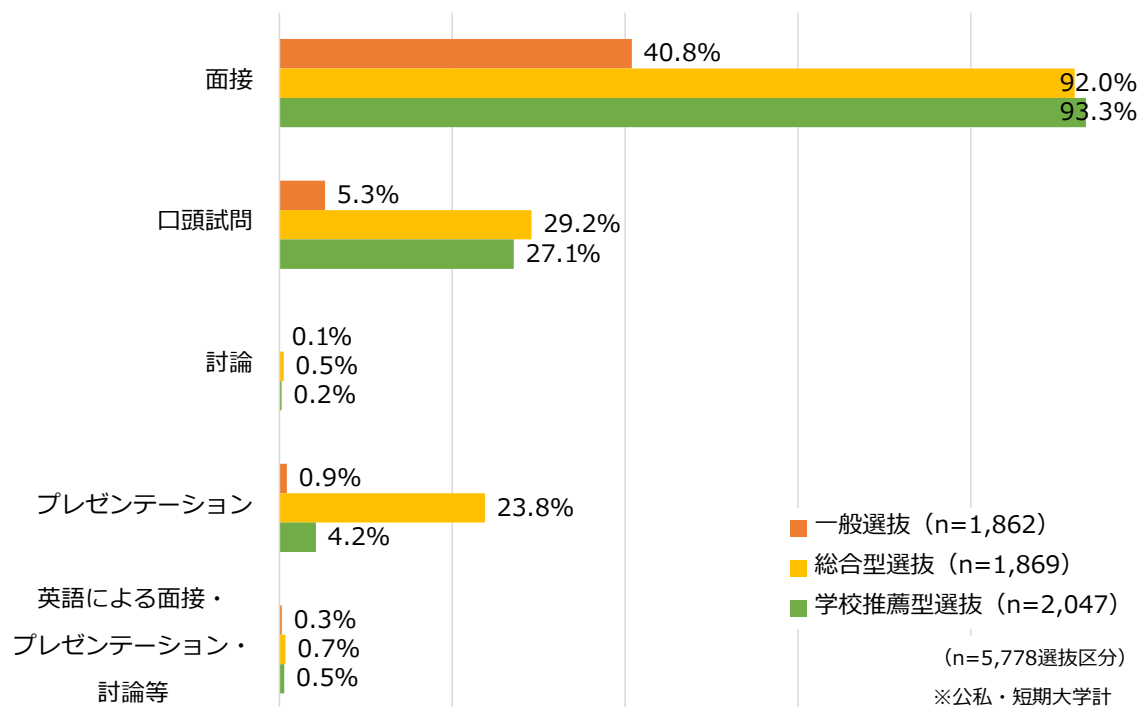
口頭試問を利用する選抜区分は、一般選抜が 1.1%、総合型選抜が 26.4%、学校推薦型選抜が 23.4%である。

討論、プレゼンテーションなどは、総合型選抜での利用が多い。

図表 5-80 学力検査以外に考慮する資料等の利用率（面接・討論等）
（大学・複数回答）



図表 5-81 学力検査以外に考慮する資料等の利用率（面接・討論等）
（短期大学・複数回答）



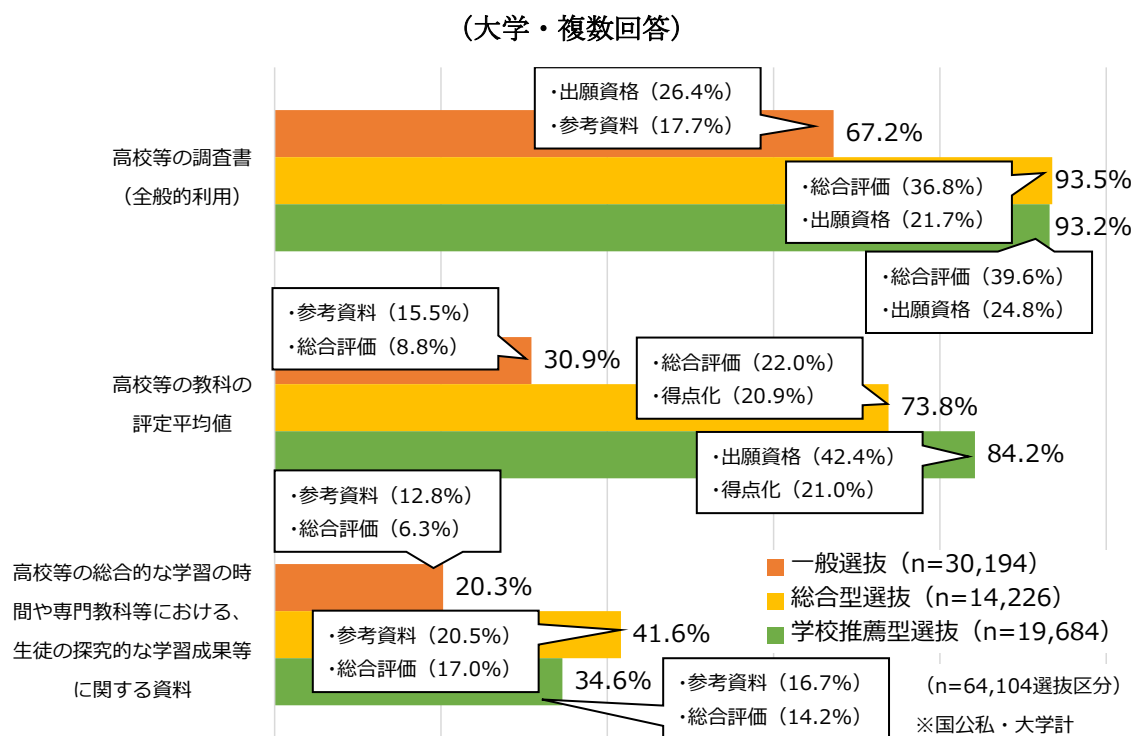
5-30 学力検査以外に考慮する資料等の利用率（高校等における学習成果）

大学において、高校の調査書を利用する選抜区分は、一般選抜が 67.2%、総合型選抜が 93.5%、学校推薦型選抜が 93.2%である。

調査書のうち教科の評定平均値を利用する選抜区分は、一般選抜が 30.9%、総合型選抜が 73.8%、学校推薦型選抜が 84.2%である。

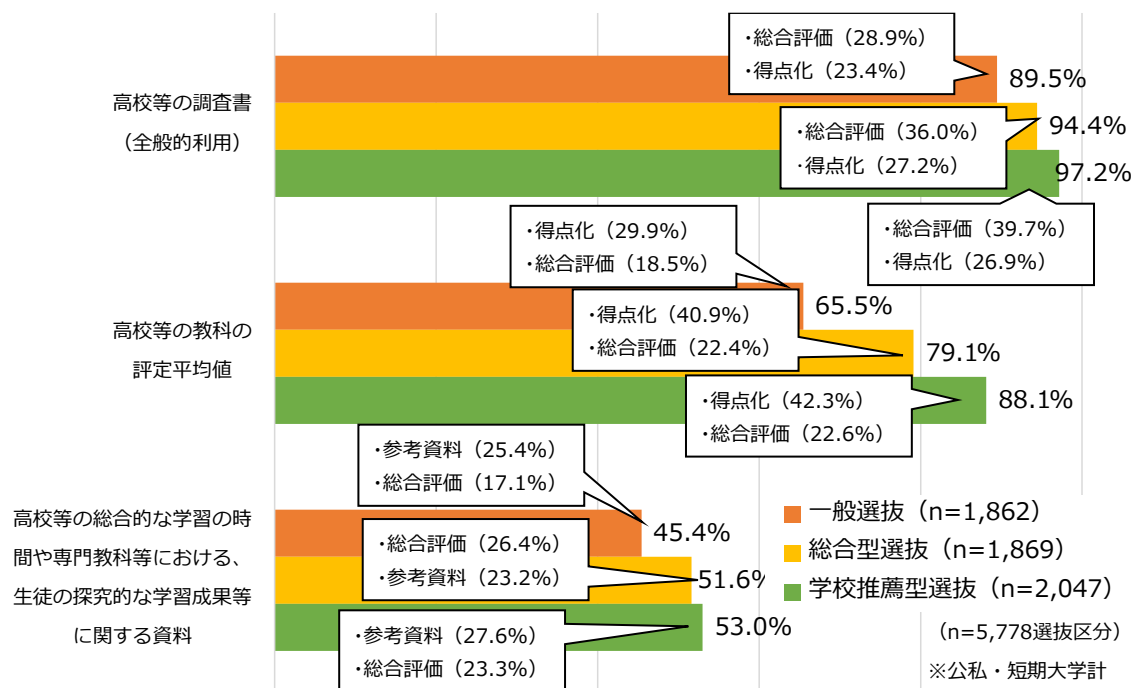
生徒の探究的な学習成果等に関する資料を利用する選抜区分は、一般選抜が 20.3%、総合型選抜が 41.6%、学校推薦型選抜が 34.6%である。

図表 5-82 学力検査以外に考慮する資料等の利用率（高校等における学習成果）



図表 5-83 学力検査以外に考慮する資料等の利用率（高校等における学習成果）

（短期大学・複数回答）

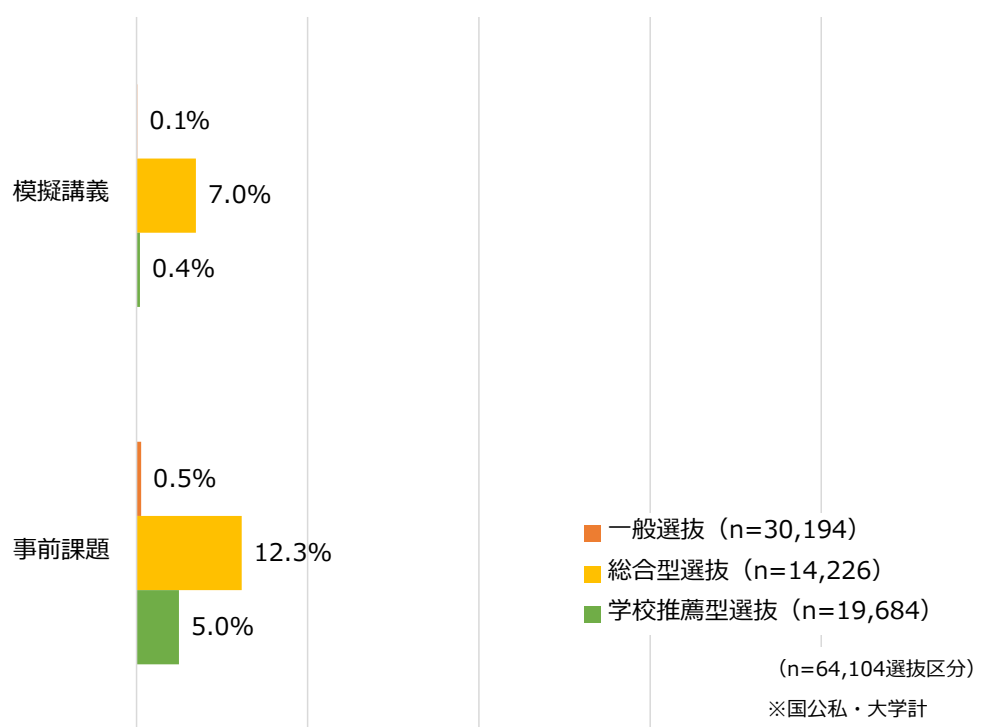


5-31 学力検査以外に考慮する資料等の利用率（入学前教育）

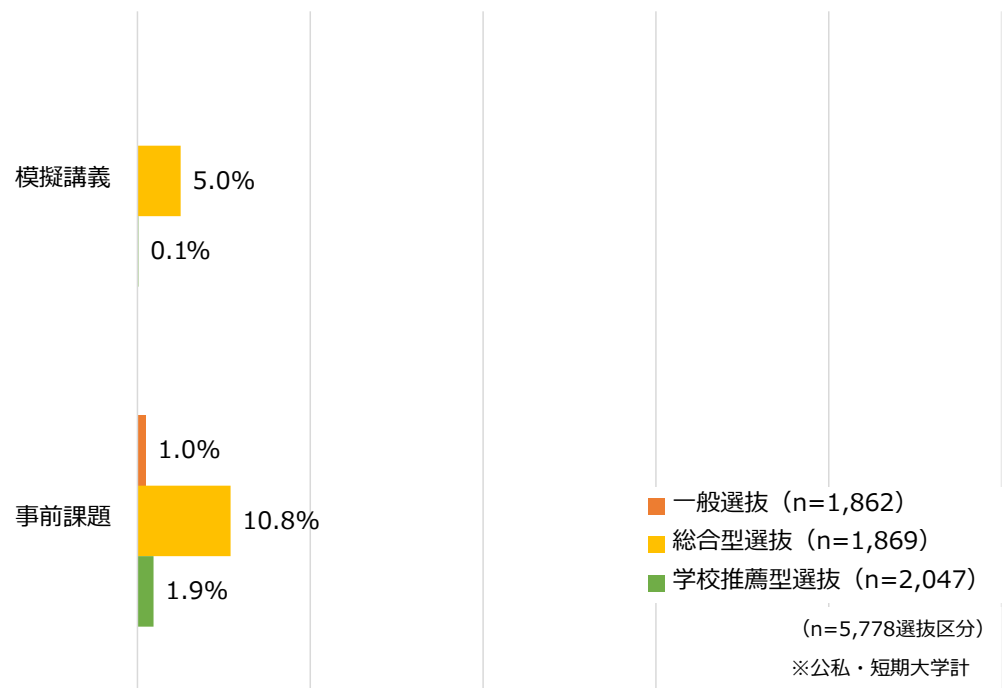
大学において、模擬講義を利用する選抜区分は、一般選抜が 0.1%、総合型選抜が 7.0%、学校推薦型選抜が 0.4%である。

事前課題を利用する選抜区分は、一般選抜が 0.5%、総合型選抜が 12.3%、学校推薦型選抜が 5.0%である。

図表 5-84 学力検査以外に考慮する資料等の利用率（入学前教育）
（大学・複数回答）



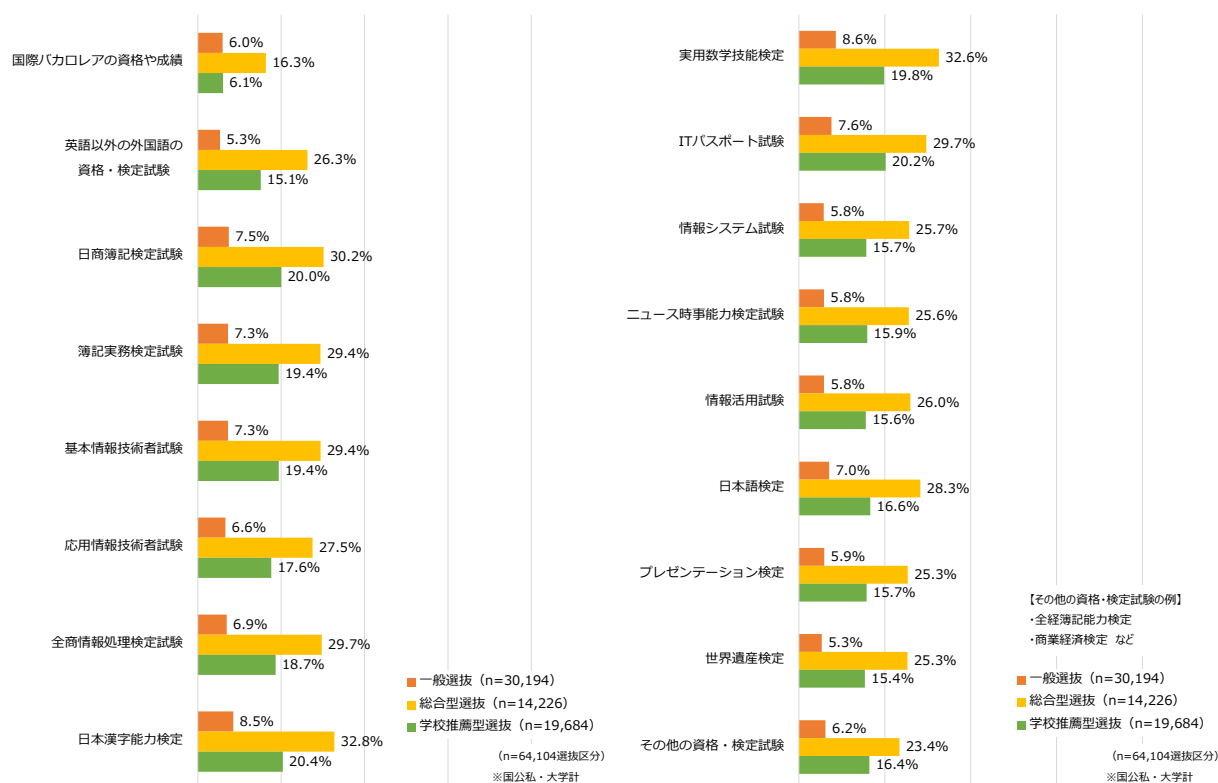
図表 5-85 学力検査以外に考慮する資料等の利用率（入学前教育）
（短期大学・複数回答）



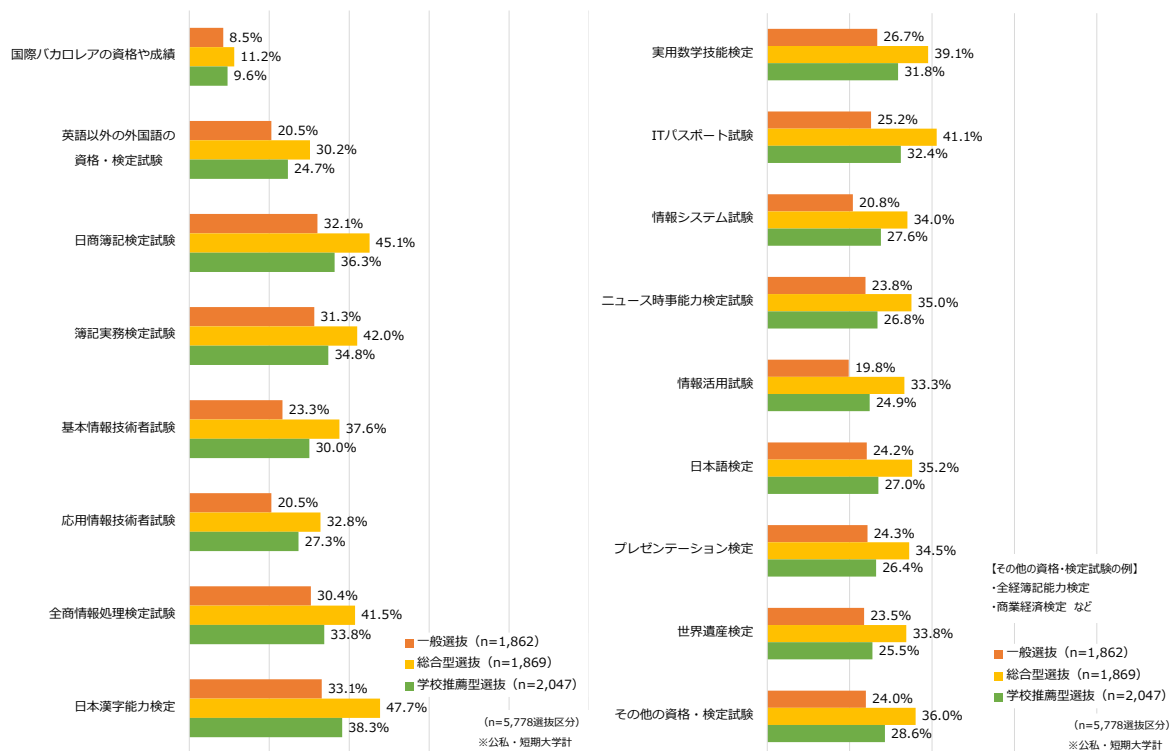
5-32 学力検査以外に考慮する資料等の利用率（資格・検定試験の成績）

大学において、英語以外の外国語の資格、検定試験を利用する選抜区分は、一般選抜が5.3%、総合型選抜が26.3%、学校推薦型選抜が15.1%である。

図表 5-86 学力検査以外に考慮する資料等の利用率（資格・検定試験の成績）
（大学・複数回答）



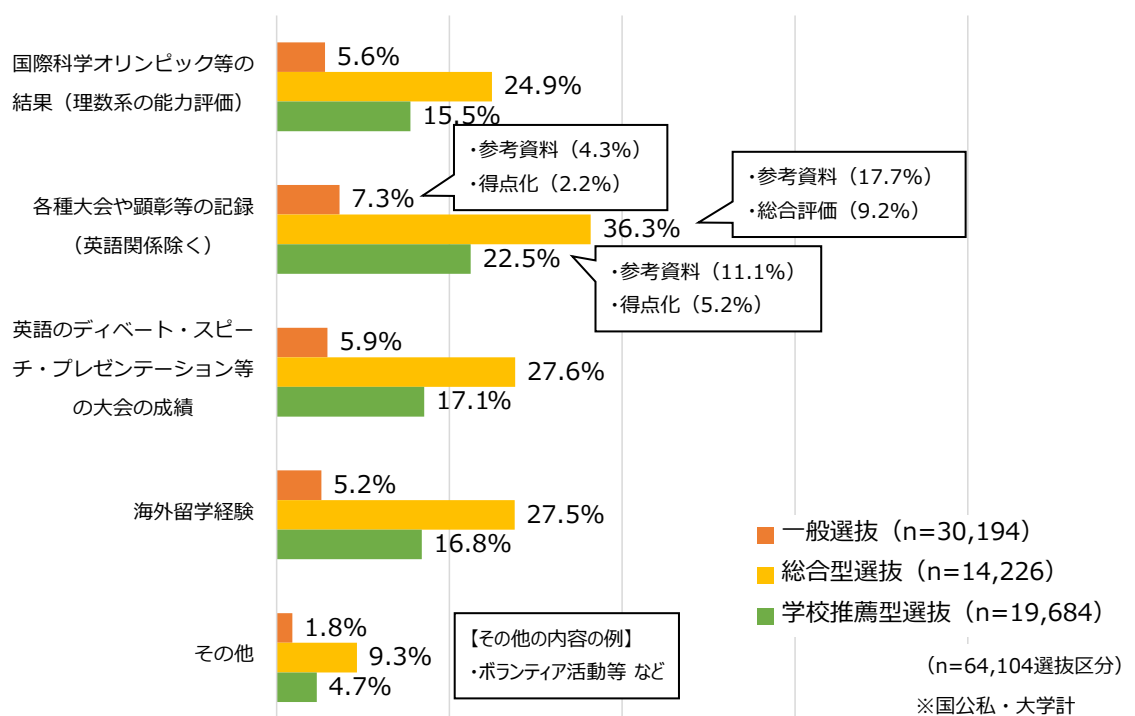
図表 5-87 学力検査以外に考慮する資料等の利用率（資格・検定試験の成績）
（短期大学・複数回答）



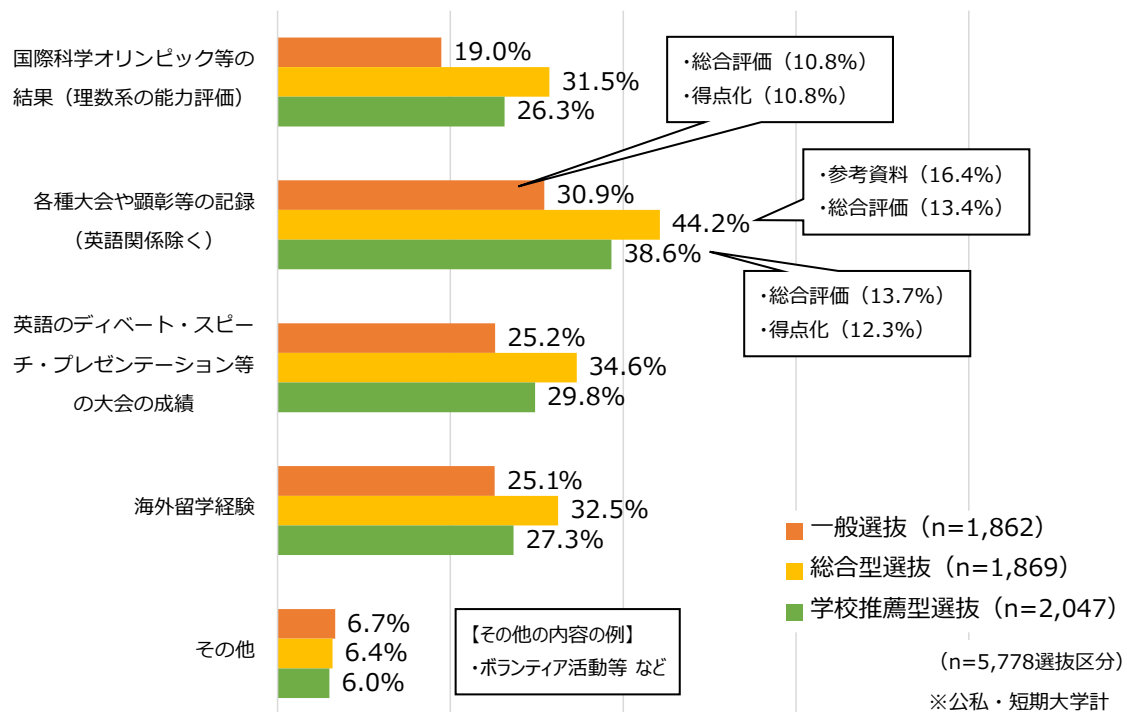
5-33 学力検査以外に考慮する資料等の利用率（活動歴・顕彰・表彰）

大学において、各種大会や顕彰等の記録を利用する選抜区分は、一般選抜が 7.3%、総合型選抜が 36.3%、学校推薦型選抜が 22.5%ある。

図表 5-88 学力検査以外に考慮する資料等の利用率（活動歴・顕彰・表彰）
（大学・複数回答）



図表 5-89 学力検査以外に考慮する資料等の利用率（活動歴・顕彰・表彰）
（短期大学・複数回答）

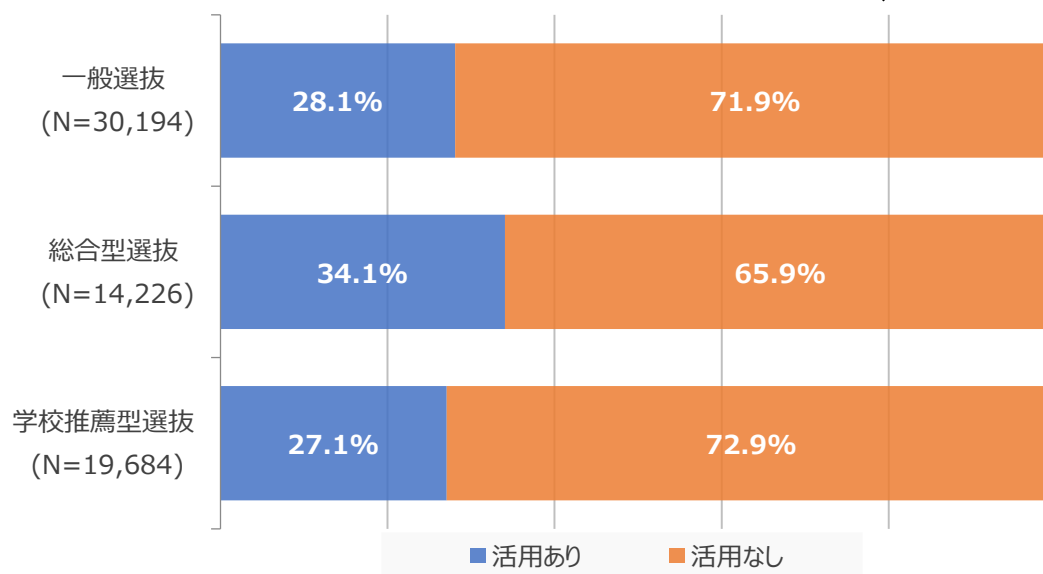


第6章 英語資格・検定試験の活用の実態

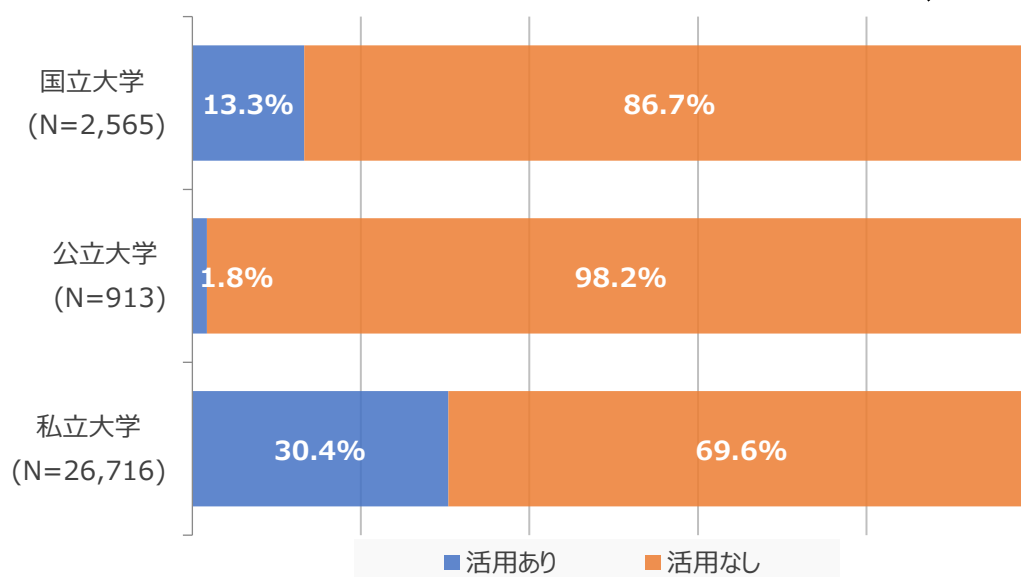
6-1 英語資格・検定試験活用の有無（国公私）

大学において、英語の資格・検定試験の活用がある選抜区分は、一般選抜で28.1%、総合型選抜が34.1%、学校推薦型選抜が27.1%である。

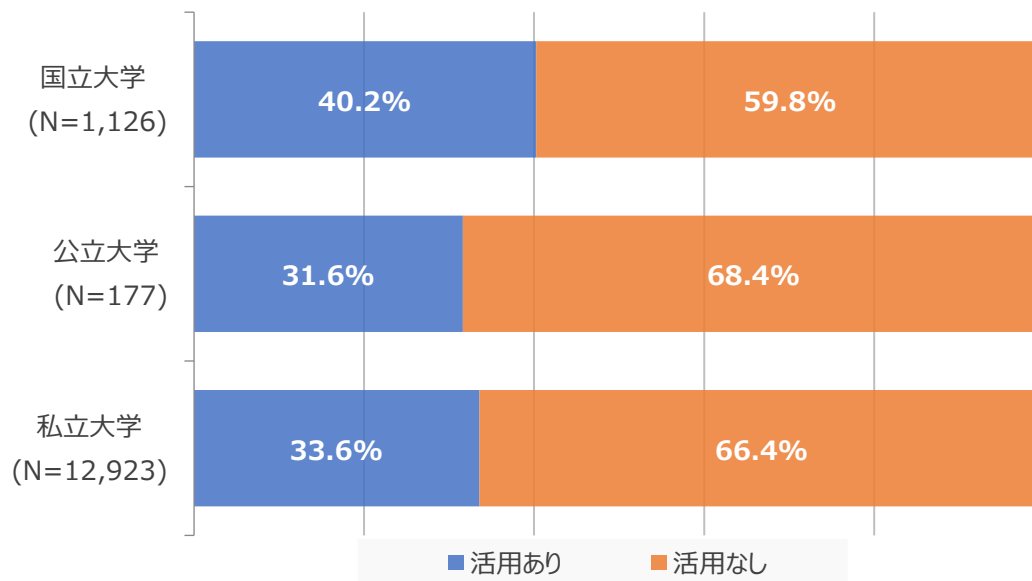
図表 6-1 英語資格・検定試験活用の有無（大学全体・n = 64,104）



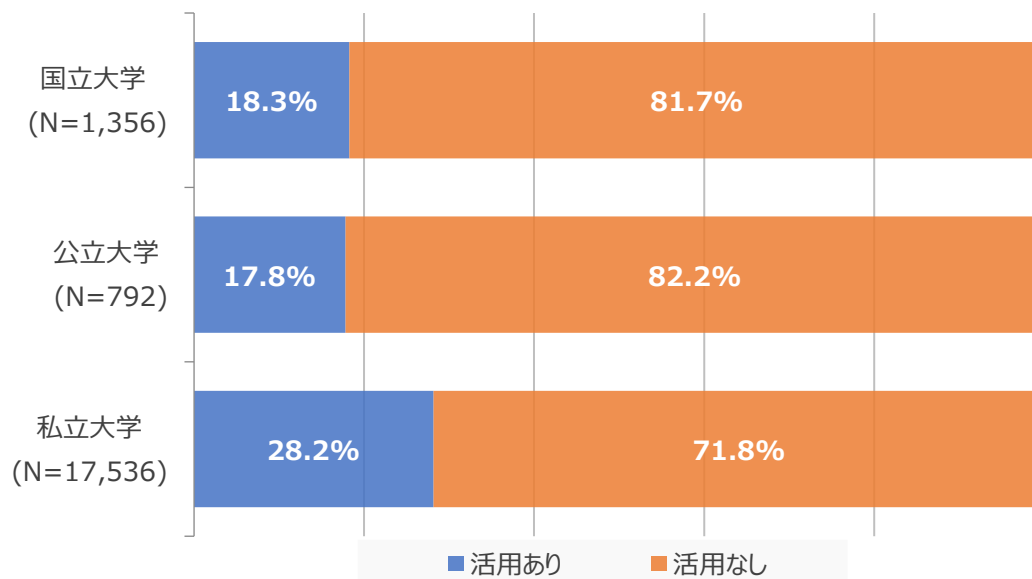
図表 6-2 英語資格・検定試験活用の有無（国公私・一般選抜・n = 30,194）



図表 6-3 英語資格・検定試験活用の有無（国公私・総合型選抜・n = 14,226）



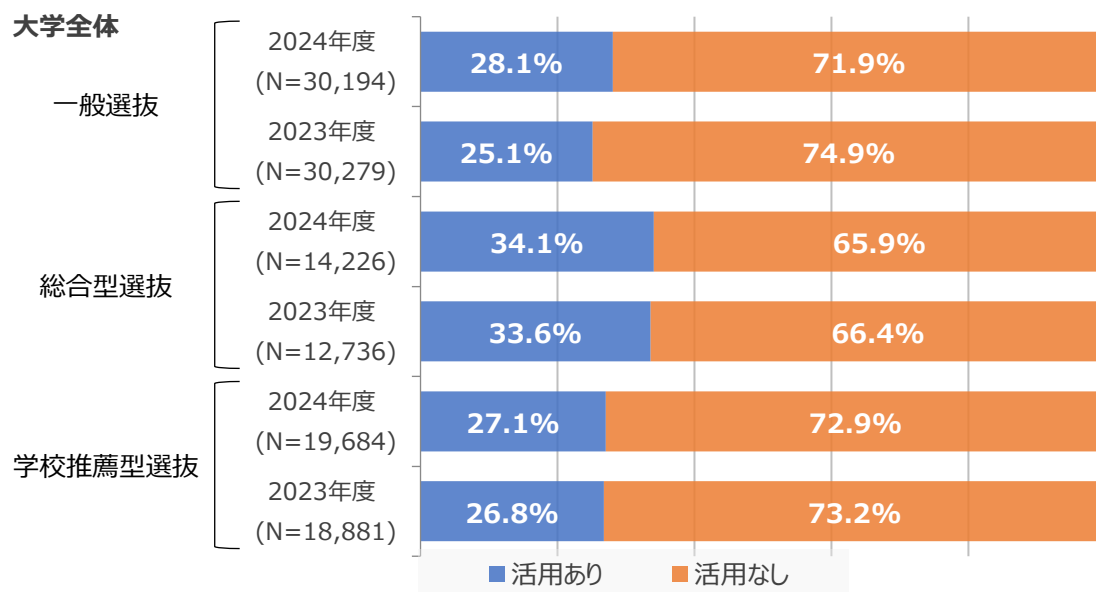
図表 6-4 英語資格・検定試験活用の有無（国公私・学校推薦型選抜・n = 19,684）



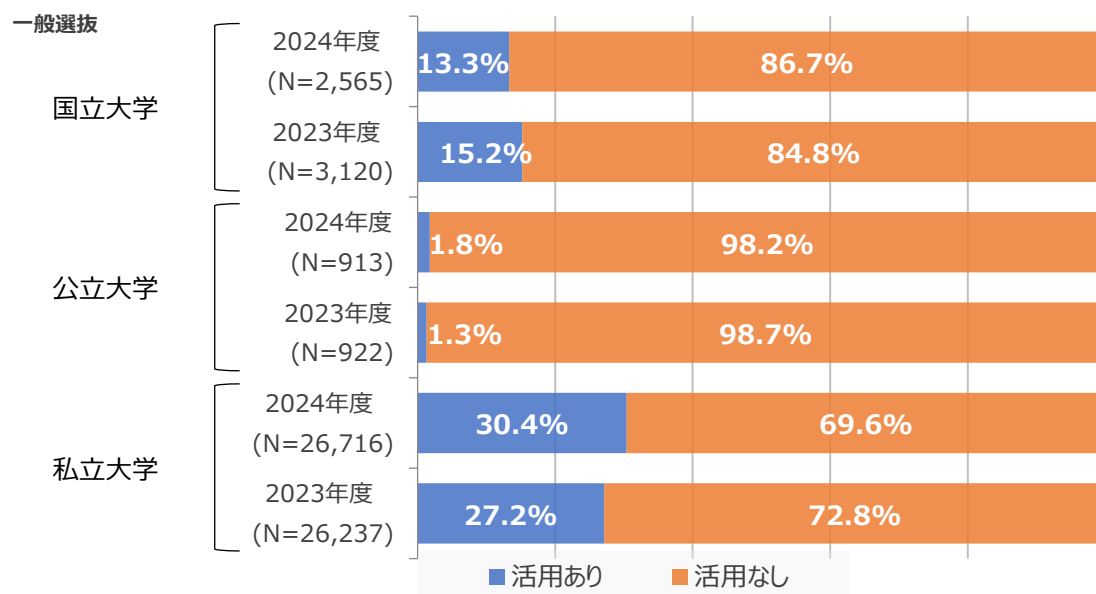
【前回調査との比較】

英語の資格・検定試験の活用がある選抜区分について前回と比較すると、私立大学において、各選抜方法いずれも増加傾向にある。

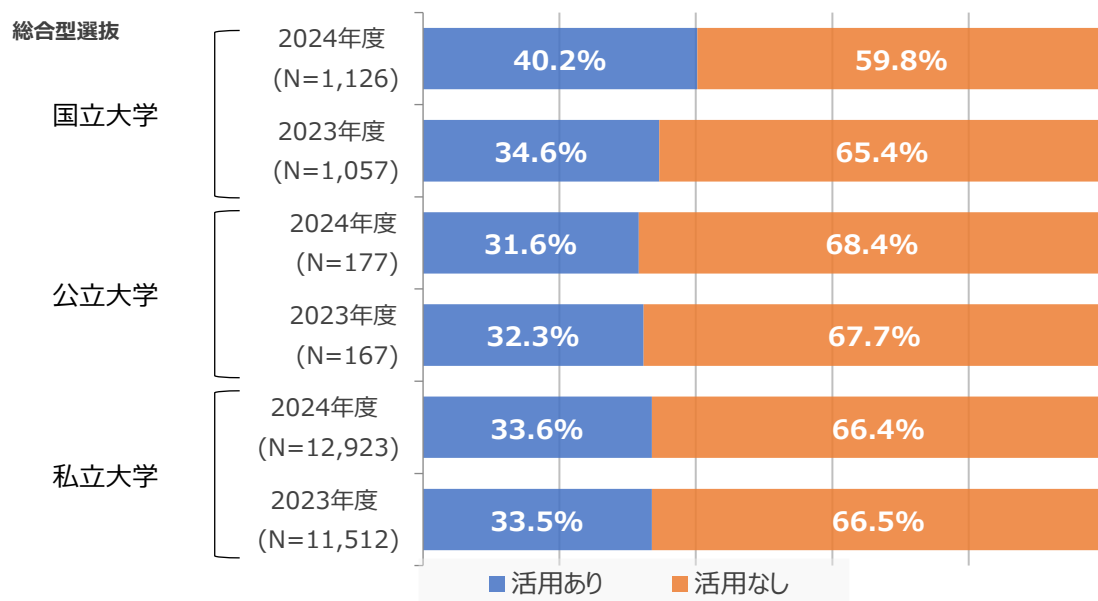
図表 6-5 【前回調査との比較】英語資格・検定試験活用の有無（大学全体）



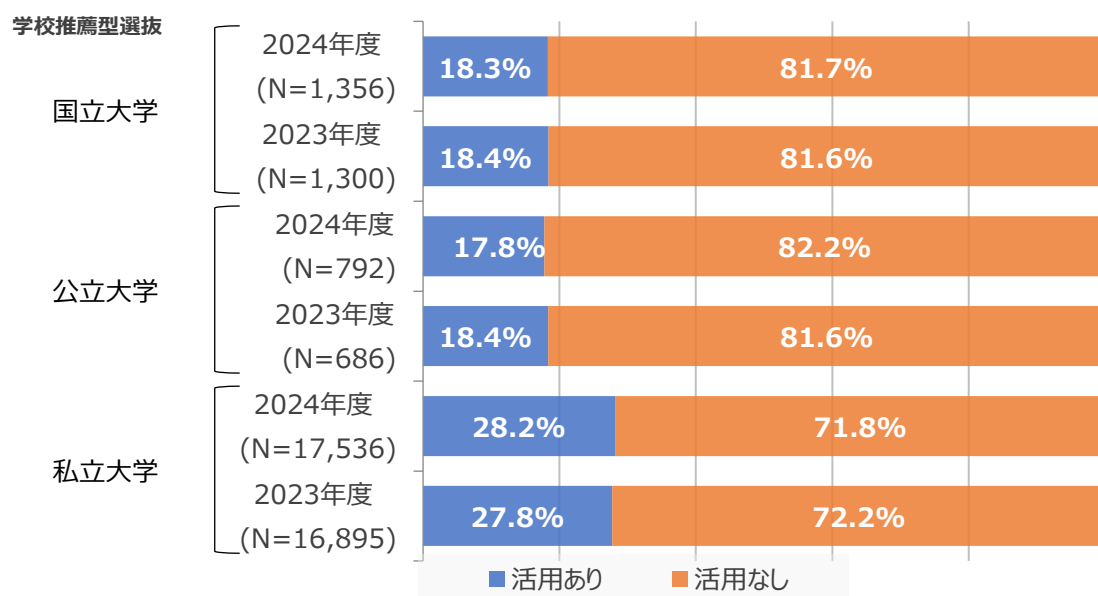
図表 6-6 【前回調査との比較】英語資格・検定試験活用の有無（一般選抜）



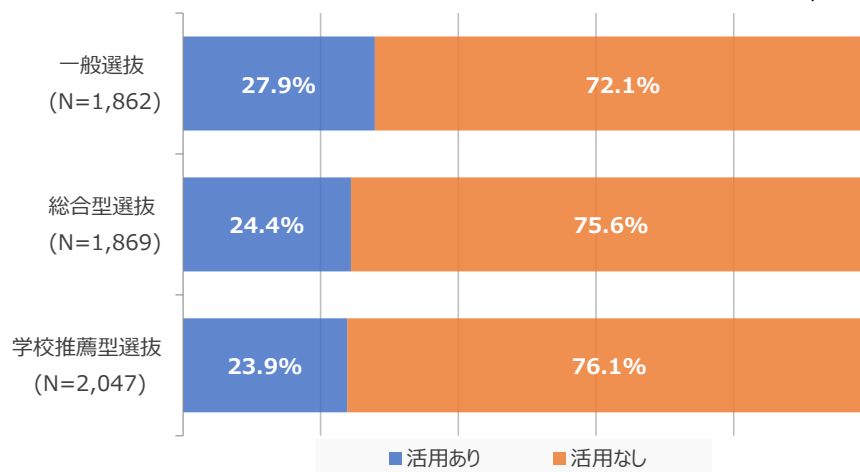
図表 6-7 【前回調査との比較】英語資格・検定試験活用の有無（総合型選抜）



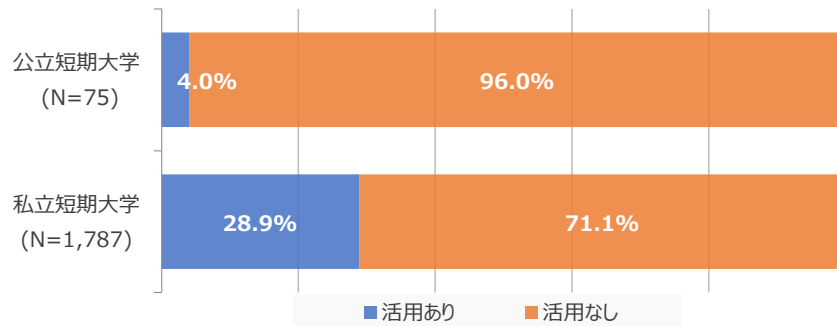
図表 6-8 【前回調査との比較】英語資格・検定試験活用の有無（学校推薦型選抜）



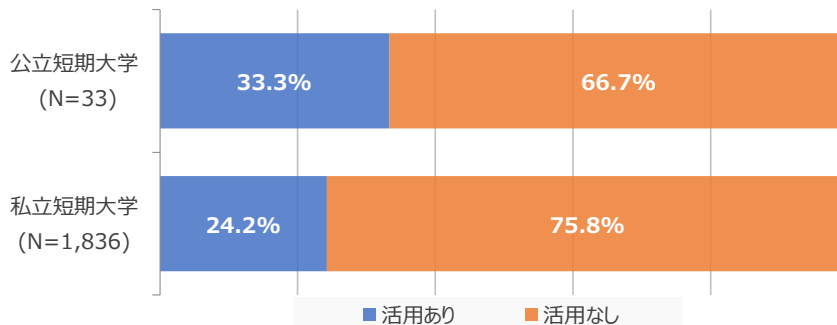
図表 6-9 英語資格・検定試験活用の有無（短期大学全体・n = 5,778）



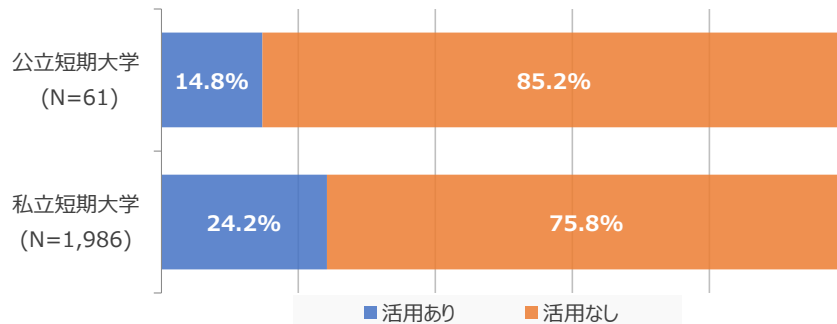
図表 6-10 英語資格・検定試験活用の有無（公私短大・一般選抜・n = 1,862）



図表 6-11 英語資格・検定試験活用の有無（公私短大・総合型選抜・n = 1,869）



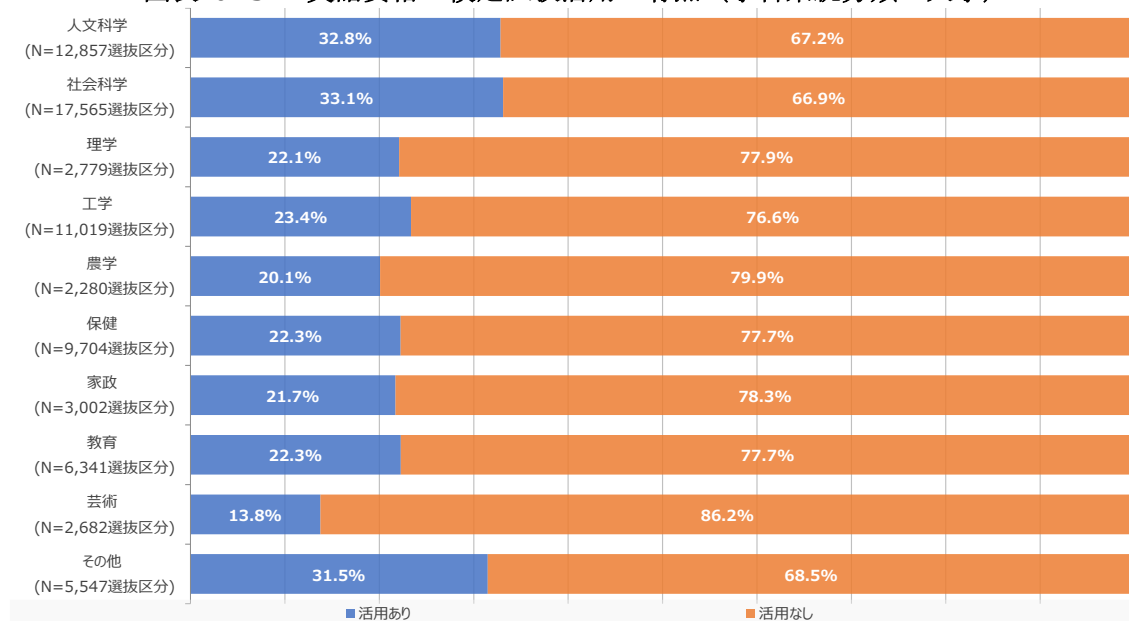
図表 6-12 英語資格・検定試験活用の有無（公私短大・学校推薦型選抜・n = 2,047）



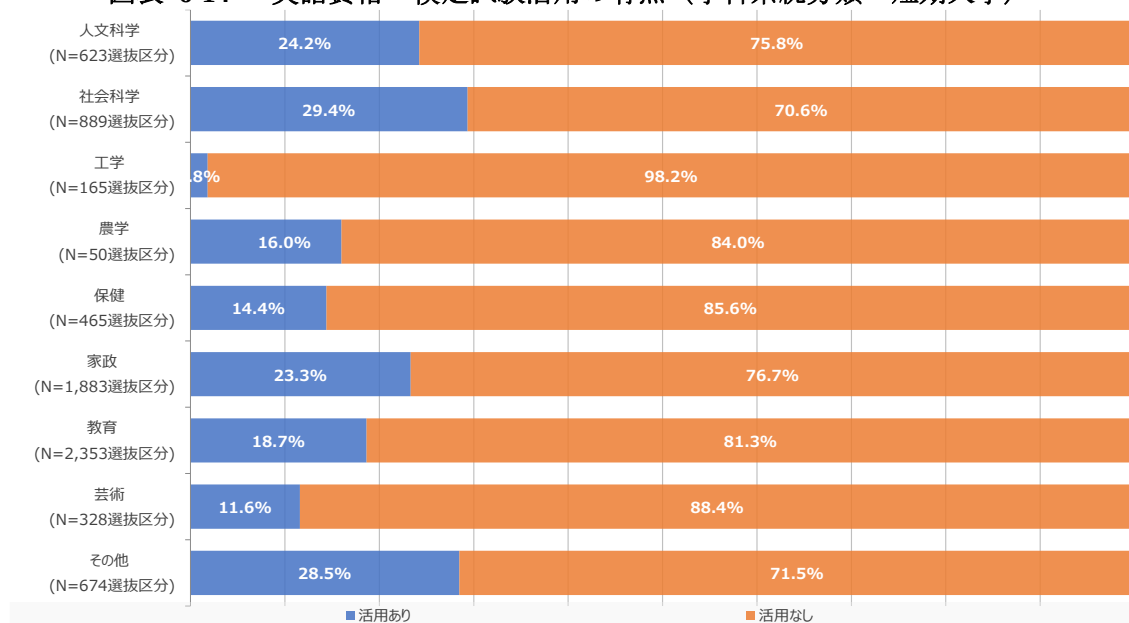
6-2 英語資格・検定試験活用の有無（学科系統分類）

大学において、英語の資格・検定試験の活用率を学科系統分類別でみると、活用が多い順に、社会科学（33.1%）、人文科学（32.8%）、工学（23.4%）である。

図表 6-13 英語資格・検定試験活用の有無（学科系統分類・大学）



図表 6-14 英語資格・検定試験活用の有無（学科系統分類・短期大学）



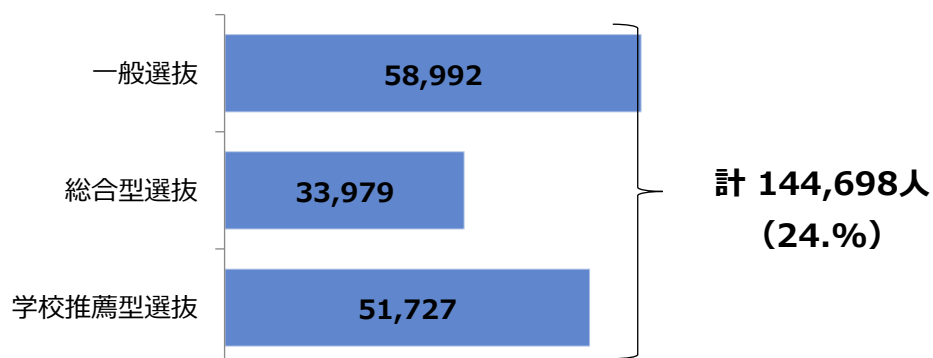
※短期大学は理学の選抜区分なし

6-3 英語資格・検定試験活用の選抜区分による入学者数

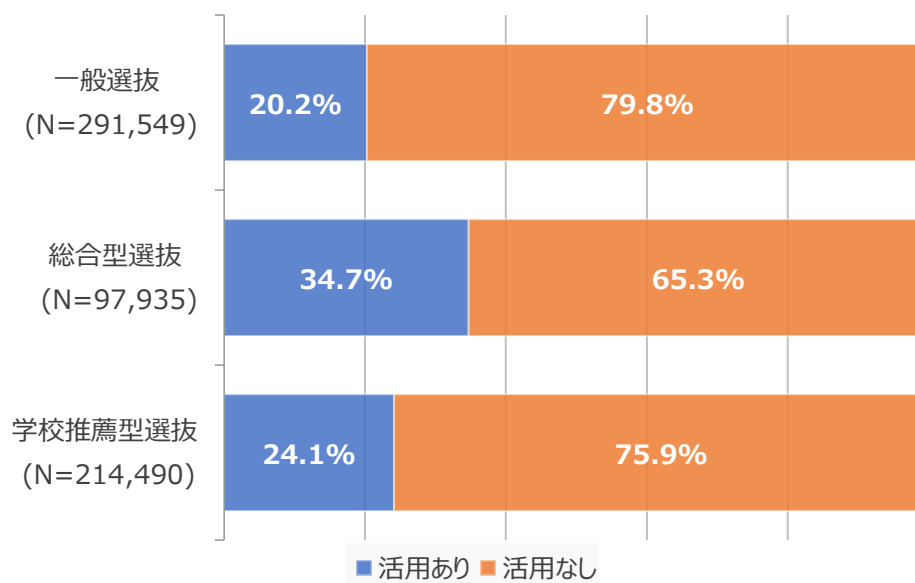
英語の資格・検定試験の「活用あり」の選抜区分により大学に入学した者は、一般選抜が 58,992 人、総合型選抜が 33,979 人、学校推薦型選抜が 51,727 人の計 144,698 人である。

※英語資格・検定試験を活用している選抜区分のうち、全員が活用した割合は P143 参照。

図表 6-15 英語資格・検定試験活用の選抜区分による入学者数
(大学全体・n=603,974)



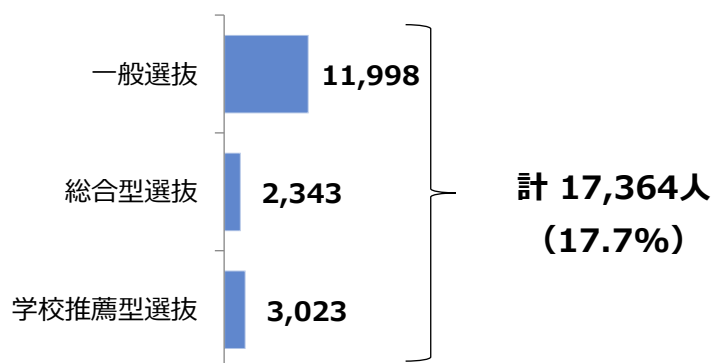
【選抜方法別毎の全入学者数に占める「英語資格・検定試験活用の選抜区分による入学者数」の割合】



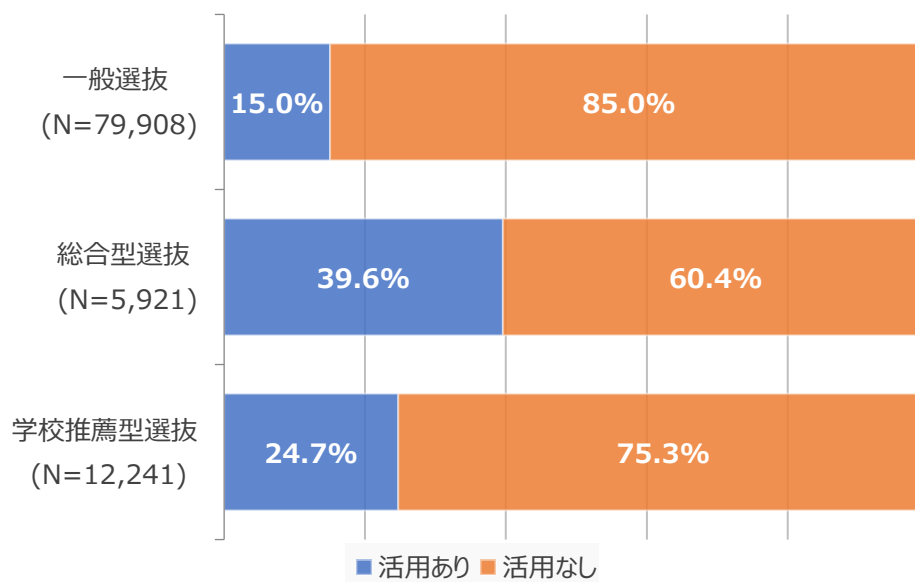
6-4 英語資格・検定試験活用の選抜区分による入学者数（国立大学）

国立大学において、英語の資格・検定試験の「活用あり」の選抜区分により入学した者は、一般選抜が 11,998 人、総合型選抜が 2,343 人、学校推薦型選抜が 3,023 人の計 17,364 人である。

図表 6-16 英語資格・検定試験活用の選抜区分による入学者数
(国立大学・n = 98,070)



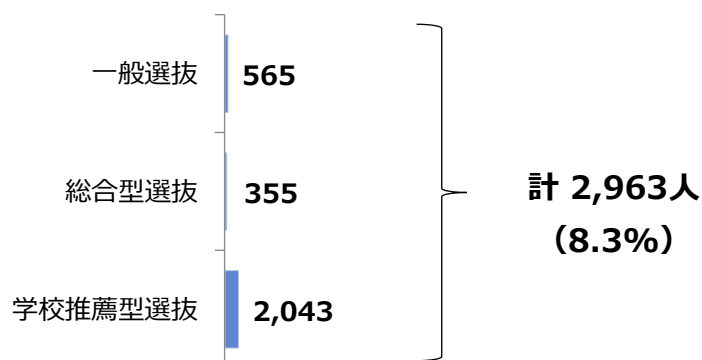
【選抜方法別毎の全入学者数に占める「英語資格・検定試験活用の選抜区分による入学者数」の割合】



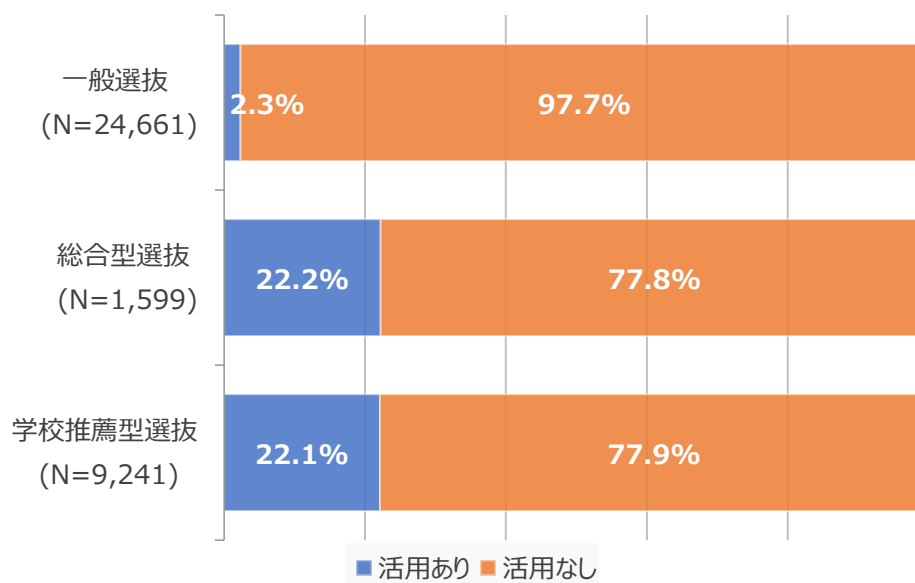
6-5 英語資格・検定試験活用の選抜区分による入学者数（公立大学）

公立大学において、英語の資格・検定試験の「活用あり」の選抜区分により入学した者は、一般選抜が 565 人、総合型選抜が 355 人、学校推薦型選抜が 2,043 人の計 2,963 人である。

図表 6-17 英語資格・検定試験活用の選抜区分による入学者数
(公立大学・n = 35,501)



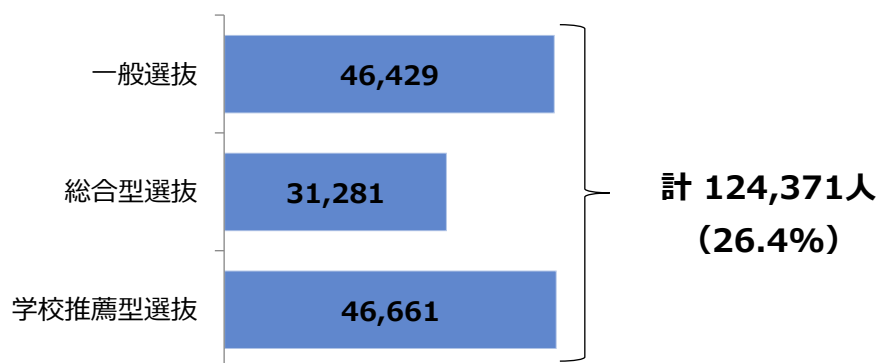
【選抜方法別毎の全入学者数に占める「英語資格・検定試験活用の選抜区分による入学者数」の割合】



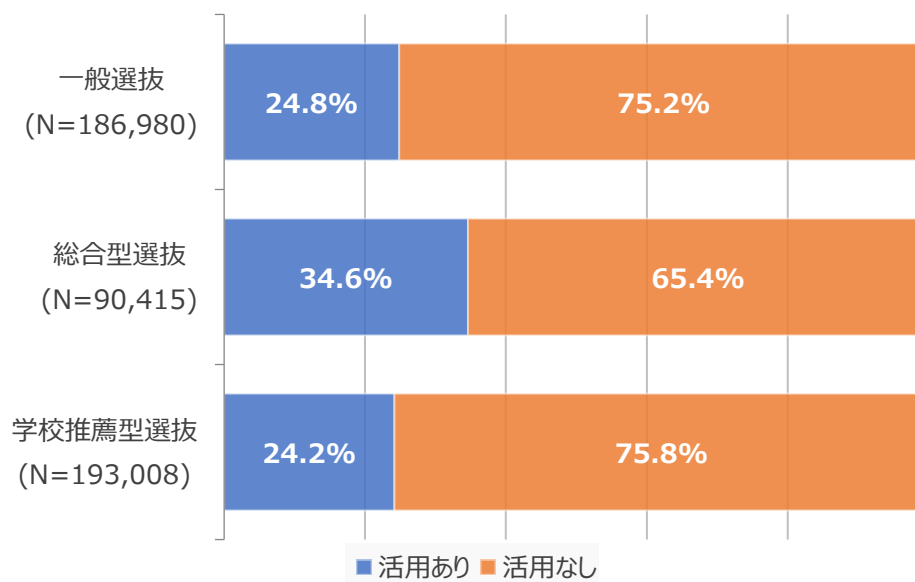
6-6 英語資格・検定試験活用の選抜区分による入学者数（私立大学）

私立大学において、英語の資格・検定試験の「活用あり」の選抜区分により入学した者は、一般選抜が 46,429 人、総合型選抜が 31,281 人、学校推薦型選抜が 46,661 人の計 124,371 人である。

図表 6-18 英語資格・検定試験活用の選抜区分による入学者数
(私立大学・n = 470,403)



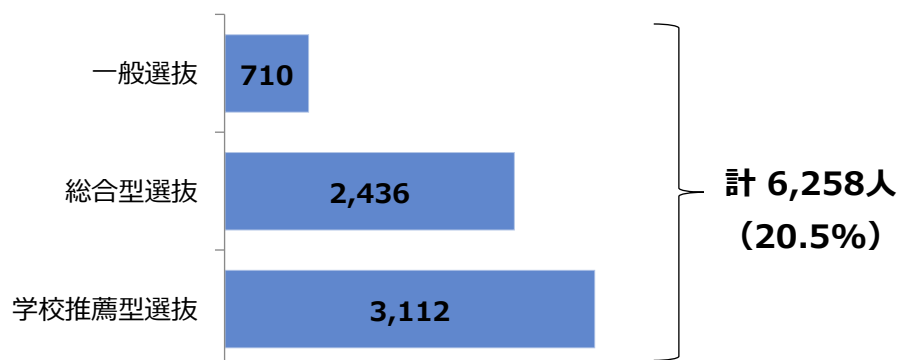
【選抜方法別毎の全入学者数に占める「英語資格・検定試験活用の選抜区分による入学者数」の割合】



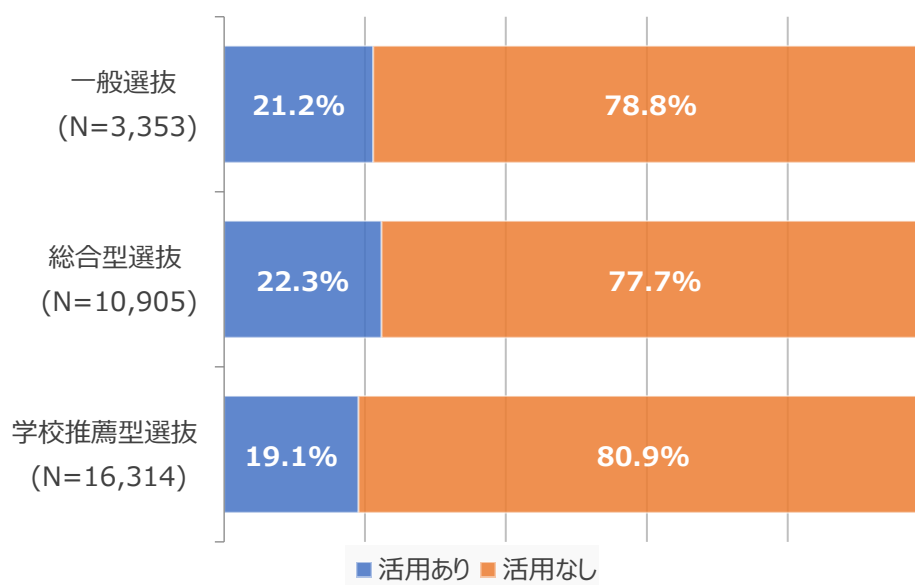
6-7 英語資格・検定試験活用の選抜区分による入学者数（短期大学）

図表 6-19 英語資格・検定試験活用の選抜区分による入学者数

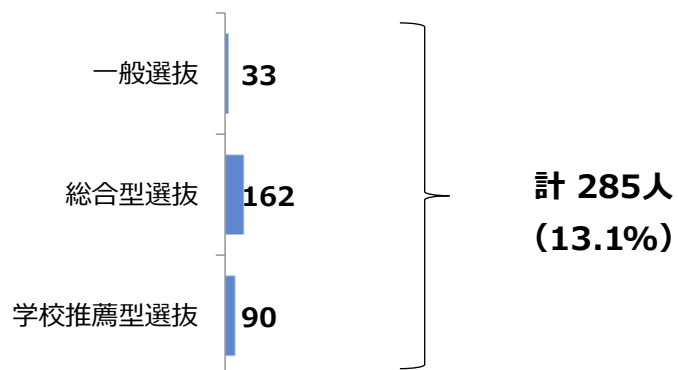
（短期大学全体・n = 30,572）



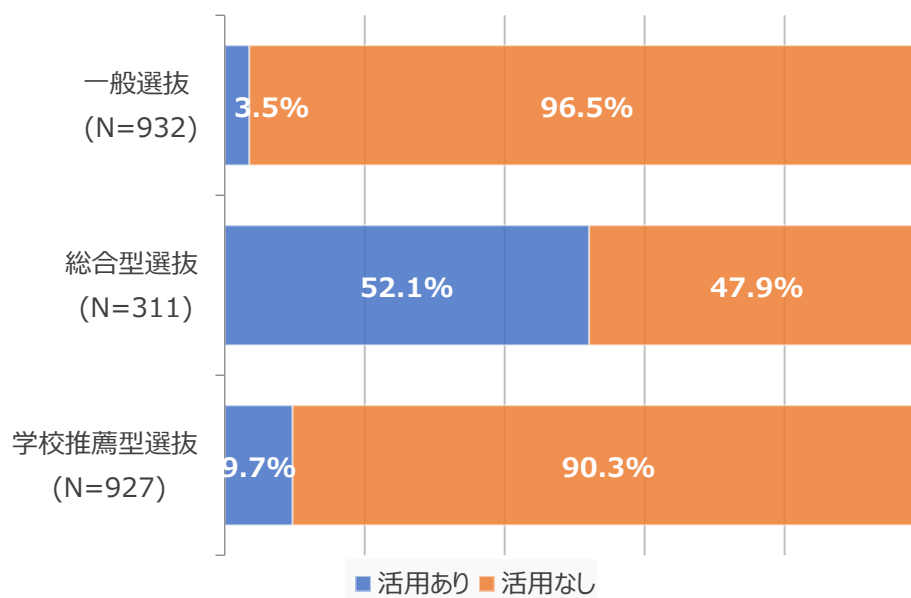
【選抜方法別毎の全入学者数に占める「英語資格・検定試験活用の選抜区分による入学者数」の割合】



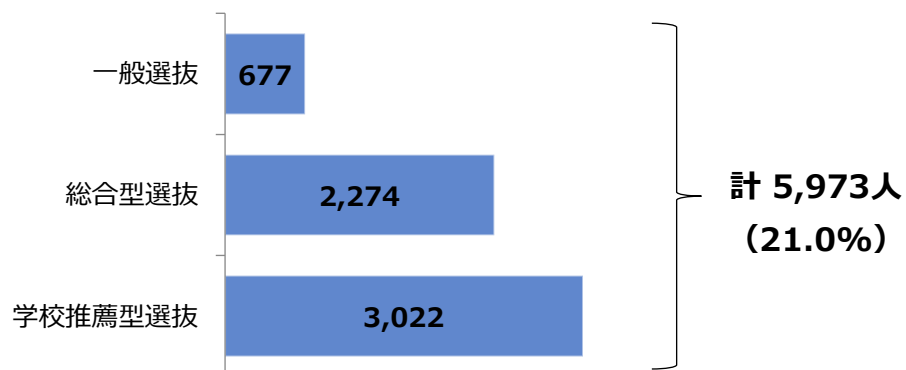
図表 6-20 英語資格・検定試験活用の選抜区分による入学者数
(公立短期大学・n =2,170)



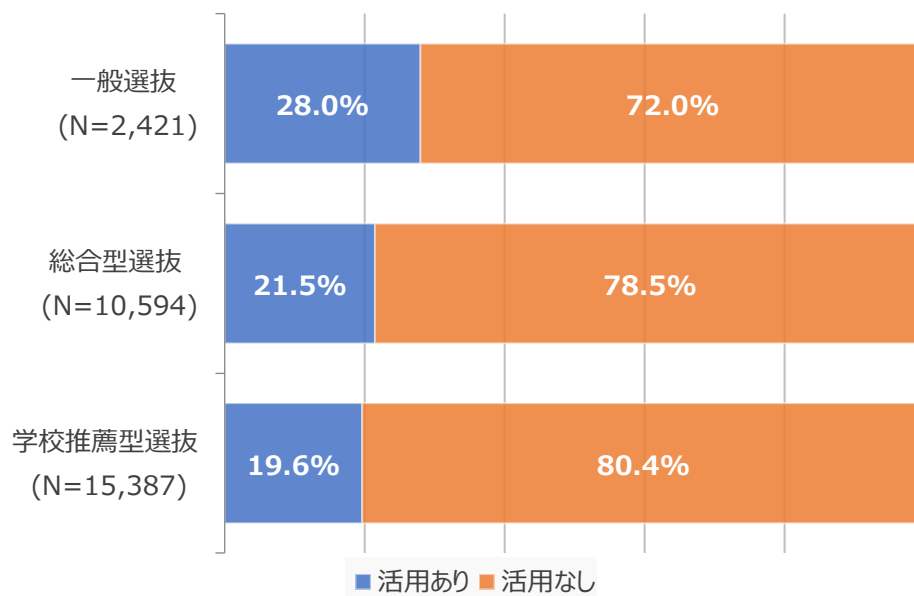
【選抜方法別毎の全入学者数に占める「英語資格・検定試験活用の選抜区分による入学者数」の割合】



図表 6-21 英語資格・検定試験活用の選抜区分による入学者数
(私立短期大学・n = 28,402)



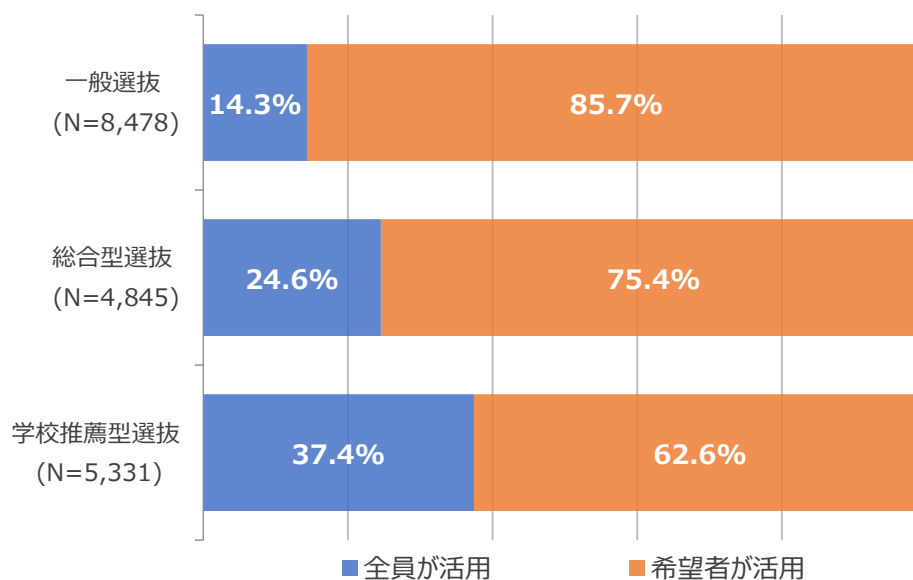
【選抜方法別毎の全入学者数に占める「英語資格・検定試験活用の選抜区分による入学者数」の割合】



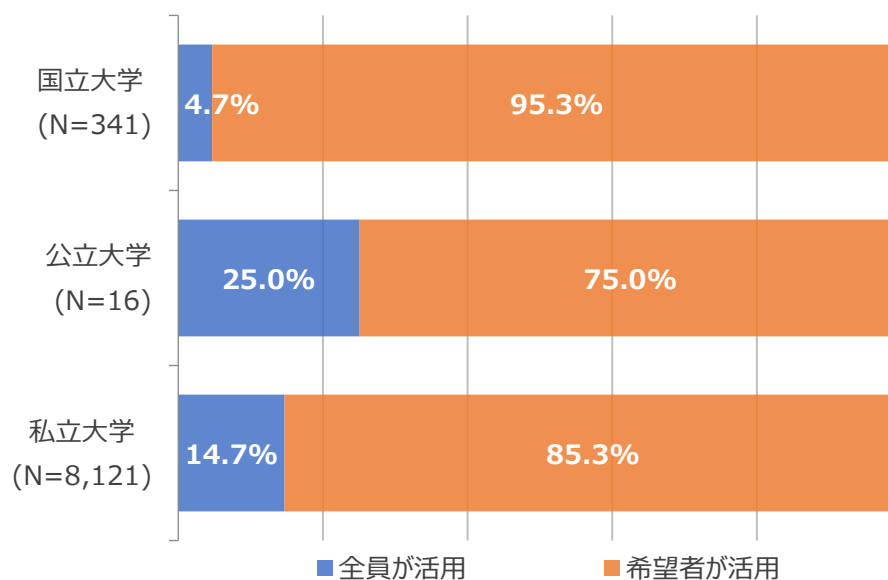
6-8 英語資格・検定試験活用の範囲（国公私）

英語の資格・検定試験を活用している選抜区分のうち、全員が活用している割合は、大学において、一般選抜で14.3%、総合型選抜が24.6%、学校推薦型選抜が37.4%である。

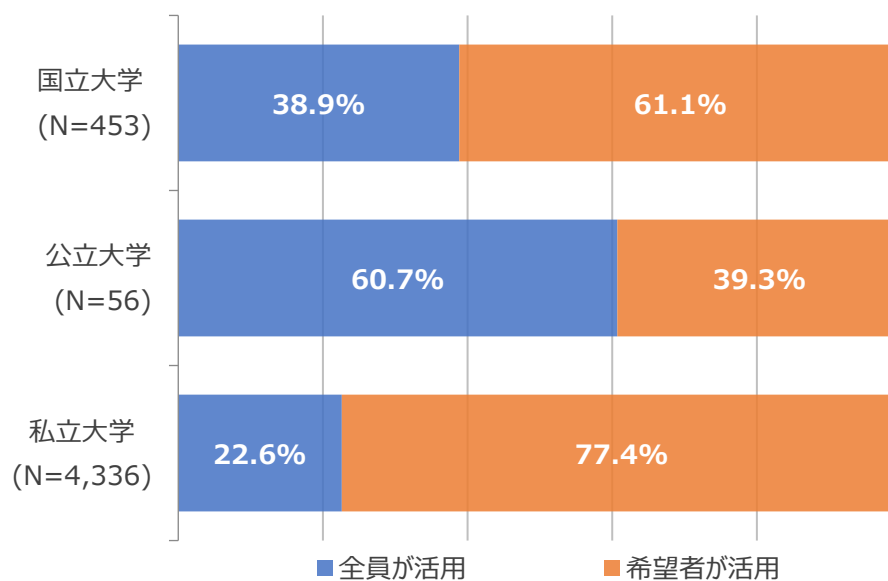
図表 6-22 英語資格・検定試験活用の範囲（大学全体・n = 18,654）



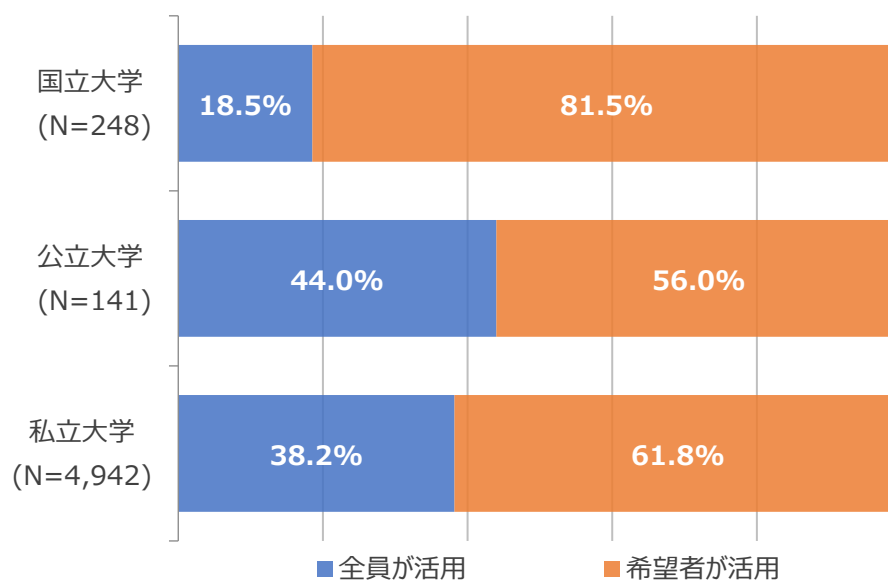
図表 6-23 英語資格・検定試験活用の範囲（一般選抜・n = 8,478）



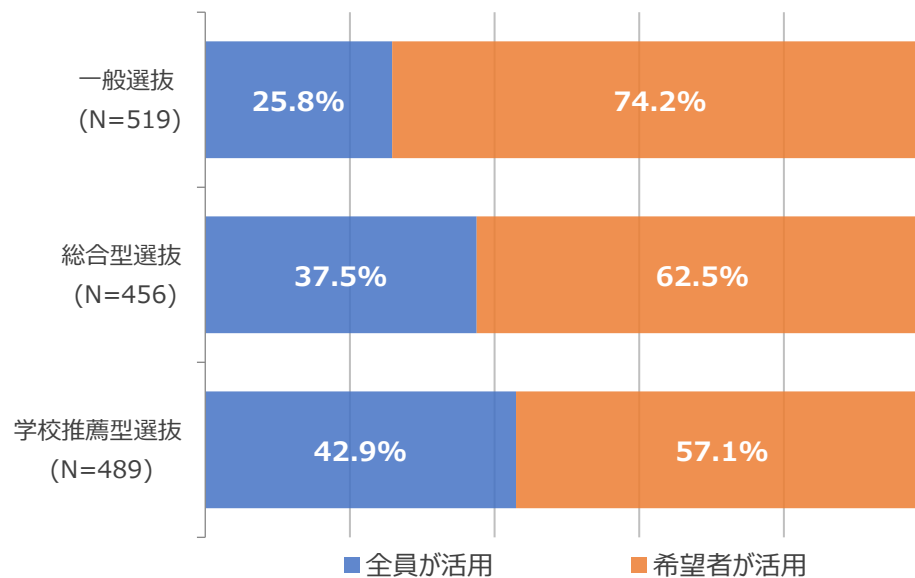
図表 6-24 英語資格・検定試験活用の範囲（総合型選抜・n = 4,845）



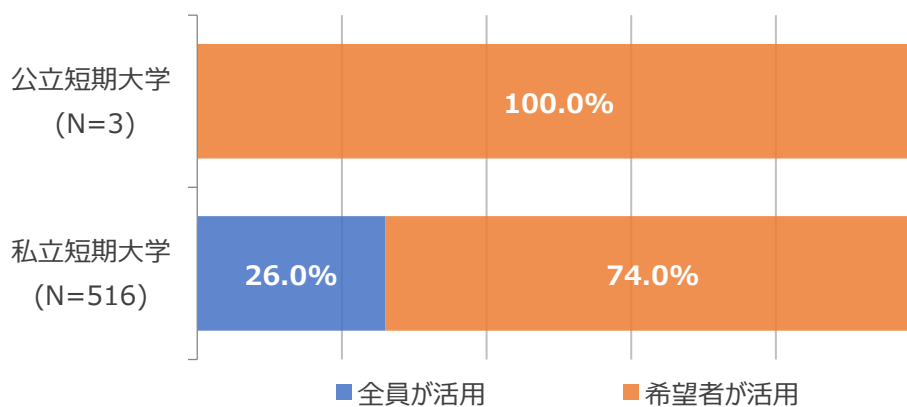
図表 6-25 英語資格・検定試験活用の範囲（学校推薦型選抜・n = 5,331）



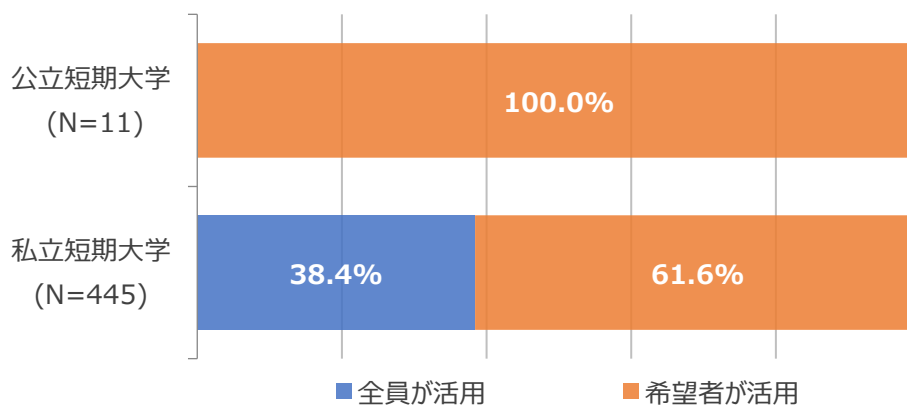
図表 6-26 英語資格・検定試験活用の範囲（短期大学全体・n = 1,464）



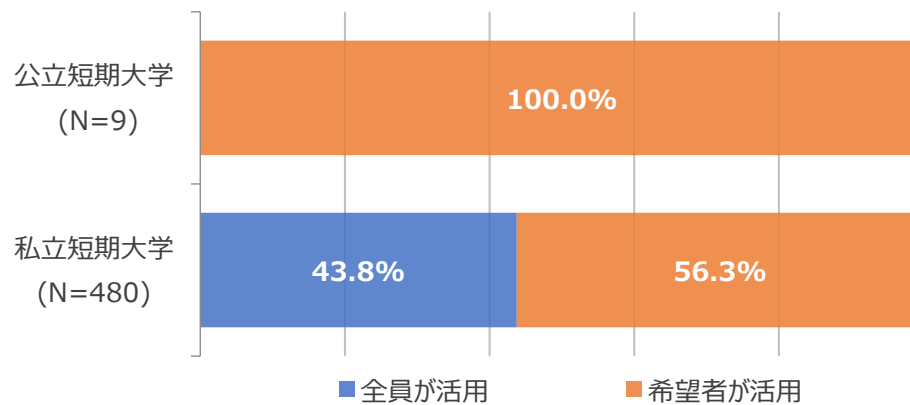
図表 6-27 英語資格・検定試験活用の範囲（一般選抜・n = 519）



図表 6-28 英語資格・検定試験活用の範囲（総合型選抜・n = 456）



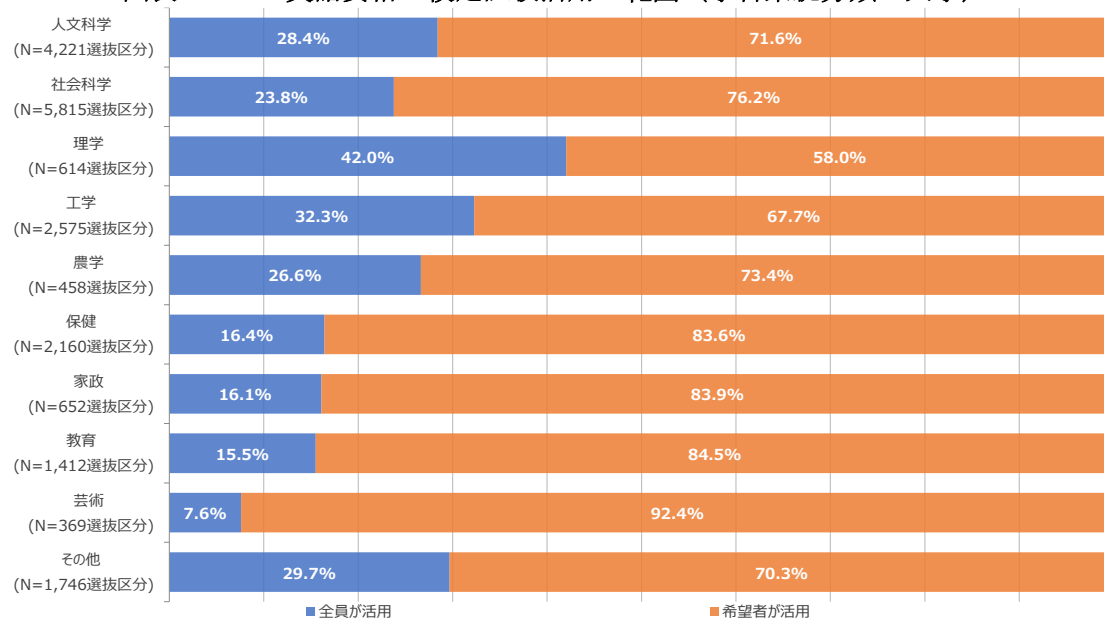
図表 6-29 英語資格・検定試験活用の範囲（学校推薦型選抜・n = 489）



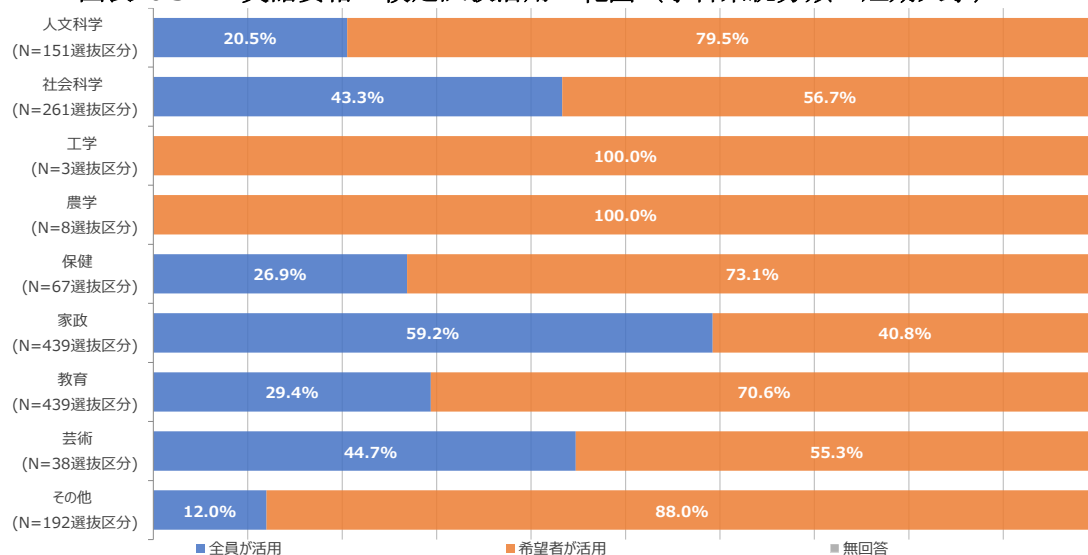
6-9 英語資格・検定試験活用の範囲（学科系統分類）

英語の資格・検定試験を活用している選抜区分のうち、全員で活用している割合を大学の学科系統分類別にみると、多い順に、理学（42.0%）、工学（32.3%）、人文科学（28.4%）である。

図表 6-30 英語資格・検定試験活用の範囲（学科系統分類・大学）



図表 6-31 英語資格・検定試験活用の範囲（学科系統分類・短期大学）

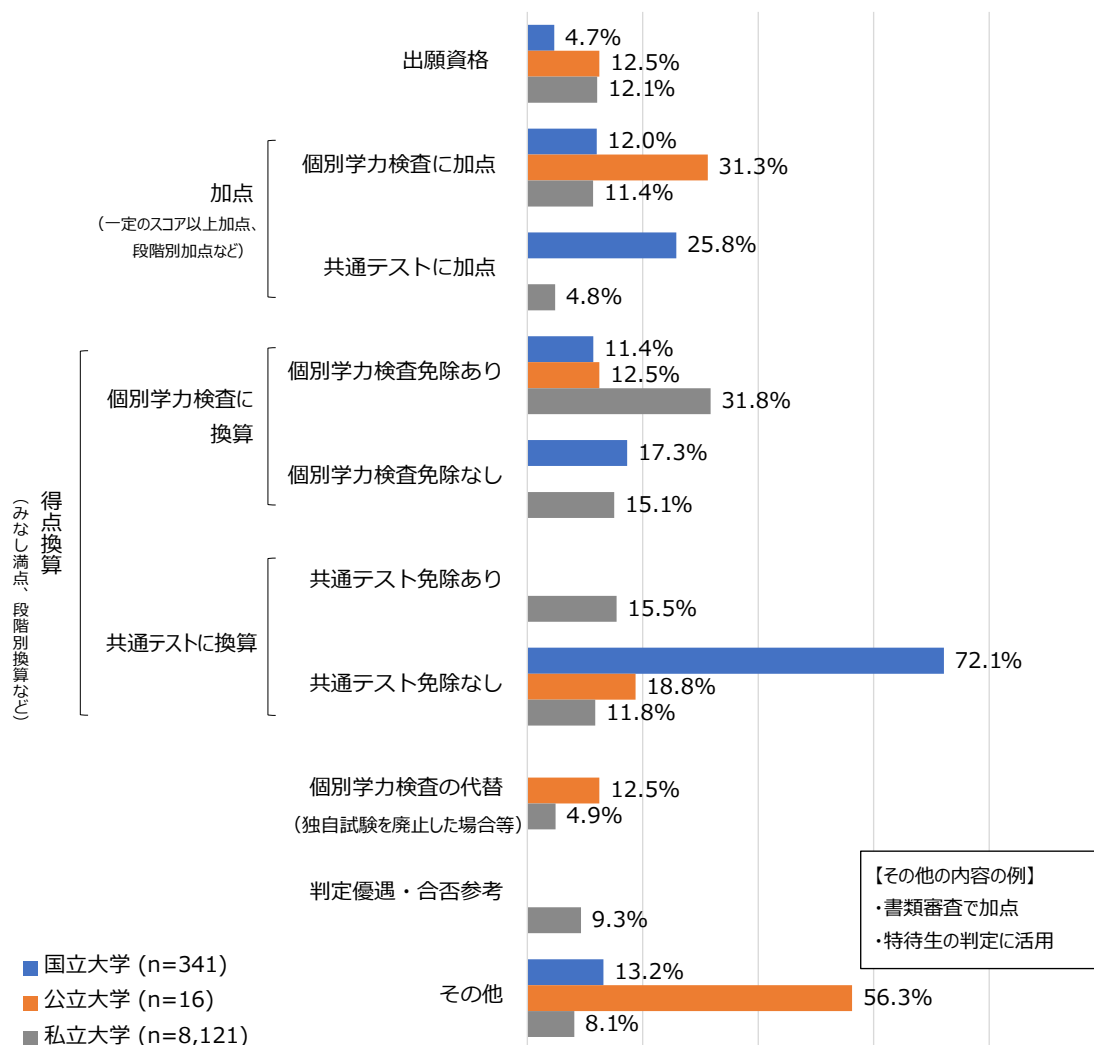


※短期大学は理学の選抜区分なし

6-10 英語資格・検定試験活用方法（一般選抜）

一般選抜における活用方法としては、国立大学では共通テストに換算（免除なし）が72.1%、公立大学では個別学力検査に加点が31.3%、私立大学では個別学力検査に換算（免除あり）が31.8%で最も多い。

図表 6-32 英語資格・検定試験活用方法（大学・一般選抜・複数回答）

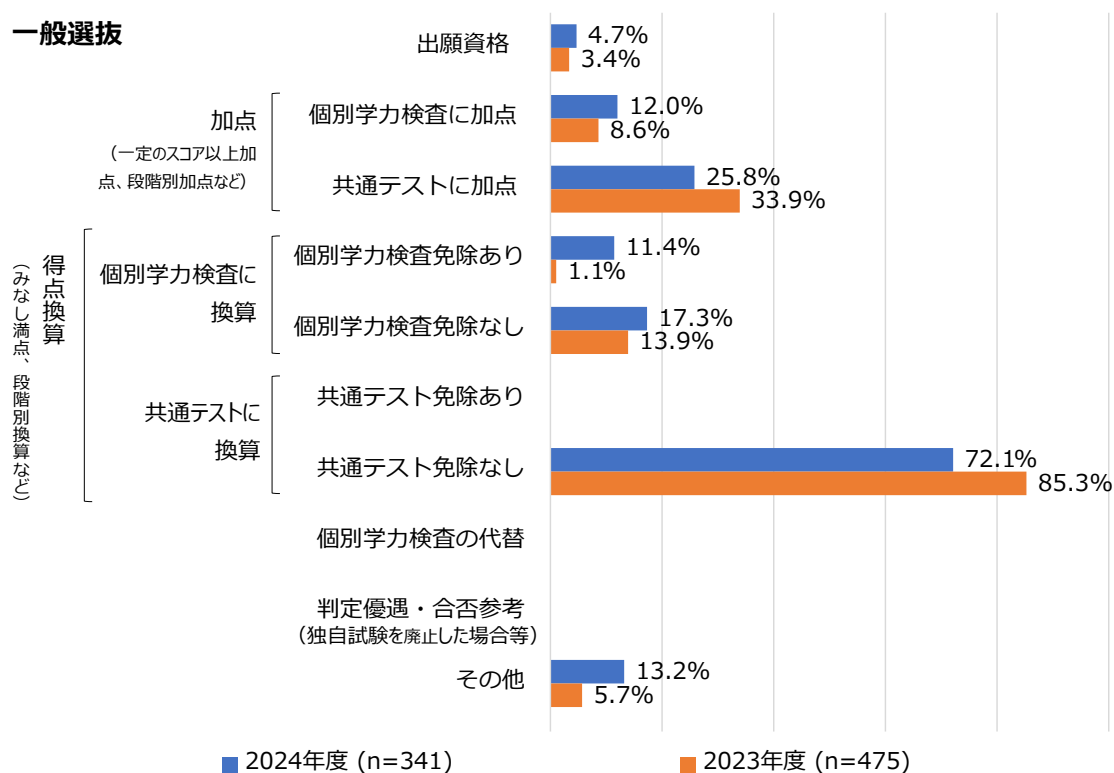


- 出願資格：出願する上での必須要件としている。
- 加点：個別学力検査又は共通テストの点数に「加点」している。
- 得点換算：個別学力検査又は共通テストの点数に「換算」（置き換え）している。
- 個別学力検査の代替：大学独自の英語試験を設けず、英語資格・検定試験の成績のみを個別学力検査の成績として用いている。
- 判定優遇・合否参考：英語資格・検定試験の成績によって合否判定を優遇したり、英語資格・検定試験の成績を合否判定の参考にしたりしている。

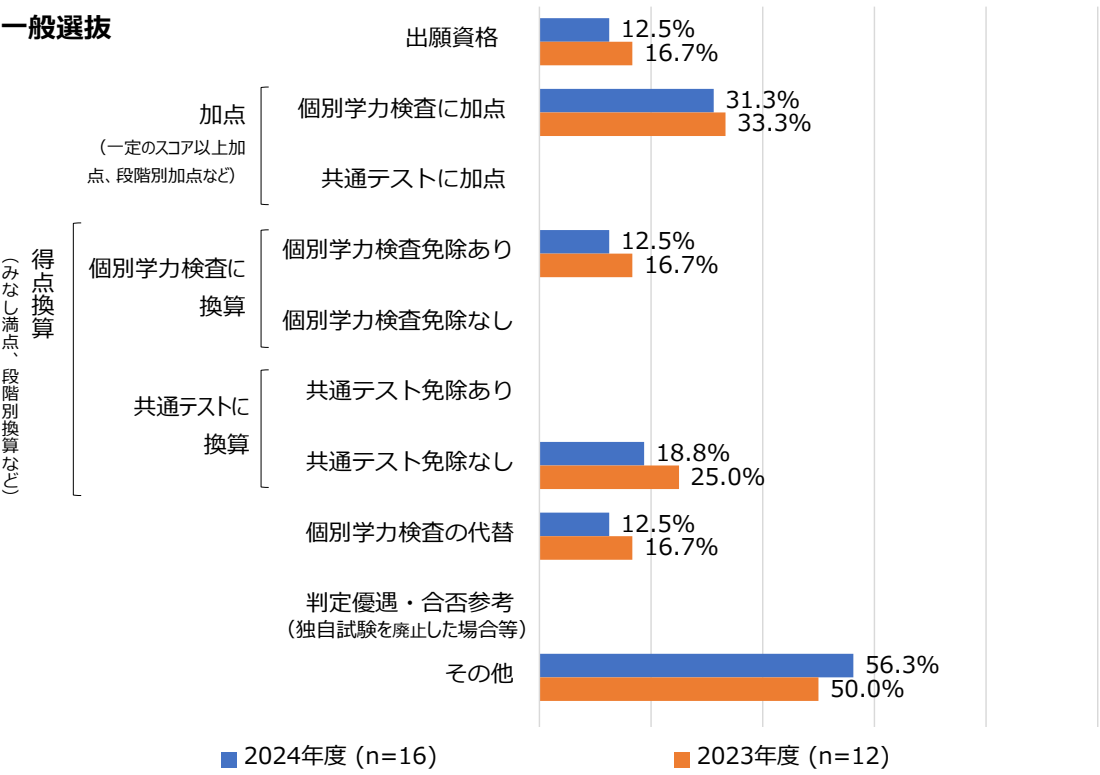
【前回調査との比較】

一般選抜における活用方法としては、国立大学では共通テストに加点および共通テストに換算（免除なし）が減少、公立大学ではその他が、私立大学では個別学力検査（免除あり）が増加している。

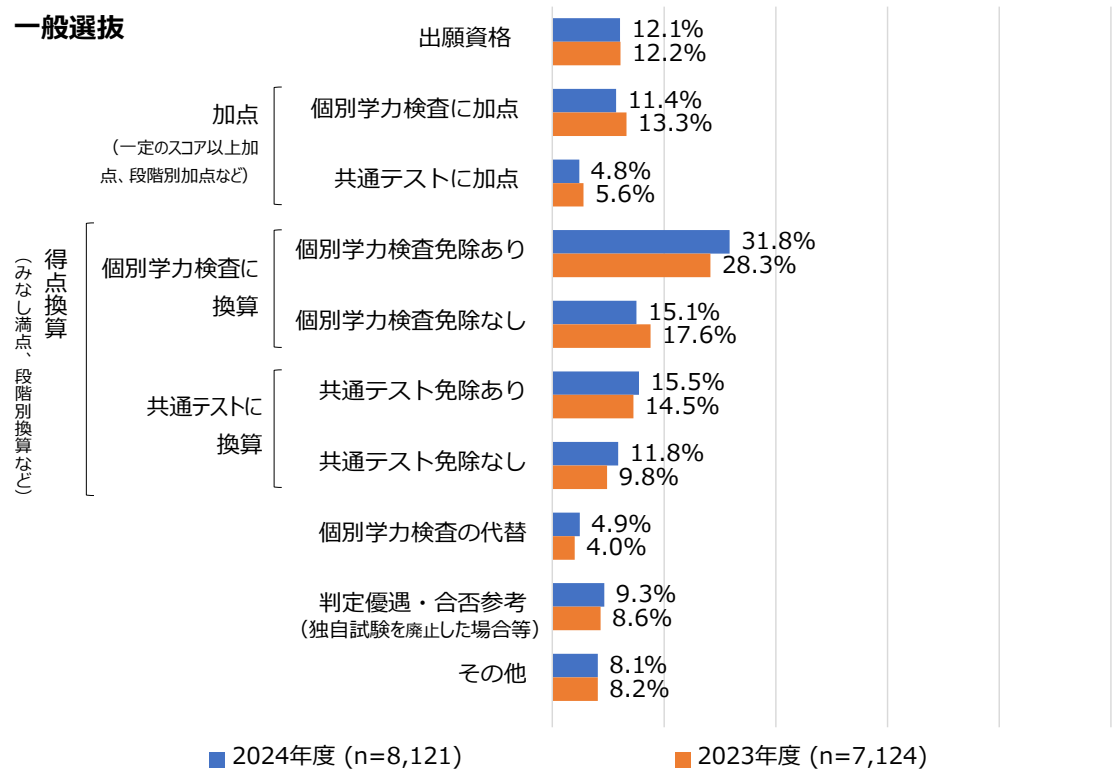
図表 6-33 【前回調査との比較】英語資格・検定試験活用方法
（一般選抜・国立大学・複数回答）



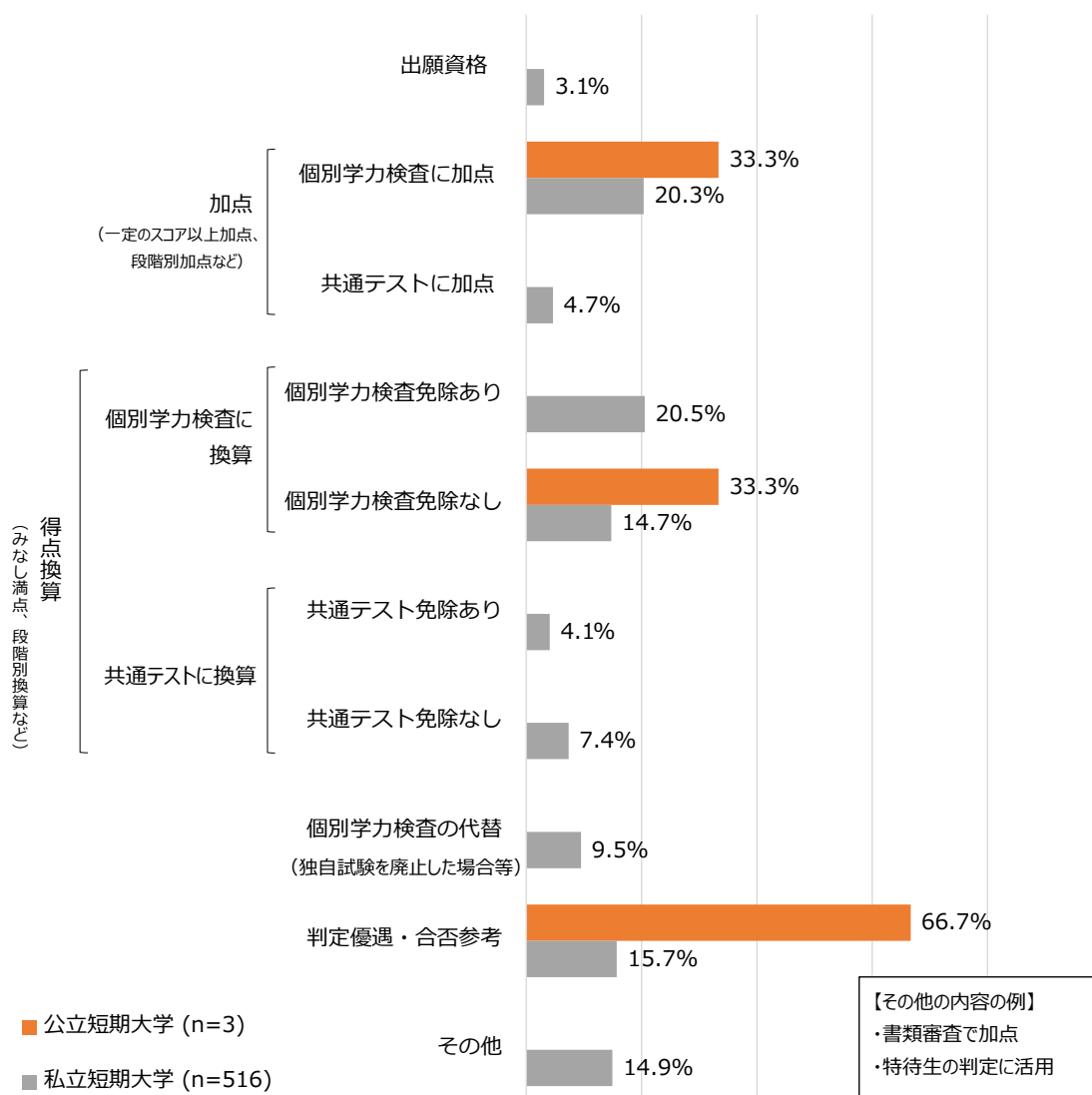
図表 6-34 【前回調査との比較】英語資格・検定試験活用方法
(一般選抜・公立大学・複数回答)



図表 6-35 【前回調査との比較】英語資格・検定試験活用方法
(一般選抜・私立大学・複数回答)



図表 6-36 英語資格・検定試験活用方法（短期大学・一般選抜・複数回答）

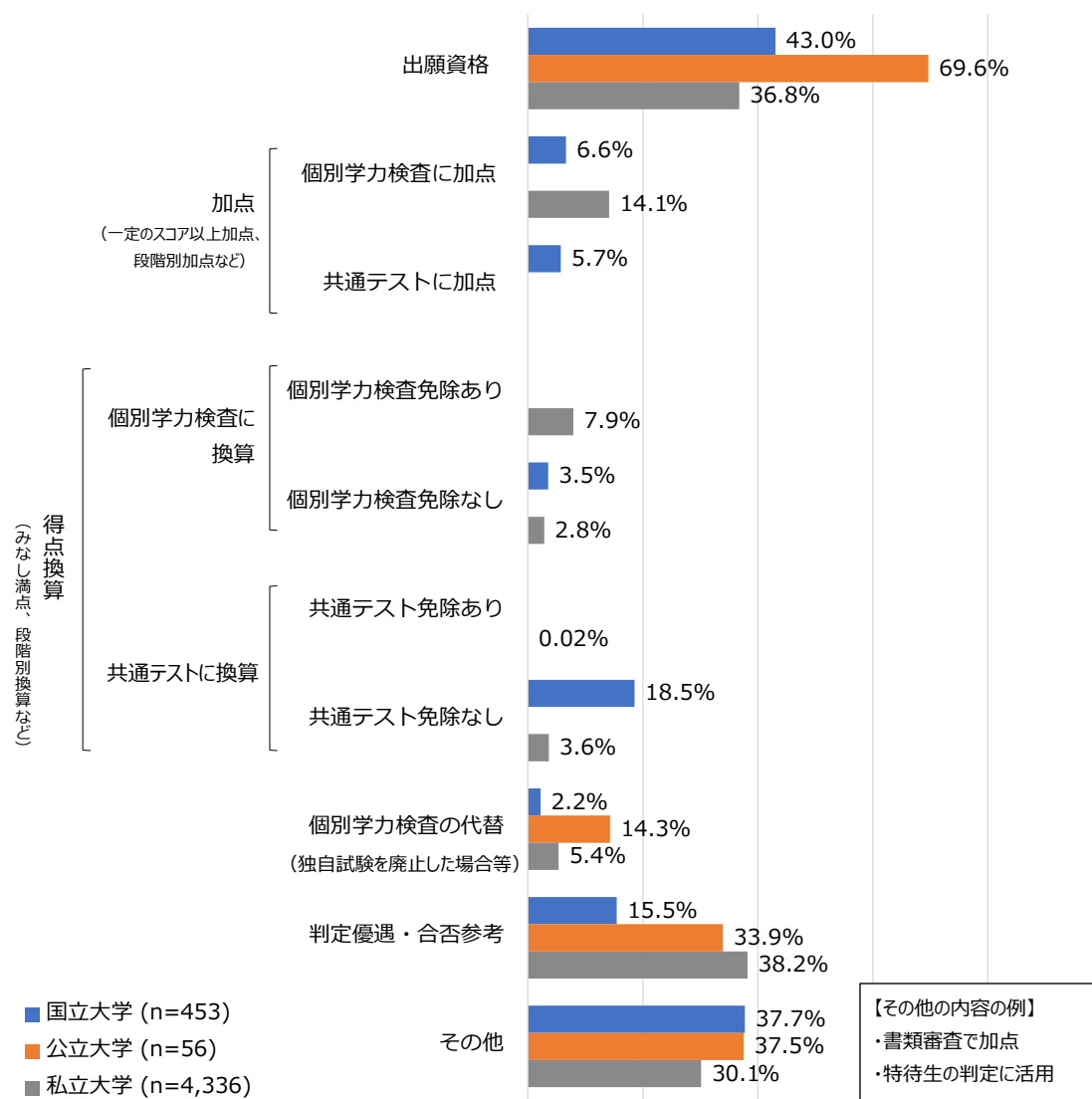


- 出願資格：出願する上での必須要件としている。
- 加点：個別学力検査又は共通テストの点数に「加点」している。
- 得点換算：個別学力検査又は共通テストの点数に「換算」（置き換え）している。
- 個別学力検査の代替：大学独自の英語試験を設けず、英語資格・検定試験の成績のみを個別学力検査の成績として用いている。
- 判定優遇・合否参考：英語資格・検定試験の成績によって合否判定を優遇したり、英語資格・検定試験の成績を合否判定の参考にしたりしている。

6-11 英語資格・検定試験活用方法（総合型選抜）

総合型選抜における活用方法としては、国立大学では出願資格が 43.0%、公立大学では出願資格が 69.6%、私立大学では判定優遇・合否参考が 38.2%で最も多い。

図表 6-37 英語資格・検定試験活用方法（大学・総合型選抜・複数回答）

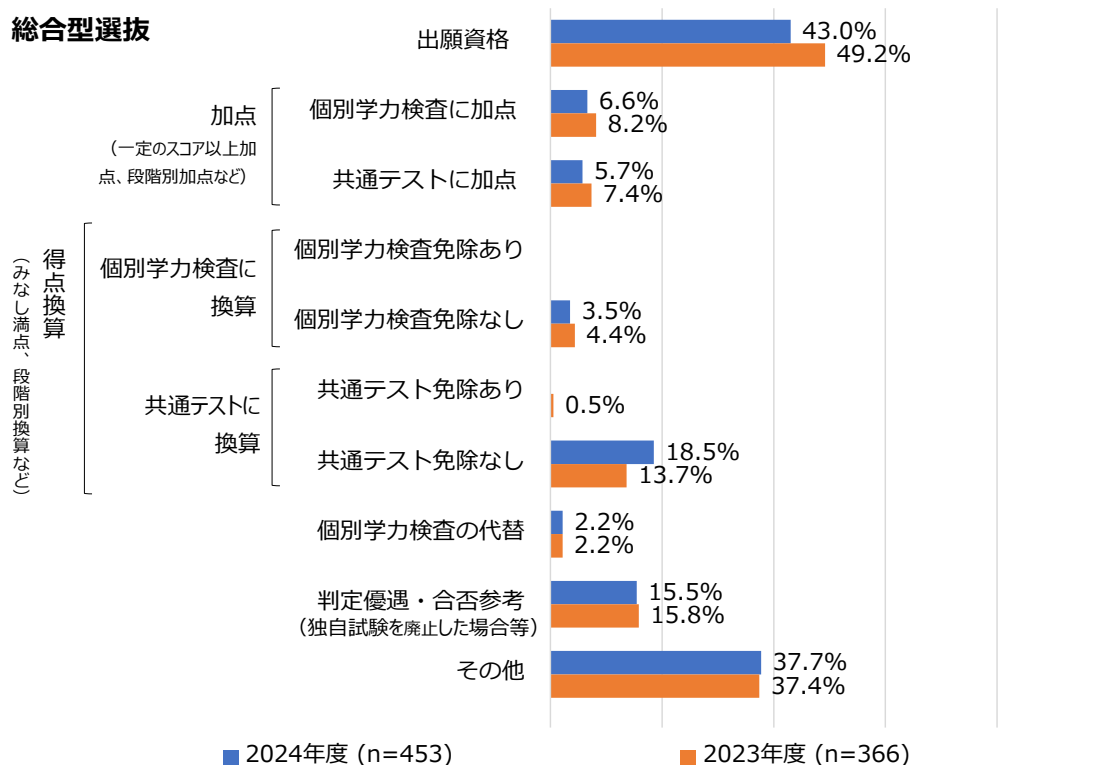


- 出願資格：出願する上での必須要件としている。
- 加点：個別学力検査又は共通テストの点数に「加点」している。
- 得点換算：個別学力検査又は共通テストの点数に「換算」（置き換え）している。
- 個別学力検査の代替：大学独自の英語試験を設けず、英語資格・検定試験の成績のみを個別学力検査の成績として用いている。
- 判定優遇・合否参考：英語資格・検定試験の成績によって合否判定を優遇したり、英語資格・検定試験の成績を合否判定の参考にしたりしている。

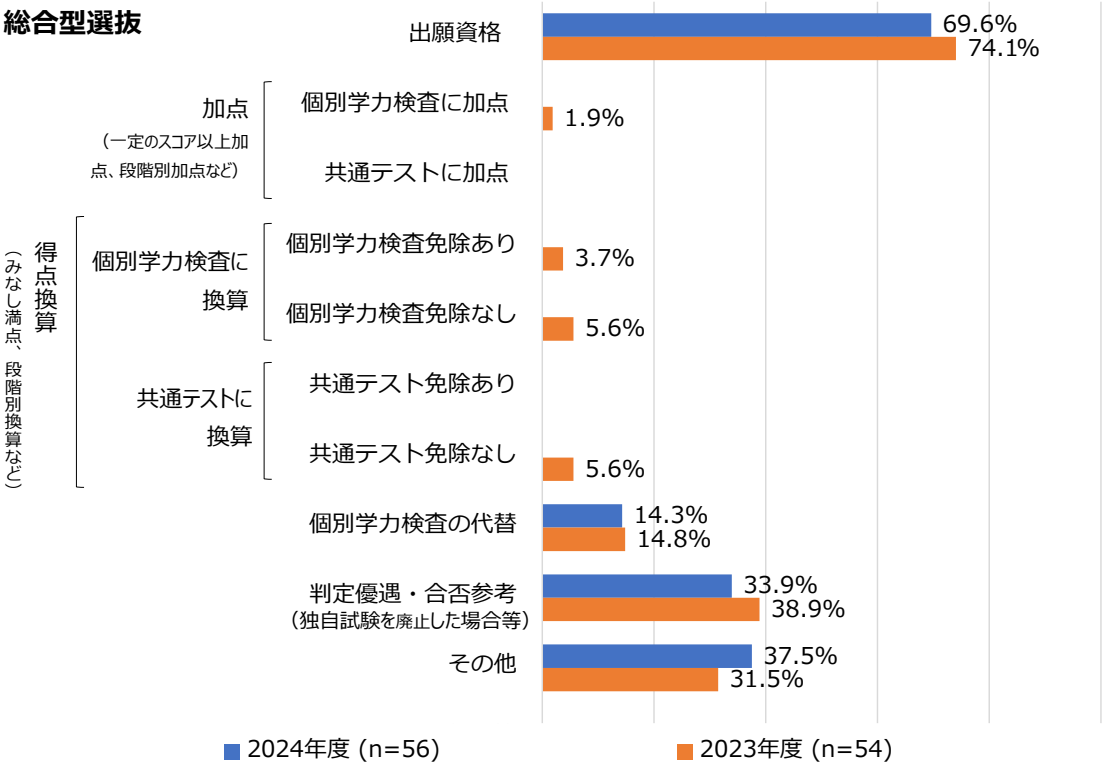
【前回調査との比較】

総合型選抜における活用方法は、国立・公立・私立大学いずれも出願資格、判定優遇・合否参考が減少している。

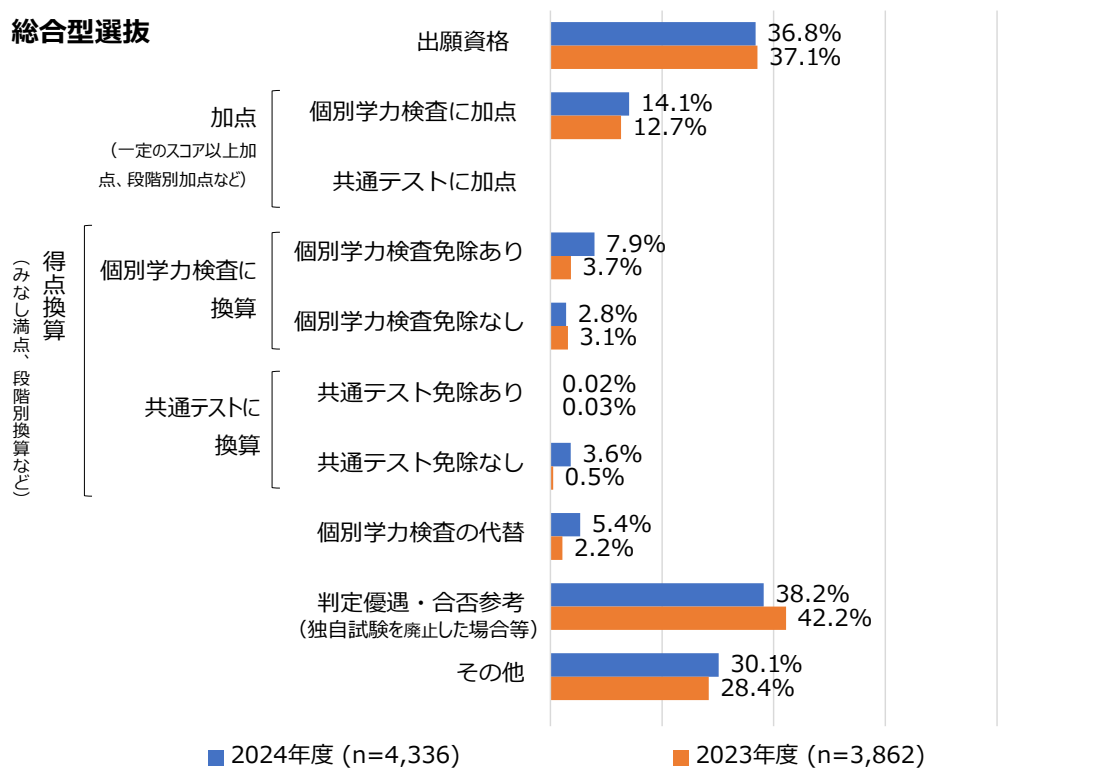
図表 6-38 【前回調査との比較】英語資格・検定試験活用方法
(総合型選抜・国立大学・複数回答)



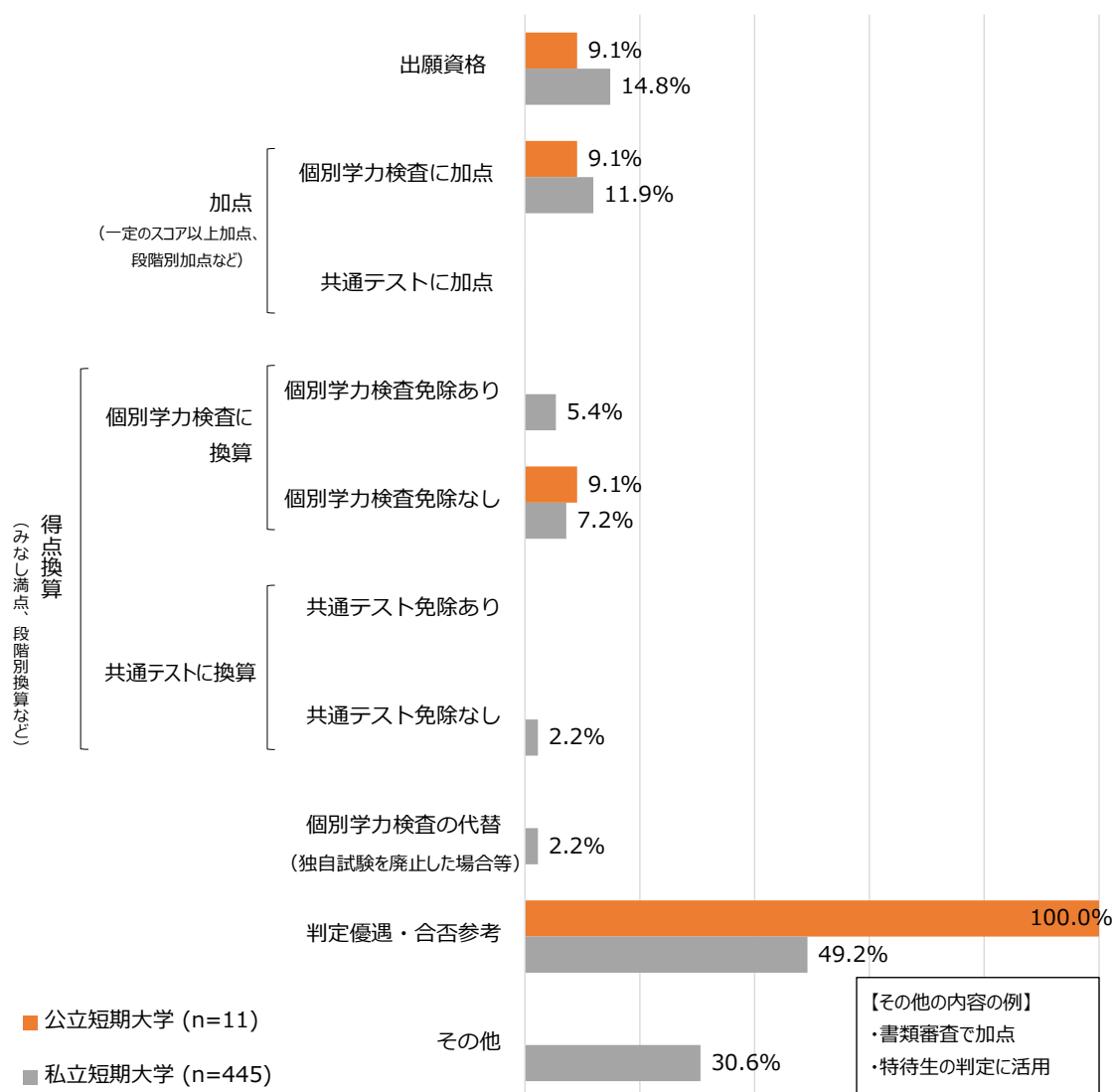
図表 6-39 【前回調査との比較】英語資格・検定試験活用方法
(総合型選抜・公立大学・複数回答)



図表 6-40 【前回調査との比較】英語資格・検定試験活用方法
(総合型選抜・私立大学・複数回答)



図表 6-41 英語資格・検定試験活用方法（短期大学・総合型選抜・複数回答）

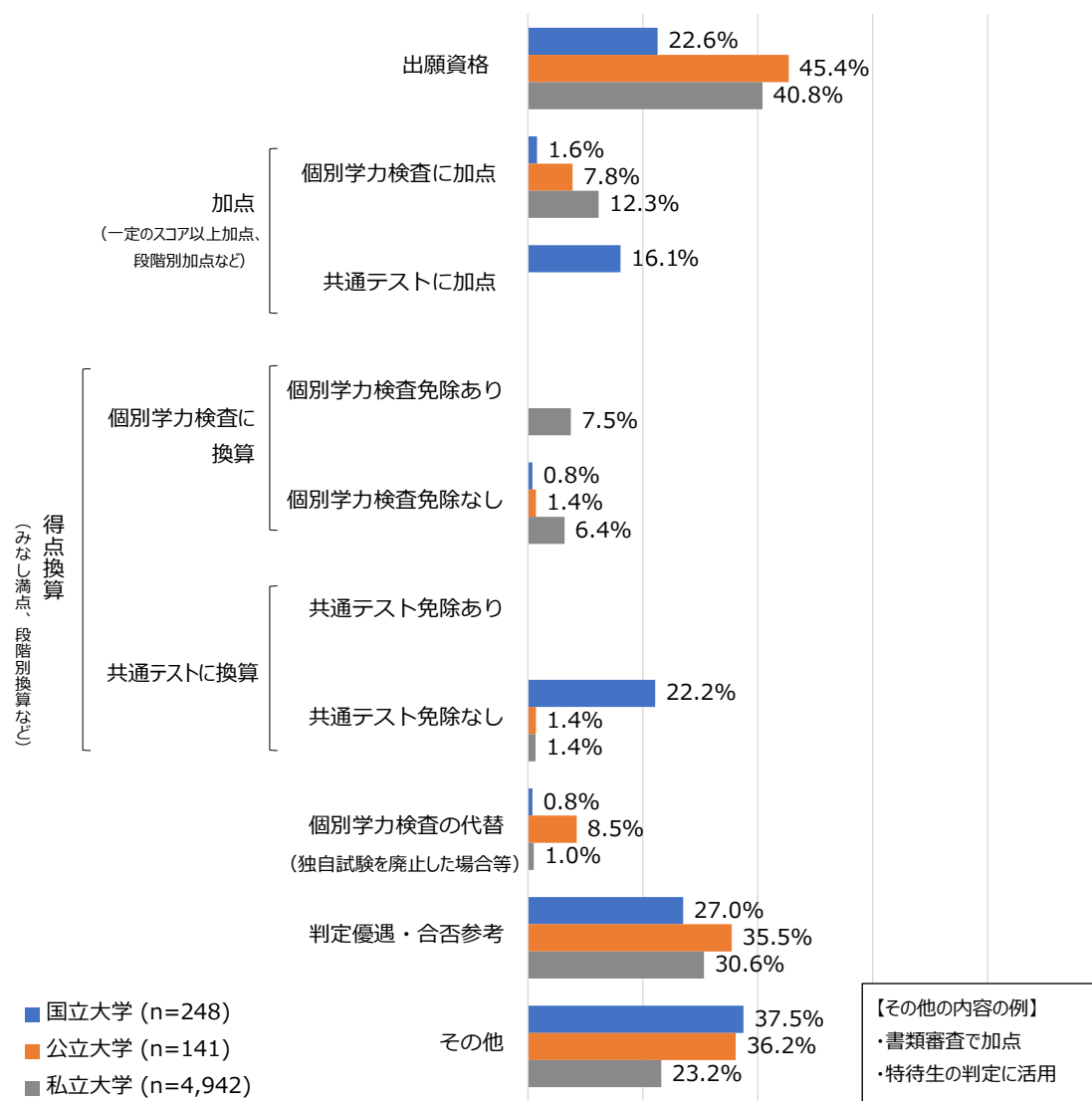


- 出願資格：出願する上での必須要件としている。
- 加点：個別学力検査又は共通テストの点数に「加点」している。
- 得点換算：個別学力検査又は共通テストの点数に「換算」（置き換え）している。
- 個別学力検査の代替：大学独自の英語試験を設けず、英語資格・検定試験の成績のみを個別学力検査の成績として用いている。
- 判定優遇・合否参考：英語資格・検定試験の成績によって合否判定を優遇したり、英語資格・検定試験の成績を合否判定の参考にしたりしている。

6-12 英語資格・検定試験活用方法（学校推薦型選抜）

学校推薦型選抜における活用方法としては、国立大学では判定優遇・合否参考が 27.0%、公立大学では出願資格が 45.4%、私立大学では出願資格が 40.8%で最も多い。

図表 6-42 英語資格・検定試験活用方法（大学・学校推薦型選抜・複数回答）

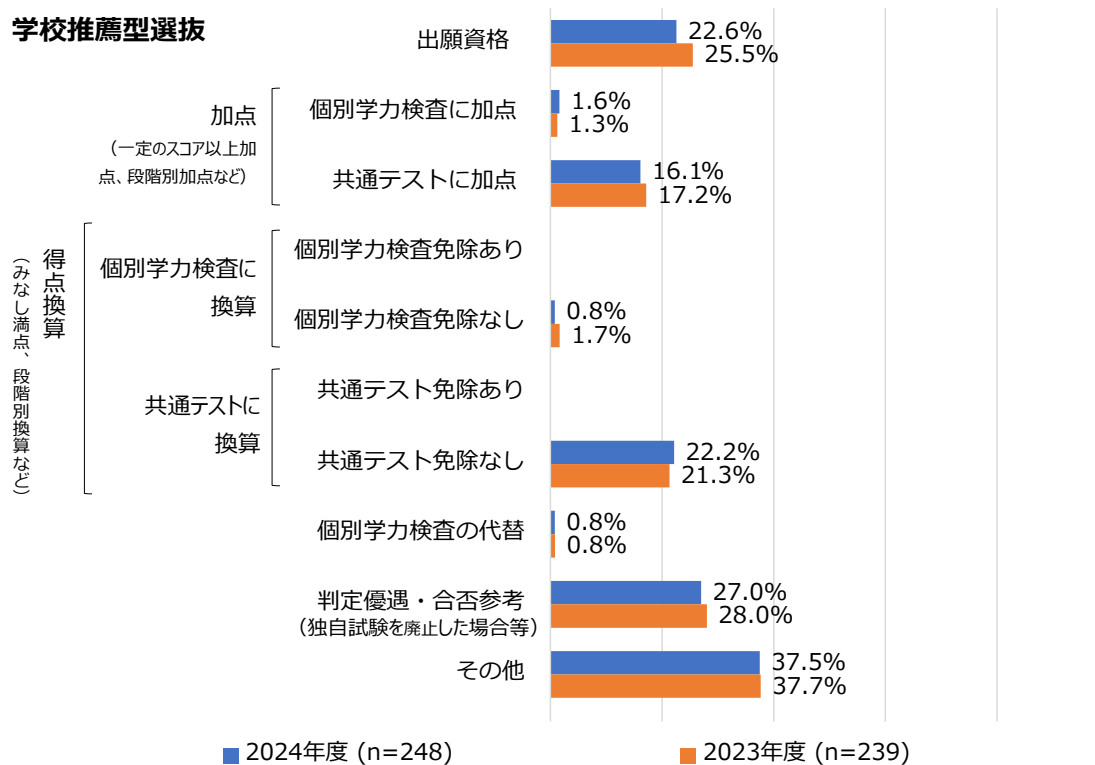


- 出願資格：出願する上での必須要件としている。
- 加点：個別学力検査又は共通テストの点数に「加点」している。
- 得点換算：個別学力検査又は共通テストの点数に「換算」（置き換え）している。
- 個別学力検査の代替：大学独自の英語試験を設けず、英語資格・検定試験の成績のみを個別学力検査の成績として用いている。
- 判定優遇・合否参考：英語資格・検定試験の成績によって合否判定を優遇したり、英語資格・検定試験の成績を合否判定の参考にしたりしている。

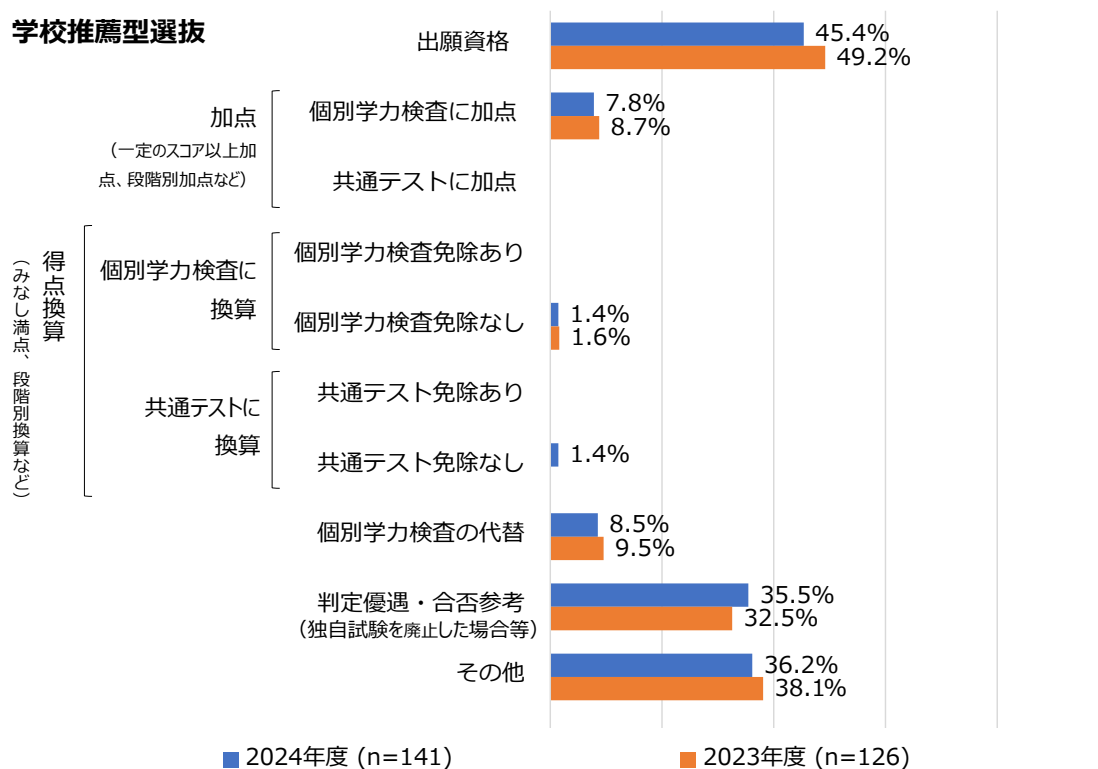
【前回調査との比較】

学校推薦型選抜における活用方法は、国立大学では、共通テストに換算（免除なし）、公立大学では判定優遇・合否参考、私立大学では出願資格が増加している。

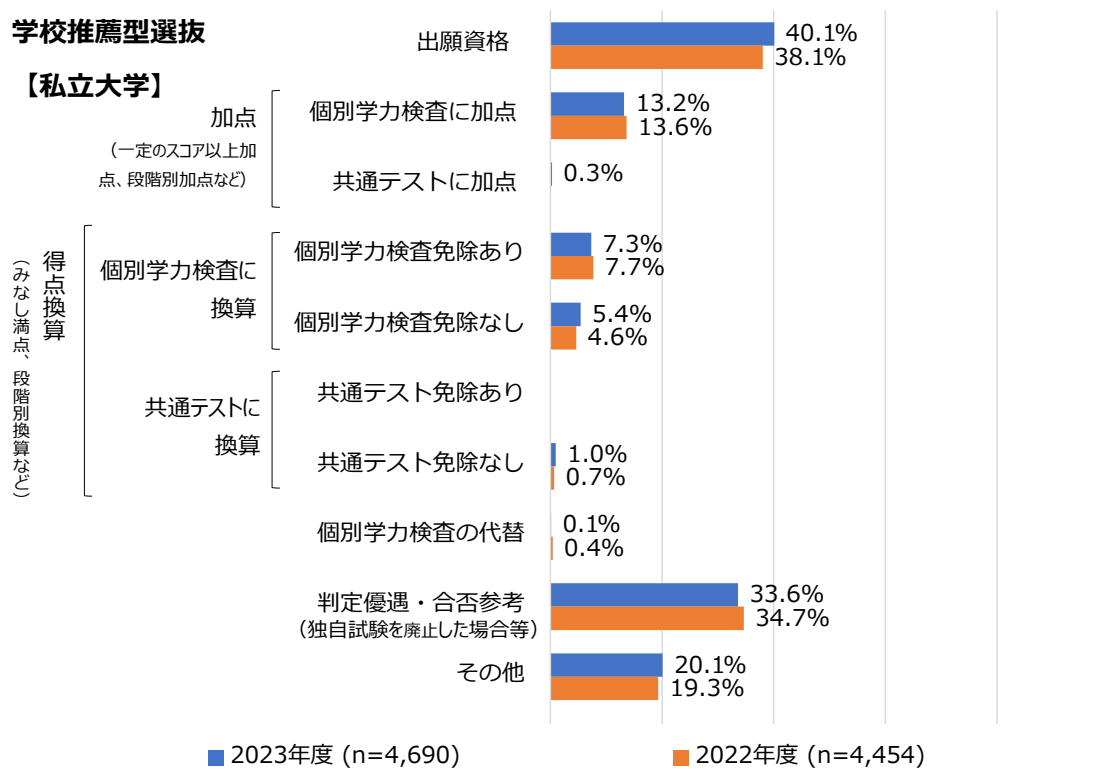
図表 6-43 【前回調査との比較】英語資格・検定試験活用方法
(学校推薦型選抜・国立大学・複数回答)



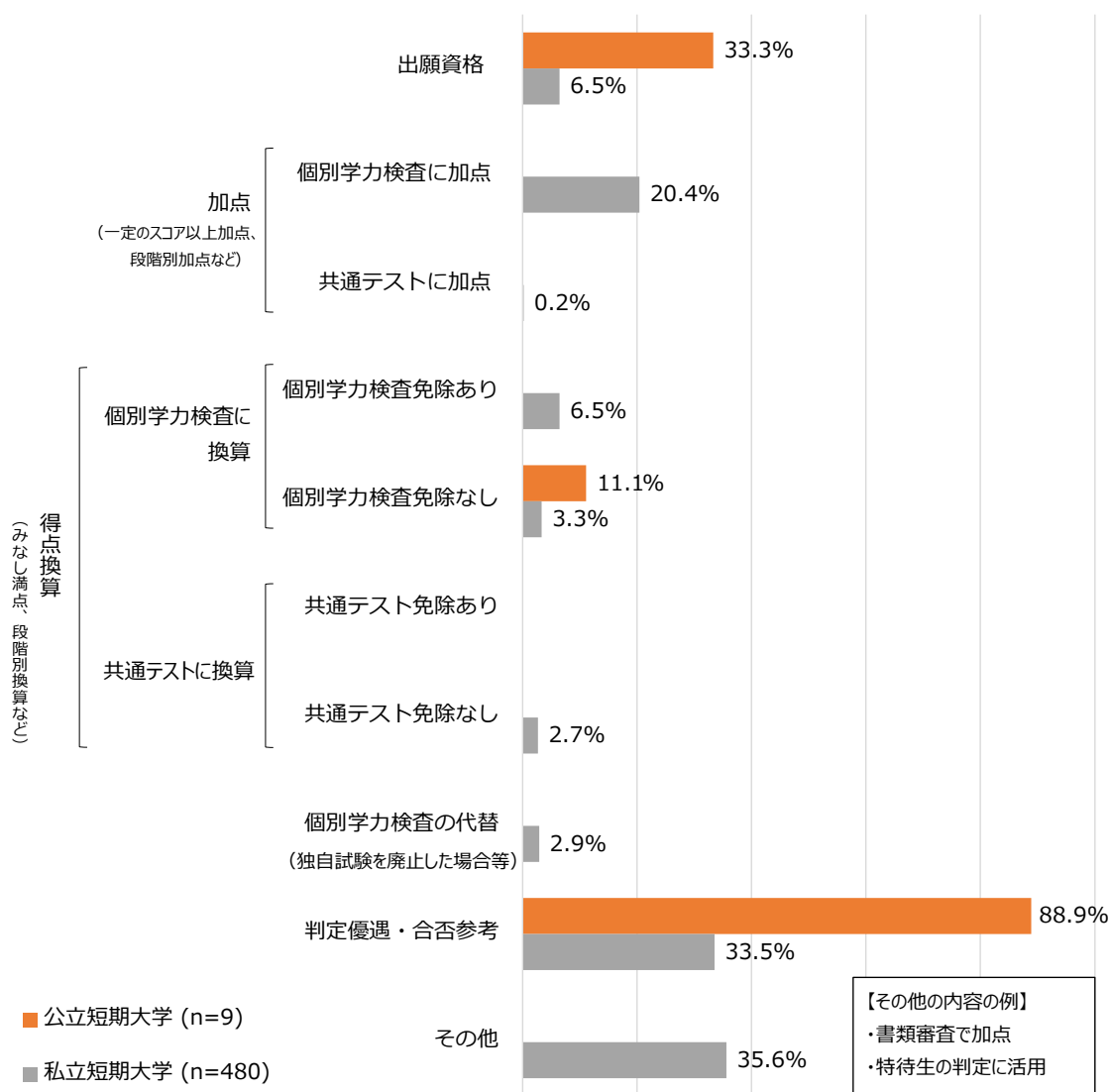
図表 6-44 【前回調査との比較】英語資格・検定試験活用方法
(学校推薦型選抜・公立大学・複数回答)



図表 6-45 【前回調査との比較】英語資格・検定試験活用方法
(学校推薦型選抜・私立大学・複数回答)



図表 6-46 英語資格・検定試験活用方法（短期大学・学校推薦型選抜・複数回答）

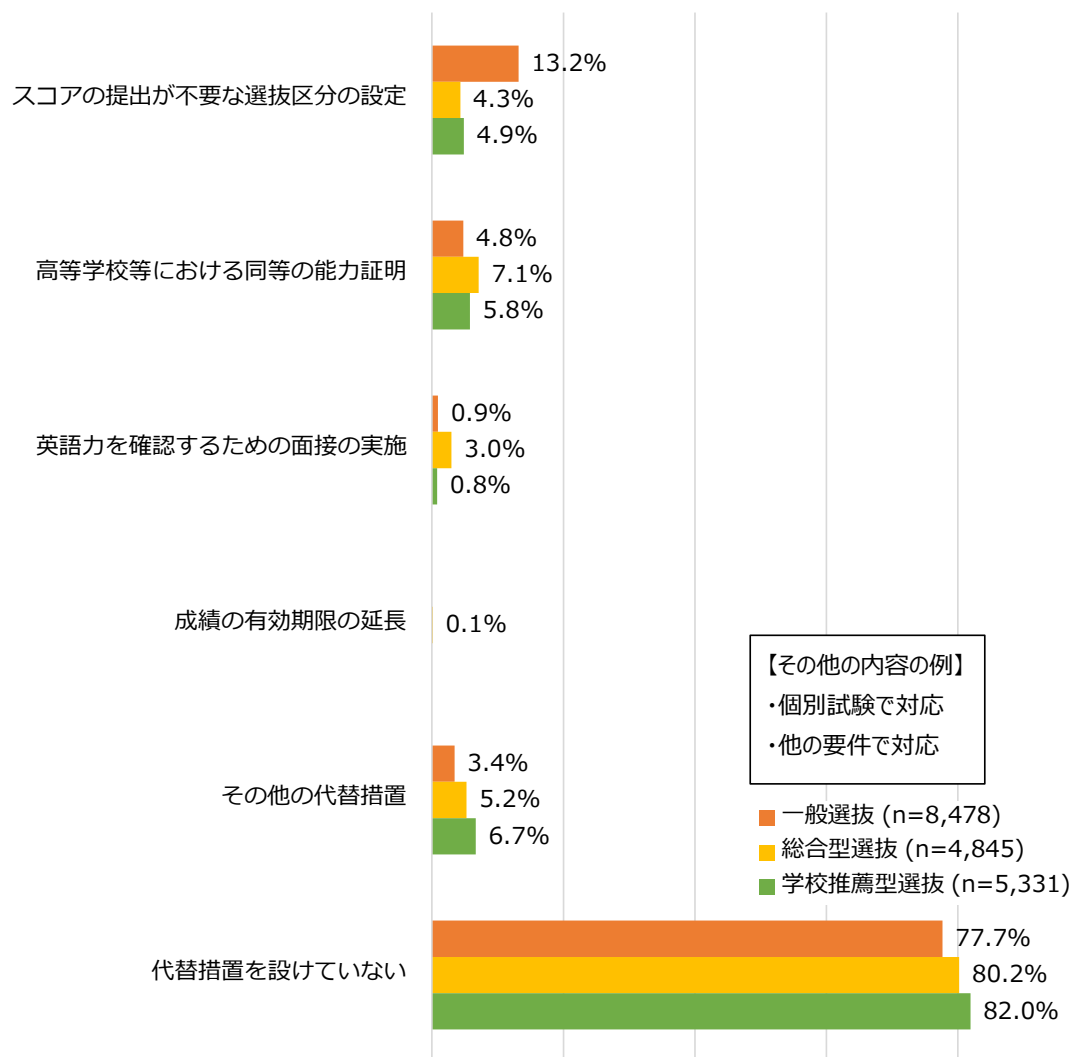


- 出願資格：出願する上での必須要件としている。
- 加点：個別学力検査又は共通テストの点数に「加点」している。
- 得点換算：個別学力検査又は共通テストの点数に「換算」（置き換え）している。
- 個別学力検査の代替：大学独自の英語試験を設けず、英語資格・検定試験の成績のみを個別学力検査の成績として用いている。
- 判定優遇・合否参考：英語資格・検定試験の成績によって合否判定を優遇したり、英語資格・検定試験の成績を合否判定の参考にしたりしている。

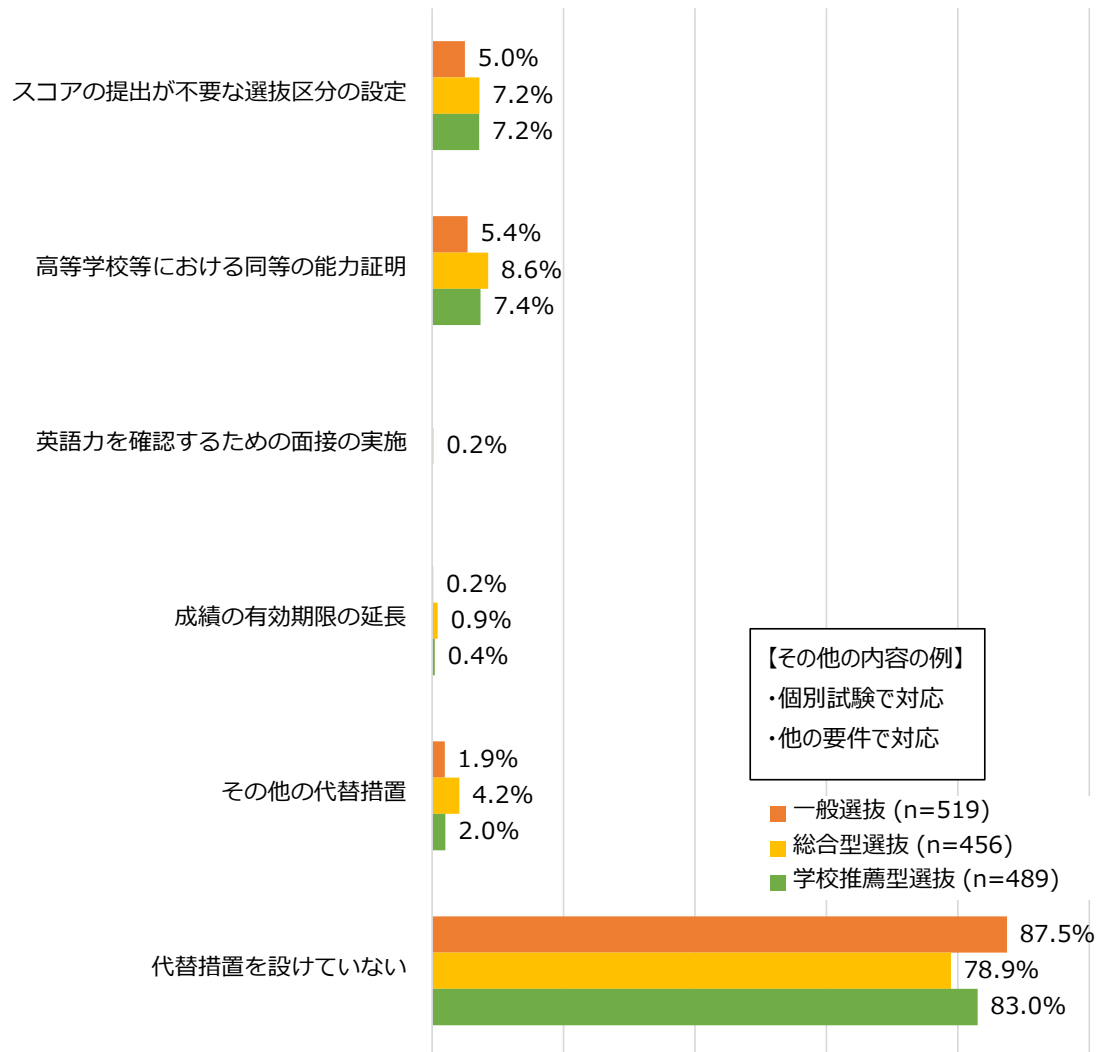
6-13 英語資格・検定試験のスコアが提出できない場合の代替措置

図表 6-47 英語資格・検定試験のスコアが提出できない場合の代替措置

(大学全体・複数回答)



図表 6-48 英語資格・検定試験のスコアが提出できない場合の代替措置
(短期大学全体・複数回答)



第7章 記述式問題等の出題の実態

7-0 本調査における出題形式の分類

A 客観式：

○×式、多肢選択式、複数選択式、組み合わせ式、並べ替え式、抜き書き式（問題文から該当箇所を抜き書きして解答する問題）、その他

B① 記述式－短答式・穴埋め式：

語句、数値、数式、化学式、英単語など、文を構成しない短い解答を記述する問題

※リード文などに空欄があり、そこに該当する、文を構成しない短い解答を記述する問題を含む。

B② 記述式－短文：

概ね 120 字以下（英語の場合、概ね 70 語以下）の文や文章で解答を記述する問題

※リード文などに空欄があり、そこに該当する短い文を記述する問題を含む。

※上記の分量で、英文の内容を日本語で要約して解答する問題、又は、和文の内容を英語で要約して解答する問題を含む。

B③ 記述式－長文・小論文：

概ね 121 字以上（英語の場合、概ね 71 語以上）の文章で解答を記述する問題

※数学、理科等において、求められている結論に加え、それに至る過程も記述する問題や、証明問題（穴埋め式のものは除く）を含む。

※上記の分量で、英文の内容を日本語で要約して解答する問題、又は、和文の内容を英語で要約して解答する問題を含む。

B④ 記述式－図表・グラフ・絵等：

図表やグラフ、絵などで解答を記述する問題

B⑤ 記述式－英文和訳、和文英訳：

該当箇所の英文を日本語の文章に置き換えて解答する問題

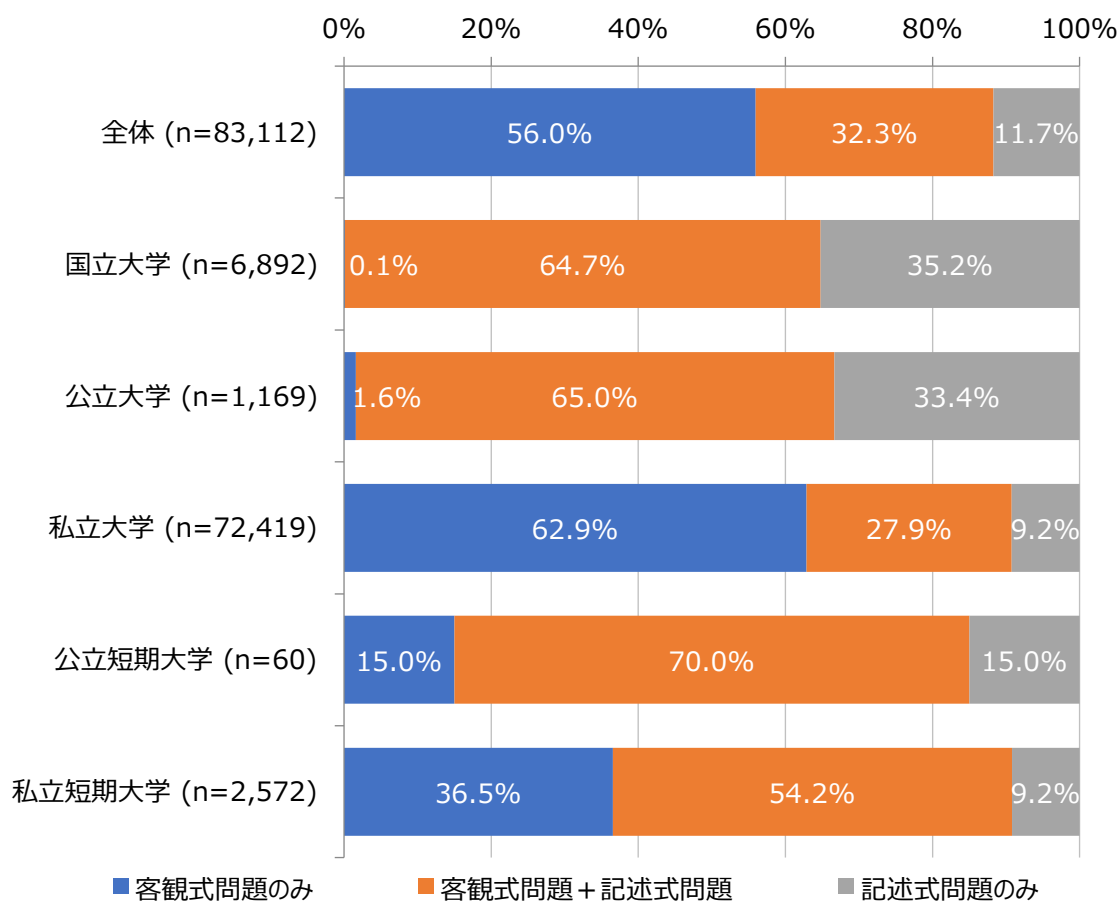
該当箇所の和文を英語の文章に置き換えて解答する問題

※いずれも要約して解答する問題は含まない。

7-1 個別学力検査における客観式問題・記述式問題の出題状況（全体）

一般選抜の個別学力検査において、記述式問題を出題している選抜区分の割合は、国立大学が 99.9%、公立大学が 98.4%、私立大学が 37.1%、公立短期大学が 85.0%、私立短期大学が 63.4%である。

図表 7-1 個別学力検査における客観式問題・記述式問題の出題状況
(全体・一般選抜)

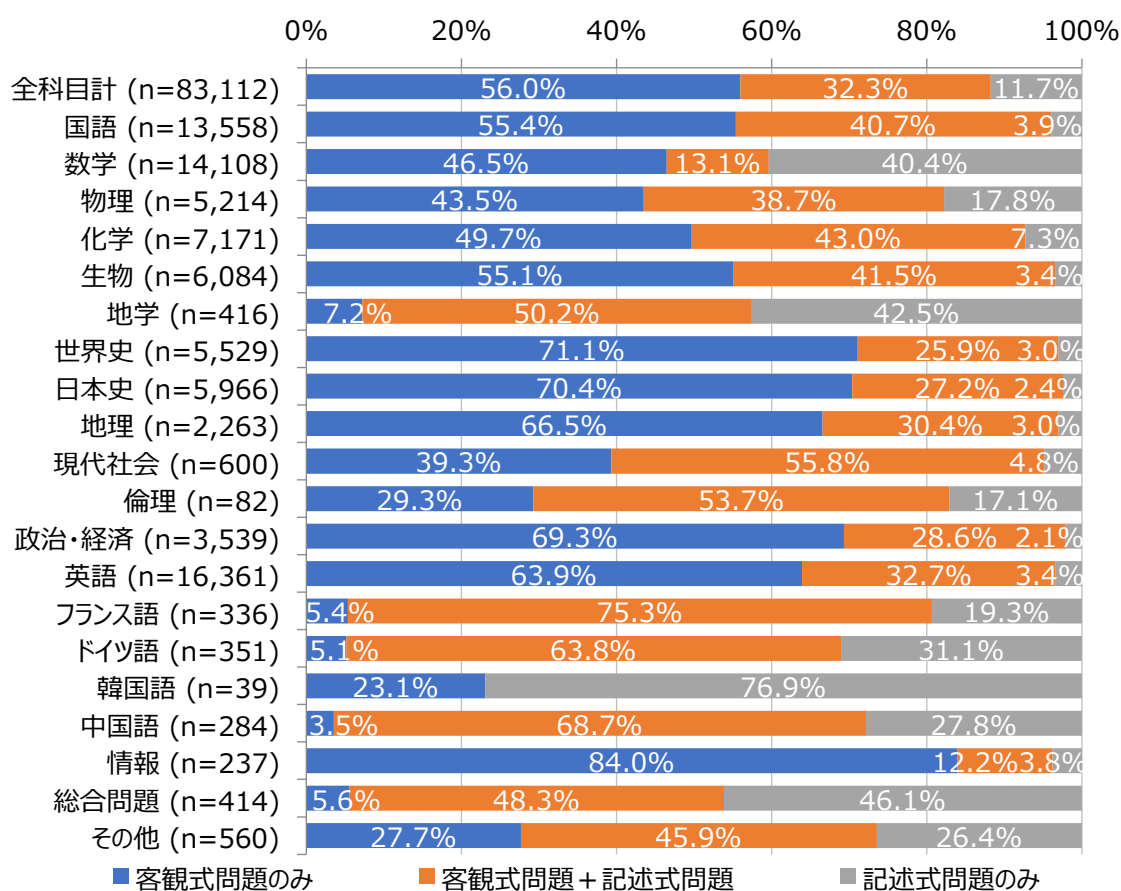


※ n は検査実施選抜区分数（無回答除く）

7-2 個別学力検査における客観式問題・記述式問題の出題状況②（全体）（科目別）

一般選抜における個別学力検査において、記述式問題を出題している選抜区分の割合が高いのは、物理（56.5%）、数学（53.5%）、化学（50.3%）等である。（※nが1,000未満の科目を除く）

図表 7-2 個別学力検査における客観式問題・記述式問題の出題状況②
（全体・一般選抜）

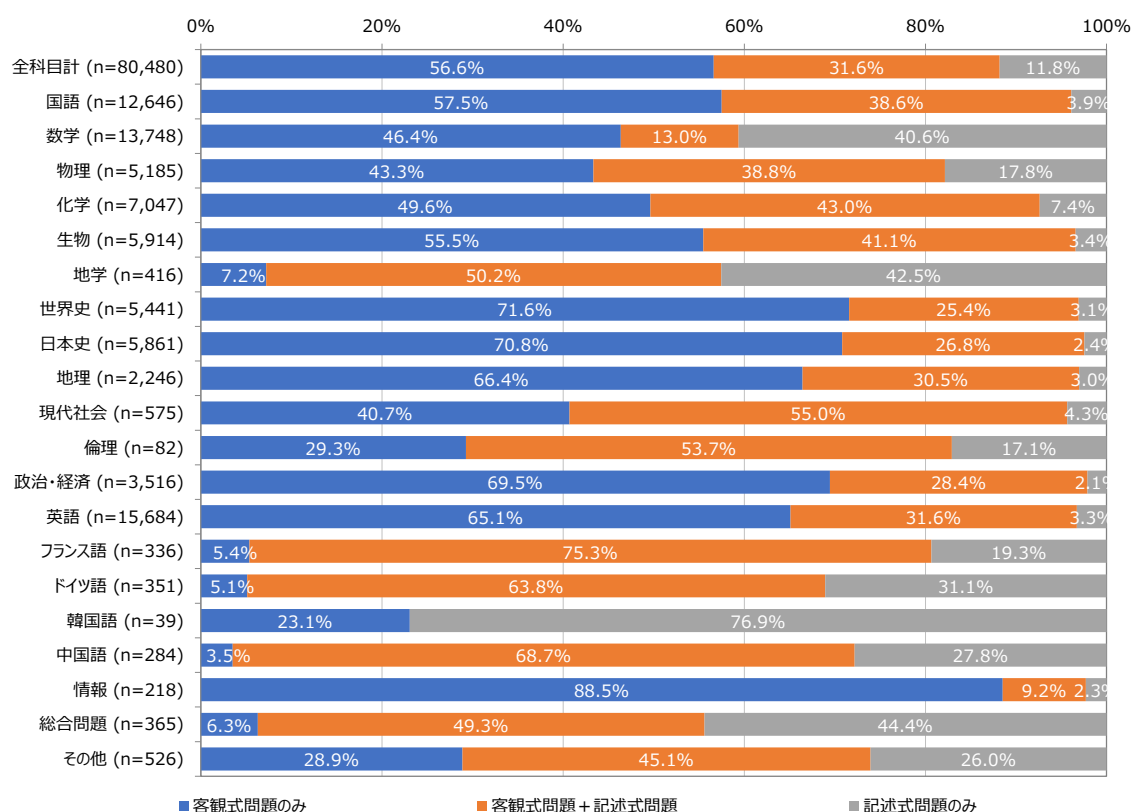


※ n は検査実施選抜区分数（無回答除く）

7-3 個別学力検査における客観式問題・記述式問題の出題状況（大学全体）（科目別）

一般選抜における個別学力検査において、大学全体では、記述式問題を出題している選抜区分は全体の43.4%である。

図表 7-3 個別学力検査における客観式問題・記述式問題の出題状況
(大学全体・一般選抜)



※ n は検査実施選抜区分数（無回答除く）

7-4 個別学力検査における客観式問題・記述式問題の出題状況②（大学全体）（科目別）

大学全体の一般選抜における個別学力検査において、選抜区分ごとの客観式問題・記述式問題の出題状況をみると、「客観式」問題が 88.2%、記述式問題のうち「短答式・穴埋め式」が 34.9%、「短文」が 22.1%、「長文・小論文」が 14.0%、「図表・グラフ・絵等」が 8.5%、「外文和訳・和文外訳」が 4.8%である。

図表 7-4 個別学力検査における客観式問題・記述式問題の出題状況②
(大学全体・一般選抜)

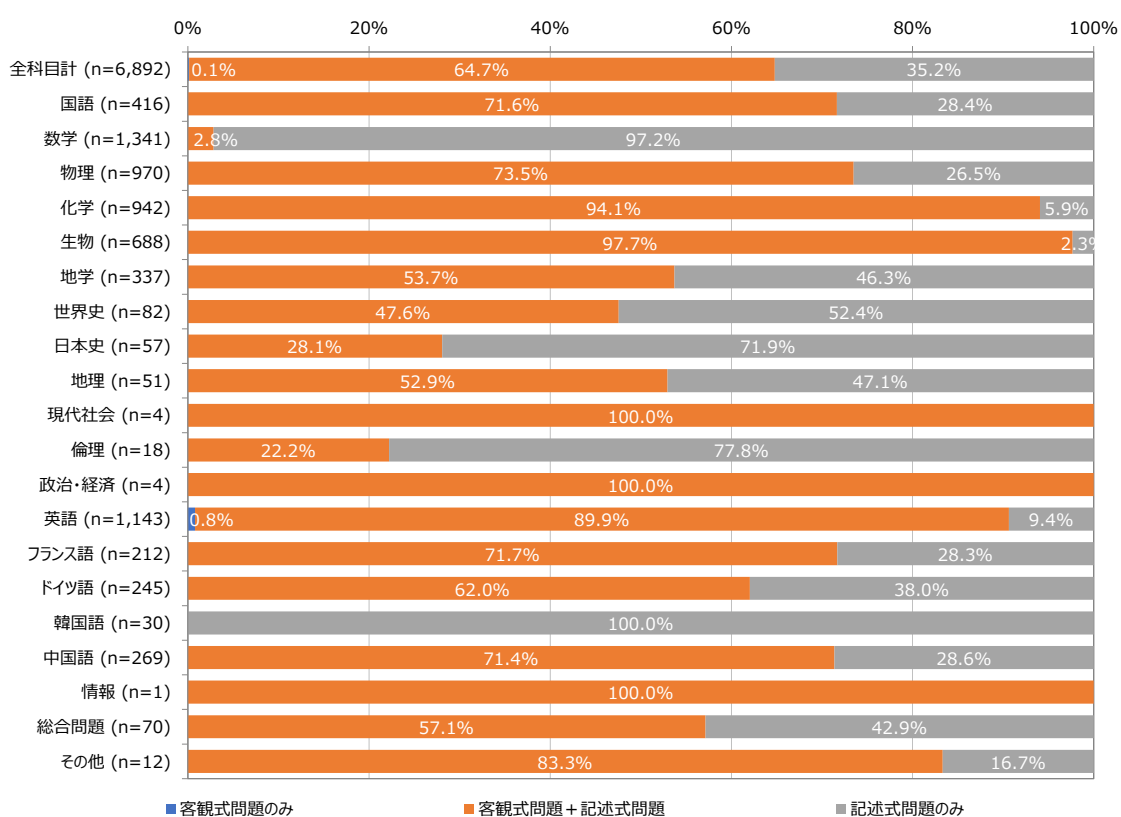
大学	A客観式	B記述式				
		①短答式・穴埋め式	②短文	③長文・小論文	④図表・グラフ・絵等	⑤外文和訳・和文外訳
全科目計 (n=80,480)	88.2%	34.9%	22.1%	14.0%	8.5%	4.8%
国語 (n=12,646)	96.1%	35.7%	32.8%	8.8%	0.2%	
数学 (n=13,748)	59.4%	36.9%	10.6%	32.3%	18.8%	
物理 (n=5,185)	82.2%	52.1%	17.1%	18.2%	20.4%	
化学 (n=7,047)	92.6%	49.2%	29.2%	12.9%	20.9%	
生物 (n=5,914)	96.6%	42.9%	34.3%	9.2%	12.3%	
地学 (n=416)	57.5%	91.3%	90.9%	40.6%	58.2%	
世界史 (n=5,441)	96.9%	24.6%	9.9%	4.4%	0.5%	
日本史 (n=5,861)	97.6%	25.8%	10.7%	3.8%	1.1%	
地理 (n=2,246)	97.0%	31.6%	19.6%	3.2%	5.6%	
現代社会 (n=575)	95.7%	55.3%	18.1%	12.3%	3.1%	
倫理 (n=82)	82.9%	52.4%	28.0%	4.9%	17.1%	
政治・経済 (n=3,516)	97.9%	27.2%	7.5%	4.3%	1.6%	
英語 (n=15,684)	96.7%	21.9%	22.4%	10.2%	0.6%	19.2%
フランス語 (n=336)	80.7%	44.6%	92.9%	66.1%	-	90.5%
ドイツ語 (n=351)	68.9%	70.1%	91.2%	27.9%	43.3%	47.6%
韓国語 (n=39)	23.1%	15.4%	15.4%	61.5%	-	76.9%
中国語 (n=284)	72.2%	79.6%	84.5%	36.6%	-	96.5%
情報 (n=218)	97.7%	8.3%	7.3%	3.2%	3.2%	
総合問題 (n=365)	55.6%	47.1%	57.0%	70.1%	24.9%	20.8%
その他 (n=526)	74.0%	55.7%	38.8%	16.0%	19.2%	

※ n は検査実施選抜区分数（無回答除く）

7-5 個別学力検査における客観式問題・記述式問題の出題状況（国立大学）（科目別）

一般選抜における個別学力検査において、国立大学では、英語を除いて各科目とも記述式問題を出題している選抜区分の割合が100%となっている。記述式問題のみの割合が高いのは、数学（97.2%）、地学（46.3%）、国語（28.4%）等である。（※nが100未満の科目を除く）

図表 7-5 個別学力検査における客観式問題・記述式問題の出題状況
（国立大学・一般選抜）



※ n は検査実施選抜区分数（無回答除く）

7-6 個別学力検査における客観式問題・記述式問題の出題状況②（国立大学）（科目別）

国立大学の一般選抜における個別学力検査において、選抜区分ごとの客観式問題・記述式問題の出題状況をみると、「客観式」問題が 64.8%、記述式問題のうち「短答式・穴埋め式」が 75.1%、「短文」が 67.6%、「長文・小論文」が 55.9%、「図表・グラフ・絵等」が 33.0%、「外文和訳・和文外訳」が 20.6%である。

図表 7-6 個別学力検査における客観式問題・記述式問題の出題状況②
(国立大学・一般選抜・複数回答)

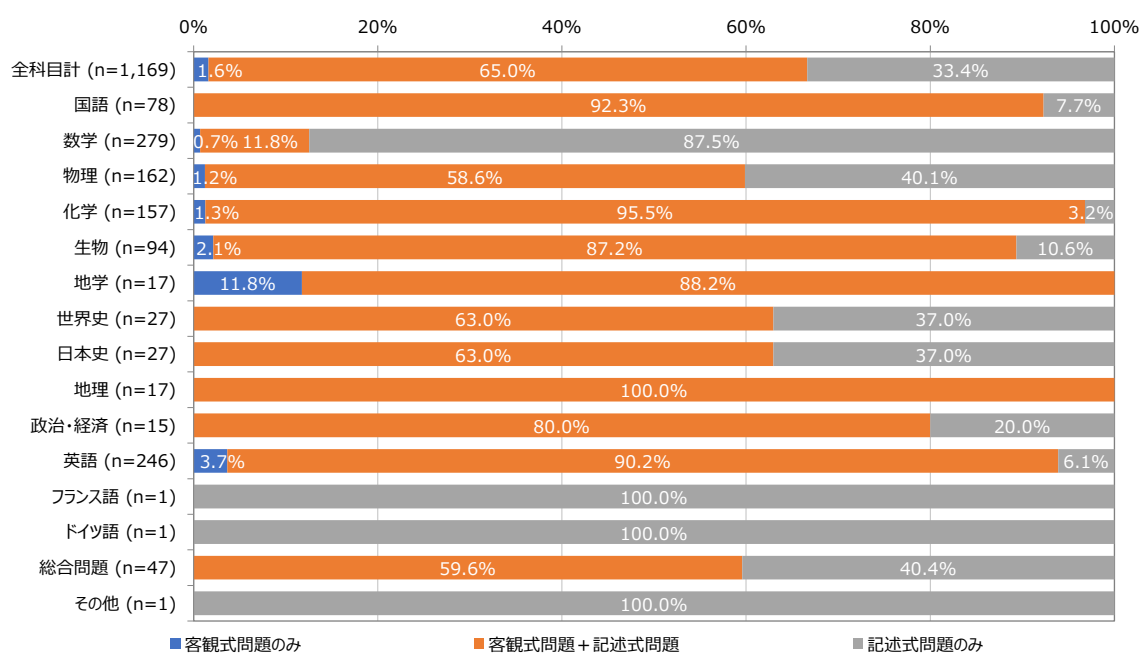
国立大学	A客観式	B記述式				
		①短答式・穴埋め式	②短文	③長文・小論文	④図表・グラフ・絵等	⑤外文和訳・和文外訳
全科目計 (n=6,892)	64.8%	75.1%	67.6%	55.9%	33.0%	20.6%
国語 (n=416)	71.6%	91.6%	98.1%	50.0%	1.7%	
数学 (n=1,341)	2.8%	39.7%	23.0%	88.1%	42.7%	
物理 (n=970)	73.5%	96.2%	39.7%	33.1%	35.3%	
化学 (n=942)	94.1%	99.7%	66.9%	40.0%	64.1%	
生物 (n=688)	97.7%	98.8%	97.2%	37.1%	40.1%	
地学 (n=337)	53.7%	98.2%	97.6%	39.5%	71.8%	
世界史 (n=82)	47.6%	74.4%	76.8%	92.7%	-	
日本史 (n=57)	28.1%	63.2%	68.4%	82.5%	-	
地理 (n=51)	52.9%	47.1%	64.7%	72.5%	31.4%	
現代社会 (n=4)	100.0%	75.0%	100.0%	100.0%	-	
倫理 (n=18)	22.2%	16.7%	16.7%	22.2%	77.8%	
政治・経済 (n=4)	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	-	
英語 (n=1,143)	90.6%	62.8%	90.9%	64.0%	1.3%	69.6%
フランス語 (n=212)	71.7%	23.6%	98.1%	93.9%	-	100.0%
ドイツ語 (n=245)	62.0%	82.4%	100.0%	32.7%	62.0%	38.0%
韓国語 (n=30)	-	20.0%	20.0%	80.0%	-	100.0%
中国語 (n=269)	71.4%	82.5%	87.4%	38.7%	-	100.0%
情報 (n=1)	100.0%	100.0%	-	100.0%	-	
総合問題 (n=70)	57.1%	60.0%	60.0%	84.3%	35.7%	24.3%
その他 (n=12)	83.3%	83.3%	50.0%	50.0%	50.0%	

※ n は検査実施選抜区分数（無回答除く）

7-7 個別学力検査における客観式問題・記述式問題の出題状況（公立大学）（科目別）

一般選抜における個別学力検査において、公立大学では、英語・数理科目を除き記述式問題を出題している選抜区分の割合が 100%となっている。記述式問題のみの割合が高いのは、数学（87.5%）、物理（40.1%）等である。（※n が 100 未満の科目を除く）

図表 7-7 個別学力検査における客観式問題・記述式問題の出題状況
（公立大学・一般選抜）



※ n は検査実施選抜区分数（無回答除く）

※現代社会・倫理・韓国語・中国語・情報を出題する選抜区分はなし

7-8 個別学力検査における客観式問題・記述式問題の出題状況②（公立大学）（科目別）

公立大学の一般選抜における個別学力検査において、選抜区分ごとの客観式問題・記述式問題の出題状況をみると、「客観式」問題が 66.6%、記述式問題のうち「短答式・穴埋め式」が 78.8%、「短文」が 66.6%、「長文・小論文」が 59.6%、「図表・グラフ・絵等」が 22.3%、「外文和訳・和文外訳」が 17.5%である。

図表 7-8 個別学力検査における客観式問題・記述式問題の出題状況②
(公立大学・一般選抜・複数回答)

公立大学	A客観式	B記述式				
		①短答式・穴埋め式	②短文	③長文・小論文	④図表・グラフ・絵等	⑤外文和訳・和文外訳
公立大学 (n=1,169)	66.6%	78.8%	66.6%	59.6%	22.3%	17.5%
国語 (n=78)	92.3%	93.6%	96.2%	43.6%	-	
数学 (n=279)	12.5%	76.3%	29.7%	77.1%	33.7%	
物理 (n=162)	59.9%	87.7%	38.3%	69.1%	42.6%	
化学 (n=157)	96.8%	98.7%	84.7%	45.9%	33.1%	
生物 (n=94)	89.4%	97.9%	97.9%	63.8%	35.1%	
地学 (n=17)	100.0%	88.2%	88.2%	88.2%	-	
世界史 (n=27)	63.0%	96.3%	88.9%	77.8%	-	
日本史 (n=27)	63.0%	77.8%	66.7%	44.4%	-	
地理 (n=17)	100.0%	100.0%	100.0%	47.1%	-	
政治・経済 (n=15)	80.0%	100.0%	100.0%	40.0%	-	
英語 (n=246)	93.9%	48.4%	82.9%	44.7%	-	76.4%
フランス語 (n=1)	-	-	-	-	-	100.0%
ドイツ語 (n=1)	-	-	-	-	-	100.0%
総合問題 (n=47)	59.6%	70.2%	87.2%	66.0%	25.5%	29.8%
その他 (n=1)	-	-	-	100.0%	100.0%	

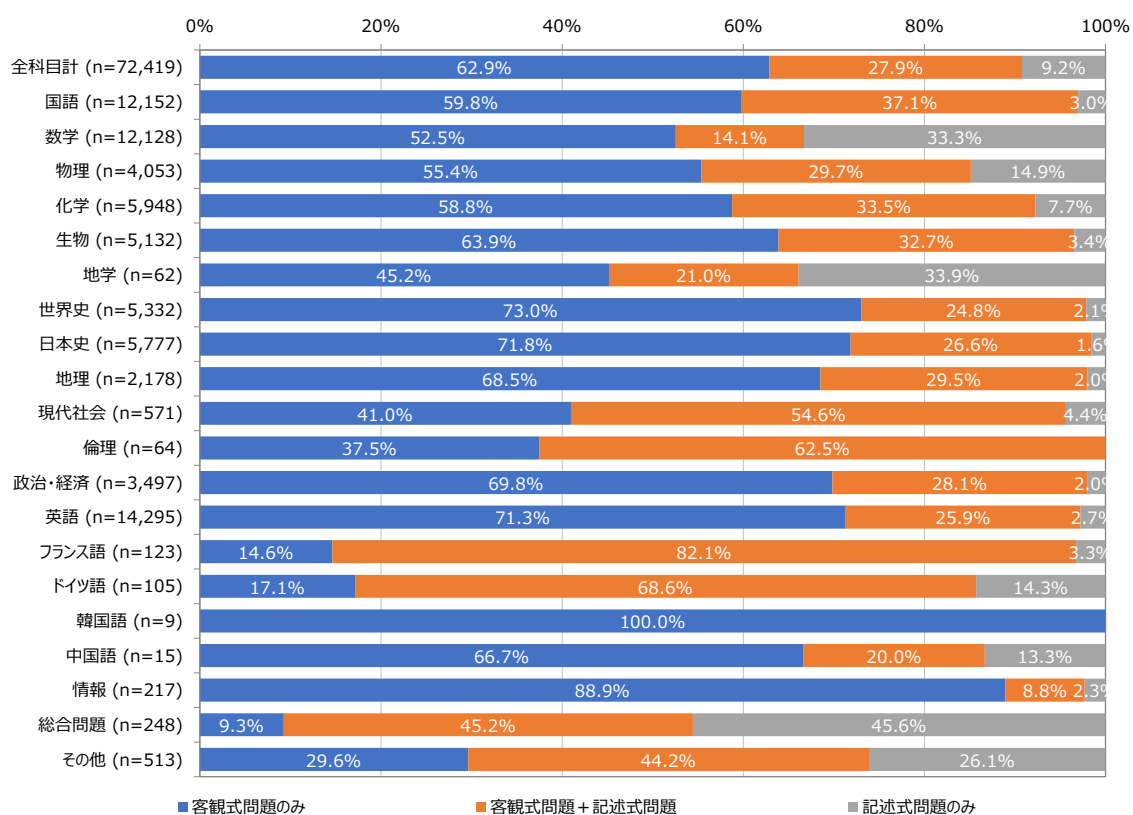
※ n は検査実施選抜区分数（無回答除く）

※現代社会・倫理・韓国語・中国語・情報を出題する選抜区分はなし

7-9 個別学力検査における客観式問題・記述式問題の出題状況（私立大学）（科目別）

一般選抜において、私立大学では、記述式問題を出題している選抜区分の割合が高いのは、総合問題（90.8%）、フランス語（85.4%）、ドイツ語（82.9%）等である。（※nが100未満の科目を除く）

図表 7-9 個別学力検査における客観式問題・記述式問題の出題状況
（私立大学・一般選抜）



※ n は検査実施選抜区分数（無回答除く）

7-10 個別学力検査における客観式問題・記述式問題の出題状況②(私立大学)(科目別)

私立大学の一般選抜における個別学力検査において、選抜区分ごとの客観式問題・記述式問題の出題状況をみると、「客観式」問題が 90.8%、記述式問題のうち「短答式・穴埋め式」が 30.4%、「短文」が 17.0%、「長文・小論文」が 9.3%、「図表・グラフ・式」が 6.0%、「外文和訳・和文外訳」が 3.1%である。

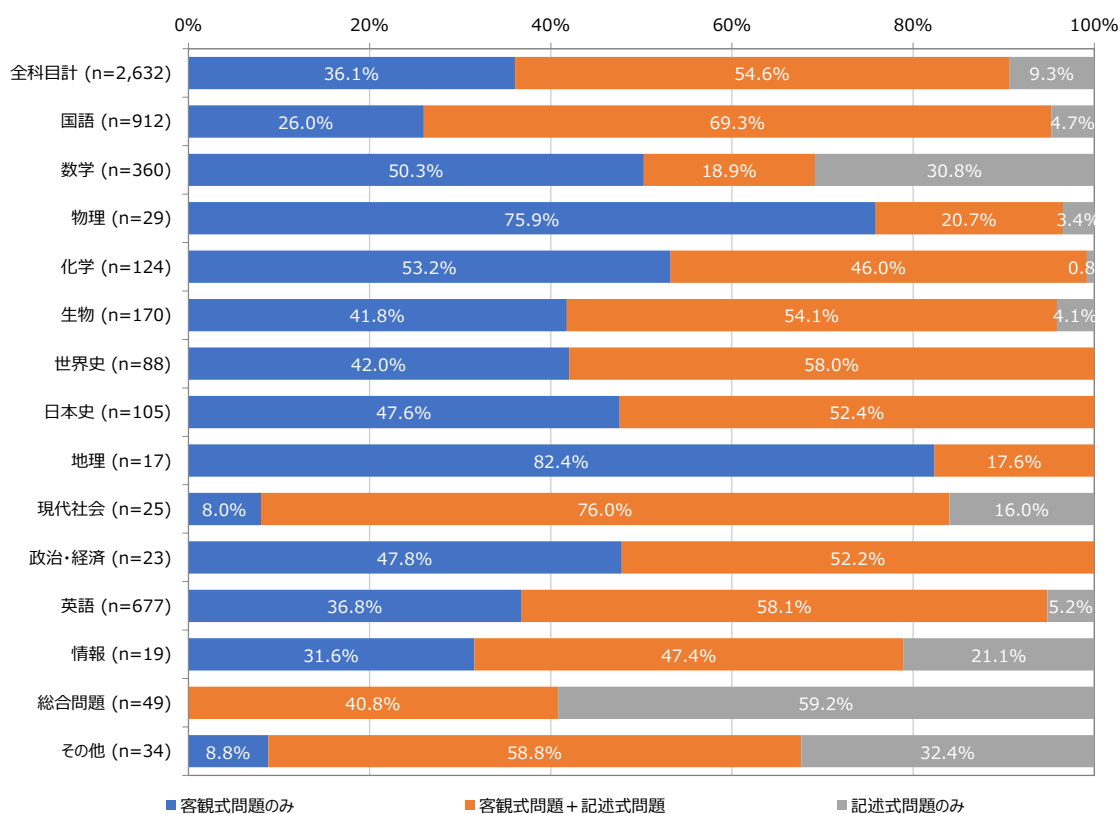
図表 7-10 個別学力検査における客観式問題・記述式問題の出題状況②
(私立大学・一般選抜・複数回答)

私立大学	A客観式	B記述式				
		①短答式・穴埋め式	②短文	③長文・小論文	④図表・グラフ・式	⑤外文和訳・和文外訳
全科目計 (n=72,419)	90.8%	30.4%	17.0%	9.3%	6.0%	3.1%
国語 (n=12,152)	97.0%	33.4%	30.1%	7.2%	0.2%	
数学 (n=12,128)	66.7%	35.7%	8.8%	25.1%	15.8%	
物理 (n=4,053)	85.1%	40.1%	10.9%	12.6%	16.0%	
化学 (n=5,948)	92.3%	39.8%	21.8%	7.7%	13.7%	
生物 (n=5,132)	96.6%	34.4%	24.7%	4.5%	8.2%	
地学 (n=62)	66.1%	54.8%	54.8%	33.9%	-	
世界史 (n=5,332)	97.9%	23.5%	8.5%	2.7%	0.5%	
日本史 (n=5,777)	98.4%	25.2%	9.9%	2.8%	1.1%	
地理 (n=2,178)	98.0%	30.7%	17.9%	1.2%	5.0%	
現代社会 (n=571)	95.6%	55.2%	17.5%	11.7%	3.2%	
倫理 (n=64)	100.0%	62.5%	31.3%	-	-	
政治・経済 (n=3,497)	98.0%	26.8%	7.0%	4.0%	1.6%	
英語 (n=14,295)	97.3%	18.2%	15.9%	5.3%	0.5%	14.2%
フランス語 (n=123)	96.7%	81.3%	84.6%	18.7%	-	74.0%
ドイツ語 (n=105)	85.7%	41.9%	71.4%	17.1%	-	69.5%
韓国語 (n=9)	100.0%	-	-	-	-	-
中国語 (n=15)	86.7%	26.7%	33.3%	-	-	33.3%
情報 (n=217)	97.7%	7.8%	7.4%	2.8%	3.2%	
総合問題 (n=248)	54.4%	39.1%	50.4%	66.9%	21.8%	18.1%
その他 (n=513)	73.9%	55.2%	38.6%	15.0%	18.3%	

※ n は検査実施選抜区分数（無回答除く）

7-11 個別学力検査における客観式問題・記述式問題の出題状況（短期大学全体）（科目別）

図表 7-11 個別学力検査における客観式問題・記述式問題の出題状況
（短期大学全体・一般選抜）



※ n は検査実施選抜区分数（無回答除く）

※地学・倫理・フランス語・ドイツ語・韓国語・中国語を出題する選抜区分はなし

7-12 個別学力検査における客観式問題・記述式問題の出題状況②（短期大学全体）（科目別）

図表 7-12 個別学力検査における客観式問題・記述式問題の出題状況②
（短期大学全体・一般選抜）

短期大学	A客観式	B記述式				
		①短答式・穴埋め式	②短文	③長文・小論文	④図表・グラフ・絵等	⑤外文和訳・和文外訳
全科目計 (n=2,632)	90.7%	55.0%	43.6%	15.0%	6.6%	9.7%
国語 (n=912)	95.3%	66.0%	58.6%	16.8%	1.6%	
数学 (n=360)	69.2%	44.7%	19.4%	11.7%	21.9%	
物理 (n=29)	96.6%	24.1%	3.4%	3.4%	10.3%	
化学 (n=124)	99.2%	44.4%	29.8%	-	4.8%	
生物 (n=170)	95.9%	56.5%	35.3%	-	11.2%	
世界史 (n=88)	100.0%	58.0%	44.3%	28.4%	-	
日本史 (n=105)	100.0%	52.4%	40.0%	23.8%	9.5%	
地理 (n=17)	100.0%	17.6%	5.9%	-	-	
現代社会 (n=25)	84.0%	84.0%	72.0%	8.0%	16.0%	
政治・経済 (n=23)	100.0%	52.2%	26.1%	-	-	
英語 (n=677)	94.8%	50.2%	45.1%	14.3%	2.2%	36.6%
情報 (n=19)	78.9%	68.4%	42.1%	-	21.1%	
総合問題 (n=49)	40.8%	30.6%	36.7%	73.5%	28.6%	16.3%
その他 (n=34)	67.6%	47.1%	23.5%	41.2%	14.7%	

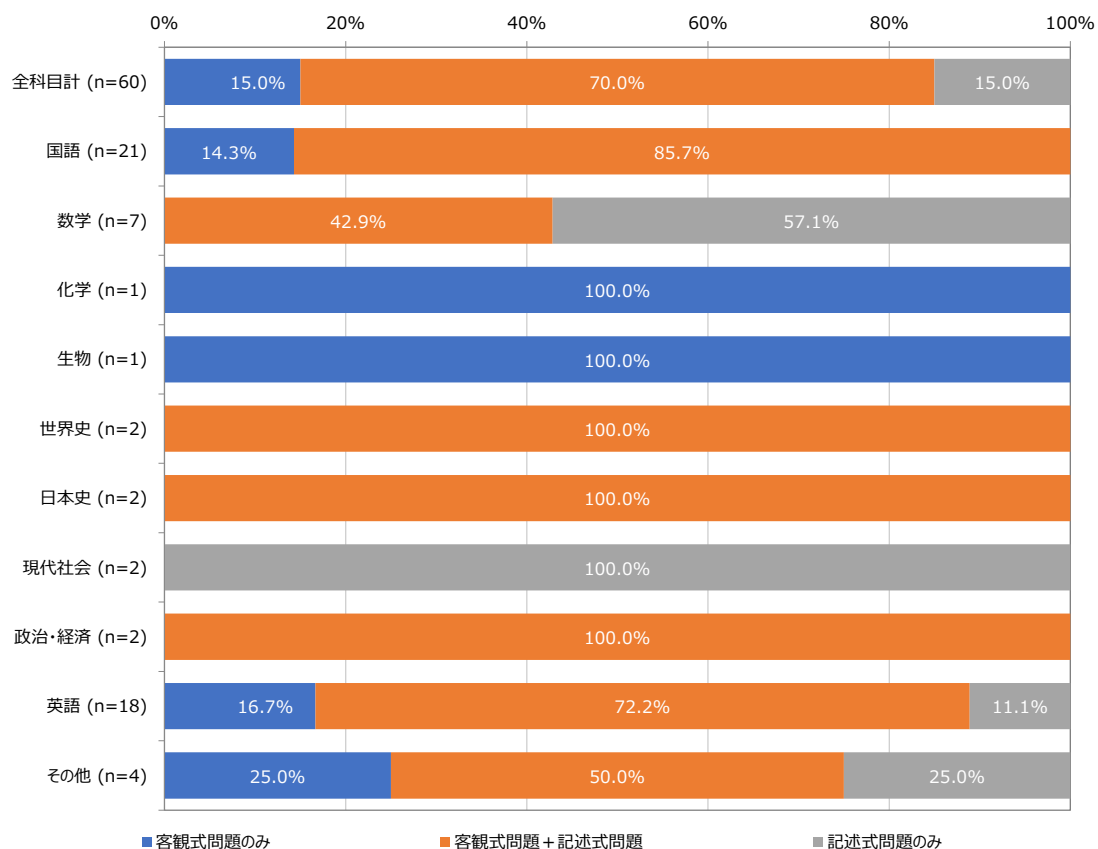
※ n は検査実施選抜区分数（無回答除く）

※地学・倫理・フランス語・ドイツ語・韓国語・中国語を出題する選抜区分はなし

7-13 個別学力検査における客観式問題・記述式問題の出題状況（公立短期大学）（科目別）

図表 7-13 個別学力検査における客観式問題・記述式問題の出題状況

（公立短期大学・一般選抜）



※ n は検査実施選抜区分数（無回答除く）

※物理・地学・地理・倫理・フランス語・ドイツ語・韓国語・中国語・情報・総合問題を出題する選抜区分はなし

7-14 個別学力検査における客観式問題・記述式問題の出題状況②(公立短期大学)(科目別)

図表 7-14 個別学力検査における客観式問題・記述式問題の出題状況②

(公立短期大学・一般選抜・複数回答)

公立短期大学	A客観式	B記述式				
		①短答式・穴埋め式	②短文	③長文・小論文	④図表・グラフ・絵等	⑤外文和訳・和文外訳
全科目計 (n=60)	85.0%	83.3%	63.3%	13.3%	8.3%	20.0%
国語 (n=21)	100.0%	85.7%	71.4%	14.3%	-	
数学 (n=7)	42.9%	100.0%	-	28.6%	42.9%	
化学 (n=1)	100.0%	-	-	-	-	
生物 (n=1)	100.0%	-	-	-	-	
世界史 (n=2)	100.0%	100.0%	100.0%	-	-	
日本史 (n=2)	100.0%	100.0%	100.0%	-	-	
現代社会 (n=2)	-	100.0%	-	-	-	
政治・経済 (n=2)	100.0%	100.0%	100.0%	-	-	
英語 (n=18)	88.9%	83.3%	83.3%	16.7%	5.6%	66.7%
その他 (n=4)	75.0%	50.0%	50.0%	-	25.0%	

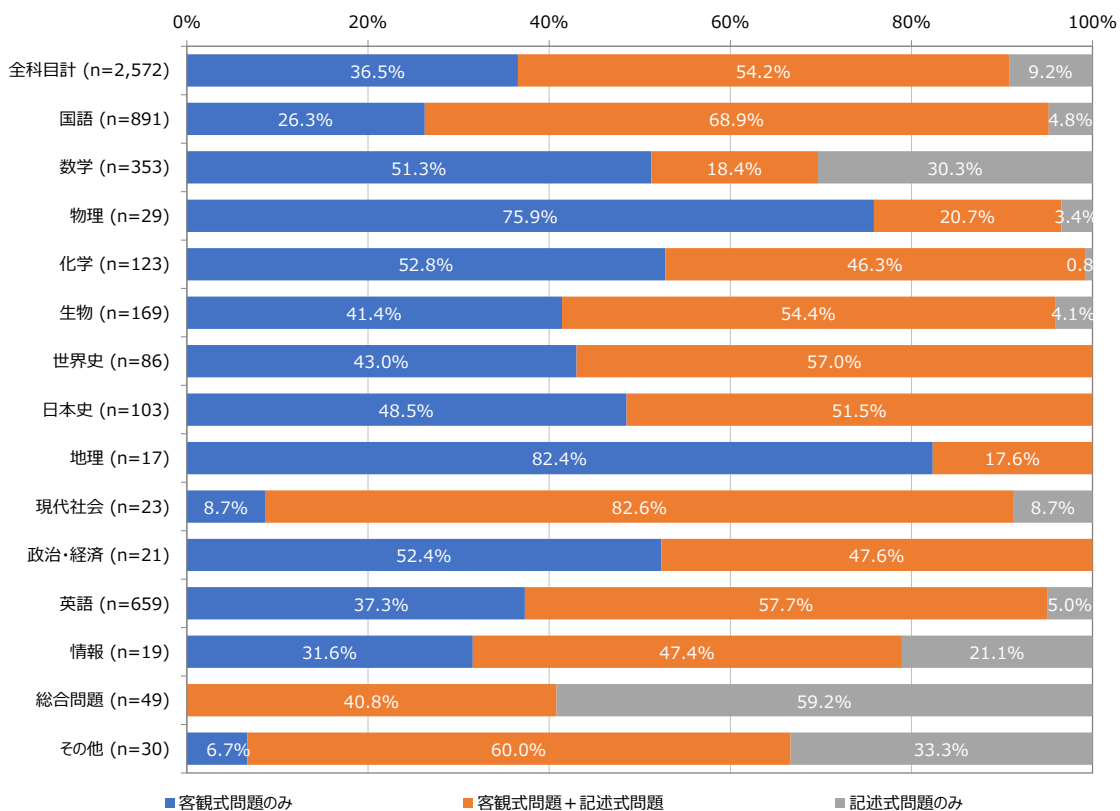
※ n は検査実施選抜区分数（無回答除く）

※物理・地学・地理・倫理・フランス語・ドイツ語・韓国語・中国語・情報・総合問題を出題する選抜区分はなし

7-15 個別学力検査における客観式問題・記述式問題の出題状況（私立短期大学）（科目別）

図表 7-15 個別学力検査における客観式問題・記述式問題の出題状況

（私立短期大学・一般選抜）



※ n は検査実施選抜区分数（無回答除く）

※地学・フランス語・ドイツ語・韓国語・中国語を出題する選抜区分はなし

7-16 個別学力検査における客観式問題・記述式問題の出題状況②(私立短期大学)(科目別)

図表 7-16 個別学力検査における客観式問題・記述式問題の出題状況②

(私立短期大学・一般選抜・複数回答)

私立短期大学	A客観式	B記述式				
		①短答式・穴埋め式	②短文	③長文・小論文	④図表・グラフ・絵等	⑤外文和訳・和文外訳
全科目計 (n=2,572)	90.8%	54.3%	43.1%	15.0%	6.6%	9.5%
国語 (n=891)	95.2%	65.5%	58.2%	16.8%	1.7%	
数学 (n=353)	69.7%	43.6%	19.8%	11.3%	21.5%	
物理 (n=29)	96.6%	24.1%	3.4%	3.4%	10.3%	
化学 (n=123)	99.2%	44.7%	30.1%	-	4.9%	
生物 (n=169)	95.9%	56.8%	35.5%	-	11.2%	
世界史 (n=86)	100.0%	57.0%	43.0%	29.1%	-	
日本史 (n=103)	100.0%	51.5%	38.8%	24.3%	9.7%	
地理 (n=17)	100.0%	17.6%	5.9%	-	-	
現代社会 (n=23)	91.3%	82.6%	78.3%	8.7%	17.4%	
政治・経済 (n=21)	100.0%	47.6%	19.0%	-	-	
英語 (n=659)	95.0%	49.3%	44.0%	14.3%	2.1%	35.8%
情報 (n=19)	78.9%	68.4%	42.1%	-	21.1%	
総合問題 (n=49)	40.8%	30.6%	36.7%	73.5%	28.6%	16.3%
その他 (n=30)	66.7%	46.7%	20.0%	46.7%	13.3%	

※ n は検査実施選抜区分数（無回答除く）

※地学・倫理・フランス語・ドイツ語・韓国語・中国語を出題する選抜区分はなし

7-17 個別学力検査における記述式問題に関する入学者数の割合

一般選抜における個別学力検査において、記述式問題（短答式・穴埋め式を除く）が出題された選抜区分に係る入学者数は、国立大学で68,193人(98.4%)、公立大学16,596人(99.0%)、私立大学88,483人(56.4%)である。

図表 7-17 個別学力検査における記述式問題に関する入学者数の割合（大学）

	入学者数	記述式問題（短答式・穴埋め式を除く）	
		出題あり	出題なし
国立大学 （一般選抜で個別学力検査を実施する選抜区分の入学者数に占める割合）	69,332	68,193 (98.4%)	1,139 (1.6%)
公立大学 （一般選抜で個別学力検査を実施する選抜区分の入学者数に占める割合）	16,763	16,596 (99.0%)	167 (1.0%)
私立大学 （一般選抜で個別学力検査を実施する選抜区分の入学者数に占める割合）	156,940	88,483 (56.4%)	68,457 (43.6%)
大学全体 （一般選抜で個別学力検査を実施する選抜区分の入学者数に占める割合）	243,035	173,272 (71.3%)	69,763 (28.7%)

※記述式問題の「あり」は、各選抜区分のテストにおいて「B②短文」～「⑤英文和訳・和文英訳」のいずれかを出題している選抜区分である。

図表 7-18 個別学力検査における記述式問題に関する入学者数の割合（短期大学）

	入学者数	記述式問題（短答式・穴埋め式を除く）	
		出題あり	出題なし
公立短期大学 （一般選抜で個別学力検査を実施する選抜区分の入学者数に占める割合）	397	286 (72.0%)	111 (28.0%)
私立短期大学 （一般選抜で個別学力検査を実施する選抜区分の入学者数に占める割合）	1,688	938 (55.6%)	750 (44.4%)
短期大学全体 （一般選抜で個別学力検査を実施する選抜区分の入学者数に占める割合）	2,085	1,224 (58.7%)	861 (41.3%)

※記述式問題の「あり」は、各選抜区分のテストにおいて「B②短文」～「⑤英文和訳・和文英訳」のいずれかを出題している選抜区分である。

7-18 入学者選抜における記述式問題に関する入学者数の割合

入学者選抜において、記述式問題（短答式・穴埋め式を除く）が出題された選抜区分に係る入学者数は、国立大学で 69,195 人（71.2%）、公立大学で 18,024 人（52.6%）、私立大学で 105,206 人（23.8%）である。

※（）内の割合は、設置主体別の総入学者数に占める割合

図表 7-19 入学者選抜における記述式問題に関する入学者数の割合（大学）

設置主体	一般選抜 入学者数（人）				設置主体	総合型選抜 入学者数（人）			
	個別学力検査			なし		個別学力検査			なし
	あり	記述式問題（短答式・穴埋め式を除く）				あり	記述式問題（短答式・穴埋め式を除く）		
		あり	なし				あり	なし	
国立大学	69,332	68,193	1,139	10,038	国立大学	466	439	27	5,407
公立大学	16,763	16,596	167	7,156	公立大学	357	285	72	1,242
私立大学	156,940	88,483	68,457	4,310	私立大学	16,025	7,564	8,461	74,158
大学全体	243,035	173,272	69,763	21,504	大学全体	16,848	8,288	8,560	80,807

設置主体	学校推薦型選抜 入学者数（人）				設置主体	総入学者数 （人） …n	記述式問題（短答式・穴埋め式を除く）が出題された選抜区分に係る入学者数の合計（人） …a	a/n
	個別学力検査			なし				
	あり	記述式問題（短答式・穴埋め式を除く）						
		あり	なし					
国立大学	682	563	119	11,274	国立大学	97,199	69,195	(71.2%)
公立大学	1,676	1,143	533	7,091	公立大学	34,285	18,024	(52.6%)
私立大学	29,611	9,159	20,452	161,891	私立大学	442,935	105,206	(23.8%)
大学全体	31,969	10,865	21,104	180,256	大学全体	574,419	192,425	(33.5%)

※「総入学者数」は、「個別学力検査実施の有無」「記述式問題（短答式・穴埋め式を除く）」での無回答分を除く。

※記述式問題の「あり」は、各選抜区分のテストにおいて「B②短文」～「⑤英文和訳・和文英訳」のいずれかを出題している選抜区分である。

図表 7-20 入学者選抜における記述式問題に関する入学者数の割合（短期大学）

設置主体	一般選抜 入学者数（人）			
	個別学力検査			
	あり	記述式問題（短答式・穴埋め式を除く）		なし
		あり	なし	
公立短期大学	397	286	111	356
私立短期大学	1,688	938	750	437
短期大学全体	2,085	1,224	861	793

設置主体	総合型選抜 入学者数（人）			
	個別学力検査			
	あり	記述式問題（短答式・穴埋め式を除く）		なし
		あり	なし	
公立短期大学	0	0	0	311
私立短期大学	400	86	314	10,174
短期大学全体	400	86	314	10,485

設置主体	学校推薦型選抜 入学者数（人）				設置主体	総入学者数 …n	記述式問題（短 答式・穴埋め式 を除く）が出題さ れた選抜区分に 係る入学者数の 合計（人） …a	a/n
	個別学力検査							
	あり			なし				
	記述式問題（短答式・ 穴埋め式を除く）							
		あり	なし					
公立 短期大学	39	12	27	888	公立 短期大学	1,991	298	(15.0%)
私立 短期大学	1,059	504	555	14,310	私立 短期大学	28,068	1,528	(5.4%)
短期大学 全体	1,098	516	582	15,198	短期大学 全体	30,059	1,826	(6.1%)

※「総入学者数」は、「個別学力検査実施の有無」「記述式問題（短答式・穴埋め式を除く）」での無回答分を除く。

※記述式問題の「あり」は、各選抜区分のテストにおいて「B②短文」～「⑤英文和訳・和文英訳」のいずれかを出题している選抜区分である。